

京都美術工芸大学 シラバス [2026 年度版]

芸術学部／建築学部

学部・研究科のディプロマ・ポリシー番号表

京都美術工芸大学

区分	DP番号	ディプロマ・ポリシーの項目
学部共通		京都美術工芸大学は、本学の教育目標を達成するために以下の素養を身につけるように編成された教育課程を履修し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士の学位を授与する。
	DP0-1	1) 建築や芸術に関する幅広い知識、技能
	DP0-2	2) 社会の発展に貢献するための課題解決力、伝統から革新を生み出す構想力
	DP0-3	3) 多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力
芸術学部		芸術学部デザイン・工芸学科では、京都美術工芸大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。
	DP1-1	1) 芸術分野に関する幅広い知識、技能。
	DP1-2	2) 芸術分野を通して社会の発展に貢献するための課題解決力、伝統から革新を生み出す独創的な構想力、発想力。
	DP1-3	3) 日本の歴史文化を修得理解するとともに、グローバルな視点も視野に入れた新しい文化づくりへ発展させる感性・価値観。
	DP1-4	4) 芸術分野を通して多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力、表現力。
建築学部		建築学部建築学科では、京都美術工芸大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。
	DP2-1	1) デザイン領域だけでなく施工や歴史文化、あるいは建築関連法規など建築に関する幅広い知識、技能。
	DP2-2	2) 建築行為を通じて社会の発展に貢献するための課題解決力、伝統の継承およびそれらを基にした新しい文化や作品作りにつながる独創的な構想力、発想力。
	DP2-3	3) 日本の歴史文化を修得理解するとともに、グローバルな視点も視野に入れた新しい文化づくりへ発展させる感性・価値観。
	DP2-4	4) 建築は単体の作品ではなく文化そのものであり、また多くの人々の協力の中から作品が生まれるという観点から、多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力、表現力。
大学院建築学研究科		建築学研究科は、以下の素養を身につけた学生に対して修士の学位を授与する。
	DPM-1	1) 建築デザインに加え、施工や歴史文化、あるいは建築関連法規など建築に関する高度で幅広い知識、技能。
	DPM-2	2) 建築行為を通じて社会の発展に貢献するための実現可能性の高い課題解決力、伝統の継承およびそれらを基にした新しい文化や作品作りにつながる高度で独創的な構想力、発想力。
	DPM-3	3) 日本の歴史文化を修得理解するとともに、グローバルな視点も視野に入れた新しい文化づくりへ発展させる鋭い感性・安定した価値観。
	DPM-4	4) 建築は単体の作品ではなく文化そのものであり、また多くの人々の協力の中から作品が生まれるという観点から、多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力、表現力。

(備考)この表は、カリキュラム・ポリシー(CP)により編成されている授業科目とディプロマ・ポリシー(DP)の一貫性を示すため、シラバスの「到達目標」欄に「DP番号」で示すためのものです。

【芸術学部・学芸員科目】シラバスDP番号表 2026年度版

芸術学部

科目 区分	授業科目の名称 (網掛けの科目は学則第28条第3項 による単位計算対象科目を示す)	配当 年次	単位数		シラバスに記載するDP番号								1コマ当 りの事前 事後学修 の時間数	備考 (共通：2学部共通開 講科目を示す)
			必修	選択	共通DP			芸術学部DP						
					DP0-1	DP0-2	DP0-3	DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP1-4			
教養科目	初年次セミナー	1		2		○	○					4	共通	
	美学	1		2	○	○						4	共通	
	生活と法律	1		2	○	○						4	共通	
	地域社会論	1		2	○	○	○					4	共通	
	人間関係の科学	1		2	○	○	○					4	共通	
	生涯学習論	1		2	○	○	○					4	共通	
	博物館概論	1		2	○	○						4	共通	
	森林学概論	1		2	○	○						4	共通	
	栄養学入門	1		2	○	○						4	共通	
	歴史学	2		2	○	○						4	共通	
	科学と芸術	2		2	○	○						4	共通	
	工芸と経済	2		2	○	○	○					4	共通	
	世界文化遺産論	2		2	○	○						4	共通	
	表現技術論	2		2	○	○						4	共通	
	技芸と文学	3		2	○	○	○					4	共通	
	伝統と学び	3		2	○	○						4	共通	
	哲学	3		2	○	○						4	共通	
	教育学	3		2	○	○						4	共通	
	人間関係の心理臨床	3		2	○	○	○					4	共通	
伝統文化科目	日本工芸美術史	1	2		○	○						4	共通	
	京都学	1		2	○	○						4	共通	
	京都学演習Ⅰ（デザイン）	2	2		○	○						4		
	京都学演習Ⅰ（工芸）				○	○						4		
	伝統芸術入門Ⅰ（茶道）	2		1	○	○						1	共通（集中）	
	伝統芸術入門Ⅰ（華道）				○	○						1	共通（集中）	
	伝統芸術入門Ⅰ（書道）				○	○						1	共通（集中）	
	伝統芸術入門Ⅱ（茶道）	2		1	○	○						1	共通（集中）	
	伝統芸術入門Ⅱ（華道）				○	○						1	共通（集中）	
	伝統芸術入門Ⅱ（書道）				○	○						1	共通（集中）	
日本文化史	3		2	○	○						4	共通		
京都学演習Ⅱ	4		2		○	○					4	共通		
コミュニケーション科目	コミュニケーション論（日本語表現法）	1		1	○	○						1	共通	
	英語演習Ⅰ（英会話Ⅰ） A～C	1		2	○	○						1	共通	
	英語演習Ⅰ（英会話Ⅰ） D				○	○						1	共通	
	英語演習Ⅰ（英会話Ⅰ） E				○	○						1	共通	
	英語演習Ⅰ（英会話Ⅰ） F				○	○						1	共通	
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） A	1		2	○	○						1	共通	
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） B				○	○						1	共通	
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） C				○	○						1	共通	
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） D				○	○						1	共通	
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） E				○	○						1	共通	
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） F				○	○						1	共通	
	情報基礎演習 A（芸術）	1		2		○	○					4		
	英会話Ⅱ A（2026から英語演習Ⅲ）	2		1		○	○					1	共通	
	英会話Ⅱ B（2026から英語演習Ⅲ）				○	○	○					1	共通	
	英会話Ⅱ C（2026から英語演習Ⅲ）				○	○						1	共通	
	英会話Ⅱ D（2026から英語演習Ⅲ）				○	○						1	共通	
	英会話Ⅱ E（2026から英語演習Ⅲ）				○	○						1	共通	
英会話Ⅱ F（2026から英語演習Ⅲ）	○				○						1	共通		
英語コミュニケーション	3		1	○	○						1	共通		
総合コミュニケーション	3		1	○	○						1	共通		
キャリア形成科目	しごと論Ⅰ	1		2	○	○						4	共通	
	社会活動Ⅰ	1		1			○					1	共通	
	メディアリテラシー	1		2	○	○	○					4	共通	
	社会活動Ⅱ	2		1		○	○					1	共通	
	しごと論Ⅱ	3		2	○	○						4	共通	
	インターンシップ	3		2			○					1	共通	
	現代社会論	3		2	○	○						4	共通	

美術工芸科目 基本科目	工芸概論	1	2					○	○			4	
	伝統工芸概論	1	2					○	○			4	共通
	構成基礎演習（デザイン）	1		1				○	○		○	4	(黒中/5コマ)・2026年度入学生よりベーシックワークショップ・空間に移行&2単位に変更
	構成基礎演習（工芸）							○	○	○		4	(黒中/5コマ)・2026年度入学生よりベーシックワークショップ・空間に移行&2単位に変更
	日本住居史	1		2				○	○			4	共通
	色彩学	1		2				○	○			4	共通
	日本美術史	1	2					○	○			4	共通
	素描	1		2				○	○			1	
	デザイン概論	1		2				○	○			4	共通
	文化財概論	1		2				○	○			4	共通
	日本建築史	2		2				○	○			4	共通
	西洋美術史	2		2				○	○			4	共通
	伝統絵画技法Ⅰ	2		2				○	○			4	
美術工芸科目 基幹科目	建築構造力学Ⅰ	2		2				○	○			4	共通
	東洋美術史	3		2				○	○			4	
	コンピュータデザイン演習	1		2				○	○		○	1	
	構法計画Ⅰ	1		2				○	○			4	共通
	色彩理論演習	2		2				○	○		○	4	
	近代建築史	2		2				○		○		4	
	デザイン作図演習 A(芸術)	2		2				○	○		○	2	
	デザインと法規	2		2				○	○			4	共通
	伝統絵画技法Ⅱ	2		2				○		○		4	
	文献・絵画史料概論	2		2				○	○			4	
	IT活用応用演習 A	2		2				○	○		○	2	
	建築材料	2		2				○	○			4	共通
	建築法規	2		2				○	○			4	共通
美術工芸科目 展開科目	建築構造力学Ⅱ	2		2				○	○			4	共通
	建築環境工学	2		2				○	○			4	共通
	文化財情報デザイン論Ⅰ	2		2				○		○		4	
	文化財情報デザイン論Ⅱ	2		2					○	○		4	
	インテリア設計	2		2				○	○			4	
	都市空間論	3		2				○	○			4	共通
	伝統構造学	3		2								4	共通
	構法計画Ⅱ	1		2				○	○			4	共通
	建築設備	2		2				○	○			4	共通
	造形材料論	3		2				○		○		4	
	立体造形（デザイン）	3		2				○	○		○	4	2026年度入学生より造形芸術演習に名称変更
	立体造形（工芸）							○		○		4	2026年度入学生より造形芸術演習に名称変更
	造形芸術演習（デザイン）	3		2				○	○		○	4	2026年度入学生より
	造形芸術演習（工芸）							○		○		4	2026年度入学生より
美術工芸科目 展開科目	近代デザイン史	3		2				○		○		4	
	古文書解読演習Ⅰ	3		1				○	○	○		1	
	古文書解読演習Ⅱ	3		1				○	○			1	
	室内意匠論	3		2				○	○			4	
	建築施工法	3		2				○		○		4	
	公共デザイン論	3		2				○	○	○		4	共通
	造形芸術論	3		2				○		○		4	
	現代芸術論	3		2				○	○	○		4	
	芸術導入演習（デザイン）	1	2					○	○		○	1	2026年度入学生よりベーシックワークショップ・平面に移行
	芸術導入演習（工芸）							○	○	○		1	2026年度入学生よりベーシックワークショップ・平面に移行
	ベーシックワークショップ・平面	1	2					○	○	○		4	2026年度入学生より
	芸術導入実習（漆芸）	1	2					○	○	○		1	2026年度入学生より工芸導入実習Ⅰに移行
	芸術導入実習（木工・彫刻）							○	○		○	1	2026年度入学生より工芸導入実習Ⅰに移行
	芸術導入実習（陶芸）							○	○	○	○	1	2026年度入学生より工芸導入実習Ⅰに移行
	芸術導入実習（デザイン）							○	○		○	1	2026年度入学生よりデザイン導入実習Ⅰに移行
	工芸導入実習Ⅰ（漆芸）	1	2					○	○	○		1	2026年度入学生より
	工芸導入実習Ⅰ（木工・彫刻）							○	○		○	1	2026年度入学生より
	工芸導入実習Ⅰ（陶芸）							○	○	○	○	1	2026年度入学生より
	デザイン導入実習Ⅰ	1	2					○	○		○	1	2026年度入学生より
	造形基礎演習Ⅰ（デザイン）	1	2					○	○		○	2	2026年度入学生よりベーシックワークショップ・立体に移行
	造形基礎演習Ⅰ（工芸）							○	○	○		2	2026年度入学生よりベーシックワークショップ・立体に移行
	ベーシックワークショップ・立体	1	2					○	○	○		4	2026年度入学生より
	ベーシックワークショップ・空間	1	2					○	○	○		4	2026年度入学生より

専門演習・実習科目	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（漆芸）	1	2					○	○	○		1	2026年度入学生より工芸導入実習Ⅱに移行
	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）							○	○		○	1	2026年度入学生より工芸導入実習Ⅱに移行
	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（陶芸）							○	○	○	○	1	2026年度入学生より工芸導入実習Ⅱに移行
	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（デザイン）							○	○		○	1	2026年度入学生よりデザイン導入実習Ⅱに移行
	工芸導入実習Ⅱ（漆芸）	1	2					○	○	○		1	2026年度入学生より
	工芸導入実習Ⅱ（木工・彫刻）							○	○		○	1	2026年度入学生より
	工芸導入実習Ⅱ（陶芸）							○	○	○	○	1	2026年度入学生より
	デザイン導入実習Ⅱ	1	2					○	○		○	1	2026年度入学生より
	造形基礎演習Ⅱ（デザイン）	2	2					○	○		○	4	2026年度入学生より造形基礎演習に移行
	造形基礎演習Ⅱ（工芸）							○	○		○	4	2026年度入学生より造形基礎演習に移行
	造形基礎演習（デザイン）	2	2					○	○		○	4	2026年度入学生より
	造形基礎演習（工芸）							○	○		○	4	2026年度入学生より
	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ	2	2					○		○	○	1	2026年度入学生より工芸基礎実習Ⅰ/デザイン基礎実習Ⅰに移行
	工芸基礎実習Ⅰ	2	2					○			○	1	2026年度入学生より
	デザイン基礎実習Ⅰ	2	2					○			○	1	2026年度入学生より
	専門実習Ⅰ（漆芸）	2	2					○		○		1	2026年度入学生より工芸基礎実習Ⅱに移行
	専門実習Ⅰ（木工・彫刻）							○	○		○	1	2026年度入学生より工芸基礎実習Ⅱに移行
	専門実習Ⅰ（陶芸）							○	○	○		1	2026年度入学生より工芸基礎実習Ⅱに移行
	専門実習Ⅰ（デザイン）							○	○	○	○	1	2026年度入学生よりデザイン基礎実習Ⅱに移行
	工芸基礎実習Ⅱ（漆芸）	2	2					○		○		1	2026年度入学生より
	工芸基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）							○	○		○	1	2026年度入学生より
	工芸基礎実習Ⅱ（陶芸）							○	○	○		1	2026年度入学生より
	デザイン基礎実習Ⅱ	2	2					○	○	○	○	1	2026年度入学生より
	専門実習Ⅱ（漆芸）	3	2					○	○	○	○	1	2026年度入学生より工芸専門実習Ⅰに移行
	専門実習Ⅱ（木工・彫刻）							○	○		○	1	2026年度入学生より工芸専門実習Ⅰに移行
	専門実習Ⅱ（陶芸）							○	○	○		1	2026年度入学生より工芸専門実習Ⅰに移行
	専門実習Ⅱ（デザイン）							○	○	○	○	1	2026年度入学生よりデザイン専門実習Ⅰに移行
	工芸専門実習Ⅰ（漆芸）	3	2					○	○	○	○	1	2026年度入学生より
	工芸専門実習Ⅰ（木工・彫刻）							○	○		○	1	2026年度入学生より
	工芸専門実習Ⅰ（陶芸）							○	○	○		1	2026年度入学生より
	デザイン専門実習Ⅰ	3	2					○	○	○	○	1	2026年度入学生より
	専門実習Ⅲ（漆芸）	3	2					○	○	○	○	1	2026年度入学生より工芸専門実習Ⅱに移行
	専門実習Ⅲ（木工・彫刻）							○	○		○	1	2026年度入学生より工芸専門実習Ⅱに移行
	専門実習Ⅲ（陶芸）							○	○	○		1	2026年度入学生より工芸専門実習Ⅱに移行
	専門実習Ⅲ（デザイン）							○	○	○	○	1	2026年度入学生よりデザイン専門実習Ⅱに移行
	工芸専門実習Ⅱ（漆芸）	3	2					○	○	○	○	1	2026年度入学生より
	工芸専門実習Ⅱ（木工・彫刻）							○	○		○	1	2026年度入学生より
	工芸専門実習Ⅱ（陶芸）							○	○	○		1	2026年度入学生より
	デザイン専門実習Ⅱ	3	2					○	○	○	○	1	2026年度入学生より
	プロジェクト演習Ⅰ	3	2						○		○	4	
	プロジェクト演習Ⅱ	3	2					○	○	○	○	4	
	プロジェクト演習Ⅲ	3	2					○	○	○	○	4	
	卒業制作研究（漆芸）	4	4					○	○	○	○	2	2026年度入学生より工芸卒業制作研究に移行
	卒業制作研究（木工・彫刻）							○	○	○	○	2	2026年度入学生より工芸卒業制作研究に移行
	卒業制作研究（陶芸）							○	○	○	○	2	2026年度入学生より工芸卒業制作研究に移行
	卒業制作研究（デザイン）							○	○	○		2	2026年度入学生よりデザイン卒業制作研究に移行
	工芸卒業制作研究（漆芸）	4	4					○	○	○	○	2	2026年度入学生より
	工芸卒業制作研究（木工・彫刻）							○	○	○	○	2	2026年度入学生より
	工芸卒業制作研究（陶芸）							○	○	○	○	2	2026年度入学生より
	デザイン卒業制作研究	4	4					○	○	○		2	2026年度入学生より
	卒業制作・論文（漆芸）	4	6					○	○	○	○	2	2026年度入学生より工芸卒業制作・論文に移行
	卒業制作・論文（木工・彫刻）							○	○	○	○	2	2026年度入学生より工芸卒業制作・論文に移行
	卒業制作・論文（陶芸）							○	○	○	○	2	2026年度入学生より工芸卒業制作・論文に移行
	卒業制作・論文（デザイン）							○	○	○		2	2026年度入学生よりデザイン卒業制作・論文に移行
	工芸卒業制作・論文（漆芸）	4	6					○	○	○	○	2	2026年度入学生より
	工芸卒業制作・論文（木工・彫刻）							○	○	○	○	2	2026年度入学生より
	工芸卒業制作・論文（陶芸）							○	○	○	○	2	2026年度入学生より
	デザイン卒業制作・論文	4	6					○	○	○		2	2026年度入学生より
芸術・建築	京都学演習Ⅱ	4	2			○	○					4	芸術学部建築学科
	建築デザイン演習Ⅲ	4	4					○	○	○	○	4	芸術学部建築学科
	卒業制作（建築）	4	6					○	○	○	○	4	芸術学部建築学科

博物館学芸員科目

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		シラバスに記載するDP番号				教室外 学修時 間数	備考
			選択	自由	共通DP					
					DP0-1	DP0-2	DP0-3			
博物館学芸員養成科目	生涯学習論	1	2		○	○	○		4	
	博物館概論	1	2		○	○			4	
	博物館経営論	2		2	○	○			4	
	博物館資料論	2		2	○	○			4	
	博物館資料保存論	3		2	○	○			4	
	博物館展示論	3		2	○	○			4	
	博物館情報・メディア論	4		2	○	○			4	
	博物館教育論	4		2	○	○			4	
	博物館実習	4		3	○	○	○		4	

【建築学部・建築学研究科】 シラバスDP番号表 2026年度版

建築学部

科目 区分	授業科目の名称 (網掛けの科目は学則第28条第3項 による単位計算対象科目を示す)	配当 年次	単位数		シラバスに記載するDP番号						1コマ当 たりの事 前事後学 修の時間 数	備考 (共通：2学部共通開講 科目を示す)	
			必修	選択	共通DP			建築学部DP					
					DP0-1	DP0-2	DP0-3	DP2-1	DP2-2	DP2-3			DP2-4
教養科目	初年次セミナー	1		2		○	○					4	共通
	美学	1		2	○	○						4	共通
	生活と法律	1		2	○	○						4	共通
	地域社会論	1		2	○	○	○					4	共通
	人間関係の科学	1		2	○	○	○					4	共通
	生涯学習論	1		2	○	○	○					4	共通
	博物館概論	1		2	○	○						4	共通
	森林学概論	1		2	○	○						4	共通
	栄養学入門	1		2	○	○						4	共通
	歴史学	2		2	○	○						4	共通
	科学と芸術	2		2	○	○						4	共通
	工芸と経済	2		2	○	○	○					4	共通
	世界文化遺産論	2		2	○	○						4	共通
	表現技術論	2		2	○	○						4	共通
	技芸と文学	3		2	○	○	○					4	共通
	伝統と学び	3		2	○	○						4	共通
	哲学	3		2	○	○						4	共通
	教育学	3		2	○	○						4	共通
	人間関係の心理臨床	3		2	○	○	○					4	共通
伝統文化科目	日本工芸美術史	1	2		○	○						4	共通
	京都学	1		2	○	○						4	共通
	京都学演習Ⅰ（建築）	1	2			○	○					1	
	伝統芸術入門Ⅰ（茶道）	2	1		○	○						1	共通 2025年度入学生より伝統芸術入門（統合して一科目）に移行
	伝統芸術入門Ⅰ（華道）				○	○					1	共通 2025年度入学生より伝統芸術入門（統合して一科目）に移行	
	伝統芸術入門Ⅰ（書道）				○	○					1	共通 2025年度入学生より伝統芸術入門（統合して一科目）に移行	
	伝統芸術入門Ⅱ（茶道）	2	1		○	○						1	共通 2025年度入学生より伝統芸術入門（統合して一科目）に移行
	伝統芸術入門Ⅱ（華道）				○	○					1	共通 2025年度入学生より伝統芸術入門（統合して一科目）に移行	
	伝統芸術入門Ⅱ（書道）				○	○					1	共通 2025年度入学生より伝統芸術入門（統合して一科目）に移行	
	伝統芸術入門（茶道）	2	2		○	○						4	共通 2025年度入学生より
	伝統芸術入門（華道）				○	○					4	共通 2025年度入学生より	
	伝統芸術入門（書道）				○	○					4	共通 2025年度入学生より	
	日本文化史	3		2	○	○						4	共通
	京都学演習Ⅱ	4		2		○	○					4	共通
コミュニケーション科目	コミュニケーション論（日本語表現法）	1		2	○	○						4	共通 2026年度入学生より2単位に変更
	英語演習Ⅰ（英会話Ⅰ） A～C	1		2	○	○						1	共通 2025年度入学生より
	英語演習Ⅰ（英会話Ⅰ） D				○	○						1	共通 2025年度入学生より
	英語演習Ⅰ（英会話Ⅰ） E				○	○						1	共通 2025年度入学生より
	英語演習Ⅰ（英会話Ⅰ） F				○	○						1	共通 2025年度入学生より
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） A	1		2	○	○						1	共通 2025年度入学生より
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） B				○	○						1	共通 2025年度入学生より
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） C				○	○						1	共通 2025年度入学生より
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） D				○	○						1	共通 2025年度入学生より
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） E				○	○						1	共通 2025年度入学生より
	英語演習Ⅱ（美術工芸英語） F				○	○						1	共通 2025年度入学生より
	情報基礎演習 B（建築）	1	2			○	○					1	
	英会話Ⅱ A（2026から英語演習Ⅲ）	2		1	○	○						1	共通 2025年度入学生より英語演習Ⅲに移行
	英会話Ⅱ B（2026から英語演習Ⅲ）				○	○						1	共通 2025年度入学生より英語演習Ⅲに移行
	英会話Ⅱ C（2026から英語演習Ⅲ）				○	○						1	共通 2025年度入学生より英語演習Ⅲに移行
	英会話Ⅱ D（2026から英語演習Ⅲ）				○	○						1	共通 2025年度入学生より英語演習Ⅲに移行
	英会話Ⅱ E（2026から英語演習Ⅲ）				○	○						1	共通 2025年度入学生より英語演習Ⅲに移行
	英会話Ⅱ F（2026から英語演習Ⅲ）				○	○						1	共通 2025年度入学生より英語演習Ⅲに移行
	英語コミュニケーション	3		2	○	○						4	共通 2025年度入学生より2単位に変更
総合コミュニケーション	3		2	○	○						4	共通 2026年度より2単位に変更	

キャリア形成科目	しごと論Ⅰ	1		2	○	○					4	共通		
	社会活動Ⅰ	1		1			○				1	共通		
	メディアリテラシー	1		2		○	○				4	共通		
	社会活動Ⅱ	2		1		○	○				1	共通		
	しごと論Ⅱ	3		2	○	○					4	共通		
	インターンシップ	3		2			○				1	共通		
	現代社会論	3		2	○	○					4	共通		
美術工芸科目	建築概論	1		2				○	○	○	○	4	共通	
	文化財概論	1		2				○	○			4	共通	
	伝統工芸概論	1		2				○	○			4	共通	
	構成基礎演習（建築）	1		1				○	○		○	1		
	日本住居史	1		2				○	○			4	共通	
	色彩学	1		2				○	○			4	共通	
	日本美術史	1		2				○	○			4	共通	
	デザイン概論	1		2				○	○			4	共通	
	基本科目	建築計画Ⅰ	1		2				○	○	○	○	4	
		構法計画Ⅰ	1		2				○	○			4	共通
建築CAD演習Ⅰ		1		2				○	○		○	1		
建築構造力学Ⅰ		2		2				○	○			4	共通	
日本建築史		2		2				○	○			4	共通	
西洋美術史		2		2				○	○			4	共通	
東洋美術史		3		2				○	○			4	共通	
美術工芸科目		構法計画Ⅱ	1		2				○	○			4	共通
	デザイン作図演習 B	2		2				○	○		○	1		
	デザインと法規	2		2				○	○			4	共通	
	文献・絵画史料概論	2		2				○	○			4		
	建築CAD演習Ⅱ	2		2				○	○			1		
	建築計画Ⅱ	2		2				○	○	○		4		
	建築材料	2		2				○	○			4	共通	
	建築法規	2		2				○	○			4	共通	
	建築構造力学Ⅱ	2		2				○	○			4	共通	
	建築環境工学	2		2				○	○			4	共通	
	世界建築史	2		2				○	○	○		4		
	都市空間論	3		2				○	○			4	共通	
美術工芸科目	景観デザイン論	3		2				○	○			4		
	伝統構造学	3		2				○	○			4	共通	
	近代建築史	2		2				○	○	○		4		
	建築計画Ⅲ	2		2				○	○			4		
	都市計画	2		2				○	○			4		
	建築設備	2		2				○	○			4		
	古文書解読演習Ⅰ	3		1				○	○	○		1		
	古文書解読演習Ⅱ	3		1				○	○	○		1		
	伝統建築図	3		2				○	○	○		1		
	京町家再生論	3		2				○	○		○	4		
	室内意匠論	3		2				○	○			4	共通	
	建築計画Ⅳ	3		2				○	○	○	○	4		
	建築構造力学Ⅲ	3		2				○	○			4		
	建築生産論	3		2				○	○			4		
	公共デザイン論	3		2				○	○	○		4	共通	
専門演習・実習科目	社寺建築論	3		2				○	○			4		
	建築設計導入実習	1	3					○			○	4		
	建築設計基礎演習Ⅰ	1	4					○	○	○	○	1		
	建築設計基礎演習Ⅱ	2	4					○	○	○	○	1		
	建築設計演習Ⅰ	2	4					○	○	○	○	1		
	建築設計演習ⅡA	3	2					○	○	○	○	1	2024年度より-建築設計演習Ⅱ (6単位)をA、Bに分割	
	建築設計演習ⅡB	3	4					○	○	○	○	1		
	建築設計演習Ⅲ	4	4					○	○	○	○	1		
	卒業研究	4	6					○	○	○	○	2		

大学院 建築学研究科

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		シラバスに記載するDP番号				教室外 学修時 間数	備考		
			必修	選択	建築学研究科DP							
								DPM-1	DPM-2		DPM-3	DPM-4
芸術科目	インテリアデザイン特論	1		2		○				4		
	工芸とデザイン	1		2			○			4		
	美術工芸特論	2		2				○		4		
	都市環境と芸術	2		2		○				4		
専門特論科目	伝統建築特論Ⅰ	1	2			○		○		4		
	伝統建築特論Ⅱ	1	2			○		○		4		
	建築計画特論Ⅰ	1	2			○	○			4		
	建築計画特論Ⅱ	1	2			○	○			4		
	建築設計特論Ⅰ	1		2		○	○			4		
	建築設計特論Ⅱ	1		2		○	○			4		
	建築デザイン特別演習Ⅰ	1		6		○	○	○	○	4		
	建築デザイン特別演習Ⅱ	1		6		○	○	○	○	4		
	専門研究科目	建築企画論	1			2		○		○	4	
		西洋都市建築デザイン論	1			2	○		○		4	
建築学特別研究Ⅰ		2	6			○	○	○	○	4		
建築学特別研究Ⅱ		2	6			○	○	○	○	4		

※2026年度より専門研究科目に3科目追加予定。現状未確定のため記載していません。2026/1/7榎木

教養教育科目＜学部共通＞ 1. 教養科目
京都美術工芸大学シラバス [2026 年度版]

講義名	初年次セミナー		
講義開講時期	前期	講義区分	講・演
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養教育科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉富 千恵	KYOB I 芸術学部
教授	竹脇 出	KYOB I 建築学部
准教授	玉井 美香	KYOB I 建築学部
助教	山口 潔子	KYOB I 建築学部
教授	新谷 裕久	KYOB I 芸術学部

到達目標	① 本学の建学の精神、理念及び3つのポリシーについて理解する ② 本学での学びの基礎を身に付ける ③ 大学生活への適応力を高める ④ 自己理解を深め、将来の学習・キャリア設計を考える 本科目は、DP0-2、DP0-3に該当する
授業概要	本授業では、本学新入生のスムーズな大学での学びをサポートする為に必要な事前学習を提供することを目的としている。授業は、複数の教員や専門の職員が交代で担当するオムニバス形式で行われる。授業の前半の回では、大学生活をスタートするにあたって大切な履修計画を立てるために必要な知識について学ぶ。後半の回では、情報を適切に探し、活用する情報リテラシー能力や、自己理解を深め将来設計を考えるキャリア設計、レポートの書き方などについて学習する。社会貢献活動の回では、受講生でグループを作り活動を行うことを通して社会に貢献するとともに、友人関係も深めてもらう。専門教育科目の全体像についても言及する。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション 建学の精神と理念、大学での学び 大学教育の特徴について学ぶ シラバスや単位制の基礎知識、履修登録と単位認定 第2回 社会貢献への誘い グループを作り鴨川トレッキングへ 第3回 学内規則を理解しよう Web掲示板の活用、成績評価基準の理解 第4回 情報リテラシーについて学ぼう 図書館の利用方法、情報倫理の理解 第5回 大学生生活の困りごとを解決しよう 学生相談体制の活用、障がい者差別解消法の基礎知識の理解 第6回 コミュニケーションの基礎知識 対人コミュニケーションの理論 第7回 将来のキャリアについて考えよう 就活スケジュールの理解、インターンシップについて 第8回 自己理解を深めよう PROGテストの受験 第9回 レポートの書き方の基礎知識 レポートと感想文の違い 第10回 ポートフォリオ作成に挑戦しよう 第11回 自己理解を深めよう PROGテストの結果の解説 第12回 専門教育科目を理解しよう①（学部別） 第13回 専門教育科目を理解しよう②（学部別） 第14回 充実した大学生活を送ろう 社会のルール・夏休みの活用法・留学についての情報 第15回 初年次セミナー振り返りとまとめ 初年次セミナーで学んだ知識を振り返りレポートにまとめる
成績評価	平常点（30%）と2つのレポートの提出（70%）をもって認定する。平常点は、授業内に着席し教職員の指示に従って授業を聴いている学生に対し与える。
教科書	特に指定しない
参考書 参考資料	『大学1年生の歩き方』トミヤマユキコ 清田孝之 集英社 『大学生 学びのハンドブック』世界思想社編集部編 世界思想社
履修上の注意	スムーズな大学生活をスタートさせる為にも、1回生全員の履修が望ましいです。授業内でグループワークなどの活動がある場合には、特段の事情がない限り必ず参加して下さい。
予習・復習指導	授業内で配布するレジュメや資料、紹介する参考書などを利用し、1コマに対して4時間の予習復習が望まれます。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	受講生からの質問やコメントについては、授業内で全体にフィードバックします。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	美学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村 知絃	KYOB I 建築学部

到達目標	西洋における美学の歴史を概観しつつ、美しさとは何か、芸術作品を研究することは何を意味するのかを哲学的に問い、考える方法を学ぶ。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	「桜の花が美しい」と言うとき、その「美しさ」とは何でしょうか。「花のピンク色が美しい」と答える場合、桜のピンク色は美しくても、ミミズのピンク色は美しくないということがあるのはなぜでしょうか。また美しいとされる対象は、桜の花などの自然物から、絵画、建築物、音楽といった芸術作品など多種多様です。これら異なったものがすべて同じ「美しい」という言葉で呼ばれるのはなぜでしょうか。このように「美学」とは美しさや芸術作品について哲学的に考える学問です。この授業では西洋における美学の歴史を概観しながら、美学で問題となっているテーマについて考えます。
授業計画 授業内容	第1回 イントロダクション：「美しさとは何か」に答えることの難しさと考えるヒントを学ぶ。 第2回 アイデア論と芸術の関係：古代ギリシャ(プラトン)において芸術がどのような位置づけにあったかを学ぶ。 第3回 詩学とストーリーの優劣：物語や悲劇のストーリーの優劣を決める基準がどのようなものかを考える。 第4回 近代美学の展開：花などの自然が「美しい」という判断がどのようなものかを考察し、他のさまざまな判断との違いを学ぶ。 第5回 近代美学と美の理想(1)：自然の美しさと、人工的な芸術作品の美しさの違いを考える。 第6回 近代美学と美の理想(2)：時代ごとに美の考え方が異なり、芸術作品も異なるのはなぜなのか、また美の考え方が歴史の中でどのように発展したのかを学ぶ。 第7回 芸術と体験：絵画や彫刻などの芸術作品を見て美しいと感じることはどのような体験なのかを考える。 第8回 悲劇と芸術(1)：悲劇が人間のどのような本性と結びついているかを考える。 第9回 悲劇と芸術(2)：近代の悲劇解釈を参考に悲劇が人間にもたらす効果を考える。 第10回 芸術作品と真理(1)：芸術作品が表すことのできる真理とはどのようなものかを考える。 第11回 芸術作品と真理(2)：芸術作品が人間の存在にどのように関わっているかを考える。 第12回 芸術と哲学の歴史(1)：18世紀後半から19世紀前半にかけて美学の基礎となっていた哲学の考え方を学ぶ。 第13回 芸術と哲学の歴史(2)：19世紀後半から20世紀前半にかけて美学の基礎となっていた哲学の考え方を学ぶ。 第14回 芸術作品と解釈(1)：芸術作品を解釈することはどのような作業であるかを考える。 第15回 芸術作品と解釈(2)：講義全体の総括と現代美学の動向について学ぶ。
成績評価	授業中の課題(50%)、期末レポート(50%)によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	佐々木健一『美学への招待 増補版』中公新書 小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版会
履修上の注意	美学・哲学に関する事前知識は必要ありません。授業中に提示されるテーマについて自分なりの答えを考え、疑問がある場合は積極的に質問してください。
予習・復習指導	予習では、テーマの導入となる質問をクラスルームに掲示するので、授業日までに回答すること。復習では授業で説明した内容を覚えるだけでなく、紹介した学説がどういったことなのか自分自身で身近な例を考えて吟味することが重要である。特に興味を持ったテーマに関しては授業で紹介した参考図書を読んで知識を深めること。 毎回の授業後にレジュメを配布するので、授業中に理解できない部分があったらレジュメを読んで復習をしておくこと。 1コマに対し、1時間の予習と3時間の復習をすること。
関連科目	哲学
課題に対するフィードバックの方法	授業中に質疑応答を行う。 毎回の課題については、授業中に提出された回答にコメントする。 期末レポートに関する総評をクラスルームに掲示する。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	生活と法律		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 右近 潤一	K Y O B I 建築学部

到達目標	・身近に様々な法律が存在することを認識し、どのようなルールになっているのかを説明することができる。 ・法律が関係するニュース報道を理解することができる。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	・生活の様々な場面で遭遇する問題を取り上げ、その背後にある法制度やその問題点について講義する。法律に関わるからと、難しく考える必要はない。 ・芸術であれ建築であれ、社会のさまざまな分野は法律と密接に関係している。今後、大学で法令関連の科目を履修する予定のある学生にとっても、本講義を事前に受講しておくことは有益である。 ・まずは、法律に触れながら、身の回りのできごとがどのように法律と関わるのか（自分はどのような法律と関わって生活しているのか）を理解することができるようになることが重要である。 ・毎回講義内容に関して、「考えてみよう」と題して友人と相談して（もちろん一人で考えても構わない）、フォームに解答してもらう時間を設ける。
授業計画 授業内容	第1回 法学とは？何を何のために学ぶか（教科書Theme1） 法学を学ぶことの目的を理解する。 第2回 法律が憲法に違反すると（教科書Theme4） すでに知識のある「違憲立法審査」を取り上げるが、その前提として、憲法とは何か、どのように審査されるか、立法に際して憲法をいかに考慮しているか、という手続きについても言及する。 第3回 憲法で守られる人権とは（教科書Theme5） プライバシー概念の変遷、EUにおける「忘れられる権利」に触れる。 第4回 憲法は差別問題についてどう考えているか（教科書Theme6） 憲法14条の平等の意義、裁判所の判断はいかに行われるかに触れる。 第5回 【小テスト1】：六法とは何か（教科書Theme2） 第1回から第4回までの内容を元に小テスト（約20分）を実施。その後、「六法」概念を用いて、さまざまな法律が存在すること、その分類方法に言及する。 第6回 テスト1講評：民法の適用は年齢によって区別されるか（教科書Theme7） 2022年4月から成年年齢が引下げられた。引上げじゃなくて引下げ？ その意図は？ 成年年齢の意味を学ぶ。 第7回 契約は守らなければならないか（教科書Theme8） 契約はいつ成立するのか、なぜ守らなければならないのか、そもそも契約と約束の違いとはどこにあるのかを学ぶ。 第8回 企業の採用の自由はどこまで認められるか（教科書には掲載していない） 3年生後半から、就職活動が始まる。採用内定という言葉があるが、法律的に見て、どのような意味があるのか。内定取り消しはどのような理由で、いつまでできるのか。内定に承諾した後、本命の会社からも内定が出たら？ 内定をテーマに労働契約を考える。 第9回 お父さんと呼べるのはなぜ（教科書Theme10） 産んだ人がお母さん。では、お父さんは誰か。法改正があったので、新旧制度を比較して考えてみよう。 第10回 【小テスト2】：えん罪を防ぐには（教科書Theme13） 第5回から第9回までの内容で小テストを行う（約20分）。警察は犯人を必死で探す。間違った人を犯人だということもある。検察や裁判所も関わって、犯人かどうかを考えるが、えん罪が後を絶たない。どのような工夫がされているのかを見ていく。 第11回 テスト2講評：夫婦は同一姓を名乗らなければならないか（教科書Theme11） 婚姻してもこれまでの氏名を使い続けたい、そんな希望はとおるのか。できる、できない、それはどうして？ 第12回 相続のルールはなぜ必要なの（教科書Theme12） 人は必ず亡くなる。その人が持っていた財産は主人を失うが、それに主人を与えるのが相続。相続は誰もが必ず経験する事柄であるが、相続についてどれだけ知ってる？ 第13回 裁判員になって死刑判決にかかわる（教科書Theme14） 裁判員候補者になる可能性がある。裁判員をどこまで知っているだろうか。死刑かどうかどうやって判断するのか。

	第14回 外国人の犯罪は誰が訴追・処罰するのか（教科書未掲載） 国家と国家との関係を起立する国際法を扱う。国が作った法律がどこまで通用するのか、外国で日本人が被害に遭ったとき、日本の警察はどこまで捜査できるのか、裁判はできる？ 第15回 【小テスト3】；AI のある生活（教科書Theme16） 第10回から第14回までの内容で小テストを実施する（約20分）。法律は、未経験の状況に対していかに対応するのかを考えてみる。 ※小テスト3の講評はGoogle Classroomへ投稿することで行う。
成績評価	・各講義の最後に、講義内容に関連した課題をClassroomに投稿する（「今日の質問」）。この課題の評価を全体評価の40%に反映させる。 ・また、3回の小テストを実施し（各20点満点）、その結果を全体評価の60%に反映させる。
教科書	渡邊博己・右近潤一『法学ナビ：16 の物語から考える』（北大路書房）
参考書 参考資料	道垣内 弘人『リーガルベシス民法入門（第5版）』（日本経済新聞出版、2024）
履修上の注意	・PCまたはタブレット等を毎度持参すること。 ・成績評価の対象となる「今日の質問」および「小テスト」は、いずれも講義に出席した者を対象としており、許可なく教室外から解答した（講義に参加したことが証明できない）ときは、成績に加味しない。 ・就職活動やインターンシップなどと小テストがかぶるときは、追試の対象とするので、速やかに連絡すること。 ・毎年必ず学期末になって、「卒業するのに単位がいるから、頑張って単位を出せ」、と申し出てこられるが、卒業がかかっていることは、受講前からわかっていることなので、自分で対応すること。 ・講義中の入退室（遅刻、飲み物の購入や喫煙など）は、他の受講生の学習環境を損なうため、原則として認めない。また、授業に集中していただくため、スマートフォンでのゲーム等の利用は控えていただく。 ・教科書を手に入れずに受講する学生がいるが、普段皆さんが学ばれていることとは異なる内容なので、できる限り教科書を手元に置かれることをおすすめする。講義内でも、教科書の一部を読上げて、意見を求めることがある（フォームに回答する方法で）。 ○（大学に申請された方への）これまでの合理的配慮の経験 （音質は試行錯誤中だが）講義録画の閲覧；自宅等からのオンラインでの受講；教室外での小テスト受験；体調不良・通院時の追試（自宅受験）。 ※ このほかにもできることがあるかもしれないので、相談にいくこと。
予習・復習指導	1回の講義に対して120分の予習と120分の復習が必要である。 予習： 授業概要にある教科書のThemeを読み、わかりにくいところや特に関心のあるところにマークをしておこう。 復習： 「今日の質問」で尋ねたこと、「考えてみよう」で尋ねたことやそこで言及したことを振り返り、再度、教科書の該当箇所を読み、不明点が明確になったかを確認する。関心のあるところに講義内で踏み込まなかったときは、少し調べてみる。
課題に対するフィードバックの方法	「今日の質問」については、原則としてフォームのフィードバック欄を用い、必要に応じ翌週の冒頭にコメントおよび模範解答に言及する。 小テストは、実施した翌週の講義で簡単に解説するほか、こちらもフォームのフィードバックを用いる。特に、小テスト3の講評はGoogle Classroomへ投稿することで行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	地域社会論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田 均	KYOB I 建築学部

到達目標	①身近な地域社会の実態を調べ、課題を発見し、課題解決策を考えること。 ②地域社会のまちづくり活動への参画を学生時代に体験すること。 ③地域に根ざした仕事を起こし、社会の主体者としての自覚をもつこと。 この科目は、DP0-1～3に該当する。
授業概要	伝統社会における人々の仕事や暮らしは地域社会と共に存在したのであるが、近代化が浸透する過程で地域社会の存在感は薄れてしまった。首都圏への一極集中や大企業主導型の産業構造を構築し、日本の近代化は見事に達成されたのであるが、その陰で地域力が殺がれ、個々人の潜在能力が開花しにくいなどの諸問題が山積している。 この授業では、新たな経済学・産業論や経営学などの知見から得られる地域社会の変容を学術的に解説し、諸問題を克服する具体的な事例を豊富に紹介する。受講者には、地域社会のあるべき姿を展望しながら実践に生かす取組みに参画し、社会の主体者として成長することが期待される。
授業計画 授業内容	第1回 講義ガイダンス：受講の心得、講義計画、主体的な学び方 第2回 伝統的な地域社会：伝統社会の構造、総有や入会、コモンズ、共同体感覚 第3回 近代の勃興：近代の前史、啓蒙思想、市民革命、市場の失敗・政府の役割 第4回 市場と政府：産業革命、市場セクター、政府セクター、政府の失敗 第5回 日本経済の概観：戦後復興、経済成長、バブル経済、日本的経営 第6回 経済政策入門：財政・金融・税制、地域産業政策、公務員の仕事 第7回 地方分権・自治論：地方自治、地方財政、地域政策の立案、地域価値を高める 第8回 経営戦略入門：使命の重要性、ビジョンと基本計画の策定 第9回 マーケティング入門：企業と顧客、ブランディング、工芸型マーケティング 第10回 起業の心得：地域力を育む、起業家の志、組織づくりの基本 第11回 地域産業論：地域特化産業、民藝、産業クラスター論、産業集積論 第12回 職人力の復活：ラスキンの芸術経済論、固有価値論、職人仕事の本質 第13回 地域社会と文化：文化の定義、文化資本の経営、文化的価値の探求 第14回 地域社会の未来：Arts & Crafts、創造の原理、地域共生社会 第15回 総括と到達度テスト
成績評価	毎回提出のミニレポートや受講意欲などの平常点（50%）と第15回目の到達度テスト（50%）によって総合的に評価する。
教科書	毎回の講義用資料を事前にクラスルームに投稿する。
参考書 参考資料	内山節『ローカリズム原論』、植田和弘他『循環型社会の先進空間』、その他、講義の中で紹介する。
予習・復習指導	講義前日に講義資料をクラスルームに投稿するので、予習して講義に臨むこと。 講義の中で提示する課題に積極的に取り組み、しっかり復習して講義内容を身につけ、実践に役立てるように。 1コマに対し、1時間の事前学習及び3時間の復習を目安とする。
関連科目	工芸と経済
課題に対するフィードバックの方法	レポート内容や質問などについて、必要に応じて次回以降の講義で紹介・解説するなどの方法でフィードバックする。
教員の実務経験	京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間、地域社会の振興に関する実務を経験してきた。現在も、非営利組織などで活動している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	人間関係の科学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 敷田 鑑	KYOB I 建築学部

到達目標	心理学の基本的知見を活用して、自分自身のこころや周囲の人たちとの関わりの中で起きている事象について理解する。また、さまざまな視点から物事を捉える姿勢を身につけ、自分のこころも他者のこころも尊重し、大切にできるようになることを目標とする。この科目は、DP0-1～3 に該当する。
授業概要	本授業では主に心理学の基本的知見を紹介し、それについて共に考えることとする。第1回～第8回では主に基礎心理学（人間が持つこころのメカニズムを一般法則として理論的に解明する心理学）について講義を行い、さまざまな観点から“人”についての理解を深める。そして第9回以降では応用編として、第1回～第8回の学びを実践に繋げるための理論やその複雑さ・困難について講義を行う。毎回の講義後には、その日の学びを振り返る小レポートを課す。次の講義のはじめに、それについてフィードバックを行いながら、前テーマを復習する。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション 講義の進め方・「こころ」を学ぶということ 第2回 知覚・認知 世界を見るということ 第3回 学習・言語 行動が変わるということ／思考するということ 第4回 感情 刺激を評価すること 第5回 人格・心理検査 人の特徴を捉えるということ 第6回 社会・集団 他者の影響を受けるということ 第7回 発達① ピアジェの認知発達理論や愛着理論を中心に学ぶ 第8回 発達② エリクソンの心理社会的発達理論を中心に学ぶ 第9回 非定型発達・発達障害 専門的な介入と支援について学ぶ 第10回 心理状態の観察・分析① 心理検査を中心に学ぶ 第11回 心理状態の観察・分析② 専門的な話の聞き方を中心に学ぶ 第12回 心理的支援① 精神力動的アプローチ、認知行動療法について学ぶ 第13回 心理的支援② 人間性アプローチ、日本の心理療法について学ぶ 第14回 精神疾患と治療① 現代における診断の基本的な考え方について学ぶ 第15回 精神疾患と治療② 疾患の概要と治療アプローチについて学ぶ
成績評価	毎回の授業後に提出する小レポート（60％）＋期末レポート（40％）
教科書	指定しない。
参考書 参考資料	授業時に資料配布。 公認心理師試験対策研究会(2022)『心理教科書 公認心理師 完全合格テキスト 第2版』翔泳社 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治(2018)『心理学 新版(New Liberal Arts Selection)』有斐閣
履修上の注意	人のこころについて理解するためには、自分のこころについて理解することが必要となる。生活の中で起こる自分の体験に関心を向け、関連づけながら授業に臨むこと。
予習・復習指導	1コマに対し4時間の復習をすること。毎回の授業資料で紹介した事柄について、理解できているか振り返ること。また、それらに照らして、自分の生活上の体験や、自分自身を取り巻く人間関係のあり方についても考察すること。
関連科目	人間関係の心理臨床
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業時に、前回の授業後に提出された小レポート内容について総合的にコメントを行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	生涯学習論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉富 千恵	KYOB I 芸術学部

到達目標	①人間の発達段階ごとに必要な学習の役割を理解する ②生涯学び続けることの意義と必要性を理解する ③生涯学習支援と推進の方法を学ぶ 本科目は、DP0-1、DP0-2、DP0-3に該当する
授業概要	生涯学習とは、単なる知識の習得ではなく、各ライフステージにおける発達課題を乗り越えるための重要な手段である。発達心理学の観点からも、学習は人間の成長と密接に関係し、個人のアイデンティティ形成、キャリアの維持、健康寿命の延伸に影響を与えている。よって、本授業では、生命誕生の瞬間から高齢期まで、それぞれの時期における発達と課題を詳しく学ぶことを通して、生涯学習についての理解を深めることを目的とする。各年代で多くの人が悩むテーマについて、映像教材を用いながら考えていく。また何回かの講義では、心理テストを用いて自己分析を行い、個人発表の機会を設ける。受講生には、毎回の振り返り用紙の提出と、授業内での積極的な発言を求める。
授業計画 授業内容	第1回 生涯学習論とは？この講義における定義と講義の進め方の説明 第2回 深刻な不妊問題について 第3回 生命誕生に関する教育について 第4回 赤ちゃんのパワーについて 第5回 赤ちゃんの心身の発達について 第6回 幼稚園児の社会性の発達について 第7回 幼児期の心身の発達について 第8回 小学生の様子 第9回 小学生の心身の発達について 第10回 思春期 反抗期について 第11回 青年期の心身の発達について 第12回 アイデンティティに関する自己分析、自己の価値観について 第13回 中年期の心身の発達について 第14回 高齢期の心身の発達について 第15回 生涯学習を支える制度、施設について
成績評価	期末テスト70%（ペーパーテスト形式）、平常点30%で評価する。平常点は、毎授業につき2点とし、授業時間内に着席し、授業を聴き、教員の指示に従って心理テストやワークに取り組んでいる学生に対して与える。この旨、公平に判断するために毎回の授業にて、講義内容の振り返り用紙の提出を求める。また、講義中における以下の行為に関しては、出席と認めない。①初めから教室に存在せず出席の送信のみを行う。②他の授業のレポート作成、製図などの課題作成といった本授業に関係のないことをしている。③インターネットの閲覧。④正当な理由なく授業開始15分以内に教室を退出する。
教科書	特に指定しない
参考書 参考資料	『現代の生涯学習』 岩永雅也 放送大学
履修上の注意	みなさんの意見をランダムに指名して、伺うことがあります。また、授業内で行う自己分析やペアワークには、必ず取り組んでもらいます。授業内容と成績評価項目を熟読し、納得の上、履修して下さい。
予習・復習指導	事前に指示があった場合には、前もって配布するレジュメ、心理テスト、ワーク用紙などを利用し、事前学習を行って下さい。その他、予習や復習として、授業で扱ったテーマについて自主的な学びを求めます。1コマにつき4時間の予習復習時間の確保が望ましい。
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の振り返り用紙から得た受講生の質問や感想は、次の授業の冒頭にて全体にフィードバックします。 個人的に受けた質問やコメントについても、必要に応じて全体に伝えます。
教員の業務経験	
教員の業務経験有無	無
科目ナンバリング	COM-GE105L

講義名	博物館概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	K Y O B I 芸術学部

到達目標	博物館活動の概要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するために不可欠な基礎的知識を総合的に習得する。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	博物館は、さまざまな博物館資料を調査・研究、さらに展示・活用し、幅広く社会と関わる学習活動の拠点である。本講義では、博物館の成立と発展の歴史、博物館法にもとづく制度的枠組み、資料の収集・保存・展示・アーカイブ、さらに地域社会や学校教育との連携までを体系的に学ぶ。博物館活動の具体例を提示し、現代社会における博物館の役割と意義を理解することを目指す。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 博物館の定義と機能 第3回 博物館法と日本の博物館制度 第4回 博物館成立の歴史①（西洋） 第5回 博物館成立の歴史②（日本） 第6回 博物館の種類と多様性 第7回 博物館資料：資料とは何か 第8回 博物館資料と収集・保存① 第9回 博物館資料と収集・保存② 第10回 博物館と展示① 第11回 博物館と展示② 第12回 アーカイブと記録 第13回 博物館と学校・教育 第14回 博物館と地域社会 第15回 総括
成績評価	授業時のレポート（40%）、期末試験もしくは期末レポート（60%）によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	加藤有次、鷹野光行、西源二郎、山田英徳、米田耕司『新版博物館学講座1 博物館概論』雄山閣出版、2000年
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：次回授業のテーマ、内容に関するトピックを確認しておくこと。 復習：講義内容を整理しておくこと。適宜博物館などを見学すること。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを講義内でおこなう。
教員の実務経験	京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）を活かし、博物館活動の実践について概説する。
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	森林学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
	◎ 森本 幸裕	

到達目標	森林の構造と機能、さらに地球環境危機の時代における課題について、身近な具体例と理論を学習することで理解を深め、その知見を美術、工芸、建築を含む豊かで持続可能な人間活動に資することができるようになる。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	森林は、地球環境保全、土砂災害防止、物質生産など、様々な機能を有しており、さらに森林浴や行楽・娯楽・スポーツの場としての保健休養機能も持っている。また、芸術作品の素材を提供するなど、ひとびとの快適な生活において不可欠な要素となっている。加えて、森林は、多様な生物が生息する空間としても機能し、低下した生物多様性の向上を図る上で非常に大きな役割を果たしている。そこで本講義では、森林生態の基礎的な概念および森林環境の現状について解説を行い、さらにそれを応用した、都市緑化、樹木医学、鎮守の森の保全、環境林造成等についても詳説する。
授業計画 授業内容	第1回 森林の多面的機能 ・講義「森林学概論」の概要 ・森林が持つ様々な機能 ・森林と人々との関係 などについての詳説を行う 第2回 都市空間の緑化手法（1） 屋上緑化 ・屋上緑化の手法 ・屋上緑化の計画、設計 などについての詳説を行う 第3回 都市空間の緑化手法（2） 壁面緑化 ・壁面緑化の手法 ・壁面緑化の計画、設計などについての詳説を行う 第4回 都市空間の緑化手法（3） 室内緑化 ・室内緑化の手法 ・室内緑化の計画、設計 などについての詳説を行う 第5回 アーバンフォレスト 街路樹のデザインと管理（1） ・街路樹の現況 ・街路樹診断 などについての詳説を行う 第6回 アーバンフォレスト 街路樹のデザインと管理（2） ・街路樹の健全育成のための管理技術 などについての詳説を行う 第7回 樹木医学の基礎（1） ・樹木の概況調査 ・樹木の地上部の衰退度の判定 などについての詳説を行う 第8回 樹木医学の基礎（2） ・樹木の病気の要因 ・樹木の防御機能 ・主な樹木病害の特徴 などについての詳説を行う

	第9回 樹木医学の基礎 (3) ・樹木の地下部の診断 ・樹木の外科手術 ・樹勢の回復方法 などについての詳説を行う 第10回 熱帯林生態系の現状とその保全 ・世界のバイオームの分布 ・熱帯多雨林の現状とその保全 ・マングローブ林の現状とその保全 などについての詳説を行う 第11回 森林の構造と機能 ・日本の森林植生型の区分 ・植生の垂直分布 ・森林の階層構造 ・植生遷移 などについての詳説を行う 第12回 鎮守の森の保全と再生 ・鎮守の森の重要性 ・鎮守の森の現状 ・鎮守の森の保全、再生事例紹介 などについての詳説を行う 第13回 環境林の造成手法 ・都市域での自然再生の考え方 ・エコロジー緑化工法の概要 ・環境林造成の事例紹介 などについての詳説を行う 第14回 二次林生態系の現状とその保全 ・二次的自然における攪乱と種の多様性 ・二次的自然での景観の多様性 ・二次林生態系の現状と保全手法 などについての詳説を行う 第15回 森林資源生産の現状とその再生 ・林業環境の現状 ・林業再生への取り組み などについての詳説を行う
成績評価	評価ポイント：小レポート（55%）、期末レポート（45%）
教科書	適宜プリント配付
参考書 参考資料	『森林生態学』（石井弘明編，朝倉書店） 『人と自然のダイナミズム2 森林の歴史と未来』（鈴木牧・齋藤暖生・西廣淳・宮下直，朝倉書店） 『樹木医学入門』（福田健二編，朝倉書店） 『最新 環境緑化学』（森本幸裕編，朝倉書店）
予習・復習指導	予習内容：予定する講義内容に関連する資料に事前に目を通しておき，疑問点があれば明らかにしておくこと。 復習内容：講義の際に配布した資料等を再度熟読し，講義全体を復習すること。 事前事後学修時間：1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
関連科目	博物館概論，世界文化遺産論
課題に対するフィードバックの方法	期末レポートの講評をクラスルームで行う
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	栄養学入門		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中沢 るみ	KYOB I 建築学部

到達目標	健康保持・増進のための栄養や食材に関する基本的知識を身につける。 食品や食材の特徴・栄養成分を理解し、テーマに沿ったメニューを考えることができる。 この科目はDP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	食べ物が身体に及ぼす影響について、さまざまな角度から学習します。 骨や筋肉を強化する栄養成分、肉体や精神の疲労を回復する食べ方、記憶力や集中力を高める食材、病気予防に役立つ献立作成など実践的な食事へ反映できる知識を習得します。 各種栄養素の働きや伝統的な日本食材（京野菜や出汁）、海外で注目されている新種食材（調味料）、発酵食品、加工食品、ハーブ・スパイスなどの知識を理解して、より豊かな食生活を営むことを目指します。 また食品表示や栄養強化食品、オーガニック食品など食品を選ぶ基準についても学び、食生活と疾病（生活習慣病）予防について理解を深めます。
授業計画 授業内容	第1回 人体と栄養 第2回 ビタミン① 第3回 ビタミン② 第4回 ミネラル① 第5回 ミネラル② 第6回 食事と生活習慣病 第7回 テスト① 第8回 機能性成分（色） 第9回 機能性成分（香り） 第10回 腸内環境 第11回 発酵食品 第12回 食物繊維 第13回 栄養バランスの整った献立 第14回 食品表示 第15回 テスト②
成績評価	評価ポイント：課題（60%）、テスト（40%）
教科書	きちんとわかる栄養学 西東社
予習・復習指導	予習：次回授業に関する教科書のページを読んでおく。 復習：講義内容を整理し、自身の食生活に反映させる。 1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	課題、テストのフィードバックを講義内で行う。
教員の実務経験	管理栄養士 栄養学・食品学講師
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	歴史学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中村 みどり	KYOB I 建築学部

到達目標	教養としての通史的な理解を深めるばかりでなく、歴史を複数の視点から考える多角的な視野と、歴史的事象がどのような情勢と人々の動きによって築かれたのかという「生きた歴史学」を身につけ、理解してもらうことを目標とする。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本授業では、古代ヤマト王権の成立から近代明治維新までの日本を中心とした歴史と文化を通史的に概説してゆく。特に京都に関わる歴史的事象（平安京遷都や応仁の乱など）は参考史料などを用い、詳説してゆくこととする。 なお、授業は毎時間レジュメを配布し解説する講義形式によって行うが、毎回質疑・感想の提出を行ってもらい、次回授業の冒頭にて適宜質問に回答するフィードバックの時間を設けるものとする。この時間を利用して、通史の概説では触れられなかった歴史的事象の細かな点や、歴史を学問的に捉えた際の考え方の説明などを適宜加え、より深みのある内容を追求してゆくものとする。
授業計画 授業内容	第1回 歴史学概論 / 歴史学とは何か 第2回 古代国家の成立 第3回 奈良時代と天平文化 第4回 平安時代の始まりと安定 第5回 摂関時代と国風文化 第6回 院政期と武士の台頭 第7回 鎌倉時代とその盛衰 第8回 室町時代と応仁の乱 第9回 室町時代の文化と習俗 第10回 戦国時代と天下統一 第11回 南蛮文化と桃山文化 第12回 江戸時代の政治と改革 第13回 江戸文化 第14回 明治維新と文明開化 第15回 文化財保護の現在
成績評価	評価ポイント：期末レポート（70%）、質疑参加態度（30%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	詳説日本史研究（山川出版社）、日本史用語集（山川出版社）、岩波日本史辞典（岩波書店）など。 その他、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	1コマあたり4時間の事前事後学習が望ましいが、その配分に関しては各自の判断に任せる。 授業進度についていけないようであれば、先んじて中学・高校時代の日本史の教科書などで良いので、次回範囲を予習しておくこと（毎時間授業の最後に次回の範囲について知らせる）。 あるいは、授業中に理解できなかった言葉・単語は、復習として辞書や参考書を用いて調べておくこと。
関連科目	日本文化史、京都学、日本美術史、日本建築史、文化財概論、文献・絵画史料概論
課題に対するフィードバックの方法	毎時間、質疑に対する応答を次回授業の冒頭に行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	現代社会と政治		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 梶居 佳広	KYOB I 建築学部

到達目標	・政治学に関する基礎的な用語を理解することができる。 ・日本政治の基本的仕組みとその運用（現状）を把握できるようになる。 ・様々な考えがあることを理解し、自分自身の政治的価値観や立ち位置を客観視できるようになる。 本科目はDP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	政治は「強制力を伴う社会全体の運営」ともいわれますが、「共通善の実現」と「権力・支配をめぐる闘争」という一見正反対の二つの顔をもつとされます。あまりかかわりを持ちたくないでしょうけど、徴税に代表されるように、「政治はどこまでも追いかけてくるもの」であることもまた間違いありません。 この講義では、政治に関する基礎的な知識を身につけつつ、日本における制度・現状を概観しますが、学びを深めるなかで自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指します。 なお講義担当者は政治学の中でも歴史（政治史）専攻であるので、歴史的背景の説明にも力を入れることを留意してください。
授業計画 授業内容	第1回：イントロダクション（自己紹介・「4つの89年」）並びに「政治」とは？ 第2回：自由民主主義体制の形成・成立：ヨーロッパにおける市民革命、普通選挙などを紹介します。 第3回：戦後日本政治の歴史その1：戦後日本政治の歩みについて占領期・高度経済成長まで。 第4回：戦後日本政治の歴史その2：高度成長並びに冷戦終結頃まで。 第5回：政治体制・制度：君主制と共和制、議院内閣制と大統領制を紹介。 第6回：選挙と政党その1：選挙・政党の意義と歴史、複数政党の形成について。 第7回：選挙と政党その2：選挙制度と政党システム、日本の事例について。 第8回：議会（立法）：議会の機能と現状、二院制の是非。 第9回：行政・官僚制：政治と行政の関係、官僚制の特徴、日本の事例 第10回：利益集団・圧力団体：集団の形成・活動、政治への影響 第11回：マスメディアと政治：マスメディアの役割並びに政治との関係について。 第12回：地方政治：地方政治の意義・枠組み（中央—地方関係）。日本の地方政治の特徴について。 第13回：国際政治：国内政治との違い、平和維持の方法について。 第14回：「平成の改革」・政治参加：「平成」期に推進された改革並びに政治参加のありようについて 第15回：まとめ、日本政治の課題。
成績評価	1. 評価割合：定期試験（70%）、平常点＝リアクションペーパー、コメントの内容（30%）。 2. 基本、定期試験で最終評価しますが、普段のコメント（リアクションペーパーの内容）も軽視できません。なお①定期試験はレジュメ、ノート、メモ類は持ち込みOKとします。②任意レポート提出も受け付けます。
教科書	特に指定しませんが、高校時代の教科書（公民、政経）があれば活用してください。
参考書 参考資料	講義中にも適宜紹介しますが、高校時代の教科書のほか、『もういちど読む 山川政治経済』（山川出版社、2018年）、宇野重規『民主主義とは何か』（講談社現代新書、2020年）をあげておきます。
履修上の注意	1. 講義中、自分でノート・メモを作っておくといいいでしょう（定期試験で持ち込みできます）。 2. 講義をよりよく理解するために、日ごろから新聞などに目を通しておくことをお勧めします。 3. 講義中の私語は厳禁です（友人との団らんは別の場所で！）。受講態度が成績評価にも大きく影響しますので注意しましょう。
予習・復習指導	準備として参考文献の該当箇所や配布資料（できれば新聞）を読み、専門用語などの予習・復習を行うこと（各120分）

関連科目	関連性は不明ですが、他の教養科目（さしあたり、経済や歴史科目）もしっかり受講してください。
課題に対するフィードバックの方法	・講義終了後提出してもらいアクションペーパーについては、傾向をまとめたうえで次回の講義でフィードバック（簡単な説明・復習）を行います。 ・前回の講義内容について次回の講義でまとめたうえで、受講者の質問を受け付けます。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	工芸と経済		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田 均	KYOB I 建築学部

到達目標	①経済学の基本的概念を学び、近代～現代社会の構造とその限界を俯瞰する。 ②工芸・芸術・建築・デザイン等の振興と経済・経営学の役割について理解する。 ③理想社会を構想し、自らの研究課題を設定し、課題解決に取り組む。 この科目は、DP0-1～3に該当する。
授業概要	現代の標準的・一般的な経済学には、美術や工芸の価値を正しく評価し社会に位置づける論理が欠けている。そのため、Arts & Craftsを社会に普及する論理をもつ新たな経済学（文化経済学）を学び、個々人の潜在的な創造能力が開花する「工芸社会」や「共生社会」を担う基礎力を養う、本学独自の経済学科目である。 この科目では、経済学の基幹となる価値・資本・財などの概念を問い直し、近代以降～現代にいたる社会の基本構造を客観視したうえで、理想社会を地域に根ざして自分たちで構想し実現する、というような大きな使命に応える講義内容を提供する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス：講義の目標、全体計画、受講の要領、経済学の原理 第2回 経済学の成立：スミスの経済思想、産業革命の影響 第3回 経済学の展開：マーシャルの地域経済論、ラスキンの芸術経済論 第4回 文化経済学入門：芸術財のジレンマ、ボウモル病、芸術の外部性 第5回 価値を問い直す：労働価値論と効用価値論、ケインズ経済学 第6回 固有価値論：固有価値と享受能力、職人仕事の本質と外部性 第7回 資本を問い直す：経済（貨幣）資本、社会関係資本、文化資本 第8回 文化と経済発展：文化の定義、文化資本の経営、地域と文化、文化と経済 第9回 財（主体）を問い直す：私的財（営利企業）と公共財（政府）、コモンズの復活 第10回 社会企業論：公を担う市民、CBやSB、営利企業の社会企業化 第11回 地域経済の復活：中央集権と地域分権、地域力を育む事業 第12回 次世代産業論：柳の民藝論、産業クラスター論、三層構造論、産業集積論 第13回 工芸の経営論：組織と個人の共成、使命と戦略、組織リーダーの役割 第14回 理想社会の実現：市民社会、工芸社会、共生社会、じねんの思想 第15回 総括と補足、到達度テスト
成績評価	毎回提出するミニレポートや受講意欲などの平常点（50%）と第15回目に実施する到達度テスト（50%）によって総合的に評価する。
教科書	毎回の講義用資料を事前にネット配信する。
参考書 参考資料	池上惇 『文化と固有価値の経済学』 岩波書店、柳宗悦 『工藝の道』 講談社学術文庫、その他、講義の中で紹介する。
予習・復習指導	講義前日に講義資料をクラスルームに投稿するので、予習して講義に臨むこと。 講義の中で提示する課題に積極的に取り組み、しっかり復習して講義内容を身につけるように。 1コマに対し、1時間の事前学習及び3時間の復習を目安とする。
関連科目	地域社会論
課題に対するフィードバックの方法	レポート内容や質問などについて、必要に応じて次回以降の講義で紹介・解説するなどの方法でフィードバックする。
教員の実務経験	京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間、地域産業や工芸の振興に関する実務を経験している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	世界文化遺産論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宗田 好史	KYOB I 建築学部

到達目標	1. UNESCOの世界文化遺産の多様な価値を理解し、保存・活用方法を考察する 2. 文化財建造物など「建築遺産」の保存理論の発展と保存技術の歴史を学ぶ 3. UNESCOとICOMOS（国際記念物遺産会議）の活動と世界文化遺産登録の実情を知る 4. 日本の文化財保護の歴史を学び、世界各国の文化財、景観保護制度を知ることで比較の視点をもつ 5. 古社寺保存法（1897年）の時代から現在の京町家再生までの建築保存活用手法を学ぶ。 本科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	この講義では、UNESCO世界遺産条約による世界文化遺産と保護制度を知り、欧米先進諸国と日本の文化遺産、特に建築遺産の保存理論と保存方法の発展の歴史を学びます。 京都には数々の歴史的建造物があり、その保存修復の歴史を学ぶことで文化財保護の理論と実践の発展がよく分かります。一方、西洋建築史で習うパリの歴史的町並みやノートルダム寺院、水都ヴェネツィアの歴史的建造物は古建築でもありますが、過去二百年の保存修復方法の数々の実践の場でした。21世紀に建築を京都で学ぶ皆さんは、身近に京町家再生に接します。その設計方法が、世界の建築保存、世界文化遺産の保存の理論や科学と比べ、どう位置づけられるかを学びます。
授業計画 授業内容	1. UNESCOと世界遺産条約、そして日本の文化財保護制度 2. 日本の文化財保護制度の歴史、明治維新と廃仏毀釈、古器旧物保存方から古社寺保存法へ 3. 史蹟名勝天然記念物法から国宝保存法、戦前の古建築保存と戦後の文化財保護法の比較 4. 文化財保護法の80年、建造物、民家と町家、伝統的建造物群、文化的景観 5. 町並み保存運動の取組み、開発から文化財や町並みを守った時代と過疎から守る現在の違い 6. ヨーロッパ建築保存の始まり、ルネッサンスと古典建築、ミケランジェロの保存活用計画 7. ヴィオレ・ル・デュックの建築保存理論とパリのノートルダム寺院の修復（1845-87年） 8. ジョン・ラスキンの文化財保護論、近代美術と景観保存、ナショナルトラストの誕生 9. マドリッド憲章からアテネ憲章へ、近代ヨーロッパの建築保存論争、脱ネオクラシック主義 10. ヨーロッパの戦災復興とベニス憲章、ハーブ条約の成立から世界遺産条約の制定へ 11. 世界遺産条約50年史、国際会議での保存理論の展開、奈良オーセンティシティ会議など 12. ICOMOSと保存理論、ICCRROMの保存理論とその教育 13. 歴史的都市景観の保存、ヨーロッパからアジアへ、ダイバーシティとインテグリティ 14. 世界文化遺産の保存管理計画、古都京都の文化財（1994年）策定とその後の管理 15. 彦根城の世界文化遺産登録への歩み、推薦書と保存管理計画、保存計画と設計手法
成績評価	1. リアクションペーパー（20%）※ 2. 遺産やそれに関連するミュージアムの収蔵資料の活用をテーマにしたレポート（20%） 3. 最終レポート（60%）
教科書	文献などの関連資料を紹介していく
参考書 参考資料	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社、2000年 宗田好史『インパウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社、2020年
履修上の注意	講義の中で出てくるキーワードに注意を払い、配布するリアクションペーパーにはそれらの用語を使った文章が書けるよう、常日頃から意識しておくことが望ましい
予習・復習指導	スライドなどの授業資料を参考にして、1回の講義ごとに必要に応じて適宜復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックは、提出されたリアクションペーパーに受講者全員で共有すべき内容が含まれる場合には、次回の授業時間内で解説や質問回答の時間を設ける。 また、個別に対応が必要であると判断される場合は、リアクションペーパーを複写し回答を記入のうえ、提出者に返す。
教員の実務経験	国際連合職員、ICOMOS理事等を歴任し世界文化遺産の実務に従事、また世界遺産「古都京都の文化財」「百舌鳥古市古墳群」等の保存管理計画策定に当たった教員が長年の実務経験を活かして講義する
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	表現技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	松本 浩作	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	中山 智博	KYOB I 芸術学部

到達目標	ビジュアルデザイン、インテリア・空間デザイン、立体造形デザイン、文化財情報デザインの各デザインに関する表現のとらえ方や活用方法について学ぶ。 各デザイン分野の表現の内容について知識的理解を得ることを目標とする。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	デザイン分野の広がりや技術的進歩は早く、その時々を社会的ニーズの変化に対応する必要がある。また、表現の中身にあたるデザインの質の良し悪しが表現の出来に関係することについても理解する。そして、新たな価値に対応する考え方や技術が新たな表現を生むことも理解する。その上で各分野の表現について学ぶ。 ○ビジュアルデザインの表現の主な内容：歴史的概要・印刷表現・デジタル表現・映像表現等 ○インテリア・空間デザインの表現の主な内容：歴史的概要・生活様式・素材/構造・内装/家具等 ○立体造形デザインの表現の主な内容：歴史的概要・道具と素材・一品と量産品等 ○文化財情報デザインの表現の主な内容：文化財の概要・表現の変遷と文化・保存と活用
授業計画 授業内容	全15回 オムニバス形式 第1回 中井川正道 教授 全体ガイダンス 錯視の表現 第2回 渡邊 俊博 教授 立体の表現 第3回 田中 正流 准教授 文化財の表現 第4回 田中 秀和 講師 映像と絵画の表現 第5回 中山 智博 非常勤講師 3Dの表現 第6回 中山 智博 非常勤講師 3Dの表現 第7回 宮内 芳代子 特任講師 版画表現の世界 第8回 加納 奈都 講師 デジタルアートの表現 第9回 百田 聖一 助教 AIの表現と役割 第10回 東 俊一郎 教授 街の色彩表現 第11回 岡 達也 准教授 ポスター表現 第12回 松本 浩作 非常勤講師 照明の表現 第13回 松本 浩作 非常勤講師 照明の表現 第14回 松本 浩作 非常勤講師 照明の表現 第15回 中井川正道 教授 美の表現 総括 * 講師の都合により内容の変更および講師の入れ替えがあります
成績評価	履修態度70%、各小レポート30%
教科書	配布資料、映像など
参考書 参考資料	『グラフィックデザイナーの仕事』祖父江慎 グルーヴィジョンズ 『イサムノグチ』宿命の越境者（上）（下）ドウス昌代 2003 『陰影礼賛』谷崎潤一郎 バイインターナショナル 2018 『色と光の科学 物理と化学で読み解く色彩の起源』小島憲道 講談社 2023 『人体 5億年の記憶：解剖学者・三木成夫の世界』海明社 2017
履修上の注意	講師の都合により内容、講師の変更、順番などの変更がある。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講義の内容について調べる。 講義後はわからなかったとことを中心に調べ講義の内容を十分に理解する。
関連科目	科学と芸術 伝統と学び 工芸概論 デザイン概論 しごと論Ⅰ、Ⅱ 発想と表現
課題に対するフィードバックの方法	第15回目の授業で総括する

教員の実務経験	岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験、デザイン史研究の実績をもとに講義する。 渡邊俊博：素材メーカーでの実績をもとに、立体系デザインの造形や表現方法について講義する。 中山智博：3Dスキャンを使った画像制作の実績をもとに、撮影技術等について講義する。 松本浩作：照明メーカーでの実績をもとに、照明の基本的な知識などを講義する。 杉山英知：建築家の実績をもとに、体の不自由な人に配慮した空間デザインのあり方について実例を示しながら講義する。 東俊一郎：建築・インテリア設計、色彩研究の経験をもとに、空間設計における色彩理論や色彩の心理的効果について講義する。 中井川正道：デザイン設計事務所の勤務経験から得た知見をもとに講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-GE213L

講義名	技芸と文学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 武藤 タ佳里	KYOB I 芸術学部

到達目標	「技芸」と「文学」は、人間の生活と密接に関わってきたことを学ぶ。自分を取り巻く環境、世界への視野を広げ、多角的な視座でものごとを追究する姿勢を育み、論理性ある思考力と自らの感受や感性を表現する創造力を養う。 本科目は大学のディプロマポリシー-DP0-1, DP0-2, DP0-3に該当する。
授業概要	「技芸」とは何かを知り、「文学」をはじめとした文芸の世界からものづくりを読み解き、人間が技を育み営んできた暮らしを通して、日本の歴史と文化について考える。学生それぞれの本学での専門性や探求心を深める機会とできるよう、各回に多彩な史資料を取り上げ、紹介する。「技芸」と「文学」がどのように私たちの生活に寄り添い、彩ってきたのかを知り、自らで考える歴史、文化を確立する機会とする。提出課題のA調査メモ、B調査メモ、C研究調査ノートの作成を通し、自分の思考を整理し、表現に導く手法を学ぶ。
授業計画 授業内容	多彩な史資料を通じ、自分が学ぶ専門分野の能力や知識をより深め、豊かに育む素養を身に付ける。 (全15回) 第1回 技芸と文学―はじめに：本授業における「技芸」と「文学」 第2回 技芸と文学―古典 第3回 技芸と文学―意匠 第4回 技芸と文学―色彩＊（A調査メモの提出） 第5回 技芸と文学―茶道 第6回 近代と技芸①日本―万博との出会い 第7回 近代と技芸②海外―芸術の時代・ジャポニズム 第8回 近代日本の工芸①外国人著作物にみる日本の旅 第9回 近代日本の工芸②外国人著作物にみる京都＊（B調査メモの提出） 第10回 近代日本の工芸③外国人著作物にみる近代七宝 第11回 現代への道①日本庭園と文芸 第12回 現代への道②民芸と文芸 第13回 現代への道③作家と言葉―個性創作 ＊（C研究調査ノートの提出） 第14回 現代への道④創造と革新―日本の伝統 第15回 まとめ
成績評価	授業への出席を含む積極的参加（30％）、期末試験に相当する課題のA調査メモ、B調査メモ、C研究調査ノートの提出（70％） ・A調査メモ：技芸（工芸や建築、絵画、文化などからワザやモノ）を一つ取り上げ、素材や技術など製作に関わる背景を調べる。 ・B調査メモ：A調査メモで取り上げた対象物に関わる文芸的要素や背景を調べる。 ・C研究調査ノート 調査メモAとBを踏まえて対象物の歴史と文化について自分の考えをまとめる。
参考書 参考資料	中西進『美しい日本語の風景』（2008、淡交社）、エリザ・R・シンドモア／外崎克久訳『シンドモア日本紀行』（2002年、講談社）ほか、講義の時々には様々な資料に言及する。
履修上の注意	「技芸と文学」を難しく捉えず、自分に関わる物事や技が育まれてきた文化的背景を文学や文芸から学ぶ。提出課題は自分の学習や創作を助ける要素となると意識し、意欲的に取り組み必ず提出すること。
予習・復習指導	予習：各回のテーマに即した本を、図書館などに行き手にして、まず開いてみる。書籍や史資料（本や雑誌、図録、音楽や映像ほか）などで触れる。復習：各回の授業のレジュメを見直しておく。新たに興味を持ったことなどを、調べる。合わせて自分が取り組むテーマに関する史資料の収集を行う。自分の興味ある本をいろいろ手にし、好きな本を1冊以上みつける。予習（2時間）・復習（2時間）の時間をまとめて取れない場合でも、意識して、技芸や文学に触れて、考える時間を捻出する。
課題に対するフィードバックの方法	A、B調査メモは、必要に応じて調べ方や史資料の紹介を授業の中で言及し、C研究調査ノートの完成を助ける。
教員の実務経験	経歴：株式会社中里（業務用食器厨房設備商社）営業部卸課・課長補佐。京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）日本庭園・歴史遺産研究センター研究員。通信教育学部学芸員過程、通学部歴史遺産学科非常勤講師。現職：並河靖之七宝記念館・主任学芸員、植彌加藤造園株式会社庭園開発研究室・研究員。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	伝統と学び		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員			
職種	氏名	所属	
講師	◎ 児玉 絵里子	KYOB I 芸術学部	

到達目標	日本の伝統的な美術（琳派・狩野派・近世絵画）・芸能（歌舞伎・能楽・文楽・琉球芸能ほか）・民俗芸能（神楽・風流踊ほか）の学びを通して、日本文化を土台とした創作の力を養う。日本の伝統に存在する「型」を学び、自らの創造に落とし込む。 この科目はDP0-1、DP0-2に該当する。		
授業概要	・この授業は、従来の「美術史」や「芸能史」「国文学」などの垣根を越え、広く日本の伝統的芸術の魅力を学ぶことで、芸術家としての基礎力養成を目的としています。・国際文化観光都市 京都で、優れた伝統的美術・芸能・民俗芸能を総合的に学び、日本の伝統・文化に関する基礎的知識を身につける。・日本独自の有形文化財・無形文化財・民俗文化を学び、自らの感性を磨き、伝統から創作を行う力を養う。・グローバル社会が展開し、外国人観光客が増大しています。日本が歴史的に培ってきた優れた伝統芸術を学ぶことで、伝統を自身の強みとし、新たな創造を生む力を養いましょう。○レポートの書き方、授業の学びを成果物に落とし込む方法について、基礎的指導を行います。○授業ではパワーポイントを使用します。教科書に指定した文献、配布資料・参考文献などを用いて学びを深める講義科目です。		
授業計画 授業内容	第1回 日本文化と伝統—近世初期風俗画の魅力第2回 歌舞伎と日本文化—歌舞伎の発祥と阿国歌舞伎・遊女歌舞伎第3回 歌舞伎と日本文化—若衆歌舞伎と「藤娘」第4回 歌舞伎のデザイン—漫画「鬼滅の刃」の源流第5回 歌舞伎のデザイン—荒事（あらごと）・和事（わごと）第6回 能と世阿弥・『伊勢物語』・在原業平第7回 能のデザイン—能面と能装束・西陣織第8回 琳派の意匠—本阿弥光悦・俵屋宗達・尾形光琳と尾形乾山第9回 琳派の意匠—江戸琳派 酒井抱一・鈴木其一第10回 御用絵師 狩野派の美—狩野永徳と狩野探幽第11回 近世絵画の魅力と芸能—ものがたり絵第12回 浮世絵の歴史と歌舞伎第13回 琉球王国の美—首里城・琉球紅型・琉球漆器第14回 伝統芸能と民俗芸能—琉球芸能とアイヌの美第15回 民俗芸能の諸相—神楽のさまざま/ねぶた・ねぶた		
成績評価	最終課題（レポートまたは作品）60%、授業毎のコメントカード40%○この授業は毎授業で、授業の感想を記入するコメントカードの提出を行います。○毎授業コメントカード、および授業の学びに基づく最終課題成果物（レポートまたは作品のどちらかを選択）の内容により、成績評価を行います。○最終課題成果物のテーマおよび提出日は、授業中に説明しクラスルームで公開します。		
教科書	教員作成の資料を配布する。		
参考書 参考資料	○講師の単著（学術図書）等を、必要に応じ参照してください。・『歌謡と芸能—在原業平の表象—』勉誠社、2026年・『伝統芸能と民俗芸能のイコノグラフィー〈図像学〉』錦正社、2024年・『初期歌舞伎・琉球宮廷舞踊の系譜考—三葉葵紋、枝垂れ桜、藤の花—』錦正社、2022年・『琉球紅型』ADP、2012年（2024年重版） ※第10回木村重信民族芸術学会賞受賞図書・『図説 琉球の染めと織り』河出書房新社ふくろうの本、2005年YouTube動画は（児玉（児玉） 絵里子（eriko Kodama）- マイポータル - researchmap）に掲載されています。		
予習・復習指導	復習で学びを深めることを重視する授業です。毎授業後に、授業の感想を記入したクラスルームのコメントカード提出を行うこと（授業の復習時間に含みます）。授業での学びを生かし、授業の時間外で博物館の見学や現地フィールドワークを行い、学びを深めてみてください。体験は、必ずあなたの実力を高めます。教室内での学修時間30時間、教室外での学修時間（復習）60時間、合計90時間。		
課題に対するフィードバックの方法	毎授業、クラスルームのコメント・カードを提出すること（授業の復習時間に含みます）。課題に対するフィードバックは、授業の冒頭、およびクラスルームで行います。質問は、授業中のほかにコメント・カードで受け付けます。		
教員の実務経験	博士（文学）。早大で博物館学芸員資格を取得し、学芸員として長く勤務した後に、大学の専任教員となりました。学芸員として勤務しながら博士号を取得しました（論文博士）。東京国立博物館学芸部工芸課染織室非常勤職員、国指定重要無形文化財「紅型」保持者（人間国宝）玉那覇有公主幸 玉那覇紅型工房、浦添市美術館囀託学芸員を経て、財団法人海洋博覧会記念公園管理財団（一般財団法人沖縄美ら島財団）学芸員（正規職員）。同財団学芸員を退職後、ドナルド・キーン・センター柏崎学芸員（正規職員）、沖縄国際大学非常勤講師や豊島区立トキワ荘マンガミュージアム準備室学芸員、早稲田大学学芸員の後、京都芸術大学専任講師を経て、現職。		
教員の実務経験有無	有		
科目ナンバリング			

講義名	哲学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村 知絃	KYOB I 建築学部

到達目標	自由・存在・真理などの哲学のテーマについて、各時代の哲学者がどのように問い、どのように答えてきたかを学び、受講者が哲学的な問題について自ら考えることができるようになる。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	「自由」とは何でしょうか。「友情」と「恋愛」は何が違うのでしょうか。心は「存在する」のでしょうか。この授業では誰でも一度は考えたことがあるけれども、よくわからないままにしている疑問について、じっくり考えてみます。哲学で大事なことは正解を見つけることではなく、自分で考えてみることです。授業では哲学者の言葉を紹介し、そこから哲学的なテーマについて考える方法を学び、実際に自分なりの答えを考えてみます。取り上げる哲学者は古代ギリシャから現代まで多岐にわたりますが、問われている問題は現代でも通用するものです。自分の身近な範囲や、現代社会の問題に応用して論理的・批判的に考える方法を学びます。
授業計画 授業内容	第1回 イン트로ダクション：「哲学」 哲学は古代ギリシャで始まり、「勇気とは何か」「正義とは何か」というように「〇〇とは何か」という形で考えられました。なぜこのような形式で問うことが哲学となるのか、実際に答えを考えながら、哲学してみましょう。 第2回 「友情」 「友情」とは何でしょうか。自分では友人だと思っていた人が、相手はそう思っていなかった時、友情は成り立つのでしょうか。友情と恋愛は何が違うのでしょうか。誰もが一度は考えたことがあるこの問題は、すでに古代ギリシャの哲学者たちにとっても重要なテーマでした。彼らの答えを参考にしながら皆さんも一度じっくり考えてみましょう。 第3回 「宗教」 中世の時代には神学と哲学が密接な関係にありました。現代日本でも書店で哲学と宗教の本が同じ棚に並べられているのをよく見かけます。なぜ哲学することが神について考える神学と結びつくのでしょうか。両者の関係の違いを学びながら、現代における哲学と宗教の関係についても考えます。 第4回 「確実性」 フェイクニュースが問題となっている現代では、情報の確実性が求められますが、「確実性」とはいったい何でしょうか。フェイクニュースに限らず、私たちは日ごろから勘違いや見間違いをしますが、どのようなときに間違いを疑い、どのようなときに確実だと言えるのでしょうか。この授業では確実性を認めるための基準について考えます。 第5回 「知識」 かつて「神の存在証明」が活発に議論されていた時代がありました。現代ではこの問題に取り組んでいる人は多くありませんが、現代のわたしたちは、「神が存在している(または存在しない)」ことを知っているのでしょうか。神の存在のような問題について、私たちはそもそも何かを「知る」ことができるのでしょうか。この授業では私たちの知識の限界について考えます。 第6回 「自由」 「自由」とは何でしょうか。晩御飯のメニューや週末の予定など、普段わたしたちは自由に決めているように見えます。ではそれを決めているのは何でしょうか。脳でしょうか。その場合もし科学が脳の働きを全部解明してしまったら、何を選択するかがわかってしまい、自由はなくなってしまうのではないのでしょうか。あるいは自由は脳の決定とは別の場所にあるのでしょうか。この授業では人間の自由について考えてみます。 第7回 「生きる」 私たちが「生きている」とはどういうことなのでしょう。それは単に存在していることと何が違うのでしょうか。「生きることに意味はあるのか」と言うといかにも哲学的に聞こえます。この問いに答えがあるかどうかは別として、皆さんも一度「生きることの意味」について考えてみましょう。

	第8回 「善悪」 「ひとにやさしくすることは善い」とか「嘘をつくことは悪い」などと言いますが、「善い」と「悪い」とはどのように決まっているのでしょうか。しかも悪いことだとわかっているのに、誰でも嘘をついたことがあるでしょう。善い嘘と、悪い嘘があるのでしょうか。この授業では善いと悪いの基準について考えます。 第9回 「現実」 現代の科学は客観的で確実な知識を私たちに与えてくれますが、現実には私たちが見ている世界は、科学が示しているそのままではありません。科学的な調査による数値を示して説明されても、そこに「リアリティ(=現実性)」を感じられないと言ったりします。逆に絵画などの創作物の内にリアリティを感じるということがあります。この授業では私たちが見ている、あるいは私たちに与えられているリアリティとはどのようなものなのかを考えます。 第10回 「存在」 「京都に多くの大学がある(=存在する)」ということを私たちは否定しないでしょう。では「心」は「存在する」でしょうか。「心をこめて」とか「心を痛める」とかいう言葉を日常的に使っているのは、「心が存在する」と思っているからではないのでしょうか。そうだとすると、目で見ることのできない「心」が存在すると言えるのはなぜでしょうか。私たちが日ごろ当たり前理解している「存在」の意味を考えてみましょう。 第11回 「世界」 現代では「世界」という言葉を頻繁に、しかも様々な意味で使っています。例えば「世界記録」というときの世界は、「地球上で」という意味です。一方で「私たちが生きている世界」というときは、ある限られた範囲を指します。異なる範囲が同じように「世界」と呼ばれるのはなぜなのでしょう。私たちが生きている「世界」とはいったいどのようなことなのか、この授業で考えてみましょう。 第12回 「不安」 日常においてふと「不安」な気分が襲われた経験をしたことがあるのではないのでしょうか。「将来への漠然とした不安」というように、何が不安なのかわからないけれど、なんとなく不安だという感情。逃れようとすればするほど余計に不安になる、この不安の感情はどこからやってくるのでしょうか。19世紀から20世紀の危機の時代を生きた哲学者たちの言葉を参考にこの問題について考えます。 第13回 「人間」 「人間」とはどのような存在なのでしょう。かつて西洋では人間は「理性」をもつ動物として、他の動物から明確に区別されていましたが、現代でもこの区分は適切でしょうか。現代ではロボットの性能が上がっています。将来人間と同じ行動をするロボットが作られて、生活を始めた場合、ロボットは人間と見なされるのでしょうか。この授業では人間を人間と決めている基準について考えます。 第14回 「真理」 「真理」という言葉は何かカッコよく聞こえます。でも「あなたに真理を教えます」と言われると逆にあやしく感じてしまうのはなぜなのでしょう。真理とはそもそも何なのでしょう。「$2+2=4$は真だ」とか「彼は真の戦士だ」というときの「真」とは何を意味しているのでしょうか。真理は古代から現代にいたるまで、哲学の重要なテーマです。授業では哲学者たちの言葉を紹介しつつ、真理とは何かについて考えます。 第15回 「歴史」 大河ドラマや世界遺産巡りなど歴史を趣味にする人は多くいますが、なぜ私たちは「歴史」に興味を持つのでしょうか。小説などの物語とは異なり、歴史を学ぶときには、その由来が関心の対象となります。つまり私たちは、一人ひとり固有な人間でありながら、一方ですでに過ぎ去った過去を担っている存在でもあります。この授業では人間の歴史へのかかわりについて考えます。
成績評価	授業中の課題(50%)、期末レポート(50%)によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	貫茂人『哲学マップ』ちくま新書
履修上の注意	哲学に関する事前知識は必要ありません。授業中に提示されるテーマについて自分なりの答えを考え、疑問がある場合は積極的に質問してください。
予習・復習指導	予習では、テーマの導入となる質問をクラスルームに掲示するので、授業日までに回答すること。 復習では授業で説明した内容を覚えるだけでなく、紹介した学説がどういうことなのか自分自身で身近な例を考えて吟味することが重要である。特に関心を持ったテーマに関しては授業で紹介した参考図書を読んで知識を深めること。 毎回の授業後にレジュメを配布するので、授業中に理解できない部分があったらレジュメを読んで復習をしておくこと。 1コマに対し、1時間の予習と3時間の復習をすること。
関連科目	美学
課題に対するフィードバックの方法	授業中に質疑応答を行う。 毎回の課題については、授業中に提出された回答にコメントする。 期末レポートに関する総評をクラスルームに掲示する。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	教育学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉富 千恵	K Y O B I 芸術学部

到達目標	①教育学についての基礎的知識を学ぶ ②人間の発達、成長過程について理解する ③自分自身の教育観を形成する 本科目は、DP0-1、DP0-2に該当する
授業概要	本授業では、教育心理学および発達心理学における豊富な研究成果を紹介しながら、「よりよい教育」とは何かについて考察することを目的としている。授業全体を通して、現代の教育現場におけるさまざまな課題を具体的に取り上げ、その背景にある知識や問題解決の方法について考える。また、教育に関する多様な価値観を学ぶことを通して、受講者自身の教育観の形成を促す。毎回の講義では、ふり返し用紙の提出および積極的な発言を求める。なお、本授業では人間の発達に関する基礎知識を前提とするため、「生涯学習論」を履修済みであることが望ましい。
授業計画 授業内容	第1回 教育学とは？本講義での定義と進め方の説明 第2回 教育学の歴史について 第3回 教育制度と教育資金について 第4回 早期教育の是非について 第5回 学力格差・教育格差について 第6回 発達障がいについて学ぶ① 第7回 発達障がいについて学ぶ② 第8回 いじめについて① 第9回 いじめについて② 第10回 不登校について① 第11回 不登校について② 第12回 デジタル依存について 第13回 教師の長期間労働とメンタルヘルスについて 第14回 学生によるテーマ発表 第15回 総まとめ
成績評価	平常点30%とレポート70%で評価する。平常点は、毎講義につき2点とし、授業時間内に着席し、授業を聴き、教員の指示に従って心理テストやワークに取り組んでいる学生に対して与える。この旨、公平に判断するために毎回の授業にて、授業内容の振り返り用紙の提出を求める。また、授業中における以下の行為に関しては、平常点を認めない。①初めから教室に存在せず出席の送信のみを行う。②他の講義のレポート作成、製図などの課題作成といった本授業に関係のないことをしている。③インターネットの閲覧。④正当な理由なく講義開始15分以内に教室を退出する。
教科書	特に指定しない
参考書 参考資料	木村元・小玉重夫・船越一男『教育学をつかむ』（有斐閣、2009年）
履修上の注意	①将来、子どもを育てる際に、どのような家庭教育を行いたいのか、またどのような学校教育を受けさせたいかといった点について、自分自身の将来と結びつけながら授業に取り組んでください。 ②授業計画は、最終的な受講人数や授業の進み具合により、変わることがあります。
予習・復習指導	1コマにつき、4時間の予習復習が望ましい。
関連科目	生涯学習論
課題に対するフィードバックの方法	毎回の講義復習用紙から得た受講生の質問や感想は、次の授業の冒頭にて全体にフィードバックします。
教員の実務経験	
教員の实務経験有無	無
科目ナンバリング	COM-GE317L

講義名	人間関係の心理臨床		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

到達目標	人間の発達や、人間関係について理解を深めること。 また、さまざまな視点から物事を捉える姿勢を身につけ、その結果として、自分のころも他者のころも尊重し、大切にできるようにすることを目標とする。 本科目は本学のディプロマポリシー-DP0-1～3に該当する。
授業概要	心理臨床とは目の前の人のころを共に見つめ、その人が自身の困難を解決し、新しい生き方を見出す歩みに寄り添う営みである。本授業では、まず第一期で幼児期～老年期にかけての発達課題や人間関係の課題について講義を行う。続いて第二期で、カウンセリングの各理論について講義を行う。最後の第三期では、一期・二期の学びを元に実践的な学習を行う。美術作品を題材として、心理臨床の観点から考えを深め、他の受講生3～4名と意見交換（ディスカッション）を実施する。なお、特にディスカッションの際には第二期で学ぶ“傾聴”の姿勢を意識し、相手の意見を尊重しながら議論を深めていく態度が求められる。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション(授業の進め方、聴講上の倫理・期待・約束等) 【第一期】講義：人間の発達とその課題について学ぶ 第2回 幼児期のころ① 自己と他者の誕生、そして発達（分離-個体化理論を中心に） 第3回 幼児期のころ② 発達における「遊び」の重要性（認知発達理論を中心に） 第4回 児童期・思春期・青年期のころ “疾風怒濤”の中での自己形成（心理社会的発達理論を中心に） 第5回 成人期・中年期・老年期のころ “喪失”との向き合い方（心理社会的発達理論を中心に） 【第二期】講義：カウンセリングの歴史や理論、技法について学ぶ 第6回 カウンセリング① “人の話を聞く”ことの専門性について 人生相談との違いや、災害時の心理支援から考える 第7回 カウンセリング②遊戯療法・箱庭療法 言語中心ではないアプローチ 第8回 カウンセリング③精神分析的心理学 心の「見えない部分」に向けて 第9回 カウンセリング④ユング派心理学 イメージに深く入って自分と出会う 第10回 カウンセリング⑤来談者中心療法、認知行動療法、その他の心理療法 【第三期】実践：さまざまな視点から物事を捉えることを試みる。 また自身の考えを身近な他者に伝えと共に、他者の考えを丁寧に受け取り、深める。 第11回 美術作品から学ぶ心理臨床① 見ることと解釈 第12回 美術作品から学ぶ心理臨床② 情緒に触れる 第13回 美術作品から学ぶ心理臨床③ 身体が語るとき 第14回 美術作品から学ぶ心理臨床④ 関係が見える 第15回 美術作品から学ぶ心理臨床⑤ 表現と回復
成績評価	毎回の授業後に提出する小レポート（60%）＋期末レポート（40%）。
教科書	指定しない。
参考書 参考資料	授業時に資料配付。 下山晴彦（2009）『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房 祖父江典人・細澤仁（2021）『文化・芸術の精神分析』遠見書房
履修上の注意	身近な人間関係やころのありようについて、自身の日々の体験に関心を向けながら授業に臨むこと。特に第三期で行う講師や他の受講生との意見交換（ディスカッション）には、積極的な参加が求められる。なお、授業に参加しているとは言えない態度が確認できた場合、その回の小レポートの得点を認めないことがある。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して1時間の事前学習及び3時間の復習をすること。毎回の授業資料で紹介した人間関係についての多様なトピックを、日々の生活における体験や、美術や文学、映像などの作品と結びつけて理解を深めること。様々なジャンルの作品に積極的に触れ、授業内容を踏まえて、「ころ」という観点から考察してみる。
関連科目	人間関係の科学
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業時に、前回の授業後に提出された小レポート内容について総合的にコメントを行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

教養教育科目＜学部共通＞ 2. 伝統文化科目

京都美術工芸大学シラバス [2026 年度版]

講義名	日本工芸美術史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 田中 正流	KYOB I 芸術学部

到達目標	日本工芸美術史の流れを、各分野・各時代ごとに概観し、それぞれの作品をより深く鑑賞する能力を身につける。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	この授業では、日本の美術史のうち工芸を対象とした日本工芸美術史を概観する。 工芸は日常的に使っている道具や生活雑貨のうち実用性を追求しながら芸術的な美しさを感じる技術や作品のことをいい、時代が変わってもその技術や美意識を守りながら現代まで進化を遂げている。 近年では、工芸を中心とした観光や体験などによるまちづくりが活発であり、地域の歴史や技術を次世代に継承することに貢献している。 工芸の分野は、金工や漆芸、陶磁、染織など多岐にわたり、分野ごとに各時代の代表的な作品を取り上げて画像による作品鑑賞を行い、各時代、各地域ごとにその素材を活かした様式的・技法的特徴を解説する。
授業計画 授業内容	第 1 回 概説 講義の進め方と講義計画 第 2 回 金工史（古代） 第 3 回 金工史（中世） 第 4 回 金工史（近世） 第 5 回 漆芸史（原始・古代） 第 6 回 漆芸史（中世） 第 7 回 漆芸史（近世） 第 8 回 陶磁史（原始・古代） 第 9 回 陶磁史（中世） 第 10 回 陶磁史（近世） 第 11 回 染織史（原始・古代） 第 12 回 染織史（中世） 第 13 回 染織史（近世） 第 14 回 民藝・農民美術 第 15 回 まとめ 近代以降、現代にいたる工芸史
成績評価	期末レポート（70%）、毎回提出する講義内容の要約レポート（30%）
参考書 参考資料	日高薫『日本美術のことば案内』小学館 2003年
予習・復習指導	次回の講義内容に関する用語や事項を調べるなど事前学習をしておくこと（30分程度）。 講義後にノートや配布プリントを見直し、講義中に紹介した参考文献を読むなど復習すること（30分程度）。 また講義中に紹介する博物館や美術館にて積極的に作品を鑑賞することを期待する。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	質問などに対するフィードバックを次回以降の授業内で行う。
教員の実務経験	行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の实務経験（約30年間）
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	京都学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 芸術学部

到達目標	「京都市行政」を通じて日本文化の中心である京都の伝統と文化を学ぶ。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいており、国内外から年間5千万人を超える観光客が訪れる。京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学ぶ。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深める。授業はオムニバス方式であり、京都市の多岐にわたる分野（総合企画局、産業観光局、都市計画局、文化市民局、保健福祉局、消防局、美術館等）の職員がゲストスピーカーとして登壇し、京都について総合的な理解を深める。京都学というタイトルから京都観光・歴史文化を学ぶことを連想する場合もあるが、本講座では京都の行政を中心とした学びである。
授業計画 授業内容	全15回（オムニバス方式） ※第1回～14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇 第1回 「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進／総合企画局 国際都市共創推進室 大学政策担当 第2回 留学生施策の推進／総合企画局 国際都市共創推進室 大学政策担当 第3回 時を超え光り輝く京都の景観づくり／都市計画局都市景観部景観政策課 第4回 みんなでつくる京都観光／産業観光局観光MICE推進室 第5回 博物館で学んでみませんか？／教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進担当 第6回 文化首都としての京都について（仮題）／文化庁 第7回 京都市の文化財保護について／文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第8回 わたしたちの伝統産業／産業観光局クリエイティブ産業振興室 第9回 京都駅周辺エリア活性化／総合企画局プロジェクト推進室プロジェクト推進第三担当 第10回 美術館とは何か／文化市民局文化芸術都市推進室 美術館 第11回 みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！／保健福祉局障害保健福祉推進室 第12回 家族を守る、地域を守る消防団／東山消防署 総務課 第13回 東山区のまちづくり 山紫水明の都 結び合う心 東山の未来／東山区役所地域力推進室 第14回 SDGs（持続可能な開発目標）とは？／総合企画局総合政策室SDGs推進担当 第15回 まとめ「京都美術工芸大学は京都でなにをするのか？」／副学長 新谷裕久 ※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。
成績評価	受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。6回以上欠席の場合は不可とする。公欠による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。
教科書	講義ごとに事前に資料を配布する（クラスルームに添付）。
参考書 参考資料	京都市ホームページ（www.city.kyoto.lg.jp） 文化庁ホームページ（https://www.bunka.go.jp/）
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。クラスルームで資料の配布、出席管理、小レポートの提出等を行うので、パソコンを持参すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習は、各テーマごとの「京都市ホームページ」等をチェックしておくこと。また、事前に講義資料を配布するので目を通し、質問等があれば整理しておくこと。 復習は、各テーマごとの講義ノートと配布された資料を整理し、理解しておくこと。

関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験	担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として京都の行政との連携事業に携わっており、京都学について包括的に講義することができる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR102L

講義名	京都学演習Ⅰ（デザイン）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	久保田 康夫	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	藤井 容子	KYOB I 芸術学部

到達目標	1200年の歴史をもつ京都の文化的価値や現代生活との関係を学ぶ。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本授業では、「京都」を対象とし、各専攻の専門性に基づいた歴史的知識や見識を深めることを目的とします。 京都は、日本の歴史・文化の中心地として発展し、多種多様な文化と密接に関わってきました。建築・美術・宗教・芸能・文学・民俗学・史学などの幅広い視点から京都を学び、自身の持つ専門技術と複合させて作品制作を行います。新たな「京都」の価値や魅力を発信していきます。 また、現地調査や文献調査、京都で活躍する様々な分野の専門家からのレクチャーを通じて、実証的なアプローチを身につけます。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 演習全般に関する説明（グループ編成の場合あり） 第2回 調査指導 文献調査、資料収集を行う。 途中回 演習プログラムの内容についての助言 プログラム1ー調査内容の作成 途中回 演習プログラムの内容についての助言 プログラム2ー調査および成果品の作成 第15回 演習プログラムの内容確認 成果品書の提出 評価 ※京都市内の調査対象に直接アプローチする。 ※スケジュールや内容に変更がある場合があります。
成績評価	履修態度および調査内容（50%）調査報告書のレベル（50%）により評価する。
教科書	特になし
参考書 参考資料	『京都府の歴史散歩上・下』京都府歴史遺産研究会編 山川出版 『アジア古都物語 京都千年の水脈』 NHK出版 『景観を歩く京都ガイド』 清水泰博 岩波アクティブ新書 『京都まち遺産探偵』 円満字洋介 淡交社 『京都学』1巻～7巻 京都学研究会
履修上の注意	・特にフィールドワーク・校外活動の際は、規律のある行動を取るようにつけてください。 ・授業外にも制作時間を確保してください。

予習・復習指導	準備学習を行う 自身の興味（視点）と京都における調査対象を定めるため、京都の案内書や歴史書、文化財資料などを学習する。 調査対象を選択し視点と関係する内容を詳細に抽出する。
関連科目	「日本美術史」「伝統住居概論」「文化財情報デザイン論Ⅰ」「文化財情報デザイン論Ⅱ」「博物館概論」「日本工芸美術史」「社寺建築概論」「文化財修理論」「伝統絵画技法」「京都学」「伝統建築論Ⅰ」「文献-絵画資料概論」「博物館資料論」
課題に対するフィードバックの方法	進捗報告、成果品の講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる学芸員の実務経験（30年間）を活かして、学生に伝授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	京都学演習Ⅰ（建築）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	京都におけるまち・建築・空間を直接往訪し、現在に受け継がれてきた日本の伝統・文化、美しい町並み・その成り立ち、京都に育まれてきた豊かなコミュニティ等について自ら体験とすることで、「京都らしさ」とは何か、「京都において建築を学ぶ意義」を問う機会とする。また、グループフィールドワークやその結果の発表機会を設けることで、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養成する。 この科目は、DP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	京都に関連がある特色のある建造物やまちなみ、景観、庭園などを選定し、その歴史（由来、建設経緯や設計者など）や特性（意匠的・構造的特徴など）を調べる。その結果を、Google My Maps を活用して各自が選定したコンテンツに対応するアイコン、画像（スケッチあるいは写真）、文章やデザイン、レイアウトなどに工夫を凝らし、建築に関連するテーマを定めてストーリー性のあるパンフレットを作成する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、課題説明 第2回 フィールドワーク① 第3回 フィールドワーク② 第4回 フィールドワーク③ 第5回 フィールドワーク④ 第6回 フィールドワーク⑤ 第7回 フィールドワーク⑥ 第8回 エスキスチェック① 第9回 追加調査① 第10回 追加調査② 第11回 エスキスチェック② 第12回 資料作成① 第13回 資料作成② 第14回 プレゼンテーション 第15回 成果物の評価フィールドワーク ※学習への理解、到達状況に加えて、コロナ等の感染状況に応じて、フィールドワークの実施可否など適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	提出シート、プレゼンテーション
教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書 参考資料	モダン建築の京都100、建築MAP京都、京都の近代化遺産、京都近代の記録など
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。 フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。 校外学習を行う際は、規律のある行動をとること。

予習・復習指導	フィールドワーク、シートの作成などに当たっては、グループの連携を計り、プレゼンテーションの完成度を高めること。
関連科目	京都学、京町家再生論
課題に対するフィードバックの方法	最終回に成果品、プレゼンテーションに対し講評を行う。
教員の実務経験	（公財）京都市景観・まちづくりセンター在籍時に地域のまちづくり活動支援を担当していた経験を活かし、京都のまちに関する幅広い知識と調査フィールドとのネットワークを提供している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR203S

講義名	伝統芸術入門（華道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高林 佑丞	K Y O B I 建築学部

到達目標	講義による歴史的理解と、実技による体験を通して、日本文化におけるいけばなの成り立ちを学び、いけばなとは何か、いけばな作品を制作・鑑賞することの意義を考察できるようになる。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	古来、自然を身近な存在としてきた日本人は、自然への畏敬の念から多様な植物文化を育んできた。いけばなは、仏教伝来とともに仏前供花として始まり、室町時代に理論が確立され、華道として発展した。本授業「伝統芸術入門（華道）」では、こうした歴史的背景を講義で学ぶとともに、実技を通して華道具の扱い方や植物の特性、花器との関係を理解する。制作と鑑賞を重ねることで、いけばなの基礎となる形や姿への理解を深め、日本文化に見られる自然観や美意識についても考察する。さらに、季節の花や自然の移ろいに対する感受性を養い、作品を通して自らの感性を表現する力を身につける。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義：日本の自然観・いけばなの様式・華道具 第2回 自由花：自然的表現Ⅰ ― 草木の性状を活かす 第3回 自由花：自然的表現Ⅱ ― 草木の性状を活かす 第4回 自由花：行事の花 ― 五節句 第5回 自由花：基本形態Ⅰ ― 挿し口をまとめる 第6回 自由花：基本形態Ⅱ ― 挿し口をまとめる 第7回 自由花：基本形態Ⅲ ― 挿し口を広げる 第8回 講義：生花概論 第9回 生花：一種生 ― 役枝の規矩性 第10回 生花：一種生 ― あしらい 第11回 生花：一種生 ― 陰陽 第12回 生花：二種生 ― 根の意義 第13回 生花：三種生 ― 生活様式の変化と生花 第14回 自由花：意匠的表現 第15回 自由花：まとめ
成績評価	受講態度（40%）、技術の習熟度および作品（40%）、作品レポート（20%）
教科書	はじめる いけばな 学校華道
参考書 参考資料	池坊いけばなテキスト「生花Ⅰ」・「生花Ⅱ」改訂版 いけばな池坊歴史読本
履修上の注意	演習で使用した花材は、大切に持ち帰ること。
予習・復習指導	予習として、次のテーマに関する資料を読み、授業内容の理解を深めること。 復習として、演習後に持ち帰った花を生け直し、授業内容を振り返ること。 1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	伝統芸術入門（書道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 川瀬 みゆき	KYOB I 建築学部

到達目標	書道の伝統に培われた古典作品を学び、「臨書」の実習を通して技芸向上を目指す。また漢字の時代背景を知ることによって書道の奥深さを知り、線一本の美しさや文字造形の魅力に気づく感性を高める。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	書道の稽古において最も重要とされる「臨書」による練習と添削の反復で、漢字の基本形および各書体の特徴を学びながら毛筆技巧の向上を目指す。講義の時間も設け、紀元前に生まれた漢字の歴史解説、後世に残る名筆の鑑賞も交え、時代とともに変貌を遂げた各書体の個性や魅力を様々な角度から掘り下げることで、「臨書」の実習がより興味深いものになる授業内容とする。また、「漢字仮名交じり書」という日本独自の“読める書”を取り上げ、自詠（自作の詩を詠む）から書の創作までを行い、オリジナルの書作品を仕上げる。さらに「漢字仮名交じり書」では“余白美”を学び、書の制作を通して芸術における空間構成力を養う。
授業計画 授業内容	第1回 「古代文字から楷書成立までのストーリー」解説（漢字5書体の変遷から書道の歴史を紐解く）／時代別の古典作品鑑賞／臨書的重要性と練習法の解説／道具の解説 第2回 【臨書①：楷書】 唐の四大家の解説および「九成宮醴泉銘」の実習（引き締まった線と字姿から端正美を学ぶ） 第3回 【臨書②：楷書】 「九成宮醴泉銘」の実習（①と課題を変えて） 第4回 【臨書③：楷書】 「顔氏家廟碑」の実習（力感ある重厚な楷書表現を学ぶ） 第5回 【臨書④：楷書】 「顔氏家廟碑」の実習（③と課題を変えて） 第6回 王羲之の解説／行書・草書の古典作品鑑賞と基本練習（王羲之の作品を例にして） 第7回 【臨書⑤：行書】 「蘭亭序」の実習（行書のしなやかな流れと緊張感のある線を同時に学ぶ） 第8回 【臨書⑥：行書】 「蘭亭序」の実習（⑤と課題を変えて） 第9回 【臨書⑦：行書】 「蘭亭序」の実習（⑥と課題を変えて） 第10回 【臨書⑧：行書・草書】 「風信帖」の実習（“三筆”より空海を取り上げ日本の書の美を学ぶ） 第11回 【臨書⑨：行書・草書】 「風信帖」の実習（⑧と課題を変えて） 第12回 【漢字仮名交じり書①】 解説と作品鑑賞／試作（日本独自の“読める書”を取り上げ、新しい書の表現を学ぶ） 第13回 【漢字仮名交じり書②】 創作（独創的な構成に挑戦する） 第14回 【漢字仮名交じり書③】 自詠による書の表現について（詩文や言葉を考える） 第15回 【漢字仮名交じり書④】 創作（③で考えた詩文や言葉を書き創作し、余白美を意識した紙面構成力を養う）
成績評価	授業態度（授業への参加度含む）50%、提出作品の採点50%

参考書 参考資料	図説 中国書道史（芸術新聞社）
履修上の注意	・本科目を履修できる者は、前年度の所定期間内に履修申請を行った者を対象とする。 ・書道用具の準備と片付けをすみやかに行うこと。特に墨の処理には注意を払う。
予習・復習指導	・指定の教科書【書I】 8～68ページ「漢字の書」の章、132～155ページ「資料」の章を事前に読み、古典作品をじっくりと鑑賞して字形や線質を理解すること。 ・指定の教科書【書I】 98～111ページ 「漢字仮名交じり書」の章を事前に読み、できるだけ多くの作品を事前に鑑賞しておくこと。 ・授業計画に記載の作品名とその作者について事前に調べること。 ・授業で配布する資料を読み理解すること。 ・1コマに対し、1時間の事前事後学習を行うこと。
課題に対するフィードバックの方法	その都度添削。但し提出作品は採点のみ。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	伝統芸術入門（茶道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大室 瑞恵	K Y O B I 建築学部
非常勤講師	手塚 博子	K Y O B I 建築学部

到達目標	繰り返し稽古をすることによって、所作の道具の扱いに慣れる。
授業概要	日本の総合文化を含む茶道(茶の湯)とは一期一会を心し、お茶を通してもてなしもてなされる文化のことである。実践を通して、それぞれの所作の意味、道具の位置づけ、その扱い方を学ぶ。掛け軸、花、抹茶、お菓子等を通して、日本の四季やしきたりに触れる。 授業形態として実習を重きに置きます。 実習と致しましては、基本となる薄茶のたて方をしっかり身につけることが、お茶の授業として初段階です。一日でも早くけいこを積むことが求められる今日ですから生徒が集中して基本をみっちり身につけて頂くように進めていけるようにしたいと思っています。楽しくお茶の授業をしていただきますように指導していきたいと思っています。 授業としては席入、茶室への入り方、床の拝見の仕方、掛物を拝見して花入、花の拝見をしてお菓子の取り方、お菓子の頂き方、薄茶の作法、薄茶の頂き方をしていきます。 本科目はDP0-1、DP0-2に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 「表千家の一年」 茶道を学ぶに当たって概要を説明、自己紹介 第2回 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等) 第3回 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等) 第4回 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等) 第5回 席入り 床の拝見の仕方 第6回 席入り 床の拝見の仕方 第7回 席入り 床の拝見の仕方 第8回 茶室の畳の説明、席入 床の拝見 第9回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方、水屋の仕事 第10回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方、水屋の仕事 第11回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方、水屋の仕事 第12回 道具(薄茶器 茶杓)の拝見 第13回 道具の拝見、点前にむけて割稽古(袱紗の扱い) 第14回 点前にむけて点前を始める 第15回 点前にむけて点前を始める
成績評価	授業内容理解度 30% 授業態度 70%
教科書	決定版 「初めての茶の湯」 主婦の友社
参考書 参考資料	菅田健三著 「茶席の花十二ヶ月」 講談社
履修上の注意	装飾品(時計 指輪 ブレスレット、長いネックレス)不着用 白靴下 長髪はまとめる 本科目を履修できる者は、前年度の所定期間内に履修申請を行った者を対象とする。
予習・復習指導	初めての茶の湯の本を読んでおいてください。 1コマに対し1時間の予習復習をすること。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	日本文化史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 八田 誠治	KYOB I 建築学部
非常勤講師	岡田 秀之	KYOB I 建築学部

到達目標	細かい知識の習得（点）ではなく、歴史の流れを大きく掴む（線）ことにより、それを大きく広げて（面）世界に通じる文化にしていく。 ・「日本文化」の源流は「京都文化」であることの認識 ・「ほんもの」の京都文化に触れて、「京都」で学んだ意義を再確認する ・これからの「日本」を考え、21世紀を見据えた地球規模の知識を磨く この科目はDP0-1, DP0-2に該当する。
授業概要	日本の歴史を踏まえて、「日本文化」の源流が「京都」にあることを学ぶ。 伝統文化、伝統芸能を支えているのが伝統工芸であることを認識。 京都の「大学」で学ぶことにより、「ほんもの」の真髄にふれることを認識。 映像から知識の再確認と整理をする。
授業計画 授業内容	第1回（八田担当） イントロダクションと本講義の構成と、達成目標の提示。 第2回（岡田担当） 災害からの復興と絵画。 第3回（岡田担当） 伊藤若冲と日本文化。 第4回（八田担当） 新暦と旧暦の違い。十干十二支との関連について。 第5回（八田担当） 日本の伝統工芸の位置づけ。 第6回（八田担当） 明治以降の京都の工業会と伝統工芸の関係。 第7回（八田担当） 「呉服」と「きもの」の違いからみる、日本文化。 第8回（八田担当） 京友禅と日本文化のかかわり。 第9回（八田担当） 西陣織のルーツから日本の文化史のかかわり。 第10回（岡田担当） 動物と日本文化。 第11回（岡田担当） 画家の評価と日本文化。 第12回（岡田担当） 京都の画家と地方豪商との交流。 第13回（八田担当） お寺と神社の参拝の基礎と、神社における御祭神。 第14回（八田担当） お寺におけるご本尊と、仏教の宗派。 第15回（八田担当） 総括。日本の文化を世界に知らしめるには。
成績評価	最終評価（40％） 小レポート（60％）
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	村上 隆 「文化財の未来図」（岩波新書） 京都商工会議所 「京都・観光文化検定試験」（淡交社） 他、授業中に適宜紹介する。
予習・復習指導	予習：事前学習は特に求めない。 復習：講義の中で特に興味を持ったテーマや言葉を深く追求し、まとめる。 （ネット検索だけでなく、京都市内であれば現地に出向いたり、資料館や図書館で実資料の見分に努める。）
関連科目	開講されているすべての科目
課題に対するフィードバックの方法	フィードバック 授業内で、小レポートに対して随時コメントし、テーマごとに適時ディスカッションを行う。
教員の実務経験	（内容） ・京都の伝統工芸の歴史と実際の作業現場を熟知し、実践的指導をしている。（八田） ・美術館の学芸員として、絵画の展示におけるキュレーターの働きをしている。（岡田）
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	京都学演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	4		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	K Y O B I 建築学部

到達目標	京都府に存する史跡、名勝、歴史的建造物、伝統的建造物群保存地区、美術品などの文化財に対する理解を深めるとともに、自己の観察力や洞察力、表現力、協調性、自発性を高めることを目標とする。
授業概要	京都には山や水などの豊かな自然に恵まれ、平安京創建以来長い歴史の中で、様々な人々の生業が営まれてきた。 社寺建築、民家などの建造物や庭園などが造られ、路地や水路などのインフラを含む歴史的町並みが形成されると、その中で茶道や華道、香道や祭り、芸能などの文化も充実し、また、これらは時代の趨勢の中で変遷し、現在みる歴史文化都市として発展してきたのである。 当演習では、このように重層的な構造を持つ京都をフィールドワークにより体感、取材し、ポスターを作成することにより歴史文化を内外に発信することを目論む。
授業計画 授業内容	フィールドワークは2週間おきに土曜日に実施する。 最終回は作品（ポスター）の講評会を行う。 第1回 5/9(土)13時～17時50分 岡崎 第2回 5/23(土)13時～17時50分 南禅寺～哲学の道 第3回 6/6(土)13時～17時50分 京都大学 第4回 6/20(土)13時～17時50分 京都御苑 第5回 7/1～24 祇園祭 第6回 7/27(月)作品講評会
成績評価	受講態度、提出物、プレゼンテーションから総合評価を行う。
教科書	特になし
参考書 参考資料	特になし
履修上の注意	見学、調査を行う際は、感染症の感染拡大防止に努め、規律ある態度をとること。
予習・復習指導	選定物件に対し、十分な知識を得たうえで、構想を練り練り成果物提出へつなげること。
関連科目	京都学演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	最終回に講評を行う。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理 古民家、町家、城郭、茶室、数寄屋、史跡遺構など数多くの文化財修復に携わった経験を活かし、各住居系の建物やまちなみ、都市・村落について文化的・歴史的・学術的価値や伝統技法、変遷などの解説および現地調査を踏まえて伝統建築の構法・技法を体得する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

教養教育科目＜学部共通＞ 3. コミュニケーション科目

京都美術工芸大学シラバス〔2026 年度版〕

科目名称の変更

2024年度以前

- 英語Ⅰ
- 美術工芸英語
- 英語Ⅱ
- 日本語表現法

2025年度以降

- 英語演習Ⅰ
- 英語演習Ⅱ
- 英語演習Ⅲ
- コミュニケーション論

講義名	コミュニケーション論		
講義開講時期	後期	講義区分	講・演
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉富 千恵	KYOB I 芸術学部

到達目標	①対人コミュニケーションの仕組みを理解し、②対人コミュニケーション力を高め、③他者との円滑な人間関係を築く力を養うことを目標とする。 本科目は、DP0-1、DP0-2に該当する
授業概要	本授業では、対人コミュニケーションに的をしぼり、社会心理学や言語学、文化人類学などの研究分野で蓄積された豊富な研究結果を理解することを通して、対人コミュニケーション能力を高めることに主眼を置く。主に対人場面でのコミュニケーションに特化したテーマを取り上げながら、コミュニケーション理論とスキルの両方の理解と習得を目指す。授業前半の回では、コミュニケーションの仕組みや理論を学び、授業後半の回では実践的なコミュニケーションスキルの習得に重きをおく。スキル習得にあたっては、受講生同士のペアワークや個人発表の機会を多く取り入れる。授業内で設定された個人発表の機会では、積極的な参加を求める。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション、各回の内容説明、コミュニケーション研究の概要 第2回 対人コミュニケーションの仕組みについて学ぶ 第3回 伝達することの難しさについて、ペアワークを通して学ぶ 第4回 非言語コミュニケーションの研究分野を俯瞰する 第5回 様々な非言語コミュニケーション研究にて得られた知見について学ぶ 第6回 言語コミュニケーションについて学ぶ 第7回 異文化間コミュニケーションについて学ぶ、個人の異文化体験発表を聴く 第8回 日本人のコミュニケーション特性について学ぶ 第9回 コミュニケーションスキル（基礎） ペアワークで学ぶ 第10回 コミュニケーションスキル（発展） ペアワークで学ぶ 第11回 恋愛コミュニケーション研究にて得られた知見について学ぶ 第12回 伝える力とは？具体的に考えてみる 第13回 アサーティブコミュニケーションの理論について学ぶ 第14回 アサーティブコミュニケーションスキルの実践 第15回 アンガーマネジメントをワークを通して学ぶ
成績評価	期末テスト70%（ペーパーテスト形式）、平常点30%で評価する。平常点は、毎授業につき2点とし、授業時間内に着席し、授業を聴き、教員の指示に従って心理テストやワークに取り組んでいる学生に対して与える。この旨、公平に判断するために毎回の授業にて、授業内容の振り返り用紙の提出を求める。また、授業中における以下の行為に関しては、平常点を認めない。①初めから教室に存在せず出席の送信のみを行う。②他の講義のレポート作成、製図などの課題作成といった本授業に関係のないことをしている。③インターネットの閲覧。④正当な理由なく授業開始15分以内に教室を退出する。
教科書	特に指定しない
参考書 参考資料	「コミュニケーション学がわかるブックガイド」 東京経済大学コミュニケーション学部（監修）NTT出版
履修上の注意	みなさんの意見をランダムに指名して、伺うことがあります。また、授業内で行う自己分析やペアワークには、必ず取り組んでもらいます。授業内容と成績評価項目を熟読し、納得の上、履修して下さい。
予習・復習指導	事前に配布するレジュメ、心理テスト、ワーク用紙など、事前に連絡のあった授業の前には、指示に従い事前学習を行って下さい。その他、予習や復習としてコミュニケーションに関係する本を読むなど、自主的に学習して下さい。 1コマについて2時間の予習復習を望みます。
関連科目	

課題に対するフィードバックの方法	授業の振り返り用紙から得た受講生の質問や感想は、次の授業の冒頭にて全体にフィードバックします。また、個人的に問われた質問についても、必要に応じて全体に伝えます。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	COM-C0101S

講義名	英語演習Ⅰ（Aクラス）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。 前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得できるようなリスニング力と表現力をつけることを到達目標とする。この科目はDP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。留学生との会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を各人がそれぞれ獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多い場合は会話の成立が難しくなるが、教室内でできるだけ多く英語で話し、常に考えていることを英語にしてみるようにする。
授業計画 授業内容	第1週 語彙を増やす。基本文法を使って話す。自己紹介、場所の紹介を中心に。 第2週 語彙を増やす。基本文法を使って話した相手に返事をする。趣味と特技を中心に。 第3週 語彙を増やす。基本文法を使って会話を続ける練習をする。1日のスケジュールを中心に。 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。英語の動画を視聴し、どの程度理解できるか試してみる。 第5週 語彙を増やす。基本文法を使って留学生と話せるように、話題とそれに伴う語彙の準備をする。 第6週 この週から留学生と合流する。英語によるコミュニケーションに慣れる。自己紹介をする。相手の自己紹介を聞き質問をする。 第7週 大学での活動について話す。相手の活動について理解し、質問をし、会話を続ける。 第8週 週末の過ごし方について話す。相手の過ごし方を理解し、質問をし、会話を続ける。 第9週 これからの予定や計画について話す。相手の予定や計画を理解し、質問をし、会話を続ける。 第10週 日本の文化や伝統を紹介する。異文化理解を深める。 第11週 身の回りの問題について紹介する。相手の問題を聞き、話し合う。 第12週 日本国内のイベントやできごとについて紹介する。相手の国の場合をたずねて話し合う。 第13週 国際的なイベントやできごとについて話し合い、意見を交換する。 第14週 自分が関心を持つ日本国内の問題を紹介し、相手の国の場合をたずねて話し合う。 第15週 今までの思い出や特に心に残ったことを話し合う。
成績評価	会話形式の授業なので、単に出席するだけではなく積極的に会話に参加することを評価します。最終的に全クラス共通で、会話に基づいたリスニングテストを実施します。 授業積極参加 30% 提出物 20% 定期試験50%
教科書	使用しない
参考書 参考資料	今まで使ってきた単語、熟語集を使用する
履修上の注意	会話のテーマに関する語彙や表現を前もって心づもりしておく。会話中心の授業なので、積極的に参加する。
予習・復習指導	1コマあたりの事前事後学習の時間数1時間とし、自分が話したい内容に関する語彙を毎週前もって調べておく。また、授業後はその日に使った表現を書きとめ、再度使えるように練習する。
関連科目	英語演習II、英語演習III、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後必ず返却します。教室以外ではGoogle Classroomを使用し、各人にフィードバックします。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅰ（Bクラス）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。 前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得できるようなリスニング力と表現力をつけることを到達目標とする。この科目はDP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。留学生との会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を各人がそれぞれ獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多い場合は会話の成立が難しくなるが、教室内でできるだけ多く英語で話し、常に考えていることを英語にしてみるようにする。
授業計画 授業内容	第1週 語彙を増やす。基本文法を使って話す。自己紹介、場所の紹介を中心に。 第2週 語彙を増やす。基本文法を使って話した相手に返事をする。趣味と特技を中心に。 第3週 語彙を増やす。基本文法を使って会話を続ける練習をする。1日のスケジュールを中心に。 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。英語の動画を視聴し、どの程度理解できるか試してみる。 第5週 語彙を増やす。基本文法を使って留学生と話せるように、話題とそれに伴う語彙の準備をする。 第6週 この週から留学生と合流する。英語によるコミュニケーションに慣れる。自己紹介をする。相手の自己紹介を聞き質問をする。 第7週 大学での活動について話す。相手の活動について理解し、質問をし、会話を続ける。 第8週 週末の過ごし方について話す。相手の過ごし方を理解し、質問をし、会話を続ける。 第9週 これからの予定や計画について話す。相手の予定や計画を理解し、質問をし、会話を続ける。 第10週 日本の文化や伝統を紹介する。異文化理解を深める。 第11週 身の回りの問題について紹介する。相手の問題を聞き、話し合う。 第12週 日本国内のイベントやできごとについて紹介する。相手の国の場合をたずねて話し合う。 第13週 国際的なイベントやできごとについて話し合い、意見を交換する。 第14週 自分が関心を持つ日本国内の問題を紹介し、相手の国の場合をたずねて話し合う。 第15週 今までの思い出や特に心に残ったことを話し合う。
成績評価	会話形式の授業なので、単に出席するだけではなく積極的に会話に参加することを評価します。最終的に全クラス共通で、会話に基づいたリスニングテストを実施します。 授業積極参加 30% 提出物 20% 定期試験50%
教科書	使用しない
参考書 参考資料	今まで使ってきた単語、熟語集を使用する
履修上の注意	会話のテーマに関する語彙や表現を前もって心づもりしておく。会話中心の授業なので、積極的に参加する。
予習・復習指導	1コマあたりの事前事後学習の時間数1時間とし、自分が話したい内容に関する語彙を毎週前もって調べておく。また、授業後はその日に使った表現を書きとめ、再度使えるように練習する。
関連科目	英語演習II、英語演習III、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後必ず返却します。教室以外ではGoogle Classroomを使用し、各人にフィードバックします。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英語演習 I (Cクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 玉井 美香	KYOB I 建築学部

到達目標	英語の基本的な文法や語彙を確認しながら、英語の基礎力アップを目指す。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本コースは、英語の基本的な文法や語彙を確認・復習しながら、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4技能の演習を交えて英語の基礎力向上を目指す。
授業計画 授業内容	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Are you an exchange student here? 自己紹介 (be動詞・疑問詞) 第3回 Unit 2: Do you like anime? 友人の紹介 (1) (一般動詞 [現在形]) 第4回 Unit 3: How's it going? 友人の紹介 (2) (進行形) 第5回 Unit 4: Can I ask you a question? ショッピング (助動詞) 第6回 Unit 5: What did you do there? 週末の過ごし方 (一般動詞 [過去形]) 第7回 Unit 6: May I talk to you for a second? 家族の紹介 (未来表現1/代名詞) 第8回 Unit 7: What are you going to do next week? テスト (未来表現2) 第9回 Unit 8: What do you call it in Japanese? 好きな料理 (受動態) 第10回 Unit 9: Do you need any help? 家への道順 (to不定詞) 第11回 Unit 10: Why don't you try singing it? カラオケ (動名詞) 第12回 Unit 11: It's cold today. 日本の暖房器具 (比較) 第13回 Unit 12: Have you seen any movies recently? 余暇の過ごし方 (現在完了形) 第14回 Unit 13: Final exam week is so stressful! 試験勉強 (接続詞) 第15回 Unit 14: Do you have any plans? 春休みの予定 (前置詞)
成績評価	定期試験 : 50% 積極的授業参加 : 30% 授業中の小テスト : 20%
教科書	大学生のための英語基礎カトレーニング College English Reboot: Basic Skills for Communication (成美堂) ISBN : 9784791973361
参考書 参考資料	授業内で適宜提示する。
予習・復習指導	前回の授業で学習した内容は、必ず自宅で復習すること。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、実施直後に授業内で解答解説を行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅰ（Dクラス）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。 前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得できるようリスニング力と表現力をつけることを到達目標とする。この科目はDP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。留学生との会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を各人がそれぞれ獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多い場合は会話の成立が難しくなるが、教室内でできるだけ多く英語で話し、常に考えていることを英語にしてみるようにする。
授業計画 授業内容	第1週 語彙を増やす。基本文法を使って話す。自己紹介、場所の紹介を中心に。 第2週 語彙を増やす。基本文法を使って話した相手に返事をする。趣味と特技を中心に。 第3週 語彙を増やす。基本文法を使って会話を続ける練習をする。1日のスケジュールを中心に。 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。英語の動画を視聴し、どの程度理解できるか試してみる。 第5週 語彙を増やす。基本文法を使って留学生と話せるように、話題とそれに伴う語彙の準備をする。 第6週 この週から留学生と合流する。英語によるコミュニケーションに慣れる。自己紹介をする。相手の自己紹介を聞き質問をする。 第7週 大学での活動について話す。相手の活動について理解し、質問をし、会話を続ける。 第8週 週末の過ごし方について話す。相手の過ごし方を理解し、質問をし、会話を続ける。 第9週 これからの予定や計画について話す。相手の予定や計画を理解し、質問をし、会話を続ける。 第10週 日本の文化や伝統を紹介する。異文化理解を深める。 第11週 身の回りの問題について紹介する。相手の問題を聞き、話し合う。 第12週 日本国内のイベントやできごとについて紹介する。相手の国の場合をたずねて話し合う。 第13週 国際的なイベントやできごとについて話し合い、意見を交換する。 第14週 自分が関心を持つ日本国内の問題を紹介し、相手の国の場合をたずねて話し合う。 第15週 今までの思い出や特に心に残ったことを話し合う。
成績評価	会話形式の授業なので、単に出席するだけではなく積極的に会話に参加することを評価します。最終的に全クラス共通で、会話に基づいたリスニングテストを実施します。 授業積極参加 30% 提出物 20% 定期試験50%
教科書	使用しない
参考書 参考資料	今まで使ってきた単語、熟語集を使用する
履修上の注意	会話のテーマに関する語彙や表現を前もって心づもりしておく。会話中心の授業なので、積極的に参加する。
予習・復習指導	1コマあたりの事前事後学習の時間数1時間とし、自分が話したい内容に関する語彙を毎週前もって調べておく。また、授業後はその日に使った表現を書きとめ、再度使えるように練習する。
関連科目	英語演習II、英語演習III、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後必ず返却します。教室以外ではGoogle Classroomを使用し、各人にフィードバックします。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅰ（Eクラス）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。 前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得できるようリスニング力と表現力をつけることを到達目標とする。この科目はDP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。留学生との会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を各人がそれぞれ獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多い場合は会話の成立が難しくなるが、教室内でできるだけ多く英語で話し、常に考えていることを英語にしてみるようにする。
授業計画 授業内容	第1週 語彙を増やす。基本文法を使って話す。自己紹介、場所の紹介を中心に。 第2週 語彙を増やす。基本文法を使って話した相手に返事をする。趣味と特技を中心に。 第3週 語彙を増やす。基本文法を使って会話を続ける練習をする。1日のスケジュールを中心に。 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。英語の動画を視聴し、どの程度理解できるか試してみる。 第5週 語彙を増やす。基本文法を使って留学生と話せるように、話題とそれに伴う語彙の準備をする。 第6週 この週から留学生と合流する。英語によるコミュニケーションに慣れる。自己紹介をする。相手の自己紹介を聞き質問をする。 第7週 大学での活動について話す。相手の活動について理解し、質問をし、会話を続ける。 第8週 週末の過ごし方について話す。相手の過ごし方を理解し、質問をし、会話を続ける。 第9週 これからの予定や計画について話す。相手の予定や計画を理解し、質問をし、会話を続ける。 第10週 日本の文化や伝統を紹介する。異文化理解を深める。 第11週 身の回りの問題について紹介する。相手の問題を聞き、話し合う。 第12週 日本国内のイベントやできごとについて紹介する。相手の国の場合をたずねて話し合う。 第13週 国際的なイベントやできごとについて話し合い、意見を交換する。 第14週 自分が関心を持つ日本国内の問題を紹介し、相手の国の場合をたずねて話し合う。 第15週 今までの思い出や特に心に残ったことを話し合う。
成績評価	会話形式の授業なので、単に出席するだけではなく積極的に会話に参加することを評価します。最終的に全クラス共通で、会話に基づいたリスニングテストを実施します。 授業積極参加 30% 提出物 20% 定期試験50%
教科書	使用しない
参考書 参考資料	今まで使ってきた単語、熟語集を使用する
履修上の注意	会話のテーマに関する語彙や表現を前もって心づもりしておく。会話中心の授業なので、積極的に参加する。
予習・復習指導	1コマあたりの事前事後学習の時間数1時間とし、自分が話したい内容に関する語彙を毎週前もって調べておく。また、授業後はその日に使った表現を書きとめ、再度使えるように練習する。
関連科目	英語演習II、英語演習III、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後必ず返却します。教室以外ではGoogle Classroomを使用し、各人にフィードバックします。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅰ（Fクラス）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。 前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得できるようリスニング力と表現力をつけることを到達目標とする。この科目はDP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。留学生との会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を各人がそれぞれ獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多い場合は会話の成立が難しくなるが、教室内でできるだけ多く英語で話し、常に考えていることを英語にしてみるようにする。
授業計画 授業内容	第1週 語彙を増やす。基本文法を使って話す。自己紹介、場所の紹介を中心に。 第2週 語彙を増やす。基本文法を使って話した相手に返事をする。趣味と特技を中心に。 第3週 語彙を増やす。基本文法を使って会話を続ける練習をする。1日のスケジュールを中心に。 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。英語の動画を視聴し、どの程度理解できるか試してみる。 第5週 語彙を増やす。基本文法を使って留学生と話せるように、話題とそれに伴う語彙の準備をする。 第6週 この週から留学生と合流する。英語によるコミュニケーションに慣れる。自己紹介をする。相手の自己紹介を聞き質問をする。 第7週 大学での活動について話す。相手の活動について理解し、質問をし、会話を続ける。 第8週 週末の過ごし方について話す。相手の過ごし方を理解し、質問をし、会話を続ける。 第9週 これからの予定や計画について話す。相手の予定や計画を理解し、質問をし、会話を続ける。 第10週 日本の文化や伝統を紹介する。異文化理解を深める。 第11週 身の回りの問題について紹介する。相手の問題を聞き、話し合う。 第12週 日本国内のイベントやできごとについて紹介する。相手の国の場合をたずねて話し合う。 第13週 国際的なイベントやできごとについて話し合い、意見を交換する。 第14週 自分が関心を持つ日本国内の問題を紹介し、相手の国の場合をたずねて話し合う。 第15週 今までの思い出や特に心に残ったことを話し合う。
成績評価	会話形式の授業なので、単に出席するだけではなく積極的に会話に参加することを評価します。最終的に全クラス共通で、会話に基づいたリスニングテストを実施します。 授業積極参加 30% 提出物 20% 定期試験50%
教科書	使用しない
参考書 参考資料	今まで使ってきた単語、熟語集を使用する
履修上の注意	会話のテーマに関する語彙や表現を前もって心づもりしておく。会話中心の授業なので、積極的に参加する。
予習・復習指導	1コマあたりの事前事後学習の時間数1時間とし、自分が話したい内容に関する語彙を毎週前もって調べておく。また、授業後はその日に使った表現を書きとめ、再度使えるように練習する。
関連科目	英語演習II、英語演習III、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後必ず返却します。教室以外ではGoogle Classroomを使用し、各人にフィードバックします。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英語演習 I (Gクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 玉井 美香	KYOB I 建築学部

到達目標	英語の基本的な文法や語彙を確認しながら、英語の基礎力アップを目指す。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本コースは、英語の基本的な文法や語彙を確認・復習しながら、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4技能の演習を交えて英語の基礎力向上を目指す。
授業計画 授業内容	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Are you an exchange student here? 自己紹介 (be動詞・疑問詞) 第3回 Unit 2: Do you like anime? 友人の紹介 (1) (一般動詞 [現在形]) 第4回 Unit 3: How's it going? 友人の紹介 (2) (進行形) 第5回 Unit 4: Can I ask you a question? ショッピング (助動詞) 第6回 Unit 5: What did you do there? 週末の過ごし方 (一般動詞 [過去形]) 第7回 Unit 6: May I talk to you for a second? 家族の紹介 (未来表現1/代名詞) 第8回 Unit 7: What are you going to do next week? テスト (未来表現2) 第9回 Unit 8: What do you call it in Japanese? 好きな料理 (受動態) 第10回 Unit 9: Do you need any help? 家への道順 (to不定詞) 第11回 Unit 10: Why don't you try singing it? カラオケ (動名詞) 第12回 Unit 11: It's cold today. 日本の暖房器具 (比較) 第13回 Unit 12: Have you seen any movies recently? 余暇の過ごし方 (現在完了形) 第14回 Unit 13: Final exam week is so stressful! 試験勉強 (接続詞) 第15回 Unit 14: Do you have any plans? 春休みの予定 (前置詞)
成績評価	定期試験 : 50% 積極的授業参加 : 30% 授業中の小テスト : 20%
教科書	大学生のための英語基礎カトレーニング College English Reboot: Basic Skills for Communication (成美堂) ISBN : 9784791973361
参考書 参考資料	授業内で適宜提示する。
予習・復習指導	前回の授業で学習した内容は、必ず自宅で復習すること。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、実施直後に授業内で解答解説を行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅱ（Eクラス）リメディアルやりなおし英語		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	中学生レベルの基礎英語が不確かな学生のみを対象とし、中学から高校の学習内容を補うクラスとする。中学生レベルの基礎文法から復習し、高校卒業レベルの英語力を身につける。あるいは高校卒業レベルの英語力に近づくことを到達目標とする。この科目はDP0-2、DP0-3に該当する
授業概要	初級文法を学びなおしながら、できるだけ多くの例文を口にして、それらを筆記する。目で読み、それを耳で聞き、同じ文章を文字にして書き取ることで、ひとつひとつの学べき項目を確実に身につけられるような授業を繰り返す。
授業計画 授業内容	第1週 be 動詞を中心に 第2週 本動詞を中心に 第3週 未来形を中心に 第4週 助動詞を中心に 第5週 Review 1: be動詞、本動詞、未来形を復習する 第6週 前置詞を中心に 第7週 接続詞を中心に 第8週 完了形を中心に 第9週 受動態を中心に 第10週 Review 2: 第1週から第9週までの文法事項を復習する 第11週 完了形 第12週 比較 第13週 関係詞 第14週 仮定法 第15週 Review 3 今学期学んだことの総復習 ただし、受講者が十分に理解できていないと判断された場合は2週にわたって同じ項目を学ぶこともある。
成績評価	小テスト 30% 提出物 20% 定期試験50%
教科書	使用しない
参考書 参考資料	中高で使ってきた単語、熟語集を各人使用する
履修上の注意	今まで学び損ねた項目の学びなおしなので、今度こそと思って真摯に取り組んでほしい。
予習・復習指導	1コマあたりの事前事後学習の時間数1時間とし、毎回の文法事項を復習する。わからない箇所があれば印をつけて、次の授業中あるいは授業後に質問できるようにする。
関連科目	英語演習I、英語演習III、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後必ず返却します。それ以外の場合はGoogle Classroomを使用し、各人にフィードバックします。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅱ（Aクラス）TOEIC支援		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 玉井 美香	KYOB I 建築学部

到達目標	TOEIC500点の取得。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本コースはTOEIC教材を題材として生きた英語を学びながら、リスニング、リーディング、文法の強化を図り、TOEIC500点の取得を目指す。
授業計画 授業内容	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Dining Out 動詞の時制1：現在形、過去形 第3回 Unit 2: General Business 動詞の時制2：現在進行形、現在完了形 第4回 Unit 3: Manufacturing 動詞の時制3：過去進行形、過去完了形 第5回 Unit 4: Finance and Budgeting 名詞とその派生語 第6回 Unit 5: Communication 代名詞（人称代名詞・所有代名詞・再帰代名詞） 第7回 Unit 6: Health 形容詞 第8回 Unit 7: Purchasing 副詞 第9回 Unit 8: Personnel 動名詞・不定詞・分詞-1 第10回 Unit 9: Corporate Development 動名詞・不定詞・分詞-2 第11回 Unit 10: Entertainment 動名詞・不定詞・分詞-3 第12回 Unit 11: Technical Areas 前置詞 第13回 Unit 12: Offices 接続詞 第14回 Unit 13: Travel 前置詞と接続詞 第15回 Unit 14: Housing / Corporate Property 比較
成績評価	定期試験：50% 積極的授業参加：30% TOEIC受験：20%
教科書	TOEIC® L&R TESTへの総合アプローチ -Pre-Intermediate-（成美堂）ISBN：9784791973132
参考書 参考資料	TOEIC®（IIBC）< https://www.iibc-global.org/toeic.html >
予習・復習指導	前回の授業で学習した内容は、必ず自宅で復習すること。
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施した際は、直後に授業内で解答解説を行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅱ（Bクラス）TOEIC支援		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 玉井 美香	KYOB I 建築学部

到達目標	TOEIC500点の取得。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本コースはTOEIC教材を題材として生きた英語を学びながら、リスニング、リーディング、文法の強化を図り、TOEIC500点の取得を目指す。
授業計画 授業内容	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Dining Out 動詞の時制1：現在形、過去形 第3回 Unit 2: General Business 動詞の時制2：現在進行形、現在完了形 第4回 Unit 3: Manufacturing 動詞の時制3：過去進行形、過去完了形 第5回 Unit 4: Finance and Budgeting 名詞とその派生語 第6回 Unit 5: Communication 代名詞（人称代名詞・所有代名詞・再帰代名詞） 第7回 Unit 6: Health 形容詞 第8回 Unit 7: Purchasing 副詞 第9回 Unit 8: Personnel 動名詞・不定詞・分詞-1 第10回 Unit 9: Corporate Development 動名詞・不定詞・分詞-2 第11回 Unit 10: Entertainment 動名詞・不定詞・分詞-3 第12回 Unit 11: Technical Areas 前置詞 第13回 Unit 12: Offices 接続詞 第14回 Unit 13: Travel 前置詞と接続詞 第15回 Unit 14: Housing / Corporate Property 比較
成績評価	定期試験：50% 積極的授業参加：30% TOEIC受験：20%
教科書	TOEIC® L&R TESTへの総合アプローチ -Pre-Intermediate-（成美堂）ISBN：9784791973132
参考書 参考資料	TOEIC®（IIBC）< https://www.iibc-global.org/toeic.html >
予習・復習指導	前回の授業で学習した内容は、必ず自宅で復習すること。
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施した際は、直後に授業内で解答解説を行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅱ（Cクラス）建築英語		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	建築関連の文章を読み、聞き取ることで、自分の関心ある分野の知識を確認しながら英語の運用力を身につける。一般的な建築関連用語や表現に慣れること、実社会でのコミュニケーション手段として使えとされる英語力であるTOEIC500点以上を獲得することを到達目標とする。この科目はDP0-1、DP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	一般でも使用する建築関連の用語や表現に慣れながら、さまざまな建築様式や著名な建築家、建築物についての文章を読む。
授業計画 授業内容	第1週 Project Team, 建築関連のさまざまな職業を英語で紹介する 建築家・建築物文献リーディング 第2週 Project Site, 建築の計画地を英語で紹介する 建築家・建築物文献リーディング 第3週 Residential or Commercial 住宅、商業施設に関する英語表現を紹介する 建築家・建築物文献リーディング 第4週 Structure and Materials 建物の構造や材料を英語で紹介する 建築家・建築物文献リーディング 第5週 Review 1 第1週から第4週までに学んだ表現を復習する 第6週 Furniture 家具についての英語表現 建築家・建築物文献リーディング 第7週 Kitchen Design 台所のさまざまなデザインを紹介する 建築家・建築物文献リーディング 第8週 Windows 日本の窓だけでなく、海外のさまざまな形式の窓を紹介する 建築家・建築物文献リーディング 第9週 Lighting 照明のいろいろを紹介する 建築家・建築物文献リーディング 第10週 Review 2 第6週から9週までに獲得した語彙と表現を復習する 建築家・建築物文献リーディング 第11週 Colors and Materials 色や手触りについての表現を紹介する 建築家・建築物文献リーディング 第12週 Sustainable Design 環境に優しい、持続可能なデザインについて紹介する 建築家・建築物文献リーディング 第13週 耐震、免震について紹介する 建築家・建築物文献リーディング 第14週 Bauhausについて、活動や作品、影響を紹介する 建築家・建築物文献リーディング 第15週 Review 3 第11週から第14週までに獲得した語彙と表現を復習する 建築家・建築物文献リーディング
成績評価	小テスト 40% 提出物 10% 定期試験50%
教科書	使用しない
参考書 参考資料	専門科目で使う建築関係の教材がすべて参考資料となる
履修上の注意	知識としてすでに知っている分野の英文は読みやすく、聞き取りやすいので、これを足掛かりに全般的な英語の運用力をつけていく。
予習・復習指導	1コマあたりの事前事後学習の時間数1時間とし、授業に出てきた専門用語等を整理し、当日配布される建築家・建築物文献を読み直しておく。
関連科目	英語演習I、英語演習III、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後必ず返却します。それ以外の場合はGoogle Classroomを使用し、各人にフィードバックします。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅱ（Dクラス）世界遺産		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	UNESCO世界文化遺産に関する文章を読み、聞き取ることで、自分の関心ある分野の知識を確認しながら英語の運用力を身につける。さらに自分で資料を調べて英語で発表を行う。実社会でのコミュニケーション手段として使えるとされる英語力であるTOEIC500点以上を獲得することを到達目標とする。この科目はDPO-1、DPO-2、DPO-3に該当する。
授業概要	世界遺産関連のオンライン情報を含む視聴覚情報を使用し、興味のある分野に関する英語を読む・聞く・話す力をつける。地理・歴史の知識に触れ、簡単な英語で世界遺産に関して発表する。
授業計画 授業内容	第1週 Introduction and Yellowstone National Park (USA) 記事を読み、聞き取る。 第2週 Venice and Its Lagoon (Italy) 記事を読み、聞き取り、指名された学生が発表する。 第3週 Kakadu National Park (Australia) 記事を読み、聞き取り、指名された学生が発表する。 第4週 Mont-Saint-Michel and Its Bay (France) 記事を読み、聞き取り、指名された学生が発表する。 第5週 Review 1 第1週から第4週までに学んだ知識を復習する 第6週 Changdeokgung Palace Complex (Korea) 記事を読み、聞き取り、指名された学生が発表する。 第7週 The Pyramids from Giza to Dahshur (Egypt) 記事を読み、聞き取り、指名された学生が発表する。 第8週 Galapagos Islands (Ecuador) 記事を読み、聞き取り、指名された学生が発表する。 第9週 Works of Antoni Gaudi (Spain) 記事を読み、聞き取り、指名された学生が発表する。 第10週 Review 2 第6週から9週までに学んだ知識を復習する 第11週 Istanbul (Turkey) 記事を読み、聞き取り、指名された学生が発表する。 第12週 Cologne Cathedral (Germany) 記事を読み、聞き取り、指名された学生が発表する。 第13週 Hue Monuments (Vietnam) 記事を読み、聞き取り、指名された学生が発表する。 第14週 Westminster Palace and Abbey (U.K.) 記事を読み、聞き取り、指名された学生が発表する。 第15週 Review 3 第11週から第14週までに学んだ知識を復習する
成績評価	小テスト 30% 発表 20% 定期試験50%
教科書	使用しない
参考書 参考資料	世界文化遺産について学ぶにあたり、役に立つと自分で思った書籍を参考資料とする。
履修上の注意	興味のある分野の英語を足掛かりに、全般的な英語運用に慣れるようにする。自分が発表する世界遺産については特にしっかりと自分で学んだうえで教室で紹介する。
予習・復習指導	1コマあたりの事前事後学習の時間数1時間とし、配布される文献内容を必ず整理しておく。自分が担当する世界文化遺産について情報を集め、英語で発表できるように準備をする。
関連科目	英語演習I、英語演習III、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後必ず返却します。それ以外の場合はGoogle Classroomを使用し、各人にフィードバックします。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	情報基礎演習（Aクラス）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目 【データサイエンス・AI教育プログラム科目】		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 加納 奈都	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	・大学生活において演習、実習、講義等の授業内で必要とされる基礎的なPCスキルを習得する。 ・Adobe Illustrator、Adobe Photoshopの基本的操作を習得する。 ・自分の意見を人に伝えるためのプレゼンテーション力や協調性を身につける。 この科目は、DP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	大学での様々な講義、演習、実習等の受講時に、必要とされるPCアプリケーションの基本的操作を習得することを目的とする。 レポート作成や、課題提出方法、プレゼンテーションの方法を学び、各授業でスムーズに対応出来るようにする。大学ではプレゼンテーションをする機会が多いため、PowerPoint等を使用したプレゼン資料作成をアプリケーションのスキル習得と共に学生同士のコミュニケーションを図る。 またデザイン系ソフト（AdobeIllustrator、AdobePhotoshop）ではロゴやイラスト、広告作成、生成AIを利用した画像編集など自由に描画、編集する為の基本操作を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 1回/1コマ 第1回 【オリエンテーション】大学生活において必要なPC操作 第2回 【プレゼンデータ作成】～わたしの好きなもの 第3回 【グループ内プレゼン大会】プレゼンテーションをしてみよう 第4回 【入門】Adobe Illustratorを使ってポスターを模写してみよう 第5回 【基礎1】Adobe Illustratorの基本操作（パス・パスファインダー） 第6回 【基礎2】Adobe Illustratorの基本操作（文字・整列） 第7回 【基礎3】Adobe Illustratoの基本操作（レイヤー・トリムマーク） 第8回 【基礎4】Adobe Photoshopの基本機能 Aiを利用した画像編集①（選択範囲） 第9回 【基礎5】Adobe Photoshopの基本機能 Aiを利用した画像編集②（調整レイヤー） 第10回 【基礎6】Adobe Photoshopの基本機能 Aiを利用した画像編集③（切り抜きマスク） 第11回 【基礎7】Adobe Photoshopの基本機能 第12回 【基礎知識】印刷データとしての取り扱い第 13回 【実践課題】コンセプトに沿った作品を作ってみよう 第14回 【実践課題】制作日 第15回 【合評】投票しよう！優秀作品のプレゼンテーション、総評 ※毎回練習課題をやりながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。
成績評価	・学習状況（出席、受講態度を含む）30% ・課題提出（全課題の提出、クオリティ）70% 以上を総合して評価する。
教科書	毎回必要に応じてデータ、もしくは資料を配布する。
参考書 参考資料	参考資料：「世界一わかりやすい Illustrator 操作とデザインの教科書」技術評論社 「世界一わかりやすい Photoshop 操作とデザインの教科書」技術評論社 ※上記資料は授業では使用しません。

履修上の注意	毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 マウスの使用は任意ですが、使用を推奨します。 ソフトのインストールは受講前に済ませておくこと。 設定時に必要なID, パスワードは必ず忘れないように保存、保管しておくこと。
予習・復習指導	・ 1コマに対して2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 ・ 授業で学んだ操作方法を用いて作品作りに取り組むこと。 ・ 課題ごとに試作したものは整理し、まとめておくこと。
関連科目	「コンピュータデザイン演習」「メディアリテラシー」「芸術導入実習」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	毎回授業内にて適宜対応する。 課題内容により、クラスルーム内でもコメントし対応する。
教員の実務経験	加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 宮内芳代子：木版画及び、デジタルツールを使用した書籍の装画、挿絵の制作。また、動画広告やWEB広告のデザインの実務経験。 田中秀和：抽象画家・映像演出（VJ）視覚平面作品を中心に、コマーシャルギャラリー等で作品発表、作家歴25年
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	情報基礎演習（Bクラス）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目 【データサイエンス・AI教育プログラム科目】		
配当年次	1		
必修選択区分	建築学部：必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 宮内 智久	KYOB I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOB I 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部
准教授	駒井 貞治	KYOB I 建築学部

到達目標	到達目標（この授業でできるようになること） ・PCの基本操作（入力・出力・保存・読み込み）を一通り身につける。 ・Google Workspace の主要アプリ（Gmail／カレンダー／ドライブ／ドキュメント／スプレッドシート／スライド）を、基礎から実用レベルまで使えるようになる。 ・Adobe Photoshop・Illustrator を使って、簡単な図・アイコン・ロゴなどを作成できるようになる。 ・国土地理院のデータを調べて、課題や制作に活用できるようになる。 ・最終目標： 建築を大学で学ぶために必要な 基本的なPCスキルに加えて、課題に対して自分で考えて動く課題解決力と、他者と進める コミュニケーション力を育てる。 演習の目標（授業を通して身につけたい姿勢・習慣） この演習では、技術だけでなく「大学生生活の基礎体力」も身につけます。 1. 大学の通学リズムに慣れる 2. 学友をつくる 3. 授業にきちんと出席する習慣をつける 4. 人前で自分の考えを話せるようになる 5. 共同作業（チーム作業）に慣れる 6. 失敗を恐れずに試せるようになる 7. 指示待ちではなく、自分から行動できるようになる 8. 新しいことに挑戦する気持ちを持つ 9. 周囲を助ける（利他的に動く）姿勢を育てる 10. 時間を上手に使えるようになる 11. 思いついたことを素早くスケッチや図にして表現する練習をする 12. PCを使うことに慣れ、制作や学習の道具として活用できるようになる なお、本演習は本学のDP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	本授業は、PCの基本構成やOSの基礎を理解し、実務でも広く使われる Google Workspace（旧Google Workplace）の活用方法を身につけることを目的とする。単に各種アプリの操作を学ぶだけでなく、大学の学習や社会で求められるITリテラシーとして、データの扱い方と**データを守るための基本的な心得（情報管理・安全管理）**を習得する。 また、建築を学ぶ上で不可欠な力——①情報を精査し課題を読み解く力、②提案をまとめて伝えるコミュニケーション力、③効果的にプレゼンテーションする力、④ワークショップ等で協働しながら取り組む力——を、PC作業の演習を通して総合的に育成する。加えて、課題制作では Adobe（Photoshop／Illustrator等）を用い、基本的なグラフィック制作の方法も学ぶ。
授業計画 授業内容	授業計画（全15回） 第1回【オリエンテーション】 PCの共通操作・共通言語の理解／図書館の利用方法 第2回【入門1】 Topic 1「建築をコピー？」：引用の方法 Tutorial 1：Google アプリケーション

	第3回【入門2】 Topic 2「リサイクル／アップサイクル」：ブレーストーミング Tutorial 2：Google アプリケーション 第4回【入門3】 Topic 3「災害は自然のせい？」：アンケート作成・集計 Tutorial 3：Google アプリケーション 第5回【学期プロジェクト発表】 Adobeソフトの起動／学期プロジェクトの説明／プロジェクトチーム編成 第6回【基礎1】 Topic 4「フード・デザイン」：作り方を説明する Tutorial 4：Google Slides 第7回【基礎2】 Topic 5「文化を伝えていく」：ストーリーを作る Tutorial 5：Google Slides 第8回【基礎3】 Topic 6「街を賑わう」：データを処理する Tutorial 6：Google Maps／Earth／Google スプレッドシート 第9回【学期プロジェクト演習】 実演・実技講習（Adobe Photoshop／Illustrator） 第10回【応用1】 Topic 7「リノベ／コンバする」：図を書く Tutorial 7：スケッチ速描 第11回【応用2】 Topic 8「ハック・ザ・商店街」：ダイアグラムを作る Tutorial 8：スケッチ速描 第12回【応用3】 Topic 9「コンパクト・シティ」：マッピングをする Tutorial 9：スケッチ速描 第13回【学期プロジェクト演習】 グループ内最終作業：情報の編集 第14回【学期プロジェクト演習】 グループ内発表会：効果的なプレゼンテーション方法 第15回【学期プロジェクト演習】 総合発表：優秀作品のプレゼンテーション 演習日の流れ（水曜3・4限） 13:00-13:30 キーワード講義（30分／全体） 13:30-13:45 ゲームのルール説明（全体） 13:45-14:30 前半：GAME1（45分／組ごと） 14:30-14:45 ハーフタイム 14:45-15:30 後半：GAME2（45分） 15:30-16:00 組内発表・提出・総括・フィードバック・フリートーク ※授業中、状況に応じてアドリブのエクササイズ（出欠確認を含む）が入る場合がある。 ※学習の理解度・到達状況に応じて、授業内容を適宜調整・変更することがある。
成績評価	学修状況：45/100点 学期プロジェクト： （グループ）＝ 15/100点 各組の先生が採点 （個人課題）＝ 40/100点 各組の先生が採点 習得状況に応じて、点数の配分が変わることもある。
教科書	阿部信行『Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書』
参考書 参考資料	武田雅人『Google アプリ徹底入門の教科書2020 Google アプリの教科書シリーズ2020年版』（Kindle） 500円程度なので、できれば購入する。
履修上の注意	パソコン操作は「習う」だけでなく、日常的に使って「慣れる」ことが最も重要である。そのため、本授業では 常にパソコンを携帯し、日々の学習の中で繰り返し操作する習慣を身につけることを推奨する。あわせて、授業で使用する各種アプリケーションの IDとパスワードは初期設定の段階から適切に管理し、忘れないよう徹底する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して1.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「メディアリテラシー」、「建築CAD演習Ⅰ・Ⅱ」、「建築設計導入実習」 など
課題に対するフィードバックの方法	授業内にフィードバックの時間を設け、学習内容の確認と改善点の共有を行う。 また担当教員は、授業時間外においても、必要に応じて随時、質問・相談に対応する。

教員の実務経験	担当教員は6年以上の建築設計・及びグラフィックデザインの実務経験を持ち、ADOBEソフトウェアを利用した実践的な指導行う。
科目ナンバリング	COM-C0104S

講義名	英語演習Ⅲ（Aクラス）TOEIC支援上級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 玉井 美香	KYOB I 建築学部

到達目標	TOEIC500点以上の取得。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本コースはTOEIC教材を題材として生きた英語を学びながら、リスニング、リーディング、文法の強化を図り、TOEIC500点以上を目指す。
授業計画 授業内容	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Dining Out 動詞の時制1：現在形、過去形 第3回 Unit 2: General Business 動詞の時制2：現在進行形、現在完了形 第4回 Unit 3: Manufacturing 動詞の時制3：過去進行形、過去完了形 第5回 Unit 4: Finance and Budgeting 名詞とその派生語 第6回 Unit 5: Communication 代名詞（人称代名詞・所有代名詞・再帰代名詞） 第7回 Unit 6: Health 形容詞 第8回 Unit 7: Purchasing 副詞 第9回 Unit 8: Personnel 動名詞・不定詞・分詞-1 第10回 Unit 9: Corporate Development 動名詞・不定詞・分詞-2 第11回 Unit 10: Entertainment 動名詞・不定詞・分詞-3 第12回 Unit 11: Technical Areas 前置詞 第13回 Unit 12: Offices 接続詞 第14回 Unit 13: Travel 前置詞と接続詞 第15回 Unit 14: Housing / Corporate Property 比較
成績評価	定期試験：50% 積極的授業参加：30% TOEIC受験：20%
教科書	TOEIC® L&R TESTへの総合アプローチ -Pre-Intermediate-（成美堂）ISBN：9784791973132
参考書 参考資料	TOEIC®（IIBC）< https://www.iibc-global.org/toeic.html >
予習・復習指導	前回の授業で学習した内容は、必ず自宅で復習すること。
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施した際は、直後に授業内で解答解説を行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅲ（Bクラス）TOEIC支援中級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 玉井 美香	KYOB I 建築学部

到達目標	TOEIC500点の取得。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本コースはTOEIC教材を題材として生きた英語を学びながら、リスニング、リーディング、文法の強化を図り、TOEIC500点の取得を目指す。
授業計画 授業内容	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Dining Out 動詞の時制1：現在形、過去形 第3回 Unit 2: General Business 動詞の時制2：現在進行形、現在完了形 第4回 Unit 3: Manufacturing 動詞の時制3：過去進行形、過去完了形 第5回 Unit 4: Finance and Budgeting 名詞とその派生語 第6回 Unit 5: Communication 代名詞（人称代名詞・所有代名詞・再帰代名詞） 第7回 Unit 6: Health 形容詞 第8回 Unit 7: Purchasing 副詞 第9回 Unit 8: Personnel 動名詞・不定詞・分詞-1 第10回 Unit 9: Corporate Development 動名詞・不定詞・分詞-2 第11回 Unit 10: Entertainment 動名詞・不定詞・分詞-3 第12回 Unit 11: Technical Areas 前置詞 第13回 Unit 12: Offices 接続詞 第14回 Unit 13: Travel 前置詞と接続詞 第15回 Unit 14: Housing / Corporate Property 比較
成績評価	定期試験：50% 積極的授業参加：30% TOEIC受験：20%
教科書	TOEIC® L&R TESTへの総合アプローチ -Pre-Intermediate-（成美堂）ISBN：9784791973132
参考書 参考資料	TOEIC®（IIBC）< https://www.iibc-global.org/toeic.html >
予習・復習指導	前回の授業で学習した内容は、必ず自宅で復習すること。
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施した際は、直後に授業内で解答解説を行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅲ（Cクラス）TOEIC支援初級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 玉井 美香	KYOB I 建築学部

到達目標	TOEICを受験し、スコアを高める。 この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。
授業概要	本コースはこれからTOEICの試験対策を始める学生を対象として、リスニング、リーディング、文法の強化を図りながら、TOEIC教材を通して生きた英語を学ぶ。
授業計画 授業内容	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Restaurants （人称代名詞） 第3回 Unit 2: Entertainment （不定代名詞） 第4回 Unit 3: Business （再帰代名詞） 第5回 Unit 4: Office （現在完了形） 第6回 Unit 5: Telephone （動詞 [主語と動詞の一致]） 第7回 Unit 6: Letters & E-mails （形容詞） 第8回 Unit 7: Health （前置詞 [時・期間]） 第9回 Unit 8: The Bank & The Post Office （前置詞 [所属・関連]） 第10回 Unit 9: New Products （数量形容詞） 第11回 Unit 10: Travel （自動詞と他動詞） 第12回 Unit 11: Daily Life （接尾辞と品詞-形容詞） 第13回 Unit 12: Job Applications （比較） 第14回 Unit 13: Shopping （受動態） 第15回 Unit 14: Education （接続詞 [相関接続詞]）
成績評価	定期試験：50% 積極的授業参加：30% 授業中の小テスト：20%
教科書	TOEIC® L&R TESTへの総合アプローチ -ベーシック-（成美堂）ISBN：9784791948314
参考書 参考資料	TOEIC®（IIBC）< https://www.iibc-global.org/toeic.html >
予習・復習指導	前回の授業で学習した内容は、必ず自宅で復習すること。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、実施直後に授業内で解答解説を行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅲ（Dクラス）プレゼン・討論		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話、プレゼンテーション、討論から理解する。教えてもらったことを学ぶのではなく、毎回テーマを決めて各人が英語で発表し、英語で討論を行う。英語を普段使いのコミュニケーションの手段にできることを到達目標とする。この科目はDPO-1、DPO-2、DPO-3に該当する。
授業概要	中学高校で学んだ英語力が身についている学生を対象とする。留学生を交えて会話、プレゼンテーション、討論を英語で行う。教えてもらうのを待つ受け身の授業ではなく、自分で考え、相手の意見を聞き、自分の考えを提示する練習をする。
授業計画 授業内容	第1週 自己紹介をし、趣味や特技、今困っていることについて意見交換をする。 第2週 旅行関連の話を中心におすすめの目的地を複数名が発表し、それぞれの場所について意見交換する。 第3週 映画や音楽などのアミューズメントを中心に、おすすめの音楽や映画、本等を複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。 第4週 最近のニュースを中心に、自分が気になったニュースを複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。 第5週 Review 1 第1週から第4週まで語彙や表現を復習し、次週からの留学生を交えての会話の準備をする。 第6週 留学生を交えて、自己紹介をし、趣味や特技、今困っていることについて意見交換をする。 第7週 留学生を交えておすすめの世界を複数名が発表し、それぞれの場所について意見交換する。留学生からおすすめの出身地情報を聞き、質疑応答する。 第8週 留学生を交えておすすめの料理を複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からもおすすめの情報を聞き、質疑応答する。 第9週 留学生を交えて自分が好きなスポーツについて複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第10週 留学生を交えて自分が好きな美術工芸について複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第11週 留学生を交えて自分が好きな建築や建築家について複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第12週 留学生を交えて伝統文化について複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第13週 留学生を交えて環境問題について複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第14週 留学生を交えて日本の社会問題について複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第15週 Review 3 第1週から第14週までに学んだ語彙や表現を復習し、自分たちでテーマを決めて話し合う。
成績評価	会話とプレゼンテーションのクラスなので、積極的参加を評価しますが、客観的評価としてTOEIC形式の定期試験を実施します。 積極的参加 30% 発表20% 定期試験50%
教科書	使用しない
参考書 参考資料	TOEIC受験のために今まで使ってきた単語、熟語集をそれぞれ使用する
履修上の注意	会話のテーマに関する語彙や表現を前もって心づもりしておく。会話中心の授業なので、積極的に参加する。

予習・復習指導	1コマあたりの事前事後学習の時間数1時間とし、自分が話したい内容に関する語彙を毎週前もって調べておく。また、授業後はその日に使った表現を書きとめ、再度使えるように練習する。
関連科目	英語演習I、英語演習II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後必ず返却します。それ以外の場合はGoogle Classroomを使用し、フィードバックします。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅲ（Eクラス）やりなおし英語		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 玉井 美香	KYOB I 建築学部

到達目標	英語の基本的な文法や語彙を確認しながら、英語の基礎力アップを目指す。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本コースは、英語の基本的な文法や語彙を確認・復習しながら、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4技能の演習を交えて英語の基礎力向上を目指す。
授業計画 授業内容	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Are you an exchange student here? 自己紹介 (be動詞・疑問詞) 第3回 Unit 2: Do you like anime? 友人の紹介 (1) (一般動詞 [現在形]) 第4回 Unit 3: How's it going? 友人の紹介 (2) (進行形) 第5回 Unit 4: Can I ask you a question? ショッピング (助動詞) 第6回 Unit 5: What did you do there? 週末の過ごし方 (一般動詞 [過去形]) 第7回 Unit 6: May I talk to you for a second? 家族の紹介 (未来表現1/代名詞) 第8回 Unit 7: What are you going to do next week? テスト (未来表現2) 第9回 Unit 8: What do you call it in Japanese? 好きな料理 (受動態) 第10回 Unit 9: Do you need any help? 家への道順 (to不定詞) 第11回 Unit 10: Why don't you try singing it? カラオケ (動名詞) 第12回 Unit 11: It's cold today. 日本の暖房器具 (比較) 第13回 Unit 12: Have you seen any movies recently? 余暇の過ごし方 (現在完了形) 第14回 Unit 13: Final exam week is so stressful! 試験勉強 (接続詞) 第15回 Unit 14: Do you have any plans? 春休みの予定 (前置詞)
成績評価	定期試験：50% 積極的授業参加：30% 授業中の小テスト：20%
教科書	大学生のための英語基礎カトレーニング College English Reboot: Basic Skills for Communication (成美堂) ISBN：9784791973361
参考書 参考資料	授業内で適宜提示する。
予習・復習指導	前回の授業で学習した内容は、必ず自宅で復習すること。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、実施直後に授業内で解答解説を行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅲ（Fクラス）リメディアルやりなおし英語		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	中学生レベルの基礎英語が不確かな学生のみを対象とし、中学から高校の学習内容を補うクラスとする。中学生レベルの基礎文法から復習し、高校卒業レベルの英語力を身につける。あるいは高校卒業レベルの英語力に近づくことを到達目標とする。この科目はDP0-2、DP0-3に該当する
授業概要	初級文法を学びなおしながら、できるだけ多くの例文を口にして、それらを筆記する。目で読み、それを耳で聞き、同じ文章を文字にして書き取ることで、ひとつひとつの学べき項目を確実に身につけられるような授業を繰り返す。
授業計画 授業内容	第1週 be 動詞を中心に 第2週 本動詞を中心に 第3週 未来形を中心に 第4週 助動詞を中心に 第5週 Review 1: be動詞、本動詞、未来形を復習する 第6週 前置詞を中心に 第7週 接続詞を中心に 第8週 完了形を中心に 第9週 受動態を中心に 第10週 Review 2: 第1週から第9週までの文法事項を復習する 第11週 完了形 第12週 比較 第13週 関係詞 第14週 仮定法 第15週 Review 3 今学期学んだことの総復習 ただし、受講者が十分に理解できていないと判断された場合は2週にわたって同じ項目を学ぶこともある。
成績評価	小テスト 30% 提出物 20% 定期試験50%
教科書	使用しない
参考書 参考資料	今まで中高と使ってきた単語、熟語集を各人使用する
履修上の注意	今まで学び損ねた項目の学びなおしなので、今度こそと思って真摯に取り組んでほしい。
予習・復習指導	1コマあたりの事前事後学習の時間数1時間とし、毎回の文法事項を復習する。わからない箇所があれば印をつけて、次の授業中あるいは授業後に質問できるようにする。
関連科目	英語演習I、英語演習II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後必ず返却します。それ以外の場合はGoogle Classroomを使用し、各人にフィードバックします。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英語コミュニケーション		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話、プレゼンテーション、討論から理解する。教えてもらったことを学ぶのではなく、毎回テーマを決めて各人が英語で発表し、英語で討論を行う。英語を普段使いのコミュニケーションの手段にできることを到達目標とする。この科目はDP0-1、DP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	大学生としての英語力がある程度身につけている学生を対象とする。自分で考え、相手の意見を聞き、自分の考えを提示するコミュニケーションを英語で行う練習をする。留学生を交えて会話、プレゼンテーション、討論を行う。
授業計画 授業内容	第1週 自己紹介をし、趣味や特技、今困っていることについて意見交換をする。 第2週 旅行関連の話を中心におすすめの目的地を複数名が発表し、それぞれの場所について意見交換する。 第3週 映画や音楽などのアミューズメントを中心に、おすすめの音楽や映画、本等を複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。 第4週 最近のニュースを中心に、自分が気になったニュースを複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。 第5週 Review 1 第1週から第4週まで語彙や表現を復習し、次週からの留学生を交えての会話の準備をする。 第6週 留学生を交えて、自己紹介をし、趣味や特技、今困っていることについて意見交換をする。 第7週 留学生を交えておすすめの場所を複数名が発表し、それぞれの場所について意見交換する。留学生からおすすめの出身地情報を聞き、質疑応答する。 第8週 留学生を交えておすすめの料理を複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からもおすすめの情報を聞き、質疑応答する。 第9週 留学生を交えて自分が好きなスポーツについて複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第10週 留学生を交えて自分が好きな美術工芸について複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第11週 留学生を交えて自分が好きな建築や建築家について複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第12週 留学生を交えて伝統文化について複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第13週 留学生を交えて環境問題について複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第14週 留学生を交えて日本の社会問題について複数名が発表し、それぞれについて意見交換する。留学生からも情報を聞き、質疑応答する。 第15週 Review 3 第1週から第14週までに学んだ語彙や表現を復習し、自分たちでテーマを決めて話し合う。
成績評価	会話とプレゼンテーションのクラスなので、積極的参加を評価します。 積極的参加 50% 発表・提出物 50%
教科書	使用しない
参考書 参考資料	いままでも自分がTOEIC受験のために使ってきた単語、熟語集をそのまま使用する
履修上の注意	会話のテーマに関する語彙や表現を前もって心づもりしておく。会話中心の授業なので、積極的に参加する。
予習・復習指導	1コマあたりの事前事後学習の時間数1時間とし、自分が話したい内容に関する語彙を毎週前もって調べておく。また、授業後はその日に使った表現を書きとめ、再度使えるように練習する。
関連科目	英語演習I、英語演習II、英語演習III
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後必ず返却します。それ以外の場合はGoogle Classroomを使用し、フィードバックします。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	総合コミュニケーション		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部

到達目標	Adobe Illustrator / Photoshopを中心に、操作・活用方法を学び、複数ツールを横断的に活用しながら、就活に必要なポートフォリオを段階的に制作・更新していく。 本授業では、ポートフォリオ制作を通して、学生が自らの表現を編集し、構成し、視覚化し、社会に向けて提示するところまでを一貫して学ぶ。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本授業では、講義・リサーチ・アイデア展開・試作・講評を循環させながら進める。学生はテーマに対して、資料調査だけでなく、実際に手を動かしながら作業する。途中段階での失敗や修正も制作過程の一部として重視し、完成品だけでなく思考のプロセスも評価対象とする。
授業計画 授業内容	全15回/1回1コマ 第1回 導入 ポートフォリオの役割、「作品集」と「伝達媒体」 第2回 Photoshop① 画像のトリミング 第3回 Photoshop② 被写体の切り抜きと合成 第4回 Photoshop③ カラーバランス、色調補正 第5回 Illustrator① アートボード、図形、ガイド、整列と構造 第6回 Illustrator② フォント、文字サイズの階層化、行間、カーニング 第7回 Illustrator③ レイアウト設計 第8回 AI① AI活用をアイデアに活用 第9回 AI② 発想を広げるためのAI活用 第10回 【InDesign応用①】ポートフォリオ自己PR 第11回 【InDesign応用②】ポートフォリオ画像準備 第12回 【最終課題】制作・進捗提出 第13回 【最終課題】制作・進捗提出 第14回 【最終課題】制作・課題提出 第15回 合評・総評 ※毎回練習課題を行いながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。
成績評価	・出席 20% ・課題提出（全課題の提出、クオリティ）80% 以上を総合して評価する。
教科書	・日頃より、ポートフォリオの素材を、意識して収集すること。 ・授業内で学んだ内容を使用し、常にデータをまとめておくこと。
参考書 参考資料	毎回必要に応じてデータで資料を配布する。 世界一わかりやすい InDesign 操作とデザインの教科書 ベクトルハウス（著） 技術評論社
履修上の注意	・毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 ・Adobe Illustrator・Photoshopの基本操作は理解した上で履修すること。 ・各自興味のあるもの、興味のあること、制作してきた作品のデータなどは必ずまとめておくこと。 ・1年次から制作してきた作品、コンペに出品した作品、制作過程などは必ず大切に保管しておくこと。 ・また立体物の場合は構図を考えた写真の撮影をすること。 ・授業はPCで受講し、オンラインが可能なWi-Fi環境の整った場所で制作すること。
予習・復習指導	・1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。 ・授業内で学んだ内容を使用し、常にデータをまとめておくこと。
関連科目	「情報基礎演習」「コンピュータデザイン演習」
課題に対するフィードバックの方法	授業内にて適宜対応する。また必要に応じてクラスルームにて対応する。
教員の業務経験有無	有
科目ナンバリング	

教養教育科目＜学部共通＞ 4. キャリア形成科目

京都美術工芸大学シラバス [2026 年度版]

講義名	しごと論 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部

到達目標	・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	様々な仕事での貴重な経験談を通して、人の心のありようを知ることや、知恵、努力の様を学ぶ。
授業計画 授業内容	オムニバス形式／全15回 第1回 新谷 裕久（教授/大学企画・広報） 第2回 高田 光雄（教授/建築家） 第3回 川尻 潤 （特任教授/陶芸家） 第4回 堀木 エリ子（客員教授/和紙デザイナー） 第5回 前田 尚武（京セラ美術館企画推進ディレクター） 第6回 塚本 カナエ（非常勤講師/プロダクトデザイナー） 第7回 宮本 貞治（特任教授/木工家） 第8回 旗 邦充 （数寄屋大工） 第9回 コシノ・ジュンコ（客員教授/デザイナー） 第10回 阿部 祐二（客員教授/俳優/リポーター） 第11回 国広 ジョージ（客員教授/建築家） 第12回 中井川 正道（教授/環境デザイン） 第13回 大西 英玄 （清水寺成就院住職） 第14回 久保田 康夫（フォトグラファー） 第15回 三木 表悦 （特任准教授/漆芸家） 新谷裕久：広報業務の実績をもとに、大学広報の仕事内容について講義する。 高田光雄：建築の研究実績をもとに、京町屋の歴史、建築家の職能について講義する。 川尻潤：陶芸作家の実績をもとに、造形論、作家等の生業について講義する。 堀木エリ子：和紙工芸作家の実績をもとに、伝統工芸の継承等について講義する。 前田尚武：キュレーション、建築家としての実績をもとに、企画立案などを講義する。 塚本カナエ：プロダクトデザイナーの実績をもとに、プロダクトデザインの歴史などを講義する。 宮本貞治：木工家の実績をもとに、木の素材や性質、加工技術等について講義する。 旗邦充：数寄屋建築の実績をもとに、木材の選定、加工等について講義する。 コシノジュンコ：ファッションデザインの実績をもとに、デザイン活動等を講義する。 阿部祐二：俳優、リポーター等の実績をもとに、目標、進路、仕事の意義等について講義する。 国広ジョージ：建築家としての実績をもとに、異文化経験、著名な建築体感等を講義する。 中井川正道：景観設計の実績をもとに、景観上の美しさについて講義する。 大西英玄：清水寺住職の経験をもとに、仕事や物事のとらえ方等解釈について講義する。 久保田康夫：写真家としての実績をもとに、被写体に対する構図等について講義する。 三木表悦：漆芸作家としての実績をもとに、造形の発想等について講義する。 ※順番は前後する場合があります ※講師の都合により、他の講師と入れ替える場合があります（上記は昨年の講師）
成績評価	毎回の小レポート80%、受講態度20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。

参考書 参考資料	「手仕事の日本」柳宗悦 岩波文庫 「機嫌のデザイン まわりに左右されないシンプルな考え方」秋田道夫 ダイヤモンド社 「グラフィックデザイナーの仕事」祖父江慎 グルーヴィジョンズ 「建築家になりたい君へ」隈研吾河出書房新社 「みんなの家 建築家一年生の初仕事」光嶋裕介 アルテスヴィジョンズ
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努めること。 小レポート作成において生成AIの使用を禁止する。使用が発覚した場合は相応の処分を行う。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講師の仕事内容について調べておく。 講義後は分からなかった内容や用語などを調べて講義の内容を把握する。
関連科目	3年次には引き続き「しごと論Ⅱ」を受講することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを15回目の授業内で行う。
教員の実務経験	授業内容に記載済 中井川正道：景観設計の実績をもとに、大きな構築物の景観への影響、景観上の美しさとは何かについて講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA101L

講義名	社会活動Ⅰ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 芸術学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
助教	薮下 和真	KYOB I 建築学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
特任教授	宮本 貞治	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。 この科目は、DP0-3に該当する。
授業概要	地域の清掃、催事にボランティア活動として参加することや学校行事に積極的に参加することにより、コミュニケーション能力や行動力などの社会性を育成する機会とする。通年制であり、社会活動の多くは土日や夏期休暇中に設定されており、数多くのイベントから5つ選択し、他の履修科目の日程を気にせず履修ができる。社会活動Ⅰでは、「ボランティア活動の基本的ルールを学び地域社会におけるコミュニケーション能力の育成」を主目的としている。社会活動Ⅱでは、ボランティア活動の発展・応用として「指導的立場としての行動力の育成」を主目的としているので、社会活動ⅠとⅡを合わせて修得することがキャリア形成において望ましい。
授業計画 授業内容	下記の社会活動により延べ5イベントを選択する。クラスルームのスプレッドシートにて各自がイベント一週間前までに事前予約を行い、活動実施後は3日以内にレポートを提出する。0.5日＝1イベント（1point）としてカウントする。 1. 新日吉神社神幸祭支援活動 2point (5/10) 終日／70名程度（男女関係なし）×1日 2. 下御霊神社還幸行列 2point (5/24) 終日／20名程度（男子のみ）×1日 3. 祇園祭宵山会所当番支援活動 1point (7/21, 7/22, 7/23夕方から夜 女子のみ各2名) 0.5日×3 4. 祇園祭巡行支援活動 2point (7/24) 早朝～昼／5名（構法計画Ⅰの定期試験のない男子のみ：4年生等）×1日 5. 七条大橋・貞教学区清掃活動 1point (6/7, 8/7, 9/7, 11/7) AM／（10～50名）0.5日×4 6. 貞教学区夏祭り 2point (8/29夕方～夜)／30～100名 ×1日 7. 豊国神社森林保全活動 2point (9月上旬) 終日／20～30名 ×1日 8. 貞教学区体育祭準備 1point (10/17) PM／（30名程度）×0.5日 9. 貞教学区体育祭 2point (10/18) 終日／（30～100名）×1日 10. KYOB I祭支援活動 1point (10/30, 10/31, 11/1, 11/2) AM-PM／（30～250）0.5日×8 11. 東山ふれあい広場支援活動 2point(11月上旬)終日／10～20名 ×1日 12. 伝統工芸館・鴨川七条ギャラリー展示活動 1point (6, 9, 11, 12, 1, 2月) 夕方～夜／（10～50名）0.5日×6 13. オープンキャンパス支援活動 1point (5/31, 6/21, 7/19, 7/26, 8/2, 8/9, 8/23, 12/20) AM-PM／（10～50名）0.5日×16

成績評価	実習態度（30％）、小レポート（70％） 実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する（減点方式）。5つの課題（5イベント）の実習とレポート提出をもって修了とする。 予約した課題において公欠・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	実習を通して適宜紹介する。 フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。また、新型コロナウイルス感染対策マニュアルも参照すること。
履修上の注意	学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。 新型コロナウイルス感染症対策（3密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等）を徹底すること。
予習・復習指導	予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。 具体的な日程については事前に掲示する。
関連科目	1年次は、伝統文化科目である「京都学」で学ぶ地域社会との関連性が高い。 2年次には引き続き「社会活動Ⅱ」を選択することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	一実習（1コマ）に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。
教員の実務経験	実務教職員が担当 担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として学生の地域ボランティア活動を指導しており、社会活動Ⅰについて包括的に講義することができる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA102P

講義名	メディアリテラシー		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目【データサイエンス・AI教育プログラム科目】		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田 幸秀	KYOB I 建築学部

到達目標	・大学の研究や日常生活において情報を適切に収集、活用する意識と能力を高める。 ・既存メディアとSNSとの違い、それぞれの特性を理解する。 ・積極的にニュースメディアに接する習慣を身につけ、社会への適応力を養う。 ・特に海外ニュースについては、英字メディアや英文サイトから一次情報にアクセスする技術を習得する ・実名報道の基準を知り、事例研究を通じて問題点を整理する。 ・国内外の情報機関の存在とその役割、活動内容を認識する。 ・AIの活用事例とリスク、「シンギュラリティ」を巡る議論の紹介などを通じて「数理・データサイエンス・AI」のリテラシーを高める。 ・この科目は、DP0-1～3に該当する。
授業概要	メディアリテラシーとは、新聞やテレビ、インターネットなどから発信される情報を正しく理解し、また、ときには自ら情報を適切に発信する能力のこと。その能力を高めるためには、まずそれぞれのメディアの特性を知る必要がある。誤報、捏造、情報操作などの事例研究を通じて、昨今の既存メディア離れの原因を探る一方で、インターネットとの併用によって質の高い情報にアクセスする方法を身につける。 本講座では、AI翻訳を活用して英字情報に積極的にアクセスするほか、日々のニュースの主役である外交官、政治家、警察関係者らをゲストスピーカーとして招くなどして、メディアのフィルターを通さない一次情報に接する機会を設ける。 さらに、日々情報の収集と分析を行っている国内外の情報機関の活動の一端に触れることで、質の高い情報を得ることの意味と、情報の価値を認識する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス：メディアリテラシーとは — メディア情報を大学生活にどう生かすか 第2回 「数理・データサイエンス・AI」のリテラシー(1) AIの活用事例とリスク 第3回 メディアを巡る諸問題(1) — 誤報、虚報、捏造、客観報道と情報操作 第4回 メディアを巡る諸問題(2) — 実名報道 第5回 英字メディアのリテラシー(1) USA TODAY ‘Snapshots’ から見る米国社会 第6回 「数理・データサイエンス・AI」のリテラシー(2) シンギュラリティ 第7回 インテリジェンス(1) 国内外の情報機関とその活動 — カウンターインテリジェンス 第8回 インテリジェンス(2) インテリジェンスコミュニティ — VIVANTの世界 第9回 英字メディアのリテラシー(2) 米国の人種差別と銃問題 第10回 英字メディアのリテラシー(3) 海外から見た日本 第11回 ニュースの主役(1) — 警察 第12回 ニュースの主役(2) — 外交官 第13回 ニュースの主役(3) — 政治家 第14回 FMラジオ局のさまざまな取り組み — 音楽からアートまで 第15回 英字メディアのリテラシー(4) 立場による戦争観の違い
成績評価	毎回の小レポートを点数化し、出席状況を加味した上で評価する。
教科書	授業開始に先立ち、オリジナルテキストを配付する。
参考書 参考資料	「実名と報道」(日本新聞協会 編集委員会) ※同協会のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
履修上の注意	・受け身の姿勢ではなく、自分のアタマで考えながら受講すること。 ・ゲストには積極的に質問を。
予習・復習指導	
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	レポート中の質問や疑問には後日回答する。

教員の実務経験	塾講師、衆議院議員の国会秘書などを経て、産経新聞社で情報誌の編集、米全国紙“USA TODAY”のダイジェスト版の翻訳、新聞の取材、インタビュー、紙面連載に携わる。情報誌では特集、エッセー、旅行などの連載を担当したほか、新聞のインタビューでは政治家、外交官らを取材し、紙面紹介した。 その後、在大阪カンボジア王国名誉領事館館長として年間2万件を超えるビザにサインをして発給する一方、カンボジアー日本の二国間交流や米国、台湾、タイ、イギリス、韓国、ロシアなど各国公館との国際交流に従事。 また、約20年にわたり関西のメディア、警察幹部、議員秘書、外国公館やインテリジェンス関係者らが集まる私的な交流会を主宰。日々のニュースの主役ともいえる警察官、外交官、政治家などの声に直接触れる機会を設けるため、メンバーをゲスト講師として招いている。
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	社会活動Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 芸術学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
助教	藪下 和真	KYOB I 建築学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
特任教授	宮本 貞治	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	高度な社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。 この科目は、DP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	地域の清掃、催事にボランティア活動として参加することや学校行事に積極的に参加することにより、コミュニケーション能力や行動力などの社会性を育成する機会とする。通年制であり、社会活動の多くは土日や夏期休暇中に設定されており、数多くのイベントから5つ選択し、他の履修科目の日程を気にせず履修ができる。社会活動Ⅰでは、ボランティア活動の基本的ルールを学び地域社会におけるコミュニケーション能力の育成を主目的としている。また社会活動Ⅱでは、ボランティア活動の発展・応用として、指導的立場としての行動力の育成を主目的としている。したがって社会活動ⅠとⅡを合わせて修得することがキャリア形成において望ましい。
授業計画 授業内容	下記の社会活動により延べ5イベントを選択する。クラスルームのスプレッドシートにて各自がイベント一週間前までに事前予約を行い、活動実施後は3日以内にレポートを提出する。0.5日＝1イベント（1point）としてカウントする。 - 鴨川トレッキング&清掃活動（新入生引率） 1point（4/18*）AM／20名×0.5日 - 新日吉神社神幸祭支援活動 2point（5/10）終日／70名程度（男女関係なし）×1日 - 下御霊神社還幸祭行列 2point（5/24）終日／20名程度（男子のみ）×1日 - 祇園祭宵山会所当番支援活動 1point（7/21, 7/22, 7/23夕方から夜 女子のみ各2名）0.5日×3 - 祇園祭巡行支援活動 2point（7/24）早朝～昼／5名（構法計画Ⅰの定期試験のない男子のみ：4年生等）×1日 - 七条大橋・貞教学区清掃活動 1point（6/7, 8/7, 9/7, 11/7）AM／（10～50名）0.5日×4 - 貞教学区夏祭り 2point（8/29夕方～夜）／30～100名 ×1日 - 豊国神社森林保全活動 2point 終日（9月上旬）／20～30名 ×1日 - 貞教学区体育祭準備 1point（10/17）PM／（30名程度）×0.5日 - 貞教学区体育祭 2point（10/18）終日／（30～100名）×1日 - KYOB I祭支援活動 1point（10/30, 10/31, 11/1, 11/2）AM-PM／（30～250）0.5日×8 - 東山ふれあい広場支援活動 2point 終日（11月上旬）／10～20名 ×1日 - 伝統工芸館・鴨川七条ギャラリー展示活動 1point（6, 9, 11, 12, 1, 2月）夕方～夜／（10～50名）0.5日×6 - オープンキャンパス支援活動 1point（3/29*, 5/31, 6/21, 7/19, 7/26, 8/2, 8/9, 8/23, 12/20）AM-PM／（10～50名）0.5日×18 *社会活動Ⅱのみ選択可

成績評価	実習態度（30%）、小レポート（70%） 実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する（減点方式）。5つの課題（5イベント）の実習とレポート提出をもって修了とする。 予約した課題において公欠・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	実習を通して適宜紹介する。 フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。 また、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルも参照すること。
履修上の注意	学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。 新型コロナウイルス感染症対策（3密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等）を徹底すること。
予習・復習指導	予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。 具体的な日程については事前に掲示する。
関連科目	1年次の「社会活動Ⅰ」に引き続きを選択することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	一実習（1コマ）に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。
教員の実務経験	実務教職員が担当 担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として学生の地域ボランティア活動を指導しており、社会活動Ⅱについて包括的に講義することができる。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA204P

講義名	しごと論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 芸術学部
教授	安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
教授	竹脇 出	KYOB I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOB I 建築学部
教授	津村 健一	KYOB I 芸術学部
教授	中井川 正道	KYOB I 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任教授	川尻 潤	KYOB I 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOB I 芸術学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	将来の就職において、学科、コースの専門性をどのように活かしていくのか。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。 この科目は、DP0-1、PD0-2に該当する。
授業概要	1年次の「しごと論Ⅰ」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚としごとの意義をいろいろな職業の中からオムニバス形式で幅広く学ぶ。3年次の「しごと論Ⅱ」では、芸術・建築分野の専門的な学びを習得したうえで、オムニバス形式による教員の専門的テーマから具体的なイメージを深く学ぶことにより、将来の就職への方向性を明確にする。専門分野の講師は学内のみならず、他大学（3大学教育研究連携校）の講師も担当している。しごと論ⅠとⅡは合わせて修得することがキャリア形成の育成に繋がるので望ましい。
授業計画 授業内容	オムニバス方式 / 全 15 回 第 1 回（高田 光雄）京町家について（仮題） 第 2 回（玉村 嘉章）木工について 第 3 回（宮内 智久）建築とキュレーションについて 第 4 回（三木 表悦）漆芸について 第 5 回（竹脇 出）建築分野の成り立ちについて 第 6 回（渡邊 俊博）ウインドウディスプレイと装飾について 第 7 回（安田 光男）ミラノでの「しごと」について

	第 8 回（川尻 潤）陶芸について 第 9 回（井上 年和）歴史的建造物の保存修理について 第 10 回（中井川正道）環境デザインについて 第 11 回（白鳥 洋子）建築デザインのライフ・ワークについて 第 12 回（田中 正流）文化財情報デザインについて 第 13 回（井上 晋一）集合住宅の調査と設計について 第 14 回（津村 健一）美術と造形について 第 15 回（新谷 裕久）防災・安全衛生管理について 総括
成績評価	受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。6回以上欠席の場合は不可とする。公欠等による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法）について復習し、関連用語（作品・作家・技法）についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	1 年次開講科目である「しごと論Ⅰ」に引き続き履修することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験	実務経験教員が担当 担当教員は、12年間歯科医療に携わり、さらに20年以上労働安全衛生コンサルタントとして、学校の環境安全衛生管理に携わってきた。しごと論Ⅱについては、どんな職業についても関係のある労働安全衛生の観点から包括的に講義することができる。
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	COM-CA305L

講義名	インターンシップ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田 幸秀	KYOB I 建築学部

到達目標	①仕事の現場を体験し大学で学ぶ意義を再確認する。 ②社会人として必要な知識やスキルを身につける。 ③卒業後の進路に対する明確な意識を醸成し、進路選択のミスマッチを防ぐ。 ④仕事の現場での能動性（課題の設定・解決策の実践等）を高める。 この科目は、DP0-3に該当する。
授業概要	卒業後のキャリア人生を充実したものにするため、社会人としての仕事を体験するカリキュラム。3年次前期の事前学習を通じて業界研究、職業研究を行いながら就業体験を希望する企業、事業所等を見つける。原則として夏季休暇中の5日間（各日8時間）を実習期間にあて、レポートやプレゼンテーションによって振り返りを行う。特に仕事現場での問題解決や自己の成長を図るため、適切な課題設定を行って実習に臨むことを重視する。講義では、電話やメールのマナー、文章の書き方など、社会人として身につけておく必要のある素養を養う。
授業計画 授業内容	■令和8年度の予定 ①事前学習（1） ガイダンス ②事前学習（2） 業界研究＜1＞ ③事前学習（3） 業界研究＜2＞ ④事前学習（4） マナー教育 ⑤事前学習（5） 実習計画書作成 ⑥実 習 原則として夏季休暇中、フルタイム5日間。実習先と相談の上、各自がスケジュールを設定 ⑦事後学習（1） 報告書の書き方指導 ⑧事後学習（2） 報告書評価 * 予定は変更になることがあるので、掲示などで確認すること ■想定される実習先 各種工房、工芸・建築・デザイン関連企業、京都伝統工芸協議会会員企業、京都府物産協会会員企業、業界団体・組合、公的機関など * 原則として学生が自ら実習先を開拓する。帰省先等での実習も可。就職を希望する業界や企業での就業体験を特に推奨する。
成績評価	事前・事後学習、実習先での学びや行動、実習報告書により総合的に評価する。
履修上の注意	・履修したものの実習に行かなかった場合は、成績が「不可」となるので注意すること。その場合、後期の履修取り消し期間内に取り消しの手続きができる。特に夏休みに建築士試験対策講座などを受講する者は注意を要する。 ・コロナの感染拡大以来、インターンシップを受け入れる企業や事業所が減少している。そのため、上記の日数や時間数に満たない場合でも、一定の配慮を行う。
予習・復習指導	インターンシップは心と技を磨く貴重な教育機会であるため、履修者には十分な準備と能動的な姿勢が要求される。1コマあたり1・5時間の予習・復習が必要。
関連科目	「キャリア支援講座Ⅰ・Ⅱ」の講義を兼ねる。
課題に対するフィードバックの方法	実習先の選定などの相談や質問を随時受け付ける。
教員の実務経験	塾・予備校講師／国会議員秘書（議員会館勤務）／情報誌の編集、新聞の取材・インタビュー・連載企画／外国領事館での国際交流、査証発給業務などを経験。特に新聞社でロータリークラブを担当した際は、企業経営者らのインタビューを通じ、さまざまな業界の実情や経営者の考え方に触れてきた。インターンシップが充実したものになるよう、業界や受け入れ先に関する情報収集をきめ細かくサポートする。
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	現代社会論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 福田 安佐子	KYOB I 建築学部

到達目標	この講義の目標は、現代社会に対する理解を深めることである。様々な時代や場所において、規範や感性がいかにして形成されてきたかを学び、それが現代社会といかなる関係を保っているか、自ら考える力をつける。この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本科目では現代アートやゾンビ映画といったものを手掛かりに、身体観の変遷や、社会変化にかかわるトピック、人間の生命や感情といったものを主題とした芸術作品にはどのようなものがあるのか、そういったものをいかに読み解けばいいのか、それらの分析から明らかになる我々の生きる社会の問題にはどのようなものがあるか、といった問いを主たるテーマとする。それらの問題を紐解くことで、現代社会がいかに形成されてきたかについてより深く理解し、また今後自らが社会やメディアに対して、主体的に問いを立てる姿勢を有することを目指す。
授業計画 授業内容	全15回 第1回＜オリエンテーション＞現代アート、ゾンビ、身体と現代社会 第2回：＜講義＞ゾンビ概論：「なぜ我々はゾンビ映画を見るのか」 第3回：＜講義＞植民地における人間とゾンビ：映画「ホワイトゾンビ」(1931) 第4回：＜講義＞人種化・植民地化される身体と文明 第5回：＜講義＞映画における女性と黒人の身体表象：映画「私はゾンビと歩いた！」(1945) 第6回：＜講義＞ホラー映画におけるヒステリー・妊娠・母親 第7回：＜講義＞1968年の世界：映画「ナイト・オブ・ザ・リビングデッド」(1968)と＜病＞ 第8回：＜講義＞アブジェクション：体液、血液、皮膚の表象 第9回：＜講義＞アブジェクション：内蔵、腐敗、生殖の表象 第10回：＜講義＞現代の黙示録：映画「28日後…」(2002)における廃墟と崇高の美学 第11回：＜講義＞現代における感染と新・植民地主義の表象 第12回：＜講義＞映画「バイオハザード」とポストヒューマニズム 第13回：＜講義＞ポストヒューマンの時代におけるアート 第14回：＜講義＞コロナ以降の世界 第15回：＜講義＞未来の身体：二十一世紀の身体表象
成績評価	評価ポイント：授業への参加（50％）、期末レポート試験（50％）で評価する
教科書	特になし
参考書 参考資料	福田安佐子著『ゾンビの美学：植民地主義・ジェンダー・ポストヒューマン』、人文書院、2024年
履修上の注意	ホラー映像や刺激の強い画像を見せることがあります。事前に注意喚起しますが、苦手な場合は途中退出してもコメントシートを提出すれば授業への参加度には影響しません。
予習・復習指導	1コマに対し、4.5時間の事前学習および復習をすること。 その場合、授業で指示された作品や論文などを各自で熟覧・熟読し、分からない用語や概念が出てきた場合には、質問もしくは自身で調べることを。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内もしくはクラスルームで行う
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

＜芸術学部＞専門教育科目 D5. 美術工芸科目－基本科目

京都美術工芸大学シラバス〔2026 年度版〕

講義名	工芸概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部

到達目標	・ 広く工芸全般の意味を理解する。 ・ 工芸に対する広い視野を身につける。 ・ 工芸に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 この科目は、DP1-1、DP1-2、に該当する。
授業概要	広く工芸の意味を理解すると共に、古くから伝わる工芸が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを各専門分野の切り口をとおして論じる。また、近代から現代に至る工芸界の新しい潮流について考察を行ってゆく。産業としての伝統工芸について、業種ごとに成り立ちや技術的・意匠的特色について、また世の中での位置づけなど、概要を認識し理解する。ものづくりの高度な技について、工学的な側面からの理解を深める。伝統工芸品を成立させる構造、意匠、技法、材料などの諸要素と、伝統工芸の産地を取り巻く地理的条件などのさまざまな要素の、密接な関連性について学び、工芸に対し更に認識を深める。
授業計画 授業内容	オムニバス方式により実施します / 全 15 回 第 1～3回 陶磁器業界の近況と今後を概観すると共に、「ものづくり」の変遷を成形技法、加飾技法、素材などを通じて解説し、工芸への理解を深める。(横山直範) 第 4～7回 物造りという観点から時代をさかのぼり彫刻作品、仏像彫刻作品が、生活に定着し馴染んできたか、映像、写真資料を参考に学ぶ。(青木太一) 第 8～10回 木工の技術・材料・デザイン等の解説。現在活躍している工芸家の作品・映像等を通して多様な工芸のスタイルを紹介する。(玉村嘉章) 第11～14回 伝統的な漆工芸品の歴史、構造、制作技法、諸道具について、また漆工芸を支える素材の内、主に国産漆の現状について概略を説明する。(遠藤公誉) 第 15 回 総括 (玉村嘉章) ※順番が前後する場合や担当者に変更になる可能性があります。
成績評価	毎回実施する小レポートにより評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	『工芸の見かた感じ方』(東京国立近代美術館工芸課編淡交社)
履修上の注意	各講師が指示する内容のレポートを提出する。
予習・復習指導	配布資料や講義内容から、専門用語(作品・作家・技法など)について復習し、関連用語(作品・作家・技法など)についても調べるなど理解を深めておくこと。 1コマに対し4時間の復習をすること。
関連科目	「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	京もの認定工芸士/家具製作一級技能士など陶芸、漆芸、木工、彫刻の各工芸に長年携わってきた講師が工芸の歴史、技法、材料、道具等について概論として分かり易く解説する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-BA101L

講義名	伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
助教	◎ 古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。伝統工芸のあらましを理解するとともに、今日の伝統工芸の立ち位置を把握・理解する。この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。																																													
授業概要	本講義では、伝統工芸業界の幅広い分野に触れ、各分野の基礎的な知識を身につけることを目的とする。日本の伝統工芸は、長い歴史の中で培われた技術や美意識を継承しながらも、時代とともに変化・発展した。そしてその中で様々な課題に直面している。こうした現状を踏まえ、本講義では、伝統工芸の実務経験を豊富に持つ現役の作家や職人による講義を通じて、技法や素材の特性、制作プロセスのみならず、現代の工芸が直面する社会的・経済的な諸問題について学ぶ。また毎回の小レポートによって、主体的に考察する力を養う。																																													
授業計画 授業内容	オムニバス／全15回 <table><tr><td>第1回</td><td>古閑 謙太郎</td><td>概論</td></tr><tr><td>第2回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr><tr><td>第3回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr><tr><td>第4回</td><td>八田 誠二</td><td>友禅・西陣</td></tr><tr><td>第5回</td><td>渡邊 晶</td><td>刃物</td></tr><tr><td>第6回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr><tr><td>第7回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr><tr><td>第8回</td><td>龍村 周</td><td>錦織作家</td></tr><tr><td>第9回</td><td>猪飼 祐一</td><td>京焼</td></tr><tr><td>第10回</td><td>藤井 収</td><td>漆芸</td></tr><tr><td>第11回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr><tr><td>第12回</td><td>小島 秀介</td><td>桐箱</td></tr><tr><td>第13回</td><td>井上 楊彩</td><td>人形</td></tr><tr><td>第14回</td><td>石田 正一</td><td>竹工芸</td></tr><tr><td>第15回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr></table> ※上記リストは昨年度のものであり、今年度は講師の変更や順番が前後する場合があります。詳細については第1回目の概論において説明します。	第1回	古閑 謙太郎	概論	第2回	須藤 拓	截金	第3回	須藤 拓	截金	第4回	八田 誠二	友禅・西陣	第5回	渡邊 晶	刃物	第6回	大菅 直	文化財修理	第7回	大菅 直	文化財修理	第8回	龍村 周	錦織作家	第9回	猪飼 祐一	京焼	第10回	藤井 収	漆芸	第11回	中村 佳之	京こま	第12回	小島 秀介	桐箱	第13回	井上 楊彩	人形	第14回	石田 正一	竹工芸	第15回	中村 佳之	京こま
第1回	古閑 謙太郎	概論																																												
第2回	須藤 拓	截金																																												
第3回	須藤 拓	截金																																												
第4回	八田 誠二	友禅・西陣																																												
第5回	渡邊 晶	刃物																																												
第6回	大菅 直	文化財修理																																												
第7回	大菅 直	文化財修理																																												
第8回	龍村 周	錦織作家																																												
第9回	猪飼 祐一	京焼																																												
第10回	藤井 収	漆芸																																												
第11回	中村 佳之	京こま																																												
第12回	小島 秀介	桐箱																																												
第13回	井上 楊彩	人形																																												
第14回	石田 正一	竹工芸																																												
第15回	中村 佳之	京こま																																												
成績評価	成績評価 毎回実施する小レポートにより評価する。																																													
教科書	成績評価 毎回実施する小レポートにより評価する。																																													
参考書 参考資料	『工芸の見かた・感じかた』（東京国立近代美術館工芸課：編）淡交社『明日への伝統工芸』（浅見薫著）財京都伝統工芸産業支援センターその他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。																																													
履修上の注意	・内容、スケジュールは変更になることがあります。 ・レポート内容と講義内容に齟齬がみられる場合は、提出されていても欠席の扱いとなります。																																													
予習・復習指導	各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と覚えることについて調べること。1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。																																													
関連科目	「工芸概論」「日本工芸美術史」と併せて工芸の知識を深める。																																													
課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。																																													
教員の実務経験	登壇講師全員、美術工芸作家・職人としての経験あり。																																													
教員の実務経験有無	あり																																													
科目ナンバリング																																														

講義名	日本住居史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要な基本的な知識を習得する。
授業概要	日本の伝統的な住居について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。 建築学科のディプロマポリシーの1、2に係る。
授業計画 授業内容	全15 回 第1回 オリエンテーション 史跡と古墳 第2回 原始的な住居と集落 第3回 都城と宮殿 第4回 寝殿造 第5回 書院造 第6回 城郭 第7回 武家屋敷 第8回 都市と村落 第9回 民家 第10回 町屋（町家） 第11回 劇場 第12回 茶室と数寄屋 第13回 近代和風建築 第14回 洋風住宅 第15回 歴史的な町並み
成績評価	レポートおよび定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
関連科目	日本建築史、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業で課題に対し講評を行う。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	色彩学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 東 俊一郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	色彩の基礎知識を基に、体系的かつ理論的に捉えることができる。 色彩の活用方法を理解し、色彩計画を立案・説明できる。 この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。
授業概要	本講義では、色彩に関する基礎的知識の習得に加え、建築、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、工芸など多様な分野における色彩活用の事例を通じて、色彩デザインの手法を体系的に学びます。 色彩は極めて広範な主題であり、一授業内でその全容を網羅することは困難です。そこで本講義では、色彩に関する知識の習得にとどまらず、観察によって知覚される色の変化に着目し、物理的・心理的側面を含めた色彩を多面的に捉える力を育成します。加えて、実制作の現場で色彩を扱う専門家による講演を通じて、創作活動における実践的な色彩の捉え方や、色彩デザインの新たな可能性についての理解を深めます。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 色彩の基礎-1 (色の表示、混合) 第 3 回 色彩の基礎-2 (色の混合、心理的効果) 第 4 回 色彩の基礎-3 (配色) 第 5 回 色彩の基礎-4 (演習) 第 6 回 色彩演習-1 第 7 回 色彩演習-2 第 8 回 色彩演習-3 第 9 回 色彩の実践事例 (都市) 第 10 回 色彩の実践事例 (建築) 第 11 回 色彩の実践事例 (プロダクトデザイン) 第 12 回 色彩の実践事例 (工芸) 第 13 回 色彩の実践事例 (アート) 第 14 回 色彩検定 第 15 回 まとめ
成績評価	評価ポイント：受講態度 (20%)、授業毎のレポート (40%)、演習課題の評価 (40%)
教科書	『カラーコーディネーターのための色彩心理入門』(日本色研事業株式会社) 『PCCS カラートーンサークル』(日本色研事業株式会社)
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	1 コマに対して2 時間の事前学習及び2 時間の復習をすること。 次回の授業内容について、シラバスに準じて教科書の内容を読んでおくこと。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックは次回以降の講義時間内で行う。
教員の実務経験	街並み景観や建築・インテリアにおける色彩研究を行う。色彩を活用した空間設計の実績をもとに、色彩理論の習得および実践を指導する。
教員の实務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-BA105L

テスト ユーザー 2 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 水萌	K Y O B I 芸術学部

到達目標	日本美術史の流れを理解し、基礎的な知識を得ることを目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2およびDP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本の各時代における代表的な作品、とくに絵画や仏像彫刻を中心に取り上げ、古代から近世にかけての日本美術の流れについて概観する。作品の様式・技法・文化的な繋がりや社会的側面などに着目し、日本美術史の基礎知識を身に付けたいうえで、作品の成立背景や展開についても触れつつ、作品についての理解を深めることを目標とする。 具体的に、授業内ではスライドの映写を通して作品の鑑賞を行い、作品を読み解くこと、鑑賞することの楽しさに重点を置く。また授業外でも作品に触れる機会が増えるよう、美術館や博物館における展示、書籍やホームページ等を適宜紹介する。
授業計画 授業内容	1ガイダンス 2日本美術史のはじまり 3奈良時代の美術① 4奈良時代の美術② 5平安時代の美術① 6平安時代の美術② 7平安時代の美術③ 8鎌倉時代の美術① 9鎌倉時代の美術② 10鎌倉時代の美術③ 11室町時代の美術① 12室町時代の美術② 13江戸時代の美術① 14江戸時代の美術② 15総括
成績評価	毎回の授業後に感想を提出（60%）、期末レポート（40%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	山下裕二、高岸輝監修『美術出版ライブラリー歴史編 日本美術史』 美術出版、2014年 古田亮編著『教養の日本美術史』 ミネルヴァ書房、2019年 ほか講義中に指示する
予習・復習指導	配布資料を活用し、専門用語について読みや意味を調べてること。講義内容の復習の際、疑問点についても調べることを。1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること
課題に対するフィードバックの方法	質問への回答及び小レポートのフィードバックは次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	学芸員
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	素描		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 秀和	K Y O B I 芸術学部
教授	東 俊一郎	K Y O B I 芸術学部
講師	加納 奈都	K Y O B I 芸術学部

到達目標	創造活動のプロセスにおいて不可欠である基礎造形デッサンを習得する。 基本となる単純な構造やプロポーションを正確に把握する能力を養い、より複雑な形態へも対応出来る様、応用力をつける。 想定描写など、想像力を活かしたデッサン構成などを行い想像力も同時に養なっていく。 デッサンはデザインの基礎であり、形の情報を表現できるようになると、そのものの存在がどのような素材でできていて、どのような構造を持っているのかを理解できるようになる。
授業概要	3クラスに分かれ、それぞれの目標達成を確認し、自分に合った内容を各自で選択する。 物づくりにおいて、自身のエスキースや他者との視覚的コミュニケーションを正確かつ効率的に進める為には造形の持つ基本的な形の把握が重要になる。 本科目では、視覚情報を2次元に落とし込む作業を行なっていく。 具体的には画用紙に鉛筆を用いたデッサンを通して、基礎造形の成り立ちや、パースといった造形の見え方を絵に表現することを学ぶ。 プロポーションの把握や空間・量感の表現にも重点を置き、全体という秩序の中で部分を計画出来るバランス感覚を要請する。 芸術学部のディプロマポリシー1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1回 準備課題 第 2回 基礎造形デッサン、想定描写など 第 3回 基礎造形デッサン、想定描写など 第 4回 基礎造形デッサン、想定描写など 第 5回 基礎造形デッサン、想定描写など 第 6回 基礎造形デッサン、想定描写など 第 7回 基礎造形デッサン、想定描写など 第 8回 基礎造形デッサン、想定描写など 第 9回 基礎造形デッサン、想定描写など 第10回 基礎造形デッサン、想定描写など 第11回 基礎造形デッサン、想定描写など 第12回 基礎造形デッサン、想定描写など 第13回 基礎造形デッサン、想定描写など 第14回 基礎造形デッサン、想定描写など 第15回 合評会 グラフィックススケッチコース ＜15 回の内容＞ 第1回 ガイダンス ワークショップ 第2回 基礎課題① 自然物を描く 第3回 基礎課題② 細密画に挑戦 第4回 基礎課題③ 細密画に挑戦 第5回 基礎課題④ 一文字デザイン 第6回 基礎課題⑤ 油彩に挑戦① 第7回 基礎課題⑤ 油彩に挑戦② 第8回 基礎課題⑤ 油彩に挑戦③ 第9回 基礎課題⑥ デジタルイラスト 文様を書く 第10回 基礎課題⑥ デジタルイラスト 文様を書く 第11回 応用課題 コンペ・自由制作に挑戦 第12回 応用課題 コンペ・自由制作に挑戦 第13回 応用課題 コンペ・自由制作に挑戦 第14回 応用課題 コンペ・自由制作に挑戦 第15回 応用課題 コンペ・自由制作に挑戦

	※毎回、最後には合評を行う（例えば 4 コマかけて描く課題は 4 コマの最後に合評を行う） 進捗具合によって内容が変更になる場合もあります 3 クラスそれぞれのカリキュラム設定あり。各コースの課題設定に従って授業を行ないます。
成績評価	受講態度40%、課題制作の完成度60%により評価する。
教科書	なし
参考書 参考資料	適宜資料を配布する。
履修上の注意	素描経験者も 1 から学ぶ姿勢で臨むこと。
予習・復習指導	透視図法などの遠近法を理解するため、課題モチーフと同じ形態のモチーフを用いて反復練習すること。講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	構成基礎演習、立体造形
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 田中秀和：抽象画家・映像演出（VJ）視覚平面作品を中心に、コマーシャルギャラリー等で作品発表、作家歴25年
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-BA108S

講義名	デザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	K Y O B I 芸術学部
准教授	岡 達也	K Y O B I 芸術学部

到達目標	・広義のデザインについて理解する。 ・近代以降のデザイン動向を認識する。 ・今後の社会とデザインの関わりを考える。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	本講義では、デザインの本来の意味や語源、領域等にわたって述べ、近代以後のデザインについて歴史、社会、技術などの側面から事例とともに解説する。またそれらを踏まえたうえでデザインの価値について論じ、今後デザインが果たす役割を考察する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 規格と大量生産 第3回 スタイル（様式） 第4回 視覚／イメージ 第5回 読む／文字・書体 第6回 アイデンティティ 第7回 デザインの対象 第8回 プロダクト・インテリア・空間デザインの世界 第9回 プロダクトデザイン① 第10回 プロダクトデザイン② 第11回 インテリアデザイン 第12回 シビックデザイン 第13回 ランドスケープデザイン 第14回 景観デザイン 第15回 総括
成績評価	各回の小レポート（50%）と期末レポート（50%）を数値化し、総合的に評価する。
教科書	特に使用しない
参考書 参考資料	『カラー版世界デザイン史』美術出版社、1995年 柏木博『20世紀はどのようにデザインされたか』晶文社、2002年 『旅はゲストルーム』浦一也 知恵の森文庫 2004年 『民家のデザイン』（日本編）（海外編）川島宙次 水曜社 2016年 『もっと知りたいバウハウス』仙田佳穂 東京美術 2020年
履修上の注意	毎回講義内容の感想を提出して、理解度を確認する。
予習・復習指導	1コマに対して2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 講義内容に関連するデザイナーやデザイン分野、専門用語について復習し、理解を深めておくこと。
関連科目	近代デザイン史
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭に前回の感想と質問に回答する。
教員の実務経験	岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、プロダクト、インテリア、ランドスケープ、シビックデザインの歴史、デザインのスタイル、考え方、方法論、社会的役割等について講義する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	文化財概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
講師	◎ 児玉 絵里子	K Y O B I 芸術学部

到達目標	日本の文化財保護法と文化財の定義、および文化財保護システムについて、文化財の具体的内容を学びながら体系的に理解する。ユネスコ（UNESCO）による、文化遺産保護政策を学ぶ。文化財を生かした文化政策等を考える。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	・文化財保護法の概要を知る。・文化財保護法の関連法令としての博物館法・歴史まちづくり法・文化芸術基本法などを知る。・文化財保護法により定められた日本の文化財について学ぶ。具体的に、日本の「有形文化財」「無形文化財」「民俗文化財」「天然記念物」「文化的景観（景観地）」「伝統的建造物群（町並み）」にどのようなものがあるのかを知る。・人類の文化的向上と発展を目指す、ユネスコ（UNESCO）の文化遺産保護政策と日本の文化財との関係性を学ぶ。・文化財に関する学びのなかで、自身の創作活動の意義や可能性について考える。○このほかに授業の中で、大学における基本的なレポートの書き方、授業での学びを成果物に落とし込む方法について、基礎的指導を行います。○授業は、パワーポイントを使用し行います。教科書に指定した文献・教員が配布する資料・参考文献などを用いて学びを深め、自身の創作に生かす講義科目です。
授業計画 授業内容	第1回 〈概説〉日本の文化財と文化遺産・ユネスコの遺産保護事業第2回 文化財保護法と関連法案・ミュージアム・学芸員第3回 日本の有形文化財を知る（1）—東京国立博物館等と文化財第4回 日本の有形文化財を知る（2）—京都国立博物館・奈良国立博物館等と文化財第5回 日本の有形文化財を知る（3）—九州国立博物館・その他国立博物館等と文化財第6回 日本の無形文化財を知る（1）—工芸技法（染織・漆器ほか美術工芸）第7回 日本の無形文化財を知る（2）—工芸技法（染織・漆器ほか美術工芸）第8回 日本の無形文化財を知る（3）—伝統芸能（能楽・歌舞伎・文楽など）第9回 日本の無形文化財を知る（4）—伝統芸能（能楽・歌舞伎・文楽など）第10回 日本の無形文化財を知る（5）—伝統芸能（沖縄（琉球舞踊・組踊）とアイヌ）第11回 日本の民俗文化財を知る（1）—祭り（神楽・ねぶたほか）第12回 日本の民俗文化財を知る（2）—祭り（風流・祇園祭ほか）第13回 日本の伝統的建造物群・重要文化的景観第14回 文化・文化財とまちづくり、地域おこし第15回 文化・文化財と観光 〈総括〉
成績評価	最終課題（レポートまたは作品）60%、授業毎のコメント・カード（授業の感想などを記入）40%○この授業は、コメント・カードおよび授業の学びに基づく最終課題成果物（レポートまたは作品のどちらか）の内容を総合的に判断し、成績評価を行います。○毎回の授業で、授業の感想等を記入する「コメント・カード」を行います。○コメント・カードで授業の振り返りを行うこと。○コメント・カードのフィードバックは、授業もしくはクラスルームで行います。○授業期間中に、最終課題の成果物（レポートまたは授業の内容に係るオリジナル作品）の提出を課します。○最終課題のテーマと提出日は、授業中に説明し、クラスルームに掲示します。
教科書	○文化庁HPに掲載の「文化財に関するパンフレット」を使用する。授業を受講する前に、各自、必要なPDFをプリントアウトして持参するように（紙媒体に書き込みことで、学習効果が高まります）。【要ダウンロード（要印刷）文化庁主要パンフレット一覧】（※授業毎に、必要な冊子をあらかじめ通知します。すべてのPDFを毎授業持参する必要はありません）。〈文化庁HP〉 https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/shuppanbutsu/bunkazai_pamphlet/pamphlet_ja.html ○未来に伝えよう文化財（※初回授業で持参するように）○文化財の保護とまちづくり○国宝・重要文化財建造物保存・活用の進展をめざして○人が伝える伝統の「わざ」重要無形文化財～その「わざ」を保持する人々○日本の伝統文化を未来へ伝える。—民俗文化財の保護制度○記念物の保護のしくみ○日本の世界遺産※上記以外の冊子（PDF）についても、授業で採り上げます。〈文部科学省HP〉『令和6年度 文部科学白書』『第2部 文教・科学技術施策の動向と展開』のうち、「第7章 文化芸術立国の実現」の部分。 https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab202001/mext_00001.html （※初回授業で持参するように）
参考書 参考資料	○講師の単著（学術図書）等を、必要に応じ参照してください。・『歌謡と芸能—在原業平の表象—』勉誠社、2026年・『伝統芸能と民俗芸能のイコノグラフィー〈図像学〉』錦正社、2024年・『初期歌舞伎・琉球宮廷舞踊の系譜考—三葉葵紋・枝垂れ桜・藤の花—』錦正社、2022年・『琉球紅型』ADP、2012年（2024年重版）※第10回木村重信民族芸術学会賞受賞図書・『図説 琉球の染めと織り』河出書房新社ふくろうの本、2005年YouTube動画は（児玉（児玉） 絵里子（eriko Kodama）— マイポータル — researchmap）に掲載されています。○その他、授業に関連する文献は、授業中で紹介します。

予習・復習指導	復習で学びを深めることを重視する授業です。毎授業後に、授業の感想を記入したクラスルームのコメントカード提出を行うこと（授業の復習時間を含みます）。授業での学びを生かし、授業の時間外で博物館の見学や現地フィールドワークを行い、学びを深めてみてください。体験は、必ずあなたの能力を高めます。教室内での学修時間30時間、教室外での学修時間（復習）60時間、合計90時間。
課題に対するフィードバックの方法	毎授業、クラスルームのコメント・カードを提出すること（授業の復習時間を含みます）。課題に対するフィードバックは、授業の冒頭、およびクラスルームで行います。質問は、授業中のほかにコメント・カードで受け付けます。
教員の実務経験	博士（文学）。早大で博物館学芸員資格を取得し、学芸員として長く勤務した後に、大学の専任教員となりました。学芸員として勤務しながら博士号を取得しました（論文博士）。東京国立博物館学芸部工芸課染織室非常勤職員、国指定重要無形文化財「紅型」保持者（人間国宝）玉那覇有公主宰 玉那覇紅型工房、浦添市美術館嘱託学芸員を経て、財団法人海洋博覧会記念公園管理財団（一般財団法人沖縄美ら島財団）学芸員（正規職員）。同財団学芸員を退職後、ドナルド・キーン・センター柏崎 学芸員（正規職員）、沖縄国際大学非常勤講師や豊島区立トキワ荘マンガミュージアム準備室学芸員、早稲田大学学芸員の後、京都芸術大学専任講師を経て、現職。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	日本建築史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 砂川 晴彦	K Y O B I 建築学部

到達目標	本授業では今日まで受け継がれてきた日本の伝統建築について、その歴史的・文化的価値を理解するための基礎知識を学ぶ。また文化財としての建造物がこれまでどのように維持・保存・修理されてきたのか基礎を学ぶ。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	本授業では伝統建築の中でも神社建築（社）と寺院建築（堂）を対象に、「建築様式（style）」、「建築形式（form）」、その「建築的特徴（character）」の3つの観点を使って、日本伝統建築の古代、中世、近世への展開過程を解説する。 この理解によって世の中の文化財建造物がなぜ歴史的価値あるものとされているのかを読み解くための基礎知識を身につけることができる。 また、こうした伝統建築を通して日本文化の多様さや豊かさへの理解を深めることを目指せる。 さらに現在の文化財建造物の保存・修復について、制度や考え方、具体的な手法を概説することで、伝統的な建築からなる町並や景観がどのような仕組みにより継承されてきたのか、その社会的背景を理解できる。
授業計画 授業内容	全15回の授業計画は次の通りである。 第1回 導入～建築史学の様式史観と文化財保存の歴史～ 第2回 伝統建築の基礎用語と形式概念 第3回 神社建築（1）古代の社殿～伊勢・出雲・住吉～ 第4回 神社建築（2）中世の社殿 第5回 寺院建築（1）仏教建築の伝来～飛鳥時代の建築～ 第6回 寺院建築（2）和様の誕生～奈良時代の建築～ 第7回 寺院建築（3）国風化の進展～平安時代の建築～ 第8回 寺院建築（4）中世の新しい様式 第9回 寺院建築（5）中世の新しい仏堂 第10回 社寺建築（1）安土桃山時代の優美な建築 第11回 社寺建築（2）江戸時代の多様な建築 第12回 生産過程からみた建築史～大工・木材・資源～ 第13回 造形・細部意匠からみた美意識の建築史～木割・絵様・彫刻～ 第14回 近代の日本建築 第15回 歴史的建造物の保存と修理技術 第1・2回では日本建築史を学ぶための基本的な概念や用語を解説する。 第3回から第11回までは、神社建築・寺院建築を対象に、古代 → 中世 → 近世 と時代に沿って、建築の「様式」と「形式」が展開していく過程を学ぶ。 第12回以降では、これまで解説してきた「様式」、「形式」の概念を変えて、大工職人や資源の観点、細部意匠・美意識の観点からみた通史的解説を行う。見方が変われば、説明のされ方も変わる。多視点からみつめることで日本建築の理解をさらに深めることを目指す。 また適宜、建築が造られた各時代の社会を解説することで、社会背景から建築の成り立ちの理解を試みる。 このように授業では、「基礎用語・概念 → 通史 → 多角的理解 → 現代的課題」と進めることで日本建築の歴史的、文化的価値を学習する。

成績評価	授業への参加態度（10%）授業中のクイズ（35%）および定期試験（レポート）の結果（55%）により評価を行う。
教科書	授業資料をオンラインで配布する。
参考書 参考資料	主要参考書としては次を挙げる。 日本建築学会『日本建築史図集』彰国社（解説：日本の歴史的建造物の図版集として） 近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版（解説：日本建築の細部名称に詳しい解説書として）
履修上の注意	配布資料を閲覧できるようPCほかタブレットなどを持参すること。 必要なメモをとれるようにすること。
予習・復習指導	1コマに対して1時間の復習をすること。
関連科目	日本住居史ほか伝統建築に関わる科目
課題に対するフィードバックの方法	授業中のクイズは次回以降の授業中に、期末試験（レポート）に対する解説はクラスルームにより行う。
教員の実務経験	主に曹洞宗大本山總持寺（神奈川横浜）および總持寺祖院（石川能登）の境内における諸殿堂の保存修理工事に関わった。文化財建造物修理の工事監理や修理工事報告書執筆の経験を活かし、構造・技法・様式等の観点から専門的な社寺建造物の解説を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	西洋美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 樋上 千寿	KYOB I 建築学部

到達目標	・古代から近代までのヨーロッパ美術の概略を理解する。 ・キリスト教の宗教絵画作品について時代毎の類型や様式を知る。 ・日本の美術とヨーロッパの美術との影響関係について知見を得る。 この科目はDP1-1, DP1-2, DP2-1, DP2-2に該当する。
授業概要	授業テーマ：美術—神と人との関わり 人類は古代より、美術作品の制作という営みを続けてきた。とりわけ、神と人との関係を映し出す宗教美術からは、それぞれの時代や地域の世界観や価値観が反映されている。美術の歴史は、神と人との関係の歴史であるとも言える。授業では、主にギリシャ・ローマ時代の多神教の宗教芸術と、一神教であるキリスト教美術の歴史を概観し、両者の世界観の相違と表現の相違について考察する。また西洋世界と日本との接触から生まれた近世の日本独特の宗教美術についても概観する。宗教との関係が希薄となった現代、社会の中で美術が果たしてきた役割について考察するきっかけとして欲しい。
授業計画 授業内容	1、講義ガイダンス～美術史とは？ 2、多神教と美術：ギリシャとローマ、ローマの神殿建築 3、ギリシャ・ローマの彫刻 4、一神教と美術 5、偶像崇拜の禁止と初期キリスト教美術 6、中世キリスト教の美術：ローマ帝国の東西分裂とキリスト教美術の発展 7、中世キリスト教の聖堂建築：ロマネスクとゴシック 8、ルネサンスの美術①ルネサンス運動の発端 9、ルネサンスの美術②レオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》 10、アカデミズムの成立と新古典主義 11、新古典主義から印象主義へ 12、印象主義の克服：セザンヌとポスト印象主義 13、桃山美術と西洋文化との接触 14、日本のキリスト教美術 15、まとめ
成績評価	小テスト（4回）50％と期末レポート50％で評価。
教科書	指定しない
参考書 参考資料	『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）、『西洋美術館』（小学館）
予習・復習指導	復習を軸とした学習を進め、知識の整理に努めること。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	伝統絵画技法 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長谷川 雅也	KYOB I 芸術学部

到達目標	より高度な伝統絵画技法を身につける。基底材とその性質について理解する。この科目はDP1-1、DP1-2に該当する。
授業概要	日本の絵画は、古く中国等の影響を強く受けながら独自の発展を遂げてきた。明治以降「日本画」というカテゴリーの中で制作されるようになってからも西洋の絵画理論とはことなる「写意・写生」の意識や伝統的絵画技法を保ち続けている。本科では、古典作品の模写により伝統的な描線、彩色について学ぶ。併せて、「写意」の伝統に即して学ぶため、基本的画材を用いて描写・制作を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 購入画材確認、進行手順の説明、受講時の留意点、次週の準備 第2回 古典作品の模写による描法①（運筆） 第3回 古典作品の模写による描法②（運筆）第4回 古典作品の模写による描法①（彩色）第5回 古典作品の模写による描法②（彩色）第6回 古典作品の模写による描法③（彩色）第7回 古典作品の模写による描法④（彩色）第8回 古典作品の模写による描法⑤（彩色）第9回 課題制作① 一写生から彩色、仕上げまで 第10回 課題制作② 第11回 課題制作③ 第12回 課題制作④ 第13回 課題制作⑤ 第14回 課題制作⑥ 第15回 課題制作⑦
成績評価	課題への取り組み姿勢、完成度によって評価する。教科書必要に応じて適時資料を提示する。
教科書	必要に応じて適時資料を提示する。
参考書 参考資料	模写手本（コピー手本）
履修上の注意	購入道具、一覧表の中で手持ち画材で代用できるものは使用可。授業材料については必須。
予習・復習指導	授業の進行より遅れが生じた場合は、自主的に翌週までに課題制作を進めておく。課題作品の提出を厳守する。
関連科目	なし
課題に対するフィードバックの方法	実習、演習課題ごとに講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	公益社団法人 日展特別会員 日春会会員、京都日本画家協会会員、日本美術家連盟会員
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	建築構造力学Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	講・演
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 竹脇 出	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部

到達目標	力学理論の基礎を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築設計における構造設計の役割および建築構造力学の基本事項について講述する。静定梁、静定ラーメンに生じる反力や断面力（軸方向力、せん断力、曲げモーメント）の算出方法を身に付け、断面力図（軸方向力図、せん断力図、曲げモーメント図）の描き方について学ぶ。具体的には、単純梁や片持梁に加えて、ゲルバー梁、3ヒンジラーメンなどの断面力の求め方と断面力図の描き方について学ぶ。自由体の考え方について学び、演習を通じてその利用方法を習得する。さらに、静定構造と不静定構造の違いについて学び、その見分け方を学ぶ。これらを通じて、建築構造設計に必要な構造力学の基礎を習得することを目的とする。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション／力の基礎(1) 力の概念・単位 第2回 力の基礎(2) 力の合成・分解・置換、モーメントの計算 第3回 力の釣合い 第4回 単純化されたモデル(1):単純梁と片持梁 第5回 単純化されたモデル(2):静定ラーメン 第6回 静定構造物の反力(1):単純梁・片持梁とゲルバー梁 第7回 静定構造物の反力(2):静定ラーメンと3ヒンジラーメン 第8回 単純梁の断面力と断面力図 第9回 片持梁の断面力と断面力図 第10回 ゲルバー梁の断面力と断面力図 第11回 静定ラーメンの断面力と断面力図(1):単純支持ラーメン 第12回 静定ラーメンの断面力と断面力図(2):一端固定支持ラーメン 第13回 3ヒンジラーメンの断面力と断面力図 第14回 梁、ラーメンの断面力と断面力図の復習 第15回 構造物の安定・不安定と静定・不静定 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	出席および演習物の提出（60%）、定期試験（40%）に基づき行う。
教科書	スタンダード 建築構造力学 学芸出版社 ISBN 978-4-7615-2841-6
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をすること。 （授業ノートの整理、前回演習課題の復習等）
関連科目	「建築構造力学Ⅱ」、「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	COM-BA217L

講義名	東洋美術史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 浅湫 毅	KYOB I 建築学部

到達目標	広い東洋世界の中で、仏教を信仰し（あるいはかつて信仰していた）地域、範囲を理解し、それぞれの地域でうみだされた作品が、同様の主題のもとに製作されていながらもいかに異なるかを理解するとともに、日本文化の基層をなす仏教美術への理解を深めることを目標とする。せつかく仏教美術の聖地京都で学んでいるのだから、仏教美術のエキスパートを目指そうではないか。		
授業概要	「東洋」という言葉が指し示す範囲は広く、また場合に応じてその範囲も変化する。本講は広い東洋世界の中で作り続けられてきた美術作品の中でも、とくに日本と関係の深い「仏教美術」を中心に学ぶ。地理的にはインドから東南アジア、中国、朝鮮を経て日本へ、時間的には古代から現代にいたるまでの仏教美術の特色を、実際の作例映像などを通じてみていく。全15回の授業内容は次項に示した通りだが、最初に仏教の始まったインドの仏教の歴史を簡単振り返るとともに、仏像の誕生の様相を見る。そしてそれらがどのようなルートを通じて日本にきたのかを探り、本編としては日本の仏像の歴史を紐解いていく。きらめく仏教美術の世界を、本講を通じてともに旅しよう。本科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。		
授業計画 授業内容	第1回	ガイダンス	授業の概要と自己紹介（京都国立博物館の概要をかねて）
	第2回	東洋の仏教美術 1	アジアの国々とインド・東南アジアの仏像
	第3回	東洋の仏教美術 2	中国・朝鮮半島の仏像
	第4回	仏像入門 1	仏像の素材・年代の概要
	第5回	仏像入門 2	仏像の種類
	第6回	日本の仏教美術 1	飛鳥時代前期 法隆寺を中心に
	第7回	日本の仏教美術 2	飛鳥時代後期 白鳳美術とは
	第8回	日本の仏教美術 3	奈良時代前期 薬師寺・興福寺・東大寺
	第9回	日本の仏教美術 4	奈良時代後期 唐招提寺・大安寺
	第10回	日本の仏教美術 5	平安時代前期 最澄・空海と密教の美術
	第11回	日本の仏教美術 6	平安時代後期 仏像の和様化と定朝
	第12回	日本の仏教美術 7	鎌倉時代前期 1 奈良仏師の台頭
	第13回	日本の仏教美術 8	鎌倉時代前期 2 運慶と6人の息子
	第14回	日本の仏教美術 9	鎌倉時代前期 3 快慶と行快
	第15回	日本の仏教美術 10	鎌倉時代後期～室町次代 禅宗の美術
成績評価	受講態度75% 授業中の提出物10% 期末レポート15%		
教科書	特に用意しないが、適宜資料をクラスルームを通じて配布する		
参考書 参考資料	小学館『日本美術全集』『世界美術全集 東洋編』等の美術書 美術出版『東洋美術史』『日本美術史』『日本仏像史』		
履修上の注意	授業ではスライドを写して講義するので、かならず前の方の席に座ること ノートにメモを取りながら受講すること		
予習・復習指導	適宜、京都国立博物館や寺社などを訪れ、実際の仏像作品をしっかりとみておくこと 授業の事前に配布する資料を必ず読んで確認すること 一講義（1コマ）に対して1時間の予習と1時間の復習をすること		
課題に対するフィードバックの方法	授業中に提出した課題は、コメントを付して翌週に返却する 期末レポートはクラスルームの「質問」で課題を出すので、その回答にはコメントを付して返却する		
教員の実務経験	京都国立博物館・東京国立博物館に、彫刻担当学芸員として31年間勤務した		
教員の実務経験有無	有		
科目ナンバリング			

講義名	構成基礎演習（デザイン・工芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	デザインや工芸の様々な分野に共通する空間表現における基礎的な素養を身につける。この授業のテーマは『インプットとアウトプット』。そして、身につける目標となる能力は編集力、調査力と発信力。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	「ベーシックワークショップ」は、デザインと工芸に共通する「平面」「立体」「空間」の3つの基礎的な視点で構成されています。 本授業「空間」では、空間の観察・分析・編集の基礎知識を習得し、空間表現を実践します。 前半は、映画およびアニメーション作品における特定のワンシーンを題材とし、構図、照明、素材感、人物配置、カメラアングル等に潜在する空間的意図の分析（インプット）と、模型制作および写真撮影による空間再構成（アウトプット）を通じて空間能力を身に着けます。また、シーンの空間構造に内包される感情的・物語的作用の読み解きと、その立体的表現を介した空間編集の実践的理解 後半では、文化財的視点から空間と美術工芸の関係を観察し、スケッチによる記録に取り組みます。フィールドワークでは、文化財的価値を有する美術工芸空間を訪れ、その中で「見る」「気づく」「記録する」という行為を体験的に学びます。空間とそこに置かれた美術工芸を一体として捉え、「モノ」と「場」を視覚的に言語化することを通して、総合的な理解を深めることを目的としています。 これらの演習を通して、空間の「読み解き」と「構築」に関わる編集力、文脈調査に基づく分析力、成果を視覚的・言語的に伝達する発信力の涵養を目指すための基礎的学修の構築を目指します。
授業計画 授業内容	第1回：デザイン領域：オリエンテーション（授業趣旨の導入とシーン選定） 授業全体の目的・方法の提示による学修枠組の共有。 映画・アニメーション作品における空間表現の基本概念的導入。 分析対象となるワンシーンの選定および資料収集の開始。 第2回：デザイン領域：映像シーン分析の基礎 映像シーンに内在する構図、照明、素材感、人物配置、カメラアングル等の抽出。 スクリーンショットおよびトレースを用いた視覚的情報の平面化。 作品背景・文脈の調査による分析補助情報の整理。 第3回：デザイン領域：空間形状の分析 シーン分析結果の三次元化に向けた空間要素の構成整理。 縮尺、主要構造の簡易模型による空間構成の把握。 カメラ視点の設定に基づく模型確認の実施。 第4回：デザイン領域：空間における光・素材の分析 光源位置・光質の再現による空間演出効果の検証。 材質表現の模索によるシーンの質感の再構成。 感情的作用を担う光・素材要素の抽出と模型への反映。

	第5回：デザイン領域：空間における視点の分析 光源位置・光質の再現による空間演出効果の検証。 材質表現の模索によるシーンの質感的再構成。 感情的作用を担う光・素材要素の抽出と模型への反映。 第6回：デザイン領域：写真撮影による画角・構図の再現 模型撮影における露出、焦点距離、レンズ効果等の操作。 原シーンとの比較分析による再現度の検証。 差異分析に基づく空間構造の再解釈。 第7回：デザイン領域：講評 第8回：工芸領域：オリエンテーション（課題説明＋見る姿勢をつくる） 授業全体の目的および課題趣旨の説明 工芸、文化財の視点から空間を読み解くという本課題の位置づけの共有 空間と工芸が一体となった空間を「鑑賞」ではなく「観察・記録」の対象として捉える姿勢の導入 第9回：工芸領域：文化財的視点とスケッチ準備 文化財における空間の成り立ちと工芸の関わりについての基礎的解説 工芸的空間としての観察視点（明るさ／暗がり、通る／留まる、触れる／触れない など） 現地調査を想定したスケッチ方法および記録の仕方の説明 フィールドワークに向けたスケッチ構成ラフの作成 第10回：工芸領域：フィールドワーク①（空間を歩き、“気になる”を見つける） ※今回は土日に授業を振り替えて実施する 文化財的価値を有する空間を実際に歩き、観察する 気になった場所や要素を一つを見つける 写真・メモ・簡易スケッチによる記録 第11回：工芸領域：フィールドワーク②（現地スケッチ） ※今回は土日に授業を振り替えて実施する 観察を踏まえ、印象に残った場所・要素を再観察 空間スケッチおよび工芸的要素のスケッチの実施 明暗、距離感、素材感を意識した記録 第12回：工芸領域：スケッチ整理（描き直しと関係性の整理） 現地で描いたスケッチの整理および描き直し 空間スケッチと工芸的要素の抽出 空間と工芸品の関係性の可視化 第13回：工芸領域：編集・言語化（気づきの整理とアウトプット構成） スケッチと短文メモの整理 「なぜそれが気になったのか」の言語化 最終成果物の構成・レイアウトの確定 第14回：工芸領域：提出・講評 成果物の提出および掲示 相互閲覧による共有 講評― 文化財の視点から見た工芸的空間の読み解き 第15回：全体講評
成績評価	各フェーズの提出物と最終成果物の完成度によって総合的に評価する
教科書	授業を通して適宜紹介する
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	各フェーズごとのチェックをスケジュール通り必ず受ける事 工芸領域：拝観料が別途必要になる。 工芸領域：フィールドワーク2コマ分は土日に振り替える
予習・復習指導	東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 田中秀和：抽象画家・映像演出（VJ）視覚平面作品を中心に、コマーシャルギャラリー等で作品発表 古閑謙太郎：仏像を中心とした木彫の文化財修復、地域・寺院の文化財調査など多数。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

＜芸術学部＞専門教育科目 D6. 美術工芸科目－基幹科目

京都美術工芸大学シラバス [2026 年度版]

講義名	コンピュータデザイン演習（デエ）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目 【データサイエンス・AI教育プログラム科目】		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 加納 奈都	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	グラフィックソフトAdobe Illustrator、Adobe Photoshop、それぞれのアプリケーションの特徴やグラフィックデザインの意義の理解を深め、独自のビジョンを形にするための技術を取得すること。また、AI生成に関する知識を深め、AI生成技術を正しく利用したデータ活用方法を習得することを目的とする。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	情報基礎演習で学んだIllustrator、Photoshopを活用し、色々なテーマに沿った課題をこなしながらそれぞれのソフトの特徴を深く知る。まずは、Illustratorを使つての模写。この工程により日常目にしているデザインについて考えると同時にIllustratorのたくさんの機能に触れることができる為、徐々に使い方と構成力がつく。Photoshopでは、画像編集に便利な機能を学び、デジタルカラーに挑戦することで、現実ではあり得ないような画像表現が出来るようになる。また、進化を続けるAI生成の特性を理解した上で、どのように利用することが有効なのかを考えながら活用方法を習得する。
授業計画 授業内容	全15回 1回/2コマ 第1回 【オリエンテーション】アプリケーションの基本操作 第2回 【生成Ai】Aiの活用について。Ai生成機能を使ったポスター制作 第3回 【Illustrator応用①】模写からデザインツールを学ぶ 第4回 【Illustrator応用②】模写からデザイン構成や要素を学ぶ 第5回 【Illustrator応用③】名前のロゴ化 第6回 【Illustrator応用④】取り扱い説明書 第7回 【Illustrator応用⑤】取り扱い説明書 第8回 【Photoshop応用①】色の調整方法 第9回 【Photoshop応用②】画像の加工方法 第10回 【Photoshop応用③】画像の編集方法 第11回 【Photoshop応用④】デジタルカラー 第12回 【最終課題】架空のクライアントを想定した〇〇 第13回 最終課題 制作日 第14回 最終課題制作日、提出日 第15回 合評会 ※毎回練習課題を行いながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。
成績評価	・学習状況（出席、受講態度を含む）30% ・課題提出（全課題の提出、クオリティ）70% 以上を総合して評価する。
教科書	毎回必要に応じてデータ、もしくは資料を配布する。
参考書 参考資料	『なるほどデザイン』筒井 美希（著）エムディエヌコーポレーション 『けっきょく、よはく。』ingectar-e（著）ソシム 『ほんとに、フォント。』ingectar-e（著）ソシム ※授業では使用しない。

履修上の注意	毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 マウスの使用は任意ですが、使用を推奨します。 ソフトのインストールは受講前に済ませておくこと。 設定時に必要なID, パスワードは必ず忘れないように保存、保管しておくこと。 ※本授業の履修条件として 「情報基礎演習」を履修済み、もしくは Illustrator、Photoshopの基本操作が出来る者とする。
予習・復習指導	PCアプリケーションの操作方法は、授業で習うことよりも、自分で作りたいものを作る最善の方法を常に考えたり調べたりする方が身に付く。触らなければ忘れてしまうので出来る限り活用すること。 ・ 1コマに対し、0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。 ・ 授業で学んだ操作方法を用いて作品作りやコンペなどに活用すること。 ・ 日頃から目に入ってきた気になる広告は写真に撮るなどし、まとめておくこと。 ・ 課題で作成した制作物はしっかりと整理し、まとめておくこと。
関連科目	「情報基礎演習」 「メディアリテラシー」 「芸術導入実習」 「工芸・デザイン基礎実習I」
課題に対するフィードバックの方法	毎回授業内にて適宜対応する。 課題内容により、クラスルーム内でもコメントし対応する。
教員の実務経験	加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 宮内芳代子：木版画及び、デジタルツールを使用した書籍の装画、挿絵の制作。また、動画広告やWEB広告のデザインの実務経験。 田中秀和：抽象画家・映像演出（VJ）視覚平面作品を中心に、コマーシャルギャラリー等で作品発表、作家歴25年
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	構法計画Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 基幹科目、 建築学部：美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOB I 建築学部

到達目標	「木構造」の構成を覚え、基本原理を理解する。在来軸組工法における床組・小屋組の設計方法を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	空間の構成を考え、建築物として実現させるためには、建築の構造である「架構」が必要です。建築物の架構は重力や、地震、風等の自然の力に対して建築の空間を支持するための仕組みです。建築物を設計し、建築し、維持していくうえで、架構についての理解はとても大切です。 建築物の架構には、主体構造の材料により木構造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造などがあり、さらにそれぞれ架構の構成方法により沢山の架構形式に分かれます。 木構造は、古くから日本の風土、生活に根ざして発展してきました。戦後復興期には新たに制定された建築基準法に適合する住宅を大量に供給する目的で、構法の合理化、生産性向上などが図られました。建築基準法の改正や新しい材料の導入などに対応し、現在も日々進化しています。さらに近年は脱炭素社会の実現に貢献するものとして木構造の価値が見直されています。 本科目では、木構造を理解するために以下について学びます。 1. 建築物の架構としての「木構造」の構成、基本原理 2. 「木構造」が水平力へ抵抗するメカニズム 3. 部材の継手・仕口、造作等、「木構造」のディテール
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 建築構法の分類 第 2 回 木構造 (1) 木材の特徴 第 3 回 木構造 (2) 木構造の基本構成 第 4 回 木構造 (3) 軸組／耐力壁 第 5 回 木構造 (4) 耐力壁量・耐力壁の配置 第 6 回 木構造 (5) 耐力壁量・耐力壁の配置 第 7 回 木構造 (6) 床組の構成／床組の設計 第 8 回 木構造 (7) 床組の設計／部材の継手・仕口 第 9 回 木構造 (8) 床組の設計 第 10 回 木構造 (9) 小屋組の構成 第 11 回 木構造 (10) 小屋組の設計 第 12 回 木構造 (11) 小屋組の設計 第 13 回 木構造 (12) 接合金物・造作・仕上げ 第 14 回 木構造 (13) 造作・仕上げ 第 15 回 木構造 (14) 枠組壁工法 (2 × 4 工法) ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合があります。
成績評価	定期試験の結果 (40%) 授業レポート提出状況・内容 (60%)
教科書	『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 木造住宅』 大野隆司著 エクスナレッジ
参考書 参考資料	必要に応じて資料を講義中に適宜配布する
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	1 講義 (1 コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：0.5時間 (テキストの次回講義部分を読む) 復習：4.0時間 (授業ノートの整理等)
関連科目	「建築材料」、「建築生産論」、「構法計画Ⅱ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	

講義名	色彩理論演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 加納 奈都	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	AdobeIllustratorを用いて実践的に制作をしながら、色彩理論の基礎的な知識を理解することを目的とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	色彩は、制作や表現において非常に重要な要素。 この授業では、Adobe Illustratorを使用し、様々なテーマや条件が指定された課題を通して、「色の性質」や「色による効果」を理解し、その目的に応じた色彩構成技術、色彩表現技術を習得する。日常生活の中で普段目にしている街中の風景、身につけているもの、有名な絵画や本、SNSなどのインターネットなどの視覚的情報を「色」で捉え、なぜその色が使われているのかを考える。様々な課題をこなしながら自分がどういう色彩に興味があるのか、目をひく色彩とはどういうものか、色が持つ力を理解しながら多角的に色を捉えられるよう学習していく。
授業計画 授業内容	全15回 1回/1コマ 第1回 【オリエンテーション】色彩について 第2回 【演習】好きなキャラクターのカラー分析 第3回 【実践練習1】 自己色彩分析 第4回 【実践練習2】 色彩構成「静」「動」 第5回 【実践練習3】 同系色・補色を学ぶ 第6回 【実践練習4】 アクセントカラーを学ぶ 第7回 【実践練習5】 同一トーンで配色 第8回 【実践練習6】 多色で配色 第9回 【実践練習7】 グレーケールで配色 第10回 【応用練習1】 感覚と色-① 第11回 【応用練習2】 感覚と色-② 第12回 【最終課題】 条件指定のある〇〇 第13回 【最終課題】 制作日 第14回 【最終課題】 制作日、提出日 第15回 【最終課題】 合評会 ※毎回練習課題を行いながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。
成績評価	・学習状況（出席、受講態度を含む）30% ・課題提出（全課題の提出、クオリティ）70% 以上を総合して評価する。
教科書	毎回必要に応じてデータ、もしくは資料を配布する。
参考書 参考資料	見て分かる、迷わず決まる配色アイデア「3色だけでセンスのいい色」Part 1 見て分かる、迷わず決まる配色アイデア「3色だけでセンスのいい色」Part 2 ※必要に応じて授業内で紹介する。

履修上の注意	毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 マウスの使用は任意ですが、使用を推奨します。 受講前に必ずAdobe Illustrator、Photoshopのインストールをしておくこと。 アプリケーション設定時に必要なID, パスワードは必ず忘れないように保存、保管しておくこと。
予習・復習指導	・1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 ・授業で学んだ操作方法を用いて作品作りやコンペなどに活用すること。 ・日常生活の中でのなるべく「色」に目を向け、その色を使用している意味を考えてみること。 ・課題で作成した制作物はしっかりと整理し、まとめておくこと。
関連科目	「情報基礎演習」「コンピュータデザイン演習」
課題に対するフィードバックの方法	毎回授業内にて適宜対応する。 課題内容により、クラスルーム内でもコメントし対応する。
教員の実務経験	加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 宮内芳代子：木版画及び、デジタルツールを使用した書籍の装画、挿絵の制作。また、動画広告やWEB広告のデザインの実務経験。 田中秀和：抽象画家・映像演出（VJ）視覚平面作品を中心に、コマーシャルギャラリー等で作品発表、作家歴25年
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	近代建築史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 基幹科目、 建築学部：美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見 将敏	K Y O B I 建築学部

到達目標	① 現代までに至る、建築・都市の近代化過程についての大枠・流れを理解すること。 ② ①の理解に際し、建築家・建築作品のみに着目せず、その背景（地理・社会・文化など）をふまえて考察できるようになること。 本科目は、DP2-1～3に該当する。
授業概要	現在の建築環境に関わる、建築・都市の近代化過程についての講義を行う。近代化過程の内容を理解するには、建築の歴史を単なる様式史として捉えずに、建築の生産の技術（計画・設計・施工等）を様々な面（思想、価値観、社会制度等）から捉えることが重要である。また、各国・地域の様々な試みを捉えることも同様に重要である。上記の視点から、代表的な建築家とその作品の紹介（図面・写真等）をふまえながら、近代の始まりから現代に至るまでの流れを解説する。講義は、大きく4つ（ブレ・モダニズム、モダニズム、ポスト・モダニズム、そして日本の近現代建築）に分けて解説していく。
授業計画 授業内容	全15コマ 1. ガイダンス / ブレ・モダニズム（1）工業化時代の建築と技術 2. ブレ・モダニズム（2）近代建築における伝統性と近代性 3. ブレ・モダニズム（3）世紀末ヨーロッパの建築 4. モダニズム（1）建築のアヴァンギャルド 5. モダニズム（2）大量生産社会の建築 6. モダニズム（3）アメリカにおける近代建築 7. モダニズム（4）近代を代表する建築家1 8. モダニズム（5）近代を代表する建築家2 9. モダニズム（6）近代建築の成立と成熟 10. モダニズム（7）近代建築のひろがりと変容 11. ポスト・モダニズム（1）近代建築への懐疑と超克 12. ポスト・モダニズム（2）建築のポスト・モダン／21世紀の建築 13. 日本の近現代建築（1） 14. 日本の近現代建築（2） 15. 日本の近現代建築（3） ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期テスト(60%) 及び小レポート(40%)により総合的に評価する。
教科書	本田昌昭、末包伸吾『テキスト建築の20世紀』
参考書 参考資料	鈴木博之著『近代建築史』、中谷礼仁著『実況 近代建築史講義』
履修上の注意	講義では、西洋・日本近代の大まかな流れにポイントを絞って解説する。そのため、建築家・建築作品等の詳細な内容については、教科書や参考書、その他の書籍から情報を自発的に得ること。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：教科書の熟読。 復習：講義内容の整理、また興味を持った内容について書籍等で理解を深めること。
関連科目	「日本住居史」「日本建築史」「世界建築史」
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う予定。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。 その経験を生かし本授業では、建築設計・意匠的視点から代表的な建築作品や歴史の流れを解説する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-MA205L、AATDE203L

講義名	デザイン作図演習（Aクラス）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 秀和	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	Adobe After effectsの基礎的な操作方法からモーショングラフィックス、アニメーションの制作を習得することを目標とする。 Autodesk社の3Dアプリケーション「Fusion360」の操作方法を習得し、デザイン、造形設計など、3Dでの表現方法を習得することを目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	AfterEffectの基本的な操作方法の習得に向けて毎回簡単な練習素材を用いながら色々な機能を身につけていく。モーショングラフィックス、アニメーションを使用し、視覚的な要素を駆使して情報やストーリーを伝える手法を学び、映像を通じて効果的なコミュニケーションを実現していく。 3次元CADソフトFusion360の活用方法、モデリング技術を学ぶ。 授業では、まず、基本的な操作方法を学ぶため、1つ1つの機能を色々な形状を作りながら学んでいく。 この工程を体験することで自分がモノを造る時の細かい注意点に気づくことができるようになる。 モデリングに慣れてきたらマテリアル素材を適用させ、よりリアルに見せる方法を知る。 最終的にプロダクトだけでなく、室内空間など含めた制作をする。 3Dプリンターへの接続方法や出力方法も学べるため、平面でも立体でも「見せる」「伝える」ための手段を増やすことが可能となる。
授業計画 授業内容	全15回 1回/2コマ 第1回 オリエンテーション クラス分けと準備（インストールなど） After Effects & Premier Pro 第2回 After Effectsの基本と、簡単なシェイプアニメーション【Ae】 第3回 Sayberを使ったアニメーション【Ae】 第4回 人物アニメーションの制作【Ae】 第5回 10秒アニメーションの制作（3Dカメラの基本）【Ae】 第6回 10秒アニメーションの制作（3Dカメラの基本）【Ae】 第7回 Premier Proの基本【Pr】 第8回 Premier ProでMVを作ろう【Pr】 Fusion360 第9回 【基本操作1】 画面操作・基本操作・モデリング基礎・データの管理方法 第10回 【基本操作2】 スケッチの役割 第11回 【モデリング基礎1】 形状の作り方・形状の変形 第12回 【モデリング基礎2】 滑らかな造形のモデリング 第13回 【モデリング基礎3】 レンダリング基礎 第14回 【モデリング基礎4】 3Dプリンター・図面 第15回 【作品制作】 ※毎回練習課題を行いながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。
成績評価	・学習状況（出席、受講態度を含む）30% ・課題提出（全課題の提出、クオリティ）70% 以上を総合して評価する。

教科書	毎回必要に応じてデータ、もしくは資料を配布する。
参考書 参考資料	Fusion360操作ガイド ベーシック編三谷大暁（著）、別所智広（著）、坂元浩二（著）カットシステム
履修上の注意	毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 マウスの使用は任意ですが、使用を推奨します。 アプリケーション設定時に必要なID、パスワードは必ず忘れないように保存、保管しておくこと。 データはクラウド上で作成、管理するため、Wi-Fi環境の整った場所で制作すること。
予習・復習指導	・ 1 回に対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 ・ 授業で学んだ操作方法を用いて独自の作品を作成すること。 ・ 課題のアレンジは進んでやること。 ・ 課題ごとに試作したものは必ず整理し、まとめておくこと。
関連科目	IT活用応用演習
課題に対するフィードバックの方法	毎回授業内で、適宜対応する。また必要に応じてクラスルームにてコメントする。
教員の実務経験	田中秀和：抽象画家・映像演出（VJ）視覚平面作品を中心に、コマーシャルギャラリー等で作品発表、作家歴25年
教員の实務経験有無	有

講義名	デザインと法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山下 晃男	K Y O B I 建築学部

到達目標	デザインに関する著作権をはじめとした知的財産法その他の関係法令の概要及び契約をはじめとする法律関係の概要を理解し、自らのデザインを適切に保護する方法、デザインに関する仕事に携わる中で想定される法的トラブルを予防、適切に対応できる方法を学習する。 この科目は、DP1-1, DP1-2, DP2-1, DP2-2に該当する。
授業概要	デザインを作成するにあたり関係する基本的な法律を解説する。具体的には、著作権法、意匠法、商標法、不正競争防止法、特許法、実用新案法などのデザインに関係する知的財産法や、その周辺の法律として、民法、個人情報保護法などを解説する。 また、デザインに関する仕事に携わるなかで、自らのデザインに関する権利を適切に守ることやトラブルを予防し、万が一トラブルに巻き込まれてしまった場合に適切に対応する方法を学ぶため、契約の読み方などの契約に関する基本的な事項、トラブルが生じてしまった場合の対応方法などを解説する。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション：本講義及び本講義で取り扱う事項の概要 第2回 著作権法 1 基礎編：著作権法の概要、成立要件、保護対象 第3回 著作権法 2 応用編：著作権法に関するトラブル事例の検討 第4回 意匠法 1 基礎編：意匠法の概要、成立要件、保護対象 第5回 意匠法 2 応用編：意匠法に関するトラブル事例の検討 第6回 商標法 1 基礎編：商標法の概要、成立要件、保護対象 第7回 商標法 2 応用編：商標法に関するトラブル事例の検討 第8回 特許法・実用新案法 1 基礎編：特許法・実用新案法の概要、成立要件、保護対象 第9回 特許法・実用新案法 2 応用編：特許法実用新案法に関するトラブル事例の検討 第10回 不正競争防止法 不競法の概要、成立要件、保護対象、トラブル事例の検討 第11回 その他周辺の法律：民法、個人情報保護法など 民法、個人情報保護法の概要 第12回 法的トラブルの概要及びその対応方法 第13回 契約 1 基礎編：契約の概要、読み方、成立要件 第14回 契約 2 応用編：具体的な契約の検討 第15回 まとめ 講義の総復習
成績評価	レポート（4回程度）：40%、受講態度：60%により評価を行う。 レポートの内容は講義中及び配布資料において説明する。
教科書	なし。
参考書 参考資料	・デザインと知的財産法実務（民事法研究会） ・クリエイター六法（翔泳社） その他講義中に紹介する
予習・復習指導	・予習：配布資料を講義前に確認し概要を把握すること。 ・復習：1コマにつき、4時間の復習を行うこと ・自らがデザインを作成する場合にどのように関係してくるか考えること。
関連科目	生活と法律
課題に対するフィードバックの方法	レポートや質問に対するフィードバックを講義中に行う。
教員の実務経験	国立大学法務部門及び法律事務所において約12年知的財産に関する契約審査、契約交渉などの法律業務に従事している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	伝統絵画技法Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長谷川 雅也	KYOB I 芸術学部

到達目標	より高度な伝統絵画技法を身につける。 ・基底材とその性質について理解する。この科目はDP1-1、DP1-3に該当する。
授業概要	「伝統絵画技法Ⅰ」と同様に伝統的な日本における絵画は、古くは中国絵画等の影響を強く受けながら独自の発展を遂げてきた。明治以降、西洋画の流入により「日本画」というカテゴリーの中で制作されるようになってからも西洋の絵画理論とは異なる「写意・写生」の意識や伝統的絵画技法を保ち続けている。本科では「伝統絵画技法Ⅰ」で習得した描法をもとに、古典絵画に準ずる画材に触れ実技制作を行い伝統的絵画技法が現代においても引き継がれ息づいている事を実践し、リアルな感覚を実感し理解を深める。基本素材の紙面(和紙)に加えて異素材の木製素材をしようし経験値を増やす事を目的とする。
授業計画 授業内容	全15回 第1回日本画画材を用いた課題制作① 一写生から基本的な行程を経て仕上げへ① 第2回日本画画材を用いた課題制作② 第3回日本画画材を用いた課題制作③ 第4回日本画画材を用いた課題制作④ 第5回日本画画材を用いた課題制作⑤ 第6回日本画画材を用いた課題制作⑥ 第7回日本画画材を用いた課題制作⑦ 第8回日本画画材を用いた課題制作⑧ 第9回日本画画材を用いた課題制作⑨ 第10回日本画画材を用いた課題制作⑩ 第11回日本画画材を用いた課題制作⑪ 第12回異素材への制作① (木製団扇) 第13回異素材への制作② 第14回異素材への制作③ 第15回異素材への制作④
成績評価	課題制作に取り込む姿勢と作品の完成度によって評価する。
教科書	なし
参考書 参考資料	必要に応じて適時資料を提示する
履修上の注意	「伝統絵画技法Ⅰ」を履修しておく事が望ましい。購入道具、一覧表の中で手持ち画材で代用できるものは使用可。 授業材料については必須。
予習・復習指導	授業の進行によりおくれが生じた場合は、自主的に次回までに課題制作を進めておく。課題作品の提出を厳守する。
関連科目	「伝統絵画技法Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	実習、演習課題ごとに講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	公益社団法人 日展特別会員 日春会会員、京都日本画家協会会員、日本美術家連盟
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	文 献 ・ 絵 画 史 料 概 論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山 克	K Y O B I 芸術学部

到達目標	私たちは遠い過去を体験することはできません。それはもう「ない」からです。しかし史料が残っていれば、歴史像を組み立てることができます。この授業では史料をあつかう技法を学びます。(DP1-1・DP1-2、DP2-1・DP2-2)
授業概要	史料は歴史資料の略語です。つまり過去の歴史像を組み立てるために、私たち歴史家が使う「昔の人」の残したものの全てです。古文書・古記録・典籍など文字史料が代表的なものになりますが、一方で絵画も重要な史料になります。絵画を窓に見立ててみましょう。その窓には複雑なブラインドが下りています。向こうは見えません。一つの絵画を読み解くのも同じです。どう読み解いたら向こうに何が見えるのか。そこにどんな歴史の風景が広がっているのか、この授業では絵画を史料に、読みの模索をしてみましょう。
授業計画 授業内容	1 「昔の人」と五感を共有する 2 護符の絵像 姫魚とアマビエ 3 絵巻物①『春日権現験記絵』 4 絵巻物②『百鬼夜行図』 5 絵巻物③『道成寺縁起絵巻』 6 絵巻物④『絵師草紙』 7 肖像画①神護寺藏「伝源頼朝像」 8 肖像画②清浄光寺藏「後醍醐天皇像」 9 地獄絵 「熊野観心十界図」の絵解き 10 垂迹画 「北野曼荼羅図」 11 縁起絵 「伊勢曼荼羅図」 12 参詣曼荼羅図①「善光寺参詣曼荼羅図」 13 参詣曼荼羅図②「清水寺参詣曼荼羅図」 14 絵馬 扁額絵馬の世界 15 絵画を史料としてどのように読むか
成績評価	授業ごとのコメントシート（30％） 期末レポート（70％）
教科書	指定しません。
参考書 参考資料	西山克 正統『中世ふしぎ絵巻』
履修上の注意	絵画を史料として読み込むには、読みの作業を何度も繰り返す必要があります。
予習・復習指導	授業ごとに使用したデータの主要部分をクラスルームにアップするので、予習・復習に活用してください。
課題に対するフィードバックの方法	授業ごとのコメントシートについて、感想や指摘をまとめて、授業内で報告します。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	I T活用応用演習（Aクラス）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 秀和	K Y O B I 芸術学部
講師	加納 奈都	K Y O B I 芸術学部
助教	百田 聖一	K Y O B I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	K Y O B I 芸術学部

到達目標	①Adobeのモーショングラフィックスやビジュアルエフェクトが作成できるafter effectsと動画編集に特化したPremierProの基礎的な操作方法、動画作成方法、編集方法を習得することを目標とする。 ②3DCGソフトMayaの使い方を習得し、Mayaを使って自分のイメージする形をモデリングできるようになる。さらにそれらのモデルを使ってアニメーションを作れるようになる。 ③インテリア・建築の表現方法の一つであるCADソフトの使い方を学ぶ。身近にあるインテリア作品、建築作品をCADを使いトレースすることで、基本的な操作方法の習得を目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	①AfterEffectの基本的な操作方法の習得に向けて毎回簡単な練習素材を用いながら色々な機能を身につけていく。また作成した映像とPremire Proとの連携方法の習得を目指す。映像の加工やモーショングラフィックスを使用し、視覚的な要素を駆使して情報やストーリーを伝える手法を学び、映像を通じて効果的なコミュニケーションを実現していく。 ②3DCGソフトMayaの使い方を学び、3DCGのモデリングとアニメーションの技術を習得する。ポリゴンモデリング、質感設定、照明、レンダリング（最終画像生成）、アニメーションを学ぶ。3DCGの表現を学ぶことで広く造形センスの向上を目指す。3DCGの技術習得そのものを目的にしてもよいし、3DCGをツールとして使い自身の専門分野の造形表現を目指してもよい。 ③CADソフトの使い方を習得するために、身近にある家具の作図から始め、インテリア空間の作図、建築作品のトレースと少しずつスケール感を変えた作図を行っていく。手書きの図面と同じように、さまざまなスケール感を体験することでCADソフトのメリットとデメリットを把握し、操作方法の習得へと繋げる。同時に、PCを使ったデータのやり取りなど、実社会で行われているデータ管理に関する基礎知識も習得していく。
授業計画 授業内容	全15回/1回2コマ ※この授業は下記①②③の3つのクラスの中から1つ選択し、その選んだクラスの授業を15回受講する。 （途中からのクラス変更はナシ） ①AfterEffectクラス 第1回 【オリエンテーション】 AfterEffectとPremire Proインストール 第2回 【AfterEffect基礎知識①】 便利ツールのインストール、名前アニメーション 第3回 【AfterEffect基礎知識②】 エフェクト使ってみよう 第4回 【AfterEffect基本操作①】 シェイプアニメーション 第5回 【AfterEffect基本操作②】 オリジナルイラストでアニメーション 第6回 【AfterEffect基本操作③】 モーショングラフィックスを学ぶ 第7回 【AfterEffect基本操作④】 3Dカメラを使ってみよう 第8回 【AfterEffect基本操作⑤】 まとめ（ここまでの復習） 第9回 【AfterEffect基本操作⑥】 Premire Proとの連携 第10回 【AfterEffect基本操作⑦】 2D写真を3Dへ 第11回 【AfterEffect基本操作⑧】 最終課題テーマ発表 アイデア出し 第12回 【AfterEffect応用】 最終課題素材集め 第13回 【AfterEffect応用】 最終課題制作日 第14回 【AfterEffect応用】 最終課題制作、提出日 第15回 【合評会】

	②MAYAクラス 1. 3DCG概説、Maya基本 2. ポリゴンモデリング基本1 3. ポリゴンモデリング基本2 4. ポリゴンモデリング 実習1 コロ助を作る 5. ポリゴンモデリング 実習2 ポケモンを作る 6. ポリゴンモデリング 実習3 コーヒーカップ、部屋を作る 7. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 1 8. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 2 9. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 3 10. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 4 11. 質感設定、照明、レンダリング 12. アニメーション基本 13. アニメーション バウンドするボール 14. アニメーション キャラクターアニメーション1 15. アニメーション キャラクターアニメーション2 ③CADクラス # 1 : CADの概要説明、設定について、課題1「家具の作図（手書き S= 1 / 5）」 # 2 : 課題1「家具の作図（CAD S= 1 / 5）」* # 3 : 課題2「自分の部屋の作図（手書き+CAD S= 1 / 30）」 # 4 : 課題2「自分の部屋の作図（CAD・平面図 S= 1 / 30）」 # 5 : 課題2「自分の部屋の作図（CAD・展開図 S= 1 / 30）」 # 6 : 課題2「自分の部屋の作図（CAD・展開図 S= 1 / 30）」* # 7 : 課題3「住宅作品の解説」 # 8 : 課題3「住宅作品の作図（CAD・平面図 S= 1 / 100）」 # 9 : 課題3「住宅作品の作図（CAD・平面図 S= 1 / 100）」 # 10 : 課題3「住宅作品の作図（CAD・平面図 S= 1 / 100）」 ※①～③全てのクラスにおいて理解状況に応じて、適宜内容や順番を調整、変更する場合があります。
成績評価	①AfterEffectクラス：学習状況、授業態度30%（出欠を含む）、課題提出70%で成績評価を行う。 ②MAYAクラス：学習状況、授業態度30%、課題提出70%で成績評価を行う。 ③CADクラス：毎回の講義後に提出する途中経過の状況（50%）課題の提出状況（50%）
教科書	①AfterEffectクラス：毎回必要に応じて資料をデータ配布。 ②MAYAクラス：毎回必要に応じて資料をデータ配布。 ③CADクラス：ベクターワークスパーフェクトバイブル2023 / 2022対応 ※購入は任意。必要な資料は適宜配布。
参考書 参考資料	①AfterEffectクラス：図解できちんと理解するAfter Effects モーショングラフィックスパーフェクトガイド 石坂アツシ（著）、山下大輔（著）ラトルズ ②MAYAクラス：Autodesk Maya トレーニングブック 第4版 出版社：ポーンデジタル ③CADクラス：住宅巡礼（中村好文）、住宅巡礼ふたたび（中村好文）など
履修上の注意	①AfterEffectクラス ・毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 ・わからないことはメモをとり、必ず調べておくこと。 ・作成したデータは毎回必ずまとめておくこと。 ②MAYAクラス ・毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 ・作成したデータは毎回必ずまとめておくこと。 ③CADクラス 手書き及びPCを使った実習を行います。筆記用具、スケッチブック、PCを持参すること。また、CADソフトは指定のソフトをPCにインストールしてから講義に臨むこと。
予習・復習指導	①AfterEffectクラス ・1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 ・目に止まった映像作品などがあったら参考にし、どう作られているのかを考えてみること。 ②MAYAクラス ・1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 ・気になる映像作品やモデリングに対しよく観察することを心がけること。 ③CADクラス 1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 事前学習：事前に指示するテキスト該当部分の操作を試し、不明点を明確にしておく。 復習：講義で行った作業を反復することで、操作方法を習得しておく。
関連科目	「デザイン作図演習」「専門実習Ⅰ」「専門実習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	①AfterEffectクラス：授業内で適宜対応する。また必要に応じてクラスルームにてコメントする。 ②MAYAクラス：授業内で適宜対応する。 ③CADクラス：講義ごとにまとめと質疑応答を行う。また、課題ごとに講評・質疑応答等を行う
教員の実務経験	加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 田中秀和：抽象画家・映像演出（VJ）視覚平面作品を中心に、商業ギャラリート等で作品発表、作家歴25年 宮内芳代子：版画家・イラストレーター（雅号：水口かよこ）の活動と並行して文房具メーカー、WEB広告代理店でのデザイナー職を経て独立。 木版画制作、書籍の装画・挿絵、広告デザイン、動画広告を手掛ける。
教員の実務経験有無	有

講義名	建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 根来 宏典	K Y O B I 建築学部

到達目標	建築物の設計に必要なとなる材料選定の基本を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2 に該当する。
授業概要	古来、素材を活かした建築手法が伝統的に継承されてきた。それら技術の発達によって新しい建築表現へと繋がっている。建築は言うまでもなく素材や材料を組み合わせでつくられる。設計図を描くうえで、材料のことを知らずして、リアリティのある設計は行えない。デザイン、構造、施工、環境といった建築のすべての分野と強く関連しているのが建築材料である。材料の歴史、特徴、性質、種類、使い方への見識を深めることにより、設計の魅力と可能性を学んでいく。その学ぶことと実社会との間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。
授業計画 授業内容	第1回 建築材料概論 第2回 木材についての講義① 第3回 木材についての講義② 第4回 木質材料についての講義 第5回 植物材料についての講義 第6回 金属材料（スチール・ステンレスなど）についての講義 第7回 非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）についての講義 第8回 コンクリートについての講義 第9回 セメント・コンクリートについての講義 第10回 石についての講義 第11回 土・漆喰・石膏についての講義 第12回 焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）についての講義 第13回 ガラス、プラスチックについての講義 第14回 レポート発表会 その1 第15回 レポート発表会 その2
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香葉子、他著「建築材料 新テキスト」彰国社
参考書 参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	建築施工法
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験	建築家としてアトリエ系設計事務所を構えて22年の教員が担当する。素材の探求を通じて、職人文化と現代の暮らしを紡ぐ建築のあり方を追求しており、その実務経験を活かしたリアリティのある教育を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA211L

講義名	建築法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 余谷 和則	KYOB I 建築学部
非常勤講師	山木 辰哉	KYOB I 建築学部
非常勤講師	寺本 健三	KYOB I 建築学部
非常勤講師	藤井 茂	KYOB I 建築学部

到達目標	建築基準法及び関連規定の主旨や背景を学び、論理解釈及び文理解釈の法文読解力を養う。 更に、これらの規定を正しく読みこなし、設計や施工に活用できる能力を養うことを目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築の実務に携わっていくには、建築基準法をはじめとした様々な法的規制（ルール）を知ることが必要である。 本講義では、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する基準を定めた建築基準法を中心に、建築物を建築する際に遵守すべき法的規制の基本的な事項やその背景について説明する。 個々の建築物を地震や火災等から守り、その建築物を利用する人々の生命、健康、財産を守る観点から定めた規制、都市計画的な建築物の秩序という観点から定めた規制の他、最新の動向や景観条例などについて学ぶ。 法体系を知り、法律独特の表現方法の読み方に慣れてもらうため、適宜法令集を手にしなが、講義を行う。
授業計画 授業内容	※オムニバス方式により実施します 第 1 回 ガイダンス、法律の歴史及び概要、用語の定義 【余谷】 第 2 回 建築基準法 : 制度規制（手続き等） 【余谷】 第 3 回 建築基準法 : 単体規定①（採光、換気、シックハウス） 【余谷】 第 4 回 建築基準法 : 単体規定②（天井の高さ、階段の寸法、建築設備） 【余谷】 第 5 回 建築基準法 : 単体規定③（防火規定 1） 【藤井】 第 6 回 建築基準法 : 単体規定④（防火規定 2） 【藤井】 第 7 回 建築基準法 : 単体規定⑤（避難規定 1） 【藤井】 第 8 回 建築基準法 : 単体規定⑥（避難規定 2） 【藤井】 第 9 回 建築基準法 : 集団規定①（敷地と道路、用途制限） 【余谷】 第 10 回 建築基準法 : 集団規定②（面積制限） 【余谷】 第 11 回 建築基準法 : 集団規定③（高さ制限） 【余谷】 第 12 回 建築基準法 : 単体規定⑦（構造強度） 【山木】 第 13 回 建築基準関係規定等 【余谷】 第 14 回 景観条例等 【寺本】 第 15 回 演習 【余谷】
成績評価	受講態度（45%）及び定期試験（55%）により総合的に評価する。
教科書	①井上建築関係法令集（井上書院） ②図説 やさしい建築法規（学芸出版社）
参考書 参考資料	必要に応じ、講義で適宜配布する。
履修上の注意	建築に携わっていく上で必要な知識であり、意欲的に臨むこと。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4時間の復習をすること。 学んだ内容を必ず法令集で確認し法律独特の表現方法に慣れ、法令集で内容が理解できる努力をすること。 法令集を読み、図面や実際の建築物を視ることで、知識の定着を図ること。
関連科目	建築に関する科目全般
課題に対するフィードバックの方法	質問等がある場合、次回以降の講義で解説する。
教員の実務経験	京都市役所で建築行政に携わる 株式会社 京都確認検査機構で建築確認の審査・検査、省エネ適判審査に携わる
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	建築構造力学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講・演
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 竹脇 出	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部

到達目標	力学理論の基盤を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築構造力学Ⅰで習得した自由体の考え方を利用して、静定トラスに生じる部材力の算出方法（節点法、切断法）について学ぶ。次に、単純梁や片持梁などの曲げ部材について、断面１次モーメントや断面２次モーメントの算出法について学び、断面に生じる垂直応力（応力度）およびせん断応力（応力度）の算定方法を身に付ける。また、許容応力度設計、梁のたわみの計算（モールの定理）、柱の座屈荷重の計算など、構造設計における必要知識を習得する。授業の特色として、微積分の考え方をいなくても、力の釣合いのみから梁のたわみやたわみ角を求める方法を習得する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 トラス構造物の部材に生じる力／トラス構造物の部材力の計算 (1)＜節点法 1＞ 第 2 回 トラス構造物の部材力の計算 (2)＜節点法 2＞ 第 3 回 トラス構造物の部材力の計算 (3)＜切断法 1＞ 第 4 回 トラス構造物の部材力の計算 (4)＜切断法 2＞ 第 5 回 断面諸量 (1) 断面 1 次モーメントと図心 第 6 回 断面諸量 (2) 断面 2 次モーメントと応力（応力度） 第 7 回 断面力と応力／応力の計算 (1) 第 8 回 応力の計算 (2) 第 9 回 応力の計算 (3) 第 10 回 応力の計算 (4) 第 11 回 梁のたわみの計算 (1) 第 12 回 梁のたわみの計算 (2) 第 13 回 梁のたわみの計算 (3) 第 14 回 梁のたわみの計算 (4) 第 15 回 座屈現象と座屈荷重 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	出席および演習物の提出（60%）、定期試験（40%）に基づき行う。
教科書	スタンダード 建築構造力学 学芸出版社 ISBN 978-4-7615-2841-6
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をすること。 （授業ノートの整理、前回演習課題の復習等）
関連科目	「建築構造力学Ⅰ」、「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	COM-MA213L

講義名	建築環境工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 橋本 頼幸	KYOB I 建築学部

到達目標	建築物の快適性、エネルギー効率、環境負荷の低減を考慮した設計・運用技術を習得し、実務に役立つ知識を身につけることをめざす。建物の空調、照明、音響、換気、温熱環境など、環境要素の調整方法を理解し、建築物が住む人々にとって快適で効率的な空間を提供できる能力を養う。また、建物の省エネルギー設計や再生可能エネルギー活用、環境負荷低減に関する最新技術を学び、持続可能な社会の実現に向けた技術的解決策を提案できる力を育む。さらに、建築環境に関連する法規制や標準、倫理的な問題についても理解を深め、現場での実践力を高めることを目指す。受講生が環境に配慮した建築技術を駆使し、社会的・経済的に優れた建築環境を提供できる能力を身につけることを目的とする。 本科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築空間における快適性と環境負荷低減の両立を目指し、建築環境工学の基礎理論と応用を学びます。人間が快適に過ごせる室内環境を実現するための温熱環境、光環境、音環境、空気環境について、物理的・工学的観点から理解を深めます。 主な内容として、以下のテーマを扱います。 温熱環境：熱移動の基礎、断熱・日射遮蔽技術、空調の基礎 空気環境：換気計画、空気質の評価と制御 光環境：自然採光と人工照明、視環境の評価手法 音環境：建築音響の基礎、防音・吸音設計 また、省エネルギー技術や再生可能エネルギーの活用、環境負荷低減の手法についても学びます。
授業計画 授業内容	建築内外の快適な環境条件について理解し、計画設計に応用する能力を養うため、熱、空気、日照、音環境などについて毎回具体的な問題演習をしながら習得する。 全15回 1. 建築環境工学とは 2. 熱環境1—伝熱、熱貫流 3. 熱環境2—壁体各部の温度、断熱 4. 熱環境3—空気線図、結露、温熱感 5. 空気環境1—空気汚染物質、換気 6. 空気環境2—通風、換気的方式 7. 日照と日射1—太陽の位置、隣棟間隔 8. 日照と日射2—日射の種類、日照調整 9. 採光、照明と色彩1—視環境、採光の方法、昼光率 10. 採光、照明と色彩2—照明方式、照明計算 11. 採光、照明と色彩3—色彩、色の3属性、色彩調節 12. 音環境1—音の性質、音の量と単位、騒音 13. 音環境2—騒音防止 14. 音環境3—遮音と吸音、室内音響 15. まとめ
成績評価	提出課題(20%)および期末試験(80%)
教科書	基礎力が身につく 建築環境工学(森北出版株式会社)
参考書 参考資料	エース建築環境工学<1><2>(朝倉書店)
履修上の注意	講義を通して学んだことは、実生活を通して観察、体験および計算をすることで理解を深めること。
予習・復習指導	教科書の当該部分を読み、環境工学が建築にどう生かされているかを実物を見て調べておくこと。一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築設備」他建築関連科目
課題に対するフィードバックの方法	出席プリントに記載された質問などは、次回以降の授業で解説・説明する。
教員の実務経験	建築設計事務所(意匠系)22年経営、建築設計事務所(設備系)7年経営
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	文化財情報デザイン論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 田中 正流	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	前田 尚武	KYOB I 芸術学部

到達目標	・文化を伝える装置としてのミュージアムについての理解を深める。 ・建築文化の魅力を読み解き、社会的・文化的背景や文脈を理解する力を養う。 ・観光における文化財の価値と保存活用的重要性と可能性に対する理解を深める。 本科目は、DP1-1、1-3に該当する。
授業概要	ミュージアムは、有形・無形の文化を資料として収集・保管し、安全に守るとともに、調査・研究を通じてその価値を見出し、展示や教育の場として活用する施設である。本講義では、ミュージアムがどのような理論に基づいて建築されるのかを理解する。 また近代以降に建てられた京都のモダン建築をフィールドワークし、建築文化の魅力を読み解くとともに、文化財建築が都市の活性化に果たす役割について考察する。さらに、文化財そのものを正しく理解し、コレクションの価値を高める方法を学ぶ。これらを系統的に展示し、情報化して発信することで、過去から現在、現在から未来へと文化を継承するための理論と方法論の重要性を探る。
授業計画 授業内容	全15回 第01回 ガイダンス 講師・自己紹介、文化財情報デザイン論とは 途中回 ミュージアムの舞台裏 美術館・博物館建築論 途中回 建築展の舞台裏 「モダン建築の京都展」から「京都モダン建築祭」へ：文化財建築による都市の活性化 途中回 フィールドワーク① モダン建築を観る、読み解く、楽しむ：美術館・博物館の見学 途中回 建築鑑賞術 モダン建築街歩きオーディオガイド「モダン建築クロニクル」課題について 途中回 フィールドワーク② モダン建築街歩きオーディオガイドを活用した自主見学 途中回 文化財の種類について 有形・無形の文化財について 途中回 文化財そのものを護る 伝統的な文化財保存技術 途中回 文化財の価値観を護る 保護し活用する 途中回 フィールドワーク③ 美術館・博物館の見学 第15回 総評 ※スケジュールや内容は変更ある場合があります。
成績評価	・積極的な授業参加姿勢とコメントシートでの学びの振り返り：40% ・課題（見学レポート）：60%
教科書	・『モダン建築の京都100』石田潤一郎・前田尚武編著 発行：Echelle-1 2021年 ・その他 必要に応じて適宜資料を配布
履修上の注意	・内容・スケジュールは変更になることがあります。 ・ミュージアム見学は、土日休日に2回連続で振替実施することを予定しています。 ・入館料など個人負担が発生する場合があります。

予習・復習指導	事前学習) 関連する講義テーマに対して、インターネット等で資料検索し、自分なりの考え方を持って授業に臨むこと。(各回60分程度) 事後学習) 授業のコメントシート(文字数自由)を提出。(各回30分程度)
関連科目	文化財情報デザイン論Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前、または次回の授業開始時に全体に向けた総評を行う。
教員の実務経験	実務経験教員が担当 田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる学芸員の实務経験(30年間)を活かして、学生に伝授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	文化財情報デザイン論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 田中 正流	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	前田 尚武	KYOB I 芸術学部

到達目標	・企画力（リサーチ力、文章力、撮影力、編集力、デザイン力、プレゼンテーション力）を習得。 ・進行管理能力（合理性と計画性）の習得。
授業概要	美術館や博物館では、多種多様な展覧会が開催されている。本講義では、展覧会を企画・開催するために必要なキュレーターの実践的スキルを学ぶ。具体的には、リサーチ力、文章力、撮影力、編集力、デザイン力、プレゼンテーション力、さらに進行管理能力について理論と手法を習得する。 また、講師自身が手掛けた展覧会の事例として、平等院ミュージアム鳳翔館で開催された国宝・平等院鳳凰堂の修理・復元事業や、宇治地域の歴史・文化に関する特別展、地域と共働した展示などを紹介する。これらを通じて、展覧会の企画過程、その後の地域への影響、さらには社会からの評価について考察する。 本科目は、DP1-2、1-3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第01回 ガイダンス 授業の進め方、課題説明（展覧会企画立案） 第02回 キュレーションの手法1 展覧会の種類、テーマ、タイトル、企画書のつくりにかた 第03回 キュレーションの手法2 企画書のつくりにかた、展覧会制作の業務とフロー 第04回 キュレーションの手法3 展覧会のメインビジュアルと広報展開 第05回 キュレーションの手法4 出版物の種類とデザイン・編集方法 第06回 キュレーションの手法5 ラーニング・プログラムとアウトリーチ活動 第07回 展覧会の事例1 国宝鳳凰堂の平成修理に関連する特別展 第08回 展覧会の事例2 創建当初の鳳凰堂復元に関連した特別展 第09回 展覧会の事例3 宇治地域の歴史・文化に関する特別展 第10回 展覧会の事例4 地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動 途中回 フィールドワーク モダン建築を観る、読み解く、楽しむ：明治村 第15回 プレゼンテーション 発表と講評 ※スケジュールや内容は変更ある場合があります。
成績評価	・積極的な授業参加姿勢とコメントシートでの学びの振り返り：40% ・成果物（課題）のクオリティとプレゼンテーション：60%
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
履修上の注意	・内容・スケジュールは変更になることがあります。 ・フィールドワークは、土日休日に複数回連続で振替実施することを予定しています。 ・入館料など個人負担が発生する場合があります。
予習・復習指導	事前学習）関連する講義テーマに対して、インターネット等で資料検索し、自分なりの考え方を持って授業に臨むこと。（各回60分程度） 事後学習）講義内容やフィールドワークを振りかえり、課題作成に取り組む。（各回1時間程度）
関連科目	文化財情報デザイン論Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前、または次回の授業開始時に全体に向けた総評を行う。
教員の実務経験	実務経験教員が担当 田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の実務経験（30年間）
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	インテリア設計		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	加藤 信喜	KYOB I 建築学部

到達目標	
履修上の注意	
予習・復習指導	
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	都市空間論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部

到達目標	都市空間は自然的要因と人工的要因により成立していることを理解すること。また、時代の価値の中で変化するものでもあることを理解し、演習や実習課題の前提条件として考慮できる能力を身につけることを目標とする。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本における都市空間の成り立ちや変遷について学び、現在の都市基盤の脆弱性を知ることに加えて将来の都市の在り方を考察することを目的とした授業である。学びのポイントは三つある。一つ目は、河川が存在が都市に大きく関係している点である。河川の性質が土砂を運び都市の土台である平地を生み出していること。そして河川を制御しなければ都市が存在できないことなどを学ぶ。二つ目は、産業と人口の関係が必然的に都市の位置を決めていること。特に農業の発生から集落の定着が起り、商品やサービスの提供が交易を中心とする都市を生み、工業の発展が大都市の形成を生むなど都市形態に産業が大きく関係していることを学ぶ。三つめは、災害との関係である。地震、洪水、火災などに対応し安全に暮らすには、どのような都市形態にすべきかなどを歴史的や技術的な観点から学ぶ。四つ目は技術の進歩によって大きく変化するライフスタイルが、都市の姿を変える可能性があることを学ぶ。特にオンラインによる職場の分散や物流の発展による空間の変化があげられる。そのような要因から将来の都市の姿を考察する必要があることを学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス/対象となる都市空間について 第2回 都市を取りまく環境についての概要（自然環境/人工的環境） 第3回 河川の作用と地形の関係について（流域形成など） 第4回 河川と集落の関係について 第5回 集落の発展と集落の産業（生業）について 第6回 市の発生と商品の流通について 第7回 人口の増加と統治の関係性について 第8回 空間概念の考察「うちとそと」 第9回 空間概念の考察「上下から宇宙へのまなざし」 第10回 都市形態の歴史的考察 第11回 災害発生時の都市の弱点の考察 第12回 都市の変化（自然と人工のバランス） 第13回 都市の空洞化（通信によるライフスタイルの変化） 第14回 都市の解体（都市の維持管理の限界） 第15回 都市の将来のありかた
成績評価	受講態度30%、レポート70%により評価する。
教科書	配布資料、映像等
参考書 参考資料	『風土』和辻哲郎 『作庭記』 田村剛 『日本建築史図録』
履修上の注意	常に自身の生活空間（屋外）とまちを比較する意識を頭置きながら授業を受ける。
予習・復習指導	「建築概論」「社寺建築論」「景観デザイン論」など
関連科目	「日本住居史」「社寺建築論」など
課題に対するフィードバックの方法	最終レポートのフィードバックによる。
教員の実務経験	デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、集落から都市までの空間形成の変遷、空間認識と空間設計の関係等について講義を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA321L

講義名	伝統建築環境学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOB I 建築学部

到達目標	私たちの暮す住環境は、人(社会環境)と物(人工環境)と自然(自然環境)の三者が関係して調和する、歴史的に形成した総体としての空間である。建築を人々の生活や活動を支える空間の側から考える時、人・物・自然、個々の課題や技術とは違った、その要因や意味合いが意識されてくる。それは単に物の持つ物理的な強度の他に、人の経験や心に受ける強度としてそのあるべき姿・形が問われる側面である。そうした空間の有り様を念頭に据えて景観デザインの持つ創作的な視界について思考を深めることを到達目標とする。 本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築空間の集積としての地域・都市の成り立ちを知ると共に、古代から現代まで地域・都市の形成過程に着目しながら歴史を振り返り、時代と社会が求めてきた環境はどのようなものかを解説する。特に、人(社会環境)の作る物(人工環境)が自然(自然環境)に影響を受けた状態に地域・都市の特徴すなわち景観は現れるのではないかと、という仮説に基づいて講義は展開する。そして、地域再生や歴史的景観を活かした街づくり等の事例を紹介する。講義はスライドを使用して行い、グーグルクラスルームも利用して配布資料や各種案内など受講生とのやり取りを行う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 第2回 町 家 第3回 民 家 第4回 民 家 第5回 格 子 第6回 格 子 第7回 庭 園 第8回 庭 園 第9回 起 源 第10回 住 居 第11回 環 境 第12回 内 外 第13回 田 園 第14回 東 西 第15回 南 北 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	評価ポイント：提出物など（30%）、期末レポート（70%）。
教科書	資料配布。
参考書 参考資料	「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編]及び[地域・都市Ⅱ～データ編]日本建築学会編 丸善(株) この他にも授業で適宜紹介。
履修上の注意	基礎教養として経済学、社会学、法学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、現代的問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」＋「構想力」）
予習・復習指導	講義をメモやスケッチしてオリジナルノートを作成する。その中で特に興味を持った事柄について深く調べることを心掛ける。

関連科目	「建築計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」他
課題に対するフィードバックの方法	期末試験／期末レポートに関してフィードバックをする場合は、コメント等を記載して返却する。
教員の実務経験	建築と都市、ランドスケープデザインの実務経験を活かし、伝統建築環境について論じる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-MA324L

＜芸術学部＞専門教育科目 D7. 美術工芸科目－展開科目

京都美術工芸大学シラバス〔2026 年度版〕

講義名	構法計画Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 展開科目、 建築学部：美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOB I 建築学部

到達目標	「鋼構造」・「鉄筋コンクリート」の構成を覚え、基本原理を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する
授業概要	空間の構成を考え、建築物として実現させるためには、建築の構造である「架構」が必要です。建築物の架構は重力や、地震、風等の自然の力に対して建築の空間を支持するための仕組みです。架構についての理解は、建築物を設計し、建築し、維持していくうえでとても重要であるといえます。建築物の架構には、主体構造の材料により木構造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造などがあり、さらにそれぞれ架構の構成方法により沢山の架構形式に分かれます。 本科目では、集合住宅で多用される鉄筋コンクリート造と商業建築の架構として一般的な鉄骨造について、その構成及び基本原理について学びます。さらに架構について理解するために鉄筋コンクリート造、鉄骨造の材料であるコンクリート、鋼材等についても学びます。また、架構以外の建築の構成要素として階段、建具、床・壁・天井等の造作や仕上げについて学びます。
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 鉄筋コンクリート構造 (1) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 2 回 鉄筋コンクリート構造 (2) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 3 回 鉄筋コンクリート構造 (3) 鋼材及びコンクリートの特徴 第 4 回 鉄筋コンクリート構造 (4) 配筋原理 第 5 回 鉄筋コンクリート構造 (5) 部材の設計 第 6 回 鉄筋コンクリート構造 (6) 部材の設計 第 7 回 鉄筋コンクリート構造 (7) 陸屋根の防水 第 8 回 鉄筋コンクリート構造 (8) 仕上げ等 第 9 回 鋼構造 (1) 鋼材の特徴／鉄骨造の基本構成 第 10 回 鋼構造 (2) ボルト接合部の設計 第 11 回 鋼構造 (3) 溶接接合部の設計 第 12 回 鋼構造 (4) 床スラブ・壁 第 13 回 壁式構造 補強コンクリートブロック造、壁式鉄筋コンクリート造 第 14 回 各部構法 開口部、階段 第 15 回 造作と納まり 和室の造作 ※学習の理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果 (40%) 授業レポートの提出状況・内容 (60%)
教科書	『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 RC造・鉄骨造』 大野隆司著 エクスナレッジ
参考書 参考資料	必要に応じて資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	1 講義 (1 コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：0.5時間 (テキストの次回講義部分を読む) 復習：4.0時間 (授業ノートの整理等)
関連科目	「建築材料」 「建築生産論」 「構法計画Ⅰ」 「建築構造力学Ⅲ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	

講義名	建築設備		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 橋本 頼幸	KYOB I 建築学部

到達目標	建物の機能性と快適性を支える基本的な設備システムに関する知識と技術を学ぶ。主に空調、照明、給排水、衛生設備、電気設備など、建築設備の主要な分野を網羅し、それぞれの設計方法、施工技術、維持管理について深く理解できるようにこころがける。具体的には、エネルギー効率を重視した設備の設計や、環境負荷を低減するための最新技術、建物の使用目的に応じた設備の選定方法を学ぶ。また、設備設計における法規制や基準、安全性、維持管理の重要性についても触れ、実務に即した知識を身につけるようにこころがける。受講生が建物の快適性と効率性を考慮し、建築設備の設計・運用に必要な基礎力を習得できることを目指す。 本科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築における各種設備の基本的な役割と設計・施工・維持管理の考え方を学びます。現代の建築に求められる快適性・安全性・省エネルギー性を実現するため、設備計画の重要性を理解し、建築設計との統合的な視点を養うことを目的とします。 授業では、以下の主要な建築設備について取り上げます。 給排水・衛生設備：水の供給と排水システムの設計、衛生設備の機能と維持管理 空調・換気設備：室内環境の快適性を確保するための空調方式や換気システムの基礎 電気・照明設備：建築における電力供給システム、照明計画、エネルギー効率化の手法 防災・セキュリティ設備：火災時の安全確保、避難誘導設備、防犯システムの設計原則 また、環境負荷の低減を目的とした再生可能エネルギーの活用や、省エネルギー技術についても取り上げ、持続可能な建築設備のあり方を考察します。
授業計画 授業内容	建築を安全・快適・健康・利便で、人間のあらゆる生活活動に供できる環境を作り上げるのに不可欠な建築の数々の設備システムを適切に設計する基礎技術の理解を目指す。 全15回 1. 建築設備とは 2. 給水設備 1 3. 給水設備 2 4. 給湯設備 5. ガス設備 6. 排水・通気設備 1 7. 排水・通気設備 2 8. 防災設備 1 9. 防災設備 2 10. 空調設備 1 システム 11. 空調設備 2 負荷計算 12. 空調設備 3 熱源・搬送装置 13. 電気設備 1 14. 電気設備 2 15. まとめ
成績評価	提出課題 (20%) および期末試験 (80%)
教科書	初学者の建築講座 建築設備 第5版、市ヶ谷出版社
参考書 参考資料	絵解き建築設備、吉村武、世良田崇、オーム社
履修上の注意	講義を通して学んだことは、実生活を通して観察、体験および計算をすることで理解を深めること。
予習・復習指導	教科書の当該部分を読み、当該設備が建築にどう組み込まれているかを実物を見て調べておくこと。一講義 (1コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築環境」他建築関連科目
課題に対するフィードバックの方法	出席プリントに記載された質問などは、次回以降の授業で解説・説明する。
教員の実務経験	建築設計事務所 (意匠系) 22年経営、建築設計事務所 (設備系) 7年経営
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	造形材料論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部

到達目標	素材とは何か？日常目にする造形は何でできているのか？身近なものから理解を深め、普段我々が見ている「モノ」たちを素材という観点から考察できるよう知識を深めていく。素材の扱い方、素材の魅力、素材の表現方法を成形された造形から読み取る力をつけていく。実践を通して扱ってきたデザイナーによる素材の扱い方を作品を通し、考え方と共に学んでいく。 前半では、プロダクトにおける素材とは何か？演習も交えた内容で素材と触れ合いながら学ぶ。後半は、デジタル社会における素材とは何かを共に考え、インタラクティブの世界を見ながらデジタル素材について学んでいく。 ディプロマポリシー：DP1-1、DP1-3に該当する。
授業概要	前半1～10週目は、遠藤による素材についてのディスカッション。 後半11～15週目は、渡邊によるデジタル素材についてのディスカッション。 前半では工芸や近現代の産業における様々なものづくりにおいて、手仕事や機械製造の現場において使用される各種素材について解説する。原料が流通・加工され材料の状態になり、更にどのような経緯を通じて我々の手に届くのか、またどのような分野での活用がなされているかを概観する。 後半の授業では、デジタル上の素材について解説を行っていく。今やインタラクティブの世界は身近な存在になり、当たり前のように接している現状がある。またITO (Internet of things) は家電から移動手段、買い物からコミュニケーション手段まで様々な状況下において浸透している。現在の状況はどのような構造で我々の生活に入り込んでいるのかを最新の状況を踏まえて解説を行なっていく。 授業計画による昨年事例と一部異なる場合があります。 本年度授業まえの最新情報を優先していきます。
授業計画 授業内容	1～10週 素材論(遠藤公誉) 1週目：手漉き和紙について 2週目：現代製紙産業による紙素材について 3週目：漆の加飾素材について①貝 4週目：漆の加飾素材について②金属箔粉 5週目：木と竹について① 6週目：木と竹について② 7週目：金属について①鉄と銅 8週目：金属について②銅とその他のベースメタル 9週目：石油と合成樹脂について① 10週目：石油と合成樹脂について② 11～15週 デジタル世界における材料論(渡邊俊博) 11週目：インタラクティブの世界1 12週目：インタラクティブの世界2 13週目：インタラクティブの世界3 GIFアニメ課題発表 14週目：GIFアニメ課題視聴 15週目：インタラクティブ到達度テスト
成績評価	トータル出席数 1～10週の総合評価（毎回課される小レポートの平均点） 14週で作ったアニメーション評価 上記の総合評価により成績を評価する。
教科書	必要に応じてクラスルーム内にてインフォメーションする。
参考書 参考資料	必要に応じて告知、配布する。

履修上の注意	授業中のゲーム、Youtube鑑賞、睡眠、会話など授業の妨げを行った場合は、単位を取消とする。 提出物の期限厳守、遅延による提出は認めない。 出席は15分以内に提出それ以降は欠席扱いとする。
予習・復習指導	授業内容を理解し頭に入れることが重要と考える 授業終了後に、PDFファイルを配布、復習として必ず見返すこと。
関連科目	造形芸術論
課題に対するフィードバックの方法	特になし
教員の実務経験	渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年　フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 講義の中で紹介する様々な素材や造形の知識基について講義を行っている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-DE307L

講義名	近代デザイン史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	K Y O B I 芸術学部

到達目標	近代日本における工芸とデザインの動向を学び、現代に続くものとして考え、研究・制作に活用できるようにすること。 この科目は、DP1-1、DP1-3に該当する。
授業概要	本講義は、明治期の日本における「デザイン」概念の導入と変容を、日本の工芸・図案・商業美術といった独自概念の成立と展開を軸に検討する。西洋近代デザイン・工芸思想の受容過程を踏まえつつ、日本において「美術」「工芸」「図案」「商業美術」がいかなる制度・教育・産業・メディアのなかで位置づけられ、戦後のデザイン概念へと接続されていったのかを歴史的に理解することを目的とする。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 美術・工芸概念の成立① 近代以前から明治へ 第3回 美術・工芸概念の成立② 明治国家と制度化 第4回 美術・工芸概念の成立③ 分化と序列化 第5回 万博と海外のデザイン 第6回 「美術」「工芸」と教育① 明治期の教育制度 第7回 「美術」「工芸」と教育② 東京の状況 第8回 「美術」「工芸」と教育③ 京都の状況 第9回 図案家と図案団体：「図案」という概念 第10回 図案集というメディア：視覚表現としての「図案」 第11回 官展と工芸：展示制度と評価 第12回 都市化と工芸・デザイン：消費社会の成立 第13回 商業美術と戦前のグラフィックデザイン 第14回 デザイン以降の工芸：戦後への接続 第15回 総括
成績評価	授業態度、期末レポートによって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	・竹原あき子／森山明子 監修『カラー版 日本デザイン史』美術出版社、2003年 ・森仁史『シリーズ近代美術のゆくえ 日本〈工芸〉の近代 シリーズ近代美術のゆくえ』吉川弘文館、2009年 ・並木誠士 編集『京都近代美術工芸のネットワーク』思文閣出版、2017年
履修上の注意	参考文献等で展覧会、作品、作家などの相互関係を理解しておくこと。
予習・復習指導	・1コマに対して、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 ・講義内で配布する資料を読み、各回のトピックについて理解すること。前後の流れを把握しておくこと。
関連科目	デザイン概論
課題に対するフィードバックの方法	出席確認時の質問に対して次回以降、講義内もしくはクラスルームで回答する。
教員の実務経験	岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとしての経歴、京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	古文書解読演習Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三野 拓也	KYOB I 芸術学部

到達目標	文字のくずし方に慣れ、記載内容を理解する能力を習得する。 また、記載内容と記載されているモノ（古文書・税として納められた布等）の関係を考察し、奈良時代の歴史について理解を深める。この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP2-1、DP2-2、DP2-3に該当する。
授業概要	美術・工芸・建築に関する思想や意匠をくみ取るためには、作品以外の情報も調査し理解する必要がある。本授業は、そのような情報を有している古文書を解読する能力を身につけることを目的とする。 また、仏像のような彫刻作品には、像の作者だけでなく発願主による願文が残されていることがある。さらに、古建築の部材には、使用場所を示す符丁だけでなく、作業の合間に書かれた落書も存在する。このような文字を読み解くためにも、古文書だけではなく、木製品や布製品に記された墨書にも触れ、多様なくずし字を理解する力を養成する。その上で、「モノ」に携わった人々の「想い」に触れてほしい。
授業計画 授業内容	2回にわけて正倉院、および正倉院宝物の性格を講義し、奈良時代の文字史料がどのような意味を持つのか、またどのように伝来したのかを理解してもらう。 その後、実際の古文書などの写真を教材として、くずし字の解読を行う。授業の前半は史料の性格などを簡単に紹介し、みずからの力でくずし字を読んでもらう。後半は、くずし字の解読方法について解説を行う。 また、古文書のような紙に書かれたくずし字だけではなく、木・布などの様々な素材に書かれた文字の形を読み解いていく。13回の演習のうち、木に書かれた文字、布・絹に書かれた文字、金属に書かれた文字、その他を各1回以上行う。書かれる素材によって、文字の表情は多様なものとなる。素材ごとの文字の解読についても学んでもらう。
成績評価	評価ポイント：受講態度（小レポート）（60%）、定期試験（40%）
教科書	児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版） ※タイトルを間違えないこと
参考書 参考資料	角川『新字源』（漢和辞典）
履修上の注意	『くずし字用例辞典 普及版』と漢字辞典を持参すること。漢字辞典については、電子辞書でもよい。
予習・復習指導	読むことができなかった文字のくずし方を辞典で調べ、実際に書いてみる。 書く際には漢字の筆順を確認して、筆の流れを意識すること。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	後期に「古文書解読演習Ⅱ」を続けて履修するのが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに質疑応答等を行う。
教員の実務経験	宮内庁正倉院事務所において、古文書・経巻の調査を行っている。古文書だけでなく、木や、布・絹でできた宝物に書かれた文字を解読し、『正倉院紀要』において報告している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	古文書解読演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山 克	KYOB I 芸術学部

到達目標	私たちの知っている「歴史」は、多くは文字史料の解読によって組み立てられたものです。古文書・古記録を始めとする文字史料の解読を通して、歴史の実像に触れる技術を学びます。（DP1-1・DP1-2、DP2-1・DP2-2・DP2-3）
授業概要	古文書学という学問があります。古文書の形態や様式（書式）や機能から、それらを読み解き、新しい歴史像を紡ぎ出していく、そんな学問です。この授業は「古文書解読演習」となっていますが、古文書学の全体を紹介するには時間が不足しています。そこで文字を読み取ることに主眼を置いて、授業を組み立ててみようと思います。文字にはもちろん漢字と仮名があります。漢文の古文書を読むと同時に、絵巻物の詞書のような仮名（変体仮名）交じり文も読んでみましょう。努力すれば、楽しみながら字が読めるようになります。
授業計画 授業内容	1. 講師の実体験を紹介しながら、古文書とは？の疑問に答えます。 2. まずは古文書研究のイロハについて語りましょう。古文書解読辞典やサイトの紹介もします。 3. 崩し字に慣れることを目的に、江戸時代の化物草紙の文字や、同じく江戸時代の離縁状（三行半）を。 4. 鎌倉幕府の文書を時代背景も考えながらゆっくりと。絵巻物は『群書類』の詞書を読んでみます。 5. 鎌倉幕府の文書を。絵巻物は『春日権現験記絵』から。『験記絵』については別の段を繰り返し使います。 6. 鎌倉幕府滅亡後の建武政権期の文書。『春日権現縁起絵』などの絵巻物から詞書を。 7. 変体仮名に慣れるために小倉百人一首を詠んでみましょう。 8. 室町幕府初期の文書を。仮名文字は『伴大納言絵詞』などの詞書を。 9. 室町幕府の文書を。『法然上人絵伝』などの祖師絵伝の詞書を。 10. 上位下達文書に対して上申文書を。『長谷雄草紙』などの14世紀絵巻の詞書を。 11. 神々に誓約する起請文を。『道成寺縁起絵巻』の詞書を。 12. 戦国期の武将の文書を。『道成寺縁起絵巻』の画中詞（漫画の吹き出しにあたる）を。 13. 戦国大名の印章の捺された文書を。『付喪神絵詞』の詞書を。 14. 中世から近世へ、時代を換えた文書を。僧侶の肖像画である頂相の賛文も読んでみましょう。一休・森女像などは漢字も変体仮名も駆使して。 15. すでに使用した古文書などの史料を見ながら、みなさんの習熟度の確認をします。
成績評価	受講態度（10％） コメント（30％） 期末試験（40％）
教科書	指定しません。
参考書 参考資料	児玉幸多編『くずし字解読辞典』。同『くずし字用例辞典』。ただし詳細は第一回目の授業時に。
履修上の注意	崩し字の解読は慣れることが重要です。配布資料を目の触れるところに置いてください。
予習・復習指導	授業時間だけでは、必ず時間が不足します。授業ごとに使用したデータの主要部分をクラスルームで公開するので、予習・復習に利用してください。
課題に対するフィードバックの方法	コメントや試験の総評をクラスルームでフィードバックします。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	室内意匠論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOB I 建築学部

到達目標	インテリアデザインに関する知識（計画、エレメント、スタイル、材料、環境等）を幅広く吸収し、魅力的かつ適切なインテリアデザインを行うための基礎知識と技術の習得を目的とする。 本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会的背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では室内デザインに関する原理・原則を基に、様々な観点から総合的にインテリアデザインにおける基本的な考え方、用語、技術等について解説する。また現代の話題による日常生活とインテリアデザインとの関連性や考察を通じ、実践的でわかりやすい制作活動のヒントとなるトピックを提供する。また豊富な経験を通じたインテリアデザインの仕事や作家についてなど、インテリアデザインの最前線を紹介する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、インテリアデザインとは、自己紹介 第2回 インテリア空間 第3回 インテリアエレメント、インテリアプランナー試験解説 第4回 インテリアスタイル 第5回 家具デザイン 第6回 ウィンドートリートメント 第7回 ライティングデザイン、 第8回 インテリア設備 第9回 マテリアルコーディネート 第10回 カラーコーディネート 第11回 エルゴノミクス（人間工学） 第12回 室内環境 第13回 インテリア計画と発想 第14回 ユニバーサルデザイン、サステイナブルデザイン 第15回 インテリアデザインのプロセスと評価：修得確認レポート
成績評価	評価ポイント：授業態度（40%）、ミニレポートの提出および評価（30%）、修得確認のためのフィナルレポート＜必須＞（30%）によって評価する。
教科書	図解テキスト「インテリアデザイン」 /井上書院 /小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口真佐子、ペリー史子、西山紀子
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介し、配付または掲示（クラスルーム）を行う。
履修上の注意	室内意匠・生活文化・環境技術・人間工学などデザインと技術の両側面から、日常での幅広い興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	1回の講義（1コマ）に対して4時間の予習復習をすること。教科書の該当する章を読み、専門用語（背景・技術）について調べ、理解を深めておくこと。 また授業で興味を得たものについて、深く研究する姿勢を持つこと。
関連科目	「デザイン概論」「建築概論」「色彩学」「造形材料論」「建築材料」「デザイン作図演習」「インテリア設計」
課題に対するフィードバックの方法	毎回のミニレポート課題、クラスルーム、メールにより質疑応答を行う。
教員の実務経験	一級建築士・インテリアプランナーの資格を持ち、建築設計・インテリアデザインの実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による、実践を踏まえた解説による講義を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-DE312L

講義名	公共デザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 宮内 智久	KYOB I 建築学部

到達目標	本授業では、デザインを単なる造形や機能性として捉えるのではなく、その意義や役割をより広い視点から深く考察する。公共物に限らず、芸術作品、自然環境、社会、都市空間など多様な領域において、デザインがどのような影響を与えるのかを理解し、国内外の事例をもとに、デザインがもたらす価値と同時に問題点についても検討する。 さらに、デザイナー・芸術家・建築家として、自ら問題意識を持ち、課題を設定し、解決へと導く力を養うとともに、デザインを通じて自分自身の人生観を形成することを目指す。 主な目標 1. キーワードを理解する 2. キーワードについて自ら考察する 3. 自分のキャリアや人生に反映する ※本科目は、DP2-1～3に該当する。
授業概要	公共物および公共空間が担う社会的役割と文化的価値を掘り下げ、デザインが社会にどのような影響を与えるのかを考察する。芸術、建築、都市計画、環境デザインの視点を横断しながら、国内外の具体的な事例を通して学ぶ。さらに、デザインが歴史的・社会的文脈の中でどのように形成され、変容してきたのかを分析し、受講生が自らの視点を持って批評できるようになることを目的とする。 授業で行うこと 1. 授業前の準備（各週）：資料の確認と考察を通じて思考を深める 2. 講義（各週）：キーワードと概念を理解する 3. アウトプット（各週）：アンケート形式で意見を共有する レポート提出（学期末）：学期末に1回提出する
授業計画 授業内容	授業計画（全15回） - 第1回 人生のデザイン - 第2回 発想のデザイン - 第3回 思考のデザイン - 第4回 プロセスのデザイン - 第5回 見せ方のデザイン - 第6回 認知のデザイン - 第7回 記憶のデザイン - 第8回 夢のデザイン - 第9回 見せ方のデザイン - 第10回 体験のデザイン - 第11回 公のデザイン - 第12回 景観のデザイン - 第13回 再生のデザイン - 第14回 循環のデザイン - 第15回 生き延びるためのデザイン ※学習への理解度・到達状況に応じて、授業内容を適宜調整・変更する場合がある。
成績評価	授業態度 75% → 出席課題 15回 × 5点 レポート 25%（合計1回）
教科書	配布資料、映像等

参考書 参考資料	参考文献（例） 1) 人生・キャリア／働き方・資本 LIFE SHIFT（ライフ・シフト） 100年時代の人生戦略（アンドリュー・スコット 他） フリーエージェント社会の到来（ダニエル・ピンク） 新 クリエイティブ資本論—才能が経済と都市の主役となる（リチャード・フロリダ） 幸福の「資本」論（橘 玲） 10年後の仕事図鑑（堀江貴文／落合陽一） 多動力（堀江貴文） プロセスエコノミー あなたの物語が価値になる（尾原和啓） ブルー・ゾーン（ダン・ビュイトナー） 人生を変える最強のコミュニティづくり（美宝れいこ） 2) デザイン思考／発想・創造性／リサーチ デザイン思考が世界を変える（ティム・ブラウン） 実践 スタンフォード式 デザイン思考（ジャスパー・ウ） 突破するデザイン（ロベルト・ベルガンティ） 発想する会社！（トム・ケリー） ハウ・トゥー アート・シンキング（若宮和男） 直感と論理をつなぐ思考法 VISION DRIVEN（佐宗邦威） リサーチ・ドリブン・イノベーション（安斎勇樹） 認知バイアス辞典（情報文化研究所） 3) 公共・都市・コミュニティ／シビック・デザイン シビックデザイン 自然、都市、人々の暮らし（大成出版社） つくる公共50のコンセプト（せんだいメディアテーク） まちづくり幻想（木下 斉） コミュニティデザイン（山崎 亮） コミュニティ・オーガナイズ（鎌田華乃子） シェアをデザインする（猪熊 純 他） ネイバーフッドデザイン（荒 昌史） 人口減少社会のデザイン（広井良典） ソーシャルデザイン実践ガイド（寛裕介） 持続可能な地域の作り方（寛裕介） テンポラリーアーキテクチャー（OpenA） 4) 環境・サステナビリティ／倫理 サステナブルなもののづくり（W・マクダナー） 里山の環境学（武内和彦 他） 沈黙の春（レイチェル・カーソン） 生き延びるためのデザイン（ヴィクター・パパンエック） カミング・バック・トゥ・ライフ（ジョアンナ・メイシー／モリー・ヤング・ブラウン） 5) 社会変化・ポストコロナ アフターコロナのニュービジネス大全（原田曜平） 6) 感受性・自己理解 繊細さは、これからの時代の強さです（アニータ・ムアジャーニ） 他
履修上の注意	講義はオムニバス形式で行い、回ごとに異なるテーマや視点から学ぶ。あわせて、必要に応じて外部ゲストを招いた講義も実施する予定である。
予習・復習指導	1回の講義（1コマ）につき、予習・復習を合計4.5時間行うこと。 講義前に配布する資料は、事前によく読み込み、要点を整理しておくこと。 各回で扱う用語について、可能な範囲で自ら調べ、概念の理解に努めること。
関連科目	建築計画Ⅱ 建築計画Ⅳ 京町家再生論 デザイン概論 色彩理論演習 等
課題に対するフィードバックの方法	レポートのフィードバックは、点数のみを示すのではなく、必要に応じてコメント等を付して返却する。あわせて、授業時間外においても、担当教員は随時、質問・相談を受け付ける。
教員の実務経験	担当教員は6年以上の建築設計・及びグラフィックデザインの実務経験を持ち、ADOBEソフトウェアを利用した実践的な指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-DE313L

講義名	造形芸術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	デザインと工芸と芸術の違いとは何か？また共通点はなにか？ 芸術における造形とは何か？デザインにおける造形とは何か？ 造形と考え方（コンセプト）など、身近な素材や事象との関わり方から芸術、デザイン・工芸における造形表現の関わりを学ぶ。同時に素材の扱い方を通し、造形になる過程を理解し自身のアイデアを形にするときの考え方の手順を見出す。上記内容を通じてデザイン・工芸の両面から受講生に自身の中にある造形芸術について、それぞれの価値の確立を目指す。 ディプロマポリシー：DP1-1、DP1-3に該当する。
授業概要	授業は、前半と後半に分かれる。 前半は身の回りにある芸術への手がかりを見つけるために、認識や情報の伝達、造形のための道具や素材、またそれらが生み出した価値や、精神的な価値と物質的な価値の手がかりを講義を通して学生たちとともに探求していく。 後半はデザイン的な視点の多様性を講義する。 後半の授業は私たちの身近な趣味や、オタクの世界を掘り下げた内容を解説していく。日本には「オタク」という世界標準語になるほどの強い独自の世界観を持った深い造形の世界が展開している。このオタク産業は世界に飛び火し、世界中からオタクを求めて日本にやってくる現象が起こっている。毎週モノと人の関係、その内容の深さ、造形に携わる人と世界の関係性などを解説していく。
授業計画 授業内容	1～7回目 三木表悦 1回目：身の回りにある認識 2回目：身の回りを知るための情報 3回目：身の回りにある道具 4回目：身の回りにある素材 5回目：身の回りにある価値の変化 6回目：身の回りにあるモノ「畏」 7回目：芸術の可能性 8～14回目 渡邊俊博 8回目 DesignとART 9回目 カスタムの世界 10回目 カスタムの世界2 11回目 フィギュアの世界 12回目 ルアーの世界 13回目 段ボールの世界 14回目 映像の世界 15回目 前半後半合わせてのテスト予定 授業の内容は、多少変更及び前後することがある。
成績評価	テスト 100% その他授業態度、授業内で指定した内容のレポート提出などを成績に反映する
教科書	なし
参考書 参考資料	必要に応じてクラスルームないでアナウンスする。

履修上の注意	本講義は担当教員ごとに レポートの提出方法などが変わる場合がある。 出席の確認方法も担当教員の方針により変わる場合がある。 必ずクラスルームの内容、担当教員の指示を確認すること。
予習・復習指導	講義資料を活用し1コマに対して1時間の復讐をするとともに、自身の考えを他者と照らし合わせる機会を持つことを推奨する。
関連科目	造形材料論
課題に対するフィードバックの方法	受講生からの質問やコメントは適宜、オンライン上のシステムによりフィードバックを行う。
教員の実務経験	渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 個展・グループ展・企業企画展へ多数出展、コンペによる受賞歴多数、さまざまな素材を熟知し素材開発、プロダクトデザイン、店舗デザインなど実績を多数有する。講義の中で紹介する様々なテーマの知識は、デザインの仕事を通して関わった人物や個人の趣味・実益から得た経験値に基づいて資料を作成している。全授業の内容は表層の知識ではなく、一つ一つ深く掘り下げた「オタク」領域の内容をテーマとして講義を行う。 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 京塗 表悦四代目を継承 20代から工芸作家として活動を展開 個展・グループ展等多数開催 受賞歴多数 同時に京都市DOYOUKYOTO大使やKYOTO Sustainable Networkメンバーとして自然環境と文化とのかかわりについての発信にも取り組む。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	現代芸術論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 山本 太郎	KYOB I 芸術学部
特任教授	川尻 潤	KYOB I 芸術学部

到達目標	「現代美術」など新しい芸術分野の発生、背景、歴史、意義、および「芸術と社会との関係性」を理解し、その知見を自分の制作や卒業後の活動などに生かすことができるようになる。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	20世紀に誕生した現代美術、ポップアート、モノ派など様々な現代の芸術を、付随するサブカルチャーなども併せて考察し授業を行う。学術的な観点からだけでなく、現役のアーティストとして活動する教員ならではの視点で伝える。 前半を山本、後半を川尻が担当し、それぞれの見地から論じる。 前半の山本パートではワークショップ形式の授業も予定している。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス／序論に代えて 川尻・山本 第2回 言葉とアート／タイトルについての試論とワークショップ 山本 第3回 物語とアート／コンセプトについて考える 山本 第4回 言葉と物語とアート／物語を作成してみる 山本 第5回 現代とアート／なぜ分りにくいかを考える 山本 第6回 システムとアート／お金とアートについて考える 山本 第7回 システムとアート／お金とアートについてのワークショップ 山本 第8回 世の中とアート／社会の中で消費されていくアートについて考える 山本 第9回 原始美術・縄文美術 川尻 第10回 現代美術の展開 川尻 第11回 ポップアート 川尻 第12回 モノ派 川尻 第13回 マーケティング 川尻 第14回 「人種・宗教・差別」と芸術 川尻 第15回 税制とアートマーケット 川尻 ※授業計画はその年の進捗や履修学生の興味、理解度などによって変更する場合があります。
成績評価	授業態度40%、授業レポート60%を基本とし総合的に評価する。 前半8回は毎授業の最後にミニレポートの提出を課します。（ミニレポートが前半の評価対象となります。）
教科書	資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業に応じて適宜紹介する。
履修上の注意	前半8回に関してはパソコン、タブレット、スマホなどWEBにつないで検索ができるデバイスを持参すること。
予習・復習指導	1コマに対して2時間程度の予習や復習をすること。 授業に関わる展覧会を視察したり、関連書籍、関連動画などを視聴することも予習、復習とする。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	講義内で適宜対応する。
教員の実務経験	山本太郎：1999年に日本画ならぬ「ニッポン画」を提唱。国内外で展覧会を多数開催する。その作風は現代の琳派とも評され、技法を学生に伝授する。 川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内展覧会出品多数。 国外の様子を調査し、授業に最新の情報を伝授している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-DE315L

講義名	立体造形（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
助教	百田 聖一	KYOB I 芸術学部

到達目標	1. 京都東山エリアの文化財・歴史遺産・地域の造形を、デザインの思考によって観察・分析できる。 2. 町歩きで発見した「小さな文化」をスケッチ・写真・言語によって記録・整理できる。 3. 発見した文化・造形を起点に、現代的な視点からの新たなデザイン提案を構想し、表現できる。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	京都東山エリア（七条通～三条通・河原町通～東大路通）をフィールドに、地域に息づく「小さな文化」を発見し、デザインの思考によって再解釈し、現代的な提案へと結びつけることを目的とする。 格子・窓枠・看板・祠・いけず石・鍾馭（しょうぎ）・犬やらいなど、日常に埋もれた造形的要素を「カタチ」として読み解き、新たな視点で捉え直す。授業では各自の関心に基づきエリア別リストから見学先を自由に選択してフィールドワークを行い、地域に根ざして独自の活動を展開する人々との対話も取り入れる。これらを通じて、発見したテーマを「守る」「解決する」など、デザイナーの眼で再解釈し現代の立体造形（カタチ）に接続することを目指す。 また、本授業における生成AIの使用は自由とする。ただし、使用した場合はプロンプト（指示文）や出力結果のスクリーンショットを時系列でデジタルログとしてPDFにまとめ、課題とは別途提出すること。
授業計画 授業内容	【1日目】発見する ガイダンス（授業趣旨・見学先リスト・テーマ一覧の説明）→ 町歩き（9:30～13:00、各自選択ルート）→ 記録まとめ → グループディスカッション 【2日目】深める 前回振り返り → 地域を牽引する実践者からのレクチャー → 町歩き（13:00～15:00、前日と異なるカテゴリ推奨）→ 発見した文化と現代との接点を整理 【3日目】再解釈し、提案へ向かう 教員による振り返り → レクチャー（約1時間・国内外の事例紹介）→ 制作または補足の町歩き（自由選択）。AIをリサーチ・発想・ビジュアライズに活用可。 【4日目】提案する 成果物の制作・仕上げ → 最終講評（学生投票・教員投票の中から上位入賞者が発表をする。）→ 教員総評 ※町のテーマ（格子、いけず石、鍾馭、看板など）から一つ選び、そのテーマに絞って観察・記録する。
成績評価	出席 30%：4日間すべての講義・見学・ワークへの参加 課題 70%：街歩きの観察記録・発見の質・成果物のまとまり 本授業における生成AIの使用は任意であり、使用の有無によって成績評価が有利または不利になることはない。制作プロセスの透明性を確保するため、課題提出時に以下の通り申告すること。 ・【AIを使用した場合】プロンプトや出力結果のスクリーンショットを時系列でまとめたデジタルログ（PDF）を別途提出すること。 ・【AIを使用しない場合】提出物の指定箇所に「生成AI不使用」と明記すること。
教科書	指定教科書なし
参考書 参考資料	適宜紹介する。

履修上の注意	・夏季集中講義（4日間連続）のため、全日程への出席を原則とする。 ・屋外でのフィールドワークを含むため、歩きやすい服装・靴で参加すること。 ・スケッチ用具（スケッチブック・鉛筆等）およびスマートフォンを必ず持参すること。 ・見学先によっては拝観料・入場料等が発生する場合がある。費用は各自負担とする。 ・AIを使用する場合は、会話のスクリーンショットを時系列でPDFにまとめて提出すること（評価基準ではなく使用条件）。 ・AIを使用しない場合はその旨を提出物に明記すること。
予習・復習指導	【予習】事前に京都東山エリアの地図を確認し、見学先リストに目を通しておくこと。関心のあるテーマ（格子・いけず石・鍾馭等）について簡単に調べておくことと理解が深まる。 【復習】各日の見学後、その日のうちにスケッチ・写真・メモを整理し、成果物の素材としてまとめること（3日目終了時点でほぼ完成状態が望ましい）。
関連科目	特になし
課題に対するフィードバックの方法	最終講評会において、担当教員2名とゲストティーチャーが各発表に対して口頭でフィードバックを行う。
教員の実務経験	古閑謙太郎：文化財修復・文化財調査の実務経験を有する。調査においては木造狛犬を中心に、寺社の文化財全般の悉皆調査など多岐にわたる。 百田聖一：ディレクションデザインを中心に、空間からプロダクトまで横断的なデザイン実務経験を有する。2025年度「アジアデザイン賞」をはじめ国内外での受賞経歴を持つ。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	立体造形（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	立体造形は、素材の性質や構造、接合部の強度などの制約を受ける。それらを理解した上で、芸術的価値やデザインの価値を有する造形表現を思考し実行する力、「工芸力」を身につける。この科目はDP0-1、DP0-2 DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	立体物を創造する場合の考え方の一例として、線・面の構成で考えることが出来る。つまり1次元2次元の造形の良し悪しが3次元の立体の成果につながる。加えて重力、環境などの影響を考慮するという複雑な思考と判断力が必要となる。昨今では様々な形でコンピューターを活用した造形機器が社会に浸透しており、手わざの必要なく造形できるようになりつつあるが、根源的には自身の手や指先を含む人が作るという行為なしにはモノづくりは成立しない。便利な機器も、作り出すのは機械ではなく人の手が生み出してきた。素材を触る。技を学ぶ。修練する。創る。もっと良い方法がないか考える。また創る。工芸においても社会においても大切なリズムである。本科目では素材として「竹」などを活用して各自で調査、調達、修練を大きな要素としながら造形に取り組み、素材の違い、特徴などの理解を深め価値ある造形物への思考力表現力など工芸に必要な力を養う。また、場合によって複数メンバーで課題に取り組む場合もある。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 授業概要説明 第2回 編み体験 第3回 基礎素材作成（竹ひご作り体験） 第4回 制作プラン相談1 第5回 制作プラン相談2（確定回） 第6回 素材調達及び作成相談 第7回 素材調達及び作成相談2 第8回 作品制作 実制作1 第9回 作品制作 実制作2 第10回 作品制作 実制作3 第11回 作品制作 実制作4 第12回 作品制作 実制作5 第13回 作品制作 実制作6 第14回 作品制作 作品撮影 第15回 提出・講評会
成績評価	授業態度（レポート含む）20%、提出物の完成度60%、作品プレゼンテーション20%の総合評価。授業ごとのレポート提出の方法・様式は授業初日に説明する。
教科書	なし
参考書 参考資料	「竹のあかり 近藤昭作の仕事」里文出版「かごと器を編む 竹細工 上達のポイント」メイツ出版 「やさしく編む 竹細工入門」出版者日貿出版社「図説竹工入門 竹製品の見方から製作へ」共立出版 「かご編みの技法大全 編む・かがる・組む・巻く・結ぶ、編み方の技法を網羅した決定版」誠文堂 新光社「茶席の籠 「ひご」づくりからはじめよう 茶の湯手づくりbook」淡交社
履修上の注意	演習として必要な、材料（竹材）・道具（竹の加工用の刃物（鉋・小刀等））などの最低限の道具は各自購入等で入手、手入れしてもらいます。初回授業時に説明。刃物を扱う作業なので、怪我などの事故について一定の危険がある。授業内での注意事項やルールが守れない場合は講師の判断で履修を継続できない場合がある。①授業時間は作業時間ではなく課題作品の作業段階での意見交換や答え合わせの場として活用する。材料の作成、プランの検討、図面の作成提出など期限を守り、十分な時間をかけて授業に臨む。②自らが取り組む技法、素材について授業前・後に参考書等から関連する

	知識を③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る⑨共同で取り組む課題内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談するその他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む
予習・復習指導	1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。竹の加工には刃物を活用するので、刃物を十分に手入れして自らの作業に支障が生まれないように準備する。授業内で十分な理解が出来なかったことは、必ず調べる。必要に応じて疑問点を授業の中で共有し、解決案を探るように努める。
関連科目	芸術導入実習、伝統工芸概論、造形基礎演習Ⅰ、造形基礎演習Ⅱ、造形芸術論
課題に対するフィードバックの方法	各授業ごとにレポート提出で、必要に応じて質疑応答を行い情報の共有を行う
教員の実務経験	三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事漆工芸作家として様々な伝統技法や素材を活用し、工芸を志す学生に特に重要な可能性を見出し、作品制作に活用している素材の1つの竹を使用して、入手が容易であり、大規模な機器を使用することなく加工を行うことができる素材を使用して、工芸授業を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

<芸術学部> 専門教育科目 D8. 専門実習・演習科目(2026以降)
京都美術工芸大学シラバス [2026 年度版]

対象:1年次

講義名	ベーシックワークショップ・平面		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 共通領域		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 加納 奈都	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	デザインや工芸の様々な分野に共通する平面表現における基礎的な素養を身につける。この授業のテーマは『自然を知る』。そして、身につける目標となる能力は観察力、描写力。同時に素材研究も行う。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	ベーシックワークショップは「平面」「立体」「空間」の3つの科目からなっています。この3つはデザインと工芸の2つの領域に共通する本学が考える基礎となる要素です。この授業では平面表現の基礎を学びます。基本的な能力を身につけることで2年次以降に本格的に始まる専門教育を積み上げる土台を作るための作品を制作します。観察力と描写力を身につけるために課される描画課題を通して素材研究も同時に行う。そのことで包括的な平面表現の素養を身につけます。
授業計画 授業内容	前半、後半と学生を2グループに分けて実施する。 ●ガイダンス（全1回 デザイン・工芸と共同で実施する。） ●ベーシックワークショップ・デザイン（全7回） ●ベーシックワークショップ・工芸（全7回） を含む全15回で授業は構成する。 第1回 ガイダンス（デザイン・工芸と共同で実施する。） 第2回 基本課題① 家紋トレース 第3回 基本課題② 人体クロッキー 第4回 基本課題③ 光の観察 第5回 基本課題③ 光の観察 合評 第6回 応用課題 自然物解体スケッチ 第7回 応用課題 自然物解体スケッチ 第8回 応用課題 自然物解体スケッチ 合評 ※他7回はベーシックワークショップ・平面（工芸）のシラバスを参照。 ※状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。
成績評価	授業態度・出席40% 各課題の提出物の完成度60%で評価する
教科書	授業を通じて適宜紹介
参考書 参考資料	授業を通じて適宜紹介
履修上の注意	各課題のスケジュールを確認し、適宜チェックを受けて作業を進めていくこと。
予習・復習指導	1コマあたり2時間の予習復習を行うこと。
関連科目	デザイン基礎実習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	データ提出時の指導、講評を通して行う。
教員の実務経験	加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 宮内芳代子：木版画及び、デジタルツールを使用した書籍の装画、挿絵の制作。また、動画広告やWEB広告のデザインの実務経験。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	ベーシックワークショップ・立体		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 共通領域		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
助教	百田 聖一	KYOB I 芸術学部

到達目標	デザインや工芸の様々な分野に共通する立体表現における基礎的な素養を身につける。この授業のテーマは『点・線・面・空間の理解』。そして、身につける目標となる能力は構想力、造形力、制作力。同時に素材研究も行う この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	“ベーシックワークショップは「平面」「立体」「空間」の3つの科目からなっています。この3つはデザインと工芸の2つの領域に共通する本学が考える基礎となる要素です。 この授業では立体表現の基礎を学びます。 基本的な能力を身につけることで2年以降に本格的に始まる専門教育を積み上げる土台を作るための作品を制作します。 本課題では、構想力、造形力、制作力を身につけるために課される立体造形に関する課題を通して包括的な立体表現の素養を身につけます。 本課題では、身近な素材であるケント紙などの「紙」を使用し、立体構成を通じてデザインやアートの基礎的な制作を行います。 紙が持つ二次元的な「面」としての特性を理解し、基本的な造形制作の工程を習得することを目的とし、紙を折る、切る、曲げる、接合するといった操作を通じて、素材の可能性を探求しながら、立体的な造形表現の方法を学びます。 制作を通じて、アイデアを具体的な形として表現する技術や、ものづくりにおける発想力、美的バランス感覚を養います。 また、制作した作品を効果的に伝えるためのプレゼンテーション資料（シート）の作成も行い、表現力や伝達力の向上を図ります。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション 課題・授業概要の説明 第2回 アイデアスケッチ・エスキース 第3回 課題制作（展開図） 第4回 課題制作 第5回 課題制作 第6回 プレゼンシートの制作 第7回 作品プレゼンテーション（講評） 第8回 2つのグループ合同での講評（制作意図・工夫点の共有）
成績評価	授業態度40%、2課題の完成度60%（各20%）により評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	授業をととして適宜紹介する。
履修上の注意	専門性を高めるために、常に芸術性、デザイン性を意識して行動する。

予習・復習指導	試作を数多く作る事。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進めておく。作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習を行う。
関連科目	構成基礎演習、造形基礎演習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	エトリケンジ：現代美術アーティストとして長期にわたって活動。国内外で作品を多数発表。デザインの業務にも携わる。京都彫刻家協会会員
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	

講義名	ベーシックワークショップ・空間		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 共通領域		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
助手	岩松 英里子	KYOB I 芸術学部

到達目標	デザインや工芸の様々な分野に共通する空間表現における基礎的な素養を身につける。この授業のテーマは『インプットとアウトプット』。そして、身につける目標となる能力は編集力、調査力と発信力。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	「ベーシックワークショップ」は、デザインと工芸に共通する「平面」「立体」「空間」の3つの基礎的な視点で構成されています。 本授業「空間」では、空間の観察・分析・編集の基礎知識を習得し、空間表現を実践します。 前半は、映画およびアニメーション作品における特定のワンシーンを題材とし、構図、照明、素材感、人物配置、カメラアングル等に潜在する空間的意図の分析（インプット）と、模型制作および写真撮影による空間再構成（アウトプット）を通じて空間能力を身に着けます。また、シーンの空間構造に内包される感情的・物語的作用の読み解きと、その立体的表現を介した空間編集の実践的理解 後半では、文化財的視点から空間と美術工芸の関係を観察し、スケッチによる記録に取り組みます。フィールドワークでは、文化財的価値を有する美術工芸空間を訪れ、その中で「見る」「気づく」「記録する」という行為を体験的に学びます。空間とそこに置かれた美術工芸を一体として捉え、「モノ」と「場」を視覚的に言語化することを通して、総合的な理解を深めることを目的としています。 これらの演習を通して、空間の「読み解き」と「構築」に関わる編集力、文脈調査に基づく分析力、成果を視覚的・言語的に伝達する発信力の涵養を目指すための基礎的学修の構築を目指します。
授業計画 授業内容	第1回：デザイン領域：オリエンテーション（授業趣旨の導入とシーン選定） 授業全体の目的・方法の提示による学修枠組の共有。 映画・アニメーション作品における空間表現の基本概念的導入。 分析対象となるワンシーンの選定および資料収集の開始。 第2回：デザイン領域：映像シーン分析の基礎 映像シーンに内在する構図、照明、素材感、人物配置、カメラアングル等の抽出。 スクリーンショットおよびトレースを用いた視覚的情報の平面化。 作品背景・文脈の調査による分析補助情報の整理。 第3回：デザイン領域：空間形状の分析 シーン分析結果の三次元化に向けた空間要素の構成整理。 縮尺、主要構造の簡易模型による空間構成の把握。 カメラ視点の設定に基づく模型確認の実施。 第4回：デザイン領域：空間における光・素材の分析 光源位置・光質の再現による空間演出効果の検証。 材質表現の模索によるシーンの質感の再構成。 感情的作用を担う光・素材要素の抽出と模型への反映。

	第5回：デザイン領域：空間における視点の分析 光源位置・光質の再現による空間演出効果の検証。 材質表現の模索によるシーンの質感的再構成。 感情的作用を担う光・素材要素の抽出と模型への反映。 第6回：デザイン領域：写真撮影による画角・構図の再現 模型撮影における露出、焦点距離、レンズ効果等の操作。 原シーンとの比較分析による再現度の検証。 差異分析に基づく空間構造の再解釈。 第7回：デザイン領域：講評 第8回：工芸領域：オリエンテーション（課題説明＋見る姿勢をつくる） 授業全体の目的および課題趣旨の説明 工芸、文化財の視点から空間を読み解くという本課題の位置づけの共有 空間と工芸が一体となった空間を「鑑賞」ではなく「観察・記録」の対象として捉える姿勢の導入 第9回：工芸領域：文化財的視点とスケッチ準備 文化財における空間の成り立ちと工芸の関わりについての基礎的解説 工芸的空間としての観察視点（明るさ／暗がり、通る／留まる、触れる／触れない など） 現地調査を想定したスケッチ方法および記録の仕方の説明 フィールドワークに向けたスケッチ構成ラフの作成 第10回：工芸領域：フィールドワーク①（空間を歩き、“気になる”を見つける） ※今回は土日に授業を振り替えて実施する 文化財的価値を有する空間を実際に歩き、観察する 気になった場所や要素を一つ見つける 写真・メモ・簡易スケッチによる記録 第11回：工芸領域：フィールドワーク②（現地スケッチ） ※今回は土日に授業を振り替えて実施する 観察を踏まえ、印象に残った場所・要素を再観察 空間スケッチおよび工芸的要素のスケッチの実施 明暗、距離感、素材感を意識した記録 第12回：工芸領域：スケッチ整理（描き直しと関係性の整理） 現地で描いたスケッチの整理および描き直し 空間スケッチと工芸的要素の抽出 空間と工芸品の関係性の可視化 第13回：工芸領域：編集・言語化（気づきの整理とアウトプット構成） スケッチと短文メモの整理 「なぜそれが気になったのか」の言語化 最終成果物の構成・レイアウトの確定 第14回：工芸領域：提出・講評 成果物の提出および掲示 相互閲覧による共有 講評―文化財の視点から見た工芸的空間の読み解き 第15回：全体講評
成績評価	各フェーズの提出物と最終成果物の完成度によって総合的に評価する
教科書	授業を通して適宜紹介する
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	各フェーズごとのチェックをスケジュール通り必ず受ける事 工芸領域；拝観料が別途必要になる。 工芸領域；フィールドワーク2コマ分は土日に振り替える
予習・復習指導	
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 田中秀和：抽象画家・映像演出（VJ）視覚平面作品を中心に、コマーシャルギャラリー等で作品発表 古閑謙太郎：仏像を中心とした木彫の文化財修復、地域・寺院の文化財調査など多数。
教員の实務経験有無	有

講義名	プロジェクト演習 I		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任教授	エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOB I 芸術学部

到達目標	外部団体の役割を理解するための調査や、団体がもつ課題を発見する能力を養う。 この科目は、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	外部団体（自治体/サービス業/製造業/生産業/他大学/その他 等）の理念や仕事の役割を理解する。まず、任意に外部団体を3団体抽出する。それぞれのホームページ等にアクセスし仕事や商品、サービス等の内容を調査する。仕事が広範囲に渡る業態については部署を絞る。たとえば市役所などの行政団体は建設部門、広報部門、観光部門という具合に絞る。大企業なども同様に部署を絞る。調査は主にwebを中心として行うが、資料を取り寄せたり、関係者へのヒアリングを行うことなど直接調査することを推奨するが、個人の責任において行うこととする。そして調査の内容から外部団体が抱える課題となりそうな内容を推察し抽出する。課題はデザイン的な解決につながると思われる内容とする。例えば、自治体の観光部門の課題として広報宣伝の発信が場当たりの統一感がなく散漫だと判断した場合、宣伝媒体（ポスター、チラシ、ホームページ等）のデザインの統一を図り課題の解消を図る。 * 外部団体は、各自選択する。
授業計画 授業内容	全 15 日/週 1 日 第 1 週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週 オリエンテーション 第 3 週～第 6 週 アイデアの具現化 第 7 週 中間発表 第 8 週 アイデア修正 第 9 週～第 14 週 実制作 第 15 週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「京都花灯路プロジェクト」 京都東山花灯路に連動して、京都の美大が創作行灯を制作。円山公園南の大谷祖廟参道に設置。 「駅ナカアートプロジェクト」 「国際文化都市・京都」をテーマにしたアート作品を地下鉄駅に展開することで、学生の視点で駅から京の文化を世界へ発信。（連携先：京都市交通局）

	「京風パッケージデザインコンテスト」 次代を担う大学生を対象とした「食」をテーマにした京風パッケージデザインコンテスト。（主催：京都中央信用金庫） 「金属素材を使ったインテリア造形プロジェクト」 小林製作所（金属加工会社）さんとの産学連携授業。1/1の椅子やチェスト、オブジェの制作を行う。大きさ制限あり。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計与件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、ブランディング、グラフィックデザインにおける与件の整理、コンセプトの立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	授業でのディスカッションにおいて自身の案をプレゼンするために必要な資料を作成しておく。 1コマに対し1時間の事前学習をすること
関連科目	「専門実習Ⅰ（デザイン）」
課題に対するフィードバックの方法	成果発表において、講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP310S

講義名	プロジェクト演習Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任教授	エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOB I 芸術学部

到達目標	プロジェクト演習Ⅰで行った調査と課題の抽出結果をもとに、課題のデザイン的な解決方針を検討し、解決案を組み立てる能力を養う。 この科目は、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	プロジェクト演習Ⅰの成果をもとにデザインの課題解決の方法を検討する。調査対象の三つの外部団体それぞれの課題に対する解決案を検討する。デザインの解決案の典型的な事例としてビジュアルデザイン・プロダクトデザイン・空間デザインの分野別事例を紹介する。ビジュアルデザインでは主にロゴやコーポレートカラーを対象とした企業アイデンティティを再構築することで課題を解決する方法を学ぶ。プロダクトデザインでは主に消費者のリサーチや指向を踏まえた新なに商品を開発する事例を学ぶ。空間デザインでは主にまちづくりの観点に立ち、空き店舗や空き地の活用方法の仕組みを考えることで課題を解決を図る方法を学ぶ。以上の課題解決の方法から、調査した団体の課題について課題解決の方針や解決内容の組み立て方を考えて解決の方向性を見つける。
授業計画 授業内容	全 15 日/週 1 日 第 1 週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週 オリエンテーション 第 3 週～第 6 週 アイデアの具現化 第 7 週 中間発表 第 8 週 アイデア修正 第 9 週～第 14 週 実制作 第 15 週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「京都花灯路プロジェクト」 京都東山花灯路に連動して、京都の美大が創作行灯を制作。円山公園南の大谷祖廟参道に設置。 「駅ナカアートプロジェクト」 「国際文化都市・京都」をテーマにしたアート作品を地下鉄駅に展開することで、学生の視点で駅から京の文化を世界へ発信。(連携先：京都市交通局) 「京風パッケージデザインコンテスト」 次代を担う大学生を対象とした「食」をテーマにした京風パッケージデザインコンテスト。(主催：京都中央信用金庫)

	「金属素材を使ったインテリア造形プロジェクト」 小林製作所（金属加工会社）さんとの産学連携授業。1/1の椅子やチェスト、オブジェの制作を行う。大きさ制限あり。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計与件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、ブランディング、グラフィックデザインにおける与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、個人デザイン事務所代表24年の実績をもとに、プロダクトデザインにおける企画立案力、エスキス、試作、プレゼンテーション等のスキルを指導する。 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表等の実績をもとに、作品の発想力、展示空間との関係性の考え方、作品の制作手法や技術についてのスキルを指導する。
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	授業でのディスカッションにおいて自身の案をプレゼンするために必要な資料を作成しておく。 1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅰ（デザイン）」
課題に対するフィードバックの方法	成果発表において、講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 山本太郎：画家（ニッポン画家） 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、自営デザイン事務所代表24年 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP311S

講義名	プロジェクト演習Ⅲ		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任教授	エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOB I 芸術学部

到達目標	プロジェクト演習Ⅱで行っている課題の解決方針および解決内容を受けて、デザイン案を作成する能力を養う。 この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-3、DP2-4に該当する。
授業概要	プロジェクト演習Ⅱと並行してデザイン案を作成する。ビジュアルデザインの課題の解決方法は、団体の理念や業態などのアイデンティを十分に把握し、その内容を端的に表す表現案を模索する。プロダクトデザインの課題の解決方法は、対象となる市場の把握に努めその市場に適した商品機能を検討する。その上で機能を包含し市場の動向に合致したデザイン案を作成する。空間デザインの課題の解決方法は、用途や行為的機能を満足する空間を確保した上で用途に応じたデザイン案を作成する。デザイン案を作成するにあたり必要十分な与件を設定することが重要となる。与件を十分に満足する考え方（コンセプト）をもとに対応するデザイン検討を行う。その際には複数のデザイン案を検討する。理由はクライアントの意向やデザインを受ける側の意向を十分に反映されているかを柔軟に検討するためである。そして、最終的に絞られたデザイン案を製作しプレゼンテーション資料を作成する。
授業計画 授業内容	全15日/週1日 第1週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第2週 オリエンテーション 第3週 ～第6週 アイデアの具現化 第7週 中間発表 第8週 アイデア修正 第9週 ～第14週 実制作 第15週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「カフェの食器開発プロジェクト」 東山キャンパスの近くに新規開店するカフェの食器を四季をテーマに企画デザインし実制作する。(連携先：株式会社灰孝本店) 「きものデザインコンペ」 京都市内の学生を対象に、京都の基幹産業である和装の振興、人材育成及び学生のまち京都の推進寄与することを目的にしたコンペティション。(連携先：京都産業会館)

	「東山花灯路プロジェクト」 大谷祖廟参道（円山公園南）の「大学の街京都・伝統の灯り展」に灯りのオブジェを出展する。 （連携先：京都東山花灯路実行委員会） 「七条通スタンプラリー&アートフェスタ」 七条通沿いのイベント参加店舗や施設内にアート作品を展示する。 （連携先：七条通商店街振興組合） 「金属素材を用いた商品開発」 金属素材：鉄、銅、ステンレス、アルミを使用した商品開発を行う。実制作としては図面、模型を作成し プレゼンテーションを行い、本製作をタイアップ企業にて実制作を行なってもらう。 （連携先：有限会社小林製作所） 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計与件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、ブランディング、グラフィックデザインにおける与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、個人デザイン事務所代表24年の実績をもとに、プロダクトデザインにおける企画立案力、エスキス、試作、プレゼンテーション等のスキルを指導する。 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表等の実績をもとに、作品の発想力、展示空間との関係性の考え方、作品の制作手法や技術についてのスキルを指導する。
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
関連科目	専門実習Ⅲ（デザイン）
課題に対するフィードバックの方法	プロジェクトごとに講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 山本太郎：画家（ニッポン画家） 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、自営デザイン事務所代表24年 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP312S

講義名	デザイン導入実習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 デザイン領域		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 秀和	KYOB I 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
特任教授	エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部

到達目標	アートやデザインに関する基礎的な情報を取り入れる。表現することの楽しさや重要性についてディスカッションを通して学ぶ。アイデアやイメージを考え、見る人に伝える表現力とグループワークによる協調性を学ぶ。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	(※2023年度課題) 平面系課題 課題1：キャンパスがキャンパス 大学のキャンパスをキャンパスに見立てて、空間に図形を描く。ある角度から見ると形が見えるが、別の角度から見ると全然別のものに見える制作を行う。「立体錯視」を応用する。 課題2：カラーコンポジション いくつか(3~4色)の色を組み合わせ、特定の言葉や感情などのキーワードを表現する。 立体空間系課題(2課題設定) ・1課題目 「〇〇分の1の世界」 ・2課題目 「文字と身体による表現」 アートとデザインの領域を立体空間表現を用いて視覚化していく。 2次元から3次元への移行など、世界観の表現を重視し課題を行っていく。
授業計画 授業内容	授業は平面系課題と立体空間系課題に分けて実施する。 * 課題の内容・順序は変更する可能性があります。 ●平面系課題 第1回 ガイダンス 第2回 キャンパスがキャンパス① 第3回 キャンパスがキャンパス② 4回目以降はカラーコンポジションの課題 第4回 お題決め 役割分担 第5回 フィールドワーク 第6回 色作り 第7回 色作り 第8回 色作り 第9回 カラーチャート並べ 第10回 カラーチャート並べ 第11回 カラーチャート並べ 第12回 カラーチャート並べ 第13回 カラーチャート並べ 第14回 カラーチャート並べ 第15回 合評 ●立体空間系課題 1課題目 (1~7週目) 「〇〇分の1の世界」 ある朝起きたら自分が〇〇分の1に縮んでいました！ さーどうしましょう。

	普段気にしていない小さな世界と、自分が〇〇分の1に縮んだ状態との関係性を新たな価値観・世界観として創造してください 自身のミニチュアを制作し、世界観を表現。 写真カット数10点 PDF 1枚にまとめ提出 自身の世界観の表現は、ストーリーがあっても可、単体の設定でも可。 2課題目 (8～14週目) 「文字と身体による表現」 4コマ漫画の実写化 5人ーと組のグループになって、4コマ漫画を実写化してみよう！ ストーリーを考え、人物によるポージング、吹き出しはカットティングシートで実物大を作り壁や窓、床に貼る。 2次元の世界を3次元で表現し、世界観の逆転を創造してください。 4コマ漫画ストーリーを考える グループワーク 5人1組 一人一人意見を出し合い、ディスカッションを重ねたのち、4コマの吹き出しとポーズ絡みなどを実写化する 吹き出しと文字はカットティングシートを使って、壁や窓、床に貼る。 15週目 2課題プレゼンテーション 個人とチーム代表
成績評価	出席状況、授業態度、制作物によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	授業内で参考資料、参考作品などを適宜紹介する。
履修上の注意	制作に必要な材料、道具などの管理を各自ですること。部屋、機器などを正しく利用すること。
予習・復習指導	1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表。 課題を通して学ことは2つ。「視点の持ち方」「言葉の視覚化」を題材に実技作業を行う授業である。デザインの仕事とは情報操作の表現であること。情報操作を行うためにはどのようなモノの捉え方が必要なのか、長年デザインに携わった実績の中から一部分の切り取りを題材として実演表現を行なっていく。 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。 田中秀和：抽象画家・映像演出（VJ）視覚平面作品を中心に、コマーシャルギャラリー等で作品発表、作家歴25年
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP002P

講義名	デザイン導入実習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 デザイン領域		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 秀和	KYOB I 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
助教	百田 聖一	KYOB I 芸術学部
特任教授	エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	平面系課題 ビジュアルデザインおよびグラフィックデザインに関する基礎的な知識、技術を身につける。設定に沿ったコンセプトの立案とそれをデザインによって視覚化することができるようになる。 立体系課題 素材の持つ特性を理解し、扱い方を習得する。アイデアを形に変える方法を学び、実際に使うことのできる造形物を完成させる。基本的な造形の構造を習得する。カッターの使い方など実制作の基礎を学ぶ。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	平面系課題・立体系課題を曜日ごとに履修する。 (2023年度課題) ●平面系課題：シンボルマーク、ロゴタイプ、タイポグラフィ、ブックカバーデザイン任意の博物館施設を設定し、コンセプト、立地、博物館としての分類を踏まえて、それらを象徴するシンボルマークおよびロゴタイプをデザインする。また、博物館で使用することを想定したタイポグラフィ（文字のデザイン）と出版物を想定したブックカバーをデザインする。 ●立体系課題：座る形段ボールを使用し、座る形（椅子の制作ではない）の言葉を理解し、言葉を造形に置き換えた時にどのようなアイデアが生まれてくるのか？アイデア、1/5模型、実制作造形の順で実際に座ることのできる造形制作を行う。
授業計画 授業内容	全15回/週2日 ●平面系課題 第1週 ガイダンス 第2週 課題1 制作・進捗チェック 第3週 課題1 制作・進捗チェック 第4週 課題1 制作・進捗チェック 第5週 合評（課題1）／課題説明（課題2） 第6週 課題2 制作・進捗チェック 第7週 課題2 制作・進捗チェック 第8週 課題2 制作・進捗チェック 第9週 課題2 制作・進捗チェック 第10週 合評（課題2）／課題説明（課題3） 第11週 課題3 制作・進捗チェック 第12週 課題3 制作・進捗チェック 第13週 課題3 制作・進捗チェック 第14週 課題3 制作・進捗チェック 第15週 合評（課題3）

	●立体系課題 第1週 ガイダンス 第2週 スケッチ・進捗チェック 第3週 スケッチ・進捗チェック 第4週 スケッチ・進捗チェック 第5週 模型制作・進捗チェック 第6週 模型制作・進捗チェック 第7週 模型制作・進捗チェック 第8週 模型制作・進捗チェック 第9週 制作・進捗チェック 第10週 制作・進捗チェック 第11週 制作・進捗チェック 第12週 制作・進捗チェック 第13週 制作・進捗チェック 第14週 制作・進捗チェック 第15週 合評
成績評価	出席状況、授業態度、制作物によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	授業内で参考資料、参考作品などを適宜紹介する。
履修上の注意	制作に必要な材料、道具などの管理を各自ですること。部屋、機器などを正しく利用すること。
予習・復習指導	1コマに対し0.5時間の事前学習および0.5時間の復習をすること。普段から身の回りにあるロゴデザイン、タイポグラフィ、ものの形態などに目を向けるようにすること。
関連科目	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験活かし、デザイナーに必要な知識、技術について教育する。 田中秀和：抽象画家・映像演出（VJ）視覚平面作品を中心に、コマーシャルギャラリー等で作品発表、作家歴25年 宮内芳代子：木版画及び、デジタルツールを使用した書籍の装画、挿絵の制作。また、動画広告やWEB広告のデザインの実務経験。
教員の実務経験有無	有

講義名	工芸導入実習Ⅰ（漆芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 工芸領域		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	工芸技法を習得するためには経験の集積による理解・認識が大変重要になる。作業に応じた素材の特性や扱い方、道具類の適切な加工・調整方法と使用方法を学ぶ中で、知識として知っているだけでなく、体験を通じて理解してゆくことを目標とする。 この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-3に該当する。
授業概要	始めに漆芸技法の基本となる髹漆技法(きゅうしつぎほう：漆による下地・塗りの技法)に欠かせない道具作りの方法を体験、習得する。切出小刀と呼ばれる刃物の研ぎ・ヒノキ材を加工してのヘラの制作・漆芸専用の漆刷毛の布着せと漆塗り、刷毛先の削り出しと叩き・ほぐしを行う。自身の刃物を研ぎ、その他の道具もその刃物で加工する。専用の漆刷毛には漆で布を貼り、漆を塗り込み補強し使用に耐える強度を確保する。これらの道具づくりを通じて、自分自身が使いやすい道具の調整方法を身につける。また並行して練習用手板の制作も行う。板状の素地に漆塗りを複数回施し、ヘラ・刷毛と漆の扱いを習得する。この手板は後期の線描き蒔絵の実習に使用する。
授業計画 授業内容	全15週／週2日 第1週 本科目の概要説明 道具作り1：ヘラ木切り出し、鉋がけ 第2週 道具作り2：ヘラ木切り出し、鉋がけ、油引き 第3週 道具作り3：切り出し小刀研ぎ 第4週 道具作り4：切り出し小刀研ぎ、ヘラ削り 第5週 道具作り5：漆刷毛木地固め、木地固め研ぎ、布着せ 第6週 道具作り6：漆刷毛布目揃え、目摺り錆 第7週 道具作り7：漆刷毛布目摺り錆研ぎ、固め 第8週 道具作り8：色漆練り、漆刷毛色漆塗り 第9週 道具作り9：漆刷毛切り出し、ほぐし、糊洗い 第10週 道具作り10：手板木地固め 目摺り錆 第11週 道具作り11：漆漉し、下塗り表裏 第12週 道具作り12：研ぎ、塗り重ね 第13週 道具作り13：研ぎ、塗り重ね 第14週 道具作り14：研ぎ、上塗り 第15週 道具作り15：作業完成確認、総括
成績評価	技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。
教科書	なし。必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』Ⅰ～Ⅳ 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂
履修上の注意	作業に使用する小刀・ヘラ木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。 また、配布する資料、参考書等文献から関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	自身の経験の振り返りのため、必要に応じ作業工程を記録しポートフォリオを作成する。 実習後に作業した内容の確認と次回への準備を確認に行う。 実習1コマに対し0.5時間の事前学習、0.5時間の復習を行う。使用する素材や道具について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸導入実習Ⅱ」

課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
教員の実務経験	遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	工芸導入実習Ⅰ（陶芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	小林 裕	KYOB I 芸術学部

到達目標	・日本の伝統的な灰釉を用いた染付陶器について、その歴史的な変遷と基礎的な製作工程を理解し、現在における陶磁器工芸の基礎を理解することを目的に、基礎となる灰釉調合調整方法から当時の染付陶器の素材調整方法・成型方法・加飾技法を実習し、さらに陶磁器製造技術を深く就学することを目標とする。 ・「手びねり」の技法を体験、初歩的技法を習得する。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	1江戸時代に確立された日本の伝統的な染付陶器について、素材である素地と灰釉薬の素材実習と、基礎的なタタラ成型実習、および基礎的な下絵付技法の加飾実習を行い、陶磁器製造の基礎を習得する。 2「手びねり」の技法によりフィギュアや壺を制作する。
授業計画 授業内容	全15週 守崎担当分 第1週 課題説明・四方皿道具作成 第2週 四方皿成型 第3週 四方皿成型 第4週 四方皿仕上げ 第5週 四方皿仕上げ 第6週 四方皿素焼焼成実習（0F） 第7週 撥水剤塗 第8週 土もみ（荒もみ）実習 第9週 土もみ（菊もみ）実習 第10週 土もみ（菊もみ）実習 川尻担当分 第1週 「土による造形」についての座学 第2週 「陶芸という表現」についての座学 第3週～6週 作品テーマの取材及びマケット制作 第7週～10週 本制作 小野・川尻・守崎担当分 第11週 四君子（蘭・竹）紙面上練習 第12週 四君子（菊・梅）紙面上練習 第13週 染付：四方皿に四君子（蘭・竹）清書 第14週 染付：四方皿に四君子（菊・梅）清書 施釉 本焼実習（RF） 第15週 講評
成績評価	実習中の態度50%、習得度20%、提出作品30%等を基本に総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	必要に応じて適宜資料を配布
履修上の注意	予習・復習をすることで材料技法を深く理解するように努めること。

予習・復習指導	実習1コマに対し1時間の復習を行う。 実習後に内容の確認と次回への準備を確実に行う。
関連科目	伝統工芸概論
課題に対するフィードバックの方法	授業内で質疑応答を行う。領域、分野別に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内展覧会出品多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP002P

講義名	工芸導入実習Ⅰ（木工・彫刻）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部

到達目標	・各道具の扱い方と手入れの仕方を習得する。 ・基本的な加工方法を習得する。 ・刃物研ぎの基本を習得し、上達させる。 ・基礎的な木彫刻の運刀法技法の習得を目標にする。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	道具の扱い方、材料及び基本的な加工方法について学ぶ。まず、諸道具の中でも基本的な平鉋、平鑿、彫刻刀などの仕立て方や、刃の研ぎ方を練習する。鉋刃の裏出し、裏押し、鉋台の表馴染み、押え溝の調整、鉋台下端の数種類の調整方法について学ぶ。刃物の研ぎについては砥ぎ台の制法、金盤と金剛砂の使用法、荒砥石、中砥石、仕上げ砥石の使用法について学ぶ。加工については、古典文様の輪子文様・樺花菱文様の作図・彫りを木彫刻の運刀法を理解し習得する。平板の制作により鋸や鉋の扱い方を習得。あられ組・蟻組の組手の加工において、鑿の扱い方を学ぶとともに、スコヤや差金を用いて精度の高い加工を覚える。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週 研ぎ練習①（砥石の説明・使用法・砥石台の制作） 第 2 週 研ぎ練習②（彫刻刀の砥ぎ） 地紋彫り輪子文様の作図 第 3 週 輪子文様の地紋彫り① 第 4 週 輪子文様の地紋彫り② 第 5 週 樺花菱文様の作図・樺花菱文様の地紋彫り① 第 6 週 樺花菱文様の地紋彫り② 第 7 週 研ぎ練習③（寸 8 鉋の砥ぎ・鉋の裏押し） 第 8 週 研ぎ練習④（鉋の裏出し・表馴染み調整・下端調整・押さえ金調整）平板制作① 第 9 週 研ぎ練習⑤（鑿のかつら仕込み・鑿の裏押し・鑿の砥ぎ）平板制作② 第 10 週 あられ組①（製材・木取り・墨付け） 第 11 週 あられ組②（仕口加工） 第 12 週 あられ組③（仮組み・仕上げ） 第 13 週 蟻組①（製材・木取り・墨付け） 第 14 週 蟻組②（仕口加工・仮組み） 第 15 週 蟻組③（調整・仕上げ）まとめ・合評
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	木工大図鑑（講談社 2008） 近藤豊著『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。

予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「芸術導入演習（工芸）」「工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が地紋彫りの制作方法、小刀の研磨方法、指物によるあられ組、蟻組の制作方法を指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP002P

講義名	工芸導入実習Ⅱ（漆芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 工芸領域		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	基礎的な加飾技法について、技法の習得並びに知識のみならず理解と認識を得ることを目標とする。様々な蒔絵技法や加飾素材を使用した技法の基礎を学び、併せて蒔絵筆などの道具類と素材の適切な調整方法や使用方法を習得する。 この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-3に該当する
授業概要	漆芸技法の内、線描き蒔絵及び金属粉や貝、卵殻、金貝といった様々な材料を活用する、伝統技法に基づく基礎的な加飾技法を学ぶ。線描き蒔絵では直線構成の「麻の葉」模様と、曲線構成の「観世水」の2種類を、銀粉を用いて制作する。貝・卵殻などの素材については、同一パターン上に蒔きつけ漆での塗り込み、研ぎ出しで仕上げ、素材による効果の違いを確認する。これらの作業を通じて素材と技法の関係を理解し、基礎的な加飾技術を身につける。同時に、漆の材料としての特性、即ち塗り、硬化、研ぎ、磨き、あるいは混入物による粘性の変化などについても、実習を通じて理解を深め、2年次以降のより高いレベルでの課題制作に取り組む基礎を固める。
授業計画 授業内容	全15週／週2日 第1週 準備作業1：本科目の概要説明、手板研ぎ 第2週 準備作業2：手板研ぎ・胴摺り 第3週 準備作業3：手板上摺り・呂色磨き 置き目作成 第4週 準備作業4：絵漆調合、焼き漆作成、置き目留め・押し 第5週 準備作業5：置き目留め・押し 卵殻 螺鈿（微塵貝粒置き）仕掛け 第6週 加飾作業1：図案①線描き、粉入れ 青貝（割貝）・平文仕掛け 第7週 加飾作業2：図案①木砥掃除、線描き、粉入れ 絞漆仕掛け 第8週 加飾作業3：図案①木砥掃除、線描き、粉入れ 仕掛け手板塗り込み① 第9週 加飾作業4：図案①木砥掃除、粉固め、胴摺り 仕掛け手板塗り込み研ぎ出し① 図案②線描き、粉入れ 仕掛け手板塗り込み② 第10週 加飾作業5：図案①摺り漆、磨き 仕掛け手板塗り込み研ぎ出し② 図案②木砥掃除、線描き、粉入れ 仕掛け手板胴摺り 第11週 加飾作業6：図案①摺り漆、磨き 錫梨子地粉蒔きぼかし 図案②木砥掃除、線描き、粉入れ 錫梨子地粉蒔きぼかし塗り込み 第12週 加飾作業7：図案②木砥掃除、粉固め、胴摺り 錫梨子地粉蒔きぼかし塗り込み 第13週 加飾作業8：図案②摺り漆、磨き 錫梨子地粉蒔きぼかし塗り込み、研ぎ同摺り 第14週 加飾作業9：図案②摺り漆、磨き 仕掛け手板上摺り・呂色磨き 第15週 加飾作業10：各種仕掛け手板上摺り・呂色磨き② 総括
成績評価	技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。
教科書	なし。必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』 I～Ⅳ 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 『漆塗りの技法書』誠文堂新光社
履修上の注意	作業に使用する蒔絵筆などの諸道具の手入れを日常行うこと。また、配布した資料や参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。

予習・復習指導	予習：道具類の手入れ。主には蒔絵筆の状態確認。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。また、筆運びの練習を自主的に行うなど。 必要に応じ作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。使用する加飾素材について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸導入実習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
教員の実務経験	遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	工芸導入実習Ⅱ（陶芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 芸術学部

到達目標	1 日本の伝統的な灰釉を用いた染付陶器について、その歴史的な変遷と基礎的な製作工程を理解し、現在における陶磁器工芸の基礎を理解することを目的に、基礎となる灰釉調合調製方法から当時の染付陶器の素材調製方法・成形技法・加飾技法を実習し、さらに陶磁器製造技術を深く就学することを目標とする。 2 「手びねり」の特性、造形性、装飾性を理解する。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	守崎、川尻がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。 1 江戸時代に確立された日本の伝統的な染付陶器について、素材である素地と灰釉薬の素材実習と、基礎的なろくろ成形実習、および基礎的な絵付け技法の加飾実習を行い、陶磁器製造の基礎を習得する。 2 「手びねり」の技法により独自の意匠による壺を制作する。
授業計画 授業内容	全15週 守崎担当分 第1週 課題説明・小煎茶碗道具作成 第2週 テストピース作り 第3週 荒もみ・菊もみ ロクロ実習（土殺し・土取り・盃引き）・テストピース素焼焼成実習（OF） 第4週 ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）（信楽10個）（カンナ等道具作り） 第5週 ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）（磁器10個） 第6週 ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）（磁器10個） 第7週 ロクロ成形（小煎茶碗削り）（磁器10個） 第8週 長石を用いた灰釉・土石釉の調合・施釉 色釉の調合・施釉 素地実験施釉 第9週 小煎茶碗素焼焼成実習（OF） テストピースの本焼焼成実習（OF・RF） 第10週 灰釉・土石釉・色釉・素地実験のピース貼り付け・レポート 川尻担当分 第1週 「手びねり」という表現についての座学 第2週 作品テーマの取材 第3週～6週 マケット制作 第7週～10週 本制作 小野・川尻・守崎担当分 第11週 染付：小煎茶碗（ろくろ線）練習 第12週 染付：小煎茶碗（割付け・小紋）練習 第13週 染付：小煎茶碗（小紋）清書 第14週 染付：小煎茶碗（山水）練習 第15週 染付：小煎茶碗（山水）清書 施釉 本焼焼成実習（RF） 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。

教科書	必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『日本陶磁大系』（平凡社） 『やきものと釉薬―基本的な考え方』（理工学社） その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する
履修上の注意	陶磁器の素材・制作技術・加飾技術の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習 1 コマに対して 1 時間の復習をすること。
関連科目	「芸術導入実習(陶芸)」「日本美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内展覧会出品多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP104P

講義名	工芸導入実習Ⅱ（木工・彫刻）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部

到達目標	・各種道具（印刀・丸刀）の使用方法、研ぎ方を習得することを目標とする。 ・平安時代に制作された京都平等院鳳凰堂の天蓋「宝相華唐草文様」の透かし彫り部分を資料をもとに基礎的な立体造形表現と技法の習得を目標とする。 ・刳物の基本的な技法を習得する。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	・「芸術導入実習（木工・彫刻）」で学んだ木彫刻技法の基礎をもとに、宝相華唐草文様の透かし彫り彫刻の制作を行う。透かし彫り彫刻は、表裏両面の浮彫り、地の部分の彫り抜きを経て完成させる。 - 次の工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）での課題のデッサン、作図、彫刻の見本となるモデリングを油土で製作。 ・刳物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、型紙を用いた墨付け法について学ぶ。 - また、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。内丸のみの仕込み方法、研磨方法を学び荒彫りを行う。 - 豆平匏と四方反豆匏の制作法を学び楕円木皿の仕上削り法を学ぶ。 - また基本的な塗装の方法についても学ぶ。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週・オリエンテーション（課題説明、各種道具の使用方法についての理解） ・刳物作品考案、図案作成 第 2 週・透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 ・豆匏制作①匏台墨付練習 第 3 週・透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 ・豆匏制作②椗匏台豆平 第 4 週・糸のこにて透かす部分の抜き取り ・豆匏制作③椗匏台四方反り 第 5 週・糸のこにて透かす部分の抜き取り ・荒彫り①木取、図面転写、型紙作成 第 6 週・糸のこにて透かす部分の抜き取り、表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・荒彫り②丸のみ研ぎ、仕立て 第 7 週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・荒彫り③ 第 8 週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ①（内側 四方反り） 第 9 週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ②（外側 豆平） 第 10 週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ③ 第 11 週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・仕上げ①ペーパー当て木製作 第 12 週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り、両面の仕上げ彫りから完成へ ・仕上げ② 第 13 週・立体彫刻の課題説明（課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解） ・仕上げ③塗装講座 第 14 週・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・仕上げ④オイル塗装等 第 15 週・まとめ・合評

成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	西川新次著 『平等院大観 第2 巻 彫刻』（岩波書店 1987） 『盆百選』（平安堂書店 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	透かし彫り彫刻の実際の作品を古寺・社寺で見学、スケッチするなど、積極的に課外での学習し取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「芸術導入実習（木工・彫刻）」「日本工芸美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が透かし彫りの技法、割物による木皿の制作法、豆匏の制 作方法等の指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP104P

<芸術学部> 専門教育科目 D8. 専門実習・演習科目(2025以前)

京都美術工芸大学シラバス [2026 年度版]

対象: 2年次以上

講義名	造形基礎演習Ⅰ（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	美術、デザイン等、芸術分野の制作を行う上で基本となる感覚を、立体の制作を通じて身に着ける。 点・線・面、比率、量、空間の理解と、構想力・制作力および表現力の習得を目標とする。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	身近な素材であるケント紙などの「紙」を使用し、立体構成を通じてデザインやアートの基礎的な表現を学ぶ。本課題では、紙が持つ二次元的な「面」としての特性を理解し、基本的な造形制作の工程を習得することを目的とする。紙を折る、切る、曲げる、接合するといった操作を通じて、素材の可能性を探索しながら、立体的な造形表現の方法を学ぶ。さらに、アイデアを具体的な形として表現する技術や、ものづくりにおける発想力、美的バランス感覚を養うことを重視する。また、制作した作品を効果的に伝えるためのプレゼンテーション資料（シート）の作成も行い、表現力や伝達力の向上を図る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 第2回 平面構成：比率・形態について 第3回 平面構成：エスキース 第4回 平面構成：制作 第5回 平面構成：制作 第6回 立体構成：制作 第7回 立体構成：プレゼンシート制作 第8回 立体構成：合評会 第9回 立体構成：構造とフォルムについて 第10回 立体構成：エスキース 第11回 空間構成：制作 第12回 空間構成：制作 第13回 空間構成：制作 第14回 空間構成：プレゼンシート制作 第15回 空間構成：合評会
成績評価	授業態度40%、2課題の完成度60%（各20%）により評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	専門性を高めるために、常に芸術性、デザイン性を意識して行動する。
予習・復習指導	試作を数多く作る事。 遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進めておく。 作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習を行う。
関連科目	構成基礎演習、造形基礎演習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	エトリケンジ：現代美術アーティストとして長期にわたって活動。国内外で作品を多数発表。デザインの業務にも携わる。京都彫刻家協会会員
教員の实務経験有無	有
科目ナンパリング	

講義名	造形基礎演習Ⅰ（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	小林 泰弘	KYOB I 芸術学部

到達目標	
履修上の注意	
予習・復習指導	
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	造形基礎演習Ⅱ（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	制作物に芸術的・デザインの価値をもたせるためには、まず様々な思考のもとに生み出されるアイデアが重要である。アイデアを生むための多様な思考の必要性を理解することを目指す。 この科目は芸術学部のディプロマポリシーDP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	本課題では、「紙」を基本的な素材として「あかり」をテーマに立体制作を行う。 「あかり」という機能を必然とするデザイン・アートの制作を通じて、紙の素材特性を活かした立体構成の可能性を探る。折る・切る・透かすなどの技法を用い、光と影の関係を考えながら、空間を豊かにする表現方法を模索する。さらに、制作した作品をプレゼンテーションするための資料作成にも取り組み、作品の意図や魅力を的確に伝える力を養うことを目指す。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、課題説明・アイデアの探し方 第2回 アイデアと素材（素材に触れる） 第3回 アイデアと素材（素材の観察） 第4回 アイデアと素材（立体構成） 第5回 アイデアと材料（エスキースと立体模型1） 第6回 アイデアと素材（エスキースと立体造形2） 第7回 中間プレゼンテーション（アイデア発表） 第8回 中間プレゼンテーション（アイデア発表） 第9回 実物の検証（大きさと明るさの検証） 第10回 実物の検証（光と色を考える） 第11回 実制作・紙立体照明の組み合わせ1 第12回 実制作・紙立体照明の組み合わせ2 第13回 実制作・紙立体照明の組み合わせ4 第14回 実制作・紙立体照明の組み合わせ5 第15回 プレゼンテーション・講評会
成績評価	授業態度20% 課題制作の完成度60%、プレゼンテーション20%によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて適宜資料を配布する。
履修上の注意	専門性を高めるために、常に芸術性、デザイン性を意識して行動する。
予習・復習指導	試作を数多く作る事。 遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進めておく。 作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習を行う。
関連科目	構成基礎演習、造形基礎演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	エトリケンジ：現代美術アーティストとして長期にわたって活動。国内外で作品を多数発表。デザインの業務にも携わる。京都彫刻家協会会員
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	造形基礎演習Ⅱ（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部

到達目標	作品制作に必要な道具等の制作法の習得を通して、道具の中に隠されたものづくりの知恵を学ぶ。また、作品制作に有用となる機械類の使用法を学び、今後の作品制作の効率化や質の向上を目指す。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	工芸作品の制作を行うにあたっては、素材の選定や道具の制作・手入れ、治具・補助具の制作等様々な準備、知識、技術が必要となる。作品を制作する際には様々な道具や技法を駆使し造形していく必要があり、その際に必要となる道具や補助具の制作法を学ぶ。一つの素材についても多様な造形方法があり、その際に使用する様々な道具や治具の使用法についても学ぶ。作品を完成させる為には様々な表面処理方法がある事も学ぶ。本演習では作品制作に必要な道具の制作法を学び、本演習で得られた知識と技術が実習における作品制作の質向上に寄与し、より深く工芸を理解する事を目的とする。
授業計画 授業内容	第1週 ガイダンス（コース別） ・ 第15週 講評（コース別） *コースごとの課題はガイダンス時に提示する。 漆芸…漆工芸において制作道具は作者の手の延長であり、道具を自分で作ることから学びの第一歩が始まる。また市販品を活用する場合も、作りて個々によってカスタマイズすることが作り手の基本である。 本演習では籾笥、筆洗い棒や針木砥など蒔絵の用品から、髹漆に使用する道具を自作することで、基礎技術の向上と同時に伝統技法への理解を深める。 陶芸…陶磁器工芸と文化との関係について歴史的な変遷を学ぶ。桃山時代に確立した灰釉陶磁器（織部・唐津など）を通して、釉薬と素地の素材技術・成形技術および焼成技術を理解する。また陶磁器の製造技術の基礎であるタタラ成形による器作りや呉須・鉄絵による下絵付け技法、更には色絵陶器の基礎である上絵付け技法を学び、そして制作することで陶磁器工芸の基礎知識を習得する。 木工・彫刻…木工作品の仕上げに用いられる拭漆技法について学ぶ。拭漆技法の演習を行う為の木地としてお箸等の制作を行う。使用者を想定した長さや太さ、形を検討したお箸の木地を制作し、拭漆を施して実際に使用する事で、人が使う道具の制作時に必要となる様々な要素について実感するとともに、拭漆仕上げの手触りや口触りを体験し、より深く拭漆の特徴を知ることとする。
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、課題完成度（40%）
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	『工芸の見かた感じ方』（東京国立近代美術館工芸課編淡交社）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	演習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。 1コマに対し4時間の復習をすること。
関連科目	造形基礎演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年美術工芸に携わってきた講師が工芸作品の造形時に必要となる道具、治具、補助具の制作方法や拭き漆等の塗装について指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP205S

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ (デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	課題を通して、各専攻ごとに必須となるデザインの発想力、表現力、造形力、プレゼンテーション力などを身につける。 この科目は、DP1-1、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	工芸・デザイン学科2年次必修科目として、各専門分野における基礎的な制作力と応用的思考力の修得を目的とする実践的な制作科目である。ビジュアルデザイン、インテリア・空間デザイン、立体造形デザイン、文化財情報デザインの4コースの中から所属コースを選択し、コースごとに設定された課題に取り組む。 各コースでは、それぞれの分野特性に応じた素材、技法、表現手法、調査・設計プロセスを重視した課題が提示され、構想から制作、発表・講評に至る一連の制作プロセスを経験する。制作にあたっては、単なる造形表現にとどまらず、コンセプト設定、リサーチ、試作、検証、表現の選択とデザインを社会・文化的文脈の中で捉える姿勢を養う。また、講評やディスカッションを通じて、他者の制作意図や表現を読み解く力を培うとともに、自身の作品を客観的に捉え、改善へとつなげる批評的視点の獲得を目指す。
授業計画 授業内容	全15回/週2日 (2024年度課題) ●ビジュアルデザイン系課題 ・音の視覚化 ・KYOB I の魅力を世界に届けよう！ (KYOB I PV 制作) ●インテリア・空間デザイン系課題 ・プロトタイピング ～3D プリンタを活用したデザインの実践～ ・ゲストルームの設計 ～実際のホテルの客室をデザインしてみよう～ ●立体造形デザイン系課題 ・彩のある食卓 ～リビングに彩ある器のデザインを作る～ ・商品化に向けた金属製品によるプロダクトデザイン ～インテリア小物・エクステリア小物のデザイン～ ●文化財情報デザイン系課題 ・郷土玩具で学ぶ、文化財の調査と表現 *実施する曜日によって選択できる課題に制限があります。 *実施スケジュールは選択する課題によって異なります。 *課題は変更する可能性があります。
成績評価	授業態度、制作物によって総合的に評価する。ただし、評価方法は課題によって異なる。

教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	課題によって異なる。
履修上の注意	選択する課題の担当教員の指示に従うこと。
予習・復習指導	予習・復習指導 実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。 身の回りにあるものをデザインの視点で観察し、情報を収集すること。 過去の作品を参照し、分析すること。
関連科目	工芸デザイン基礎実習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーなどの活動経験活かし、デザイナーに必要な知識、技術について教育する。 田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の实務経験（30年間）
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（漆芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	基礎的な下地と塗り技法である髹漆技法について技能の習得を目指す。知識のみでなく経験に基づいたより深い理解・認識を得ることを目標とする。作業の内容や目的に応じた道具類と素材の適切な調整方法と使用方法を身につけ、髹漆技法の理解・認識を深める。 この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-3に該当する
授業概要	漆芸技法の内、基礎となる髹漆技法（きゅうしつぎほう：器物制作における下地・塗りの技法）の習得と理解を目指す。手板木地を素地に用いた布着せ本堅地呂色仕上げの技法、並びに原型に布を貼り重ねて器物の胎を形成する布乾漆の技法を学ぶ。手板は3枚、乾漆は小皿状のものを1点設定している。これらの制作を通じ下地・塗りの作業を反復して行うことで、髹漆の技術を身につける。同時に作業に必要な木へらなどの道具の調整の方法や、下地材である砥の粉と漆の調合・調整法など、工程に応じて学習する。ここで習得する髹漆の技法は今後の漆芸作品の制作を考えた場合、重要で展開性のある技法になるため、十分に経験を積み習熟度を高め理解を深める。
授業計画 授業内容	全15週／週2日 第1週 本科目の概要説明 下地作業1：木地固め 乾漆作業1：原型吸い込み止め 第2週 下地作業2：木地固め研ぎ、布着せ 乾漆作業2：布貼り 第3週 下地作業3：布目揃え、目摺り錆 乾漆作業3：布目揃え、目摺り錆 第4週 下地作業4：地付け、地研ぎ 乾漆作業4：目摺り錆研ぎ、布貼り 第5週 下地作業5：地付け、地研ぎ 乾漆作業5：目摺り錆研ぎ、布貼り 第6週 下地作業6：地研ぎ、地固め 乾漆作業6：目摺り錆研ぎ、布貼り 第7週 下地作業7：錆付け、錆研ぎ 乾漆作業7：目摺り錆研ぎ、布貼り 第8週 下地作業8：錆付け、錆研ぎ 乾漆作業8：原型除去、切断部整形 第9週 下地作業9：錆付け、錆研ぎ、錆い錆付け 乾漆作業9：内側布貼り 第10週 下地作業10：錆い錆研ぎ、面取り、中塗り 乾漆作業10：内側布目揃え、目摺り錆 第11週 塗り作業11：中塗り研ぎ、中塗り 乾漆作業11：中塗り 第12週 塗り作業12：中塗り研ぎ、上塗り 乾漆作業12：中塗り 第13週 塗り作業13：上塗り呂色研ぎ、胴摺り、上摺 乾漆作業13：上塗り 第14週 塗り作業14：呂色磨き、上摺 乾漆作業14：上塗り 第15週 塗り作業15：呂色仕上げ磨き 乾漆作業15：研ぎ、仕上げ磨き 髹漆作業完成確認、総括
成績評価	技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。
教科書	なし。必要に応じて適宜資料を配布する
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』 I～IV 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 『漆塗りの技法書』誠文堂新光社
履修上の注意	作業に使用する小刀・へら木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。また、配布した資料、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。制作する手板は後期の加飾の素地となるため、後期開始時までに完成させる。
予習・復習指導	予習：道具類の手入れ。主には蒔絵筆の状態確認。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。また、筆運びの練習を自主的に行うなど。 必用に応じて作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。使用する加飾素材について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。

関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「芸術導入実習（漆芸）」「専門実習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
教員の実務経験	遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（陶芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 芸術学部

到達目標	1 江戸後期・明治期より現在まで京焼の主流である磁器坏土及び白土坏土によるろくろ成型と和絵具・赤絵具を用いた色絵陶磁器技法の習得を目標とする。現在の陶磁器の基礎となった化学計算を用いた釉薬調製方法の基礎を習得を目標とする。 2 オブジェ制作という概念を理解し、作品を完成させる。 この科目は、DP1-1、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	守崎、川尻、小野がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。 1 明治時期に導入された土石原料・工業原料を用いた釉薬調製方法を習得する。また、磁器坏土・白土坏土を用いたろくろ成型で飯碗・抹茶碗を製作する。 2 動植物をモチーフとしてオブジェを制作する。オブジェの概念や歴史的背景を資料や実物により学ぶ。取材をし、テーマ、コンセプトを設定、検討会にてブラッシュアップする。その後、試作、本制作へとすすめ、完成したオブジェを再び皆で検討する。 3 伝統的な赤・和絵具を用いた赤絵・色絵陶器技法について学び、加飾実習を行う。
授業計画 授業内容	全15週 守崎担当 第1週 課題説明(資料説明) テストピース作り(土石釉・色釉実験用) 第2週 ロクロ成形(磁器飯碗：道具作り) テストピース素焼焼成 第3週 ロクロ成形(磁器飯碗：水挽き) 第4週 ロクロ成形(磁器飯碗：水挽き)・土石釉・色釉調合 第5週 ロクロ成形(磁器飯碗：削り) 第6週 ロクロ成形(磁器飯碗：削り)・土石釉・色釉施釉 第7週 課題説明・ロクロ成形(抹茶碗：道具作り) テストピース・飯碗：施釉・本焼焼成実習(OF・RF) 第8週 ロクロ成形(抹茶碗：水挽き) 第9週 ロクロ成形(抹茶碗：削り) 第10週 テストピース整理 茶碗：施釉・本焼焼成実習(OF・RF) 川尻担当 第1週 オブジェ表現のための技法について座学 第2週 作品テーマの取材 第3週～6週 マケットの制作 第4週～10週 本制作 小野担当 第11週 赤絵(磁器飯碗)練習 第12週 赤絵(磁器飯碗)清書 上絵付焼成実習(OF) 第13週 色絵(抹茶碗)練習 第14週 色絵(抹茶碗)清書 第15週 色絵(抹茶碗)清書 上絵付焼成実習(OF) 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『日本陶磁大系』（平凡社） 『やきものと釉薬—基本的な考え方』（理工学社） その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する

履修上の注意	美術工芸書籍により江戸・明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。陶磁器窯業化学の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習 1 コマに対して 1 時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「工芸・デザイン 基礎実習Ⅰ(陶芸)」「日本工芸美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部

到達目標	・各種道具（印刀・丸刀）の使用方法、研ぎ方の習得を深める。 ・工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）で学んだ彫刻技法に基づき古典彫刻のモデルを課題とした木彫刻彫を通して、美術表現力および彫刻造形技法を習得する。 ・隠蟻組の技法を習得する。 ・拭漆の基本的な技法を習得する。 この科目は、DP1-1、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	・木彫刻の基礎で古典彫刻をモデルとして佛手の木彫刻を伝統彫刻技法を駆使しながら完成させる。モデルとして佛手の作図、木彫り制作のための立体デッサンとして油土で製作しそれを元に鑿で荒彫り、中取り、彫刻刀で小造り、仕上げ彫り工程を得て完成させる。 ・基礎実習Ⅰで制作した複数の仕口加工の発展として隠蟻組の練習を実施する。反復練習を通して加工精度を上げる。また、使用する道具も増えてくるので、それぞれの刃の研ぎ方を並行して指導する。加工をとおして、材料の反りが発生する可能性がある。その対処方法を学ぶことで木材特性をさらに習得することにつなげる。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週・オリエンテーション（課題説明、各種道具の使用方法についての理解） ・隠蟻組練習①（木取り） 第 2 週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・隠蟻組練習②（墨付） 第 3 週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・隠蟻組練習③（仕口加工） 第 4 週・古典をモデルとした木彫刻彫像の見本となるモデリングを油土で製作・材への作図の転写 ・隠蟻組練習④（仕口加工） 第 5 週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・隠蟻組練習⑤（留加工） 第 6 週・木彫刻の荒取り工程 ・隠蟻組練習⑥（留加工） 第 7 週・木彫刻の荒取り工程 ・隠蟻組練習⑦（仕上） 第 8 週・木彫刻の荒取り工程、中取り工程 ・隠蟻組練習⑧（仕上） 第 9 週・木彫刻の中取り工程 ・小箱製作①（木取り） 第 10 週・木彫刻の小造り工程 ・小箱製作②（木取り） 第 11 週・木彫刻の小造り工程、仕上げ彫り工程 ・小箱製作③（墨付） 第 12 週・木彫刻の仕上げ彫り工程 ・小箱製作③（墨付） 第 13 週・立体彫刻の課題説明（課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解） ・小箱製作④（仕口加工） 第 14 週・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・小箱製作⑤（仕口加工） 第 15 週・まとめ・合評
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）

教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』 （中央公論美術出版） 『ろくろ』 （法政大学出版局 1979）、『漆碗百選』 （光琳社出版 1975）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が油土による立体デッサンの方法、隠し蟻組の墨付けと仕口加工のついでの指導を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP206P

講義名	専門実習 I (デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOB I 芸術学部
教授	中井川 正道	KYOB I 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
助教	百田 聖一	KYOB I 芸術学部

到達目標	「ビジュアルデザインコース」「インテリア・空間デザインコース」「立体造形デザインコース」「文化財情報デザインコース」の各コースに所属し、デザインの専門性を身につける。コンセプトワーク、発想力、表現力、造形力、プレゼンテーションスキルなど、デザイナーにとって必須となる知識、技術を習得しする。また、専門分野を自覚的に選択し、主体的にデザインを展開する姿勢の確立を到達目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	これまでに修得した基礎的な制作技法およびデザインにおける思考プロセスを踏まえ、各専門分野におけるより高度で専門的な実践力の養成を目的とし、コースごとに設定された専門性の高い課題に取り組む。 各コースの専門領域に即した方法論や制作条件を踏まえながら、個々の関心や問題意識を反映させた作品制作をおこなうことで表現の独自性と専門性の深化を図り、デザイン分野における専門実践への移行段階として位置付ける。 ・ビジュアルデザインコース ビジュアルデザインに必要な諸要素としての写真やイラストレーションなどを用いて情報を編集し、コンセプトを可視化する方法を学ぶ。 ・インテリア・空間デザインコース インテリアエレメントの機能や構造を学び、新たなデザインをおこなう。 ・立体造形デザインコース テーマ、モチーフ、モディファイ、インスパイア、オマージュなどの引用表現と抽象的な概念や思想を具体的形象によって暗示するアレゴリーを学び、さまざまな表現手法を習得する。 ・文化財情報デザインコース 文化財調査の実践を通して、文化財の記録・保存に必要な基礎を学ぶ。実際の文化財を対象に、撮影技術や機材の扱い方を身につけ、文化財を正確に捉え記録する力を養う。
授業計画 授業内容	全 15 回／週 2 日 課題は各コースによる。(2024年度内容) ●ビジュアルデザインコース ・情報の編集 ・エディトリアルデザイン ●インテリア・空間デザインコース ・住空間のデザイン

	●立体造形デザインコース ・機能造形デザイン ●文化財情報デザインコース ・文化財の調査・記録 * 選択したコースによりスケジュールが異なります。
成績評価	授業態度、作品、プレゼンテーション内容によって総合的に評価する。 * 評価方法はコースによって異なります。
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書 参考資料	授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	道具・材料の取り扱い、整理整頓、後片づけに留意すること。
予習・復習指導	実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。 平素から街中や身の回りにある「デザイン」を意識し、情報を収集すること。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の実務経験（30年間）
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	専門実習Ⅰ（漆芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	より専門的な加飾技法である蒔絵3技法及び螺鈿（青貝）について、経験に基づいた深い理解と技術の獲得を目標とする。前期よりも難易度の高い蒔絵・螺鈿技法であるが、作業を通じより高度な加飾技法の習得を目指す。 この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	1年次後期「工芸導入実習Ⅱ」において学んだ線描き蒔絵よりも、より高度である蒔絵の代表的な3技法（平蒔絵・高上蒔絵・研出蒔絵）及び螺鈿技法（薄貝の加工）を習得する。蒔絵では丸粉1号から10号程度や、梨子地粉など様々な粒度・形状の金銀粉を用いる。金属粉の違いによる作業工程や仕上げ方の違いを学ぶ。また、図案（神坂雪佳の狗子図をもとにしたもの）はあえて同一のものに設定しているが、素材による仕上げの違いがどのように変化として表れるかを確認する。螺鈿では厚さ0.1mm程のアワビ貝を用いる。図案は課題として亀甲模様・七宝繫ぎ模様を設定する。その他自身で考案した図案も使用する。また、並行して作業に必要な道具の調整の方法も工程に応じて学習する。
授業計画 授業内容	全15週／週2日（遠藤：2日／週） 第1週 準備作業1：本科目の概要説明 各技法置目作成 第2週 蒔絵作業1：平蒔絵粉入れ 青貝作業1：薄貝切り出し 第3週 蒔絵作業2：平蒔絵固め、胴摺り、線描き粉入れ 高蒔絵炭粉上げ 青貝作業2：薄貝切り出し、貼り付け 第4週 蒔絵作業3：平蒔絵固め、胴摺り 高蒔絵炭粉上げ研ぎ 青貝作業3：薄貝切り出し、貼り付け 第5週 蒔絵作業4：平蒔絵上摺り、仕上げ磨き 研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵炭粉上げ 青貝作業4：括り 第6週 蒔絵作業5：研ぎ出し蒔絵固め 蒔絵炭粉上げ研ぎ 青貝作業5：中塗り 第7週 蒔絵作業6：研ぎ出し蒔絵固め 高蒔絵高上げ漆塗り込み 青貝作業6：中塗り研ぎ 第8週 蒔絵作業7：研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、固め 高蒔絵高上げ漆塗り込み研ぎ、再塗り込み 青貝作業7：中塗り 第9週 蒔絵作業8：研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、胴摺り 高蒔絵高上げ漆塗りみ研ぎ、胴摺り 青貝作業8：中塗り研ぎ 第10週 蒔絵作業9：研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵粉入れ 青貝作業9：上塗り 第11週 蒔絵作業10：研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵粉入れ 青貝作業10：上塗り炭研ぎ 第12週 蒔絵作業11：研ぎ出し蒔絵固め 高蒔絵固め 青貝作業11：上塗り炭研ぎ、胴摺り 第13週 蒔絵作業12：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵固め研ぎ、胴摺り 青貝作業12：上摺り、呂色磨き1回目 第14週 蒔絵作業13：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵毛打ち粉入れ 青貝作業13：上摺り、呂色磨き2回目 第15週 蒔絵作業14：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵毛打ち固め、仕上げ磨き 青貝作業14：上摺り、呂色磨き3回目 蒔絵・螺鈿作業完成確認、総括
成績評価	技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。
教科書	なし。必要に応じて適宜資料を配布する。

参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』 I～IV 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』 至文堂 『漆塗りの技法書』 誠文堂新光社
履修上の注意	作業に使用する蒔絵筆などの諸道具の手入れを日常行うこと。また、配布資料、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	予習：道具類の手入れ。蒔絵筆の状態確認、研ぎ炭・砥石の準備など。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。 必用に応じて作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。使用する加飾素材について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
教員の実務経験	遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	専門実習Ⅰ（陶芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 芸術学部

到達目標	1 明治期導入された西欧の化学的な陶磁器製造技術の基本的な知識とその調製法の習得を目標とする。磁器坏土を用いた、ろくろ成形技法の習得と、土石釉薬を用いた陶磁器製造技法、いっちゃん技法を用いた高火度交趾焼技法・色絵金彩金欄手技法の習得を目標とする。 2 オブジェ制作においてやや発展的な造形物を制作する。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	守崎、川尻、小野がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。 1 土石合わせ釉薬を用いた高火度陶磁器技術について実習する。磁器坏土を用いた『五寸皿』ろくろ基礎成形技法・白土坏土を用いた『一輪挿し』ろくろ基礎成形技法を学ぶ。 2 各自で独自のテーマを決めオブジェを制作する。多くの資料を集め取材、構想を練り、テーマを決定する。検討会にて発表、意見交換しブラッシュアップする。その後、試作、本制作へとすめ、完成したオブジェを皆で再び検討する。 3 いっちゃん・高火度交趾の加飾技法及び、色絵金彩金欄手技法を習得する。
授業計画 授業内容	全15週 守崎担当分 第1週 課題説明・ロクロ成形(磁器五寸皿)：道具作り／水挽き 第2週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：水挽き 第3週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：水挽き 第4週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：削り 第5週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：削り 素焼焼成実習 第6週 成形実習(ロクロ成形磁器一輪挿し)：道具作成／水挽き 第7週 成形実習(ロクロ成形[磁器一輪挿し])：水挽き 第8週 成形実習(ロクロ成形[磁器一輪挿し])：水挽き 第9週 成形実習(ロクロ成形磁器一輪挿し)：削り 第10週 成形実習(ロクロ成形[磁器一輪挿し])：削り 素焼・施釉・本焼焼成実習(OF) 川尻担当分 第1週 オブジェ表現について座学 第2週 作品テーマの取材 第3週～6週 マケットの制作 第4週～10週 本制作 小野担当分 第11週 加飾実習(五寸皿)いっちゃん技法 素焼焼成(OF) 第12週 加飾実習(五寸皿)高火度(交趾)彩色技法 本焼焼成(OF) 第13週 加飾実習(一輪挿し)：骨書・赤巻 上絵焼成実習(OF) 第14週 加飾実習(一輪挿し)：色絵金彩・金欄手技法 上絵焼成実習(OF) 第15週 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30％・技術習得30％・レポートと作品完成度40％により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『日本陶磁大系』（平凡社）『やきものと釉薬—基本的な考え方』（理工学社） その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する
履修上の注意	美術工芸書籍により明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。

予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	専門実習Ⅰ（木工・彫刻）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部

到達目標	・各種道具（印刀・丸刀・鑿）の使用法、研ぎ方の習得を深める。 ・挽物の基本的な技法を習得する。 ・小箱制作の手法を習得する。 ・工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）で学んだ佛手彫刻の彫刻技法に基づき古典彫刻のモデルを課題とした木彫刻を通して構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標にする。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	・本格的な立体彫刻制作に取り組む。伝統彫刻技法を駆使しながら木彫刻の基本造形となる古典をモデルとした課題をデッサン、作図、彫刻見本となるモデリングを油土で製作しそれを元にして鑿で荒彫り、中取り、彫刻刀で小造り、仕上げ彫り工程を得て完成させる。 ・反復練習を通して、隠蟻組の加工精度を上げた後に小箱の制作を行う。また、使用する道具も増えてくるので、それぞれの刃の研ぎ方を並行して指導する。挽物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。またこれらに使用する道具と機械の仕組みを理解し道具の製作や機械の保守も合わせて学ぶ。これらの工程を学びながら常に工芸の本道を見失わない心を育てていく。本授業では挽物の基本的な技法を習得する事を目標とする。また器物の制作を通じて指物との共通点や相違点を考察し、器物と人との関わり合いの認識を深める事を目的とする。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週・オリエンテーション（彫刻課題説明） ・拭漆についての説明 第 2 週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・拭漆練習 第 3 週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・小箱制作①（仕口加工） 第 4 週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写 ・小箱制作②（仕口加工） 第 5 週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・小箱制作③（仕口加工） 第 6 週・木彫刻の木取り、荒取り工程 ・小箱制作④（仕口加工） 第 7 週・木彫刻の荒取り工程 ・小箱制作⑤（仕口加工） 第 8 週・木彫刻の荒取り工程 ・小箱制作⑥（仮組） 第 9 週・木彫刻の荒取り工程、中取り工程 ・小箱制作⑦（底板加工） 第 10 週・木彫刻の中取り工程 ・小箱制作⑧（蓋加工） 第 11 週・木彫刻の中取り工程 ・小箱制作⑨（組立） 第 12 週・木彫刻の中取り工程、小造り工程 ・小箱制作⑩（仕上） 第 13 週・木彫刻の中取り工程、小造り工程 ・挽物① 第 14 週・木彫刻の小造り工程、仕上げ彫り工程 ・挽物② 第 15 週・木彫刻の仕上げ彫り工程から完成へ、講評・総括

成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が立体彫刻、指物による小箱制作のために必要な技術の指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP207P

講義名	専門実習Ⅱ(テ`サ`イン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
教授	中井川 正道	KYOB I 芸術学部
教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
助教	百田 聖一	KYOB I 芸術学部

到達目標	4コースにそれぞれにおける課題において、企画・立案する力を身につける。 実践的な表現方法を学び、デザインプロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。 この科目は、DP1-1～4に該当する。
授業概要	本授業は、4コース別に課題を行う。 ・ビジュアルデザインコース（グラフィックデザイン/ブランディングデザイン） 架空の複合的なサービスを提供する施設（飲食店、ホテルなど）を想定し、広告、グラフィックルールなどのディレクションおよびデザインをおこなう。また視覚的な要素を通して対象とする施設におけるサービス全体のデザインを総合的にデザインする。 ・インテリア・空間デザインコース（店舗デザイン/インテリアデザイン） インテリア空間デザインコースでは、各自が架空の複合的なサービスを提供するブランドを一つ選び、そのブランディングから店舗設計までを通して行うことで、実社会における空間デザインの流れを体験することを目的とする。 ・立体造形デザイン（プロダクトデザイン） 課題設定をセレクト方式にし、6～8課題の中から最低2課題を実制作する。それぞれの実力に合わせて15週の時間枠の中で多くの課題をこなすことも可能とし、就職活動に向けたポートフォリオ作りに必要な課題を一つでも多く制作できるように設定してゆく。 ・文化財情報デザイン（文化財調査） 文化財の調査を通して、文化財の記録・保存に必要な基礎を学ぶ。実際の文化財を対象に、撮影技術や機材の扱い方を身につけ、文化財を正確に捉え記録する力を養う。
授業計画 授業内容	全 15 回/週 2 日 *4コースによって課題が異なります。 各コースの授業計画に従って受講してください。
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。

関連科目	専門実習Ⅰ（デザイン）
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年　フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内）　大学施設技術職員歴4年 古閑謙太郎：文化財修理技術者として主に仏像の修理や調査に従事。大阪府来迎寺の毘沙門天立像など多数。 杉山英知：設計事務所勤務6年、設計事務所主宰13年。建築設計、インテリア設計などの職務経験あり。 田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の実務経験（30年間） 本授業はプロダクトデザイナーの経験値を活かした授業である。デザインの基本である外部発注するための基礎を実演を通して行っていく。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP308P

講義名	専門実習Ⅱ（漆芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部

到達目標	漆芸の伝統的な技法の習得とともに、その活用方法と、現代生活へのアプローチを考える基礎を学ぶ。また素材技法を研究し、自らが作るモノの芯をしっかりと固め卒業制作に取り組む基本的な姿勢を学習する。 この科目は DP0-1、DP0-2、DP0-3 DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	専門実習Ⅱ・Ⅲと連携して「用が生み出す美」と「必ずしも用を必要としない美」の2作品をテーマとして制作をする。どちらから取り組むかは教員との相談の上決定。 素材・造形技法・表現技法ともに基本的には伝統的な技法を基礎として、必要に応じてその他素材や技法を取り入れる。（伝統的技法 乾漆・積層・監胎・曲輪・指物・轆轤・割物など） また、個々の課題以外にもメンバーでの共同制作にも取り組むことで PDCA および 5W3Hを認識し、ものづくりを如何にマネジメントするか身に着ける。 その一環として素材・道具の自己調達や研究、作品についてのプレゼンテーションについても積極的に に行い毎週、実習時間内にミーティングを行い情報交換をする。 必要に応じて適宜小テストを実施する。 授業計画記載の制作物以外にも、進度に応じて授業内容に必要と思われる作品制作を指示する。
授業計画 授業内容	全15回 /週2日×2コマ 第1回 科目の概要説明 アイデア抽出（目的の明確化）（現状の把握） 第2回 アイデア抽出（想定・仮説展開）（改善プラン） 第3回 アイデア発想（アイデアの絞り込み）（結論と計画案の作成）（設計図面） 第4回 プレゼンテーション 技法指導 第5回 例）乾漆造形の場合成形（削り・捻塑など） 第6回 成形（削り・捻塑仕上げ）・離型剤処理・漆塗り 第7回 下地工程 第8回 布貼1回目（布目揃え・目摺り錆は予習復習時間内に取り組む）・布貼2回目 第9回 布貼3回目・布貼4回目 第10回 布貼5回目・下地工程 第11回 下地工程・脱型 第12回 漆塗工程 第13回 漆塗工程 第14回 漆塗工程 第15回 総括
成績評価	アイデア抽出・デザイン力30%、制作物（技術の習得度・材料の理解度）40%、授業態度（協働力、学生同士での情報交換、意見交換等ディスカッションを含む）30% 場合により、小テスト（実技・筆記）を実施する。
教科書	なし 必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』Ⅰ～Ⅳ社団法人日本漆工協会/『漆製品の鑑賞基礎知識』至文堂/ 『漆塗りの技法書』誠文堂新光社/『うるし工芸辞典』光芸出版/『漆 その科学と実技』理工出版 社

履修上の注意	製作に必要な素材、道具などは必要に応じて各自調達とします。 ①自らが取り組む制作技法について調査研究を行う ②事前に参考書等から関連する予備知識を得ておく ③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する ⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む課題内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む
予習・復習指導	予習：道具の手直し。次の作業目的にあった道具の状態に準備する。必要な素材・道具の調達。スケッチや文字によるアイデア抽出作業。デザインを確認するためのモデルの制作など授業時間を無駄にしないための準備を行う 復習：道具類の手入れ。いつでも作業できるように基本的なメンテナンスをする。遅れている作業がある場合には次回の実習までに放課後等を利用し作業を進める。作業工程をポートフォリオなどにまとめ、学習の振り返りに役立てる。 また素材の特性上、乾燥硬化の時間を考え、授業時間外に必要なに応じて作業を行い計画に遅れが出ないように取り組むこと。 1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「造形基礎演習Ⅱ」「専門実習Ⅰ」「立体造形（工芸）」「造形芸術論」「造形材料論」「京都学演習Ⅰ（工芸）」
課題に対するフィードバックの方法	実習・演習課題ごとに授業時間内に講評、質疑応答を行い情報の共有を行う
教員の実務経験	三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 日本工芸会正会員・京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に基本的には伝統的な技法を基礎として、必要に応じてその他素材や技法について教授する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP308P

講義名	専門実習Ⅱ（陶芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 芸術学部

到達目標	1 中国・韓国・日本の伝統的な高火度陶磁器の製造技術及び、耐熱素地を用いた中火度陶器の製造技術について、技術的な習得を目的とする。文化財として継承されている伝統的な陶磁器の製造技術と化学的な陶磁器の製造技術を比較し、色釉陶器の特質を理解し、さらにこれら素材を用いた加飾技術習得を目標とする。 2 独自の技法や表現を考案し、オブジェ作品を完成させる。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	守崎、川尻がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。 1 伝統釉（灰釉と土石釉）・新種釉を調製し、文化財として継承されている陶磁器の比較検討を行う。耐火粘土坯土を用いた土鍋のろくろ技術及び、市販無鉛フリットを用いた中火度陶器技術、印花を用いた加飾技術の実習を行う。 2 独自の発想による新しい技法や表現を考案し、そのよう要素を用いたオブジェ作品を制作する。素地、釉薬、顔料、用途、コンセプト、など作品構成要素の中で興味のある分野について新しいアイデアを考案する。実験、試作を繰り返し、最終的に作品にフィードバックさせ作品を完成させる。
授業計画 授業内容	全15週 守崎担当分 第1週 課題説明：テストピースの作成 第2週 テストピースの作成 第3週 伝統釉・新種釉の調合 第4週 伝統釉・新種釉の調合 第5週 伝統釉・新種釉の調合・施釉 第6週 伝統釉・新種釉の調合・施釉 第7週 伝統釉・新種釉の調合・施釉 第8週 伝統釉・新種釉の施釉 本焼焼成実習(OF) 第9週 伝統釉・新種釉の施釉 本焼焼成実習(RF) 第10週 成形実習(ロクロ成形[土鍋]): 道具作り 印花作り 第11週 成形実習(ロクロ成形[土鍋]): 水挽き 練習 第12週 成形実習(ロクロ成形[土鍋]): 水挽き 本番 第13週 成形実習(ロクロ成形[土鍋]): 削り 仕上げ(取手付け・印花装飾) 第14週 土鍋の素焼・施釉・本焼(中火度焼成実習(OF) テストピース整理 第15週 土鍋 伝統釉・新種釉テストピースの講評 川尻担当分 第1週 制作についてのミーティング 第2週～第5週 実験、試作 第6週～第14週 本制作 第15週 講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキスト(釉薬実験を含む)を配布、必要に応じて適宜資料を配布。

参考書 参考資料	『釉調合の基本(改訂版)』(加藤悦三著)窯技社 必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する
履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「専門実習Ⅰ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作(中国、ロシア、台湾等)国内展覧会出品多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	専門実習Ⅱ(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本 貞治	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOB I 芸術学部

到達目標	・ 棚制作の全体過程を習得する。 ・ より高度で専門的な拭漆の技法を習得する。 ・ 木の特性について理解を深める。 ・ 専門実習Ⅰ(木工・彫刻)で学んだ佛手彫刻の彫刻技法に基づき古典彫刻のモデルを課題とした木彫刻を通して、構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	・ 今までに学んだ技術をベースに指物作品を制作する。制作する作品は小棚とし、図面引き、木取りを通して、板材から作品となるまでの全体過程を習得する。完成した作品には仕上げとして、拭漆塗りを行う。また、最後に装飾金物の取付指導を行う。加工をとおして、材料の反りが発生する可能性がある。その対処方法を学ぶことで木材特性をさらに習得することにつなげる。 ・ 本格的な彫刻制作に取り組む。古典彫刻をモデルとして木彫刻作品を完成させる。伝統彫刻技法を駆使しながら仏像彫刻、欄間彫刻、建築装飾彫刻といったジャンルにとらわれない自由課題を制作する上で、どの木材が制作する作品に適切か研究し決める。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週・オリエンテーション(課題説明) ・ 小棚作品案・図面作成 第 2 週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・ 割り付け・ 第 3 週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・ 木取り 第 4 週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・ 木作り①(鉋掛け) 第 5 週・木彫刻の荒取り工程 ・ 木作り②(寸法切り) 第 6 週・木彫刻の荒取り工程 ・ 仕口加工① 第 7 週・木彫刻の荒取り行程、中取り工程 ・ 仕口加工② 第 8 週・木彫刻の中取り工程 ・ 仕口加工③ 第 9 週・木彫刻の中取り工程 ・ 仕口加工④ 第 10 週・木彫刻の中取り工程、小造り工程 ・ 仮組・部材調整 成形① 第 11 週・木彫刻の小造り行程 ・ 仮組・部材調整 成形② 第 12 週・木彫刻の小造り行程 ・ 本組

	第 1 3 週・木彫刻の小造り行程、仕上げ彫り工程 ・面取り 第 1 4 週・木彫刻の仕上げ彫り行程から完成へ ・仕上げ 第 1 5 週・組上げ 合評
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『図解木工の継手と仕口』（理工学社 1987） 丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。 古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅰ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	宮本貞治：重要無形文化財（木工芸）保持者/日本工芸会正会員 青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 美術工芸家としての実務経験を活かし、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP308P

講義名	専門実習Ⅲ (デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOB I 建築学部
教授	中井川 正道	KYOB I 芸術学部
教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	4コースにそれぞれにおける課題において、以下の内容を習得する。 ・実践的な市場調査を体験し、情報収集力や分析力を身につける。 ・企画・立案する力を身につける。 ・デザイン開発プロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	本授業は、4コース別に課題を行う。 ・ビジュアルデザインコース（ビジュアルデザイン／表現のベクトル展） 「表現のベクトル展」に出展する作品制作およびプロジェクトの実施をおこなう。各自でベクトル展のテーマに沿った課題の発見もしくは設定をし、展示を前提とした作品形態を考慮して制作を進める。 ・インテリア・空間デザインコース（空間デザイン／表現のベクトル展） 表現のベクトル展への出展を目標に、3年前期までに培った表現力をさらに伸ばす作品づくりを行う。また、個々で課題を見つけ解決する力を養うための制作指導をしている。 ・立体造形デザイン（プロダクト／表現のベクトル展） 立体造形デザインでは立体造形を中心に、3回生前半までに学んできた造形の考え方を踏襲していく。コース独自のセンスを磨き上げることを目標とする。本授業でデザインされた内容を基礎基盤とし、4回生で行う卒業制作ではさらに本授業の内容をブラッシュアップし、より深い研究内容を表現できるよう課題制作を行なってゆく。 ・文化財情報デザイン（文化財情報／表現のベクトル展） * 表現のベクトル展はブレ卒業制作と位置づけ展示発表機会を設ける。 課題は各コース共通課題を設定し、それぞれのコースの指導教員のもとコースの特色が出るよう指導を行なっていく。
授業計画 授業内容	全 15 回/週 2 日 * 4コース共通課題。 ベクトル展に向けた作品を共通の課題を通して制作する。 各コースの考え方を共通課題に反映させ、課題に取り組む。 課題制作にあたっては、各コース担当の教員が毎年持ち回りで制作する。 成果物は各コースで選抜し、選ばれた学生の作品をベクトル展へ出展する。 出展期間は卒業制作と同時期に行う。

	週2日、計15回授業×2、30回の時間を使って制作を行う。
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅱ（デザイン）
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 古閑謙太郎：文化財修理技術者として主に仏像の修理や調査に従事。大阪府来迎寺の毘沙門天立像など多数。 杉山英知：設計事務所勤務6年、設計事務所主宰13年。建築設計、インテリア設計などの職務経験あり。 田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の实務経験（28年間） 本授業はプロダクトデザイナーの経験値を活かした授業である。デザインの基本である外部発注するための基礎を実演を通して行っていく。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP309P

講義名	専門実習Ⅲ（漆芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部

到達目標	専門実習Ⅱを引継ぎ、作品の完成を目指す。その過程で、自らの創作の方向性を見極めるとともに社会のニーズを意識し、より高いクオリティの習得とその表現を目指す。 この科目は DP0-1、DP0-2、DP0-3 DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	専門実習Ⅱに続き「用が生み出す美」と「かならずしも用を必要としない美」の2作品をテーマとして制作をする。 専門実習Ⅱで取り組んだ課題と別の視点から取り組む 素材・造形技法・表現技法ともに基本的には伝統的な技法を基礎として、必要に応じてその他素材や技法を取り入れる。（伝統的加飾技法 蒔絵・漆絵・蒨霽・沈金・彫漆・螺鈿など） また、個々の課題以外にもメンバーでの共同制作にも取り組むことで PDCA および 5W3Hを認識し、ものづくりを如何にマネジメントするか身に着ける。 その一環として素材・道具の自己調達や研究、作品についてのプレゼンテーションについても積極的に行い毎週、実習時間内にミーティングを行い情報交換をする。 必要に応じて適宜小テストを実施する。 授業計画記載の制作物以外にも、進度に応じて授業内容に必要と思われる作品制作を指示する。
授業計画 授業内容	全15回 / 週2日×2コマで1回とする 第1回 本科目の概要説明 作品制作進行進捗プレゼンテーション 専門実習Ⅱ（漆芸）のプランを継承しつつ改善案の検討 第2回 塗装・加飾計画の検討及び情報共有：素地過程の継続1 第3回 手板による仕上げの試作実験1：素地過程の継続2 第4回 手板による仕上げの試作実験2：素地過程の継続3 第5回 手板による仕上げの試作実験3：素地過程の継続4 第6回 手板による仕上げの試作実験4：素地過程の継続5 第7回 手板による仕上げの試作実験5：素地過程の継続6 第8回 加飾（仕上げ）計画最終決定・展覧会出品計画等の検討 第9回 加飾1 第10回 加飾2 第11回 加飾3 第12回 加飾4 第13回 加飾5 第14回 加飾6 第15回 合評 総括
成績評価	アイデア抽出・デザイン力30%、制作物（技術の習得度・材料の理解度）40%、授業態度（協働性、学生同士での情報交換、意見交換等ディスカッションを含む）30% 場合により、展覧会への出品を課題の一環とする
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』Ⅰ～Ⅳ社団法人日本漆工協会/『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂/『漆塗りの技法書』誠文堂新光社/『うるし工芸辞典』光芸出版/『漆 その科学と実技』理工出版

履修上の注意	製作に必要な素材、道具などは必要に応じて各自調達とします。 ①自らが取り組む制作技法について調査研究を行う ②事前に参考書等から関連する予備知識を得ておく ③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する ⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む課題内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む
予習・復習指導	予習：道具の手直し。 次の作業目的にあった道具の状態に準備する。必要な素材・道具の調達。スケッチや文字によるアイデア抽出作業。デザインを確認するためのモデルの制作など授業時間を無駄にしないための準備を行う 復習：道具類の手入れ。いつでも作業できるように基本的なメンテナンスをする。遅れている作業がある場合には次回の実習までに放課後等を利用し作業を進める。作業工程をポートフォリオなどにまとめ、学習の振り返りに役立てる。 また素材の特性上、乾燥硬化の時間を考え、授業時間外に必要なに応じて作業を行い計画に遅れが出ないように取り組むこと。 1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「造形基礎演習Ⅱ」「専門実習Ⅰ」「専門実習Ⅱ」「立体造形（工芸）」「造形芸術論」「造形材料論」「京都学演習Ⅰ（工芸）」
課題に対するフィードバックの方法	実習・演習課題ごとに授業時間内に講評、質疑応答を行い情報の共有を行う
教員の実務経験	三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に基本的には伝統的な技法を基礎として、必要に応じてその他素材や技法について教授する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP309P

講義名	専門実習Ⅲ(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOB I 芸術学部

到達目標	1 陶磁器の特質を理解していくとともに、石膏型成形技法を習得する事。また、中国・韓国・日本の伝統的な高火度陶磁器の製造技術の習得を目的とする。 2 作品における「社会との関係性」について考察し、その意義を有する作品を完成させる。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	守崎、川尻がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。 1 陶磁器坯土を用いた高火度陶磁器の製造技術として、複雑な形状の石膏型成形技法（押し型・鋳込み型）の実習を行う。また、高度なろくろ技術を習得するために急須の製作を行う。 2 芸術作品は今日、社会とのかかわりを持つことが強く求められている。社会的メッセージを持つ作品の制作を試み、検証する。各自テーマを設定し、検討会を繰り返し、社会の諸問題と美術作品との関わりについて皆で話し合う。それをもとにテーマを決定、作品プランを練り、試作、本制作とすすめてゆく。
授業計画 授業内容	全15週 守崎担当分 第1週 成形実習(押し型成形[蓋物])：図面作成・原型作成 第2週 成形実習(押し型成形[蓋物])：石膏型作成 第3週 成形実習(押し型成形[蓋物])：押し型成型 第4週 成形実習(押し型成形[蓋物])：削り仕上げ 素焼焼成実習(OF) 第5週 成形実習(押し型成形[蓋物])：施釉・本焼焼成実習(OF) 第6週 成形実習(鋳込み成形[オブジェ])：図面作成・原型作成 第7週 成形実習(鋳込み成形[オブジェ])：石膏型作成 第8週 成形実習(鋳込み成形[オブジェ])：鋳込み成型 第9週 成形実習(鋳込み成形[オブジェ])：削り仕上げ 素焼焼成実習(OF) 第10週 成形実習(鋳込み成形[オブジェ])：施釉・本焼焼成実習(OF) 第11週 成形実習(ろくろ成形[急須])：道具作り 第12週 成形実習(ろくろ成形[急須])：水挽き 第13週 成形実習(ろくろ成形[急須])：削り 仕上げ(注ぎ口・取手・蓋) 素焼焼成実習(OF) 第14週 成形実習(ろくろ成形[急須])：施釉・本焼焼成実習(OF) 第15週 蓋物・オブジェ・急須の講評 川尻担当分 第1週 メッセージを持つ作品についての考察 第2週～3週 各自で取材 テーマ決定 第3週～14週 本制作 検討会 第15週 講評 意見交換会 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキスト(釉薬実験資料を含む)を配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『釉調合の基本(改訂版)』(加藤悦三著)窯技社 必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。

履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 予習・復習指導 関連科目 (時間)実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	専門実習Ⅲ(木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本 貞治	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOB I 芸術学部

到達目標	・椅子・テーブルの構造について理解する。 ・より高度で精密な加工技術を得得する。 ・塗装技法をより向上させる。 ・専門実習Ⅱ(木工・彫刻)で学んだ彫刻技法に基づく木彫刻造形的美術表現及び彫刻技法の習得を目標とする。 ・自由課題を通して、木彫刻造形を一つの作品としてまとめる、全体的な構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	・椅子を制作する。複数の椅子のデザイン計画、設計をした上で、1/5 サイズで模型を制作するなどしてそれぞれの寸法の妥当性を検討する。作品としての問題点を抽出し、解決に向けての模索を通しより良い作品を制作するセンスを養う。その後、原寸サイズの椅子の制作を行い、より複雑な木工立体加工技術を修得する。 ・木彫刻造形である仏像彫刻、欄間彫刻、建築装飾彫刻といったジャンルにとらわれない自由課題を作図する。見本となるモデリングを木彫りのための立体デッサンとして油土で制作し、どの木材が適切かを選択し造形のプランを完成させ木彫作品を制作する。
授業計画 授業内容	全15週 第1週・オリエンテーション(課題説明)自由課題の作図 ・椅子作品案・図面作成 第2週・自由課題の習作・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングの製作 ・割り付け・木取り・小割・木作り(鉋がけ等) 木作り①(鉋がけ・寸法切り) 第3週・自由課題の習作・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングの製作 ・木作り②(鉋がけ・寸法切り) 木作り③(鉋がけ・寸法切り) 第4週・木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り ・仕口加工① 第5週・木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り ・仕口加工② 第6週・自由課題の作品制作・材への作図の転写木取り、木彫刻の荒取り工程 ・仕口加工③ 第7週・木彫刻の荒取り工程 ・仮組・部材調整 第8週・木彫刻の荒取り工程 ・成形、仕上げ① 第9週・木彫刻の荒取り工程、中取り工程 ・成形、仕上げ② 第10週・木彫刻の中取り工程 ・成形、仕上げ③ 第11週・木彫刻の小造り行程 ・成形、仕上げ④

	第 1 2 週・木彫刻の小造り行程 ・組上げ、調整接着① 第 1 3 週・木彫刻の小造り行程, 仕上げ彫り工程 ・組上げ、調整接着② 第 1 4 週・木彫刻の仕上げ彫り工程から完成へ ・塗装 第 1 5 週・最終調整・合評
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『椅子と日本人のからだ』（矢田部英正 晶文社 2003）、『1000chairs』（Taschen America2000） 『日本の木の椅子』（商店建築社 1996） 丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。 古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	宮本貞治：重要無形文化財（木工芸）保持者/日本工芸会正会員 青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 美術工芸家としての実務経験を活かし、学生が美術工芸に関する研究テーマを設定し、調査・研究する際の指導を行う。また、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP309P

講義名	プロジェクト演習 I		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任教授	エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOB I 芸術学部

到達目標	外部団体の役割を理解するための調査や、団体がもつ課題を発見する能力を養う。 この科目は、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	外部団体（自治体/サービス業/製造業/生産業/他大学/その他 等）の理念や仕事の役割を理解する。まず、任意に外部団体を3団体抽出する。それぞれのホームページ等にアクセスし仕事や商品、サービス等の内容を調査する。仕事が広範囲に渡る業態については部署を絞る。たとえば市役所などの行政団体は建設部門、広報部門、観光部門という具合に絞る。大企業なども同様に部署を絞る。調査は主にwebを中心として行うが、資料を取り寄せたり、関係者へのヒアリングを行うことなど直接調査することを推奨するが、個人の責任において行うこととする。そして調査の内容から外部団体が抱える課題となりそうな内容を推察し抽出する。課題はデザイン的な解決につながると思われる内容とする。例えば、自治体の観光部門の課題として広報宣伝の発信が場当たりの統一感がなく散漫だと判断した場合、宣伝媒体（ポスター、チラシ、ホームページ等）のデザインの統一を図り課題の解消を図る。 * 外部団体は、各自選択する。
授業計画 授業内容	全 15 日/週 1 日 第 1 週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週 オリエンテーション 第 3 週～第 6 週 アイデアの具現化 第 7 週 中間発表 第 8 週 アイデア修正 第 9 週～第 14 週 実制作 第 15 週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「京都花灯路プロジェクト」 京都東山花灯路に連動して、京都の美大が創作行灯を制作。円山公園南の大谷祖廟参道に設置。 「駅ナカアートプロジェクト」 「国際文化都市・京都」をテーマにしたアート作品を地下鉄駅に展開することで、学生の視点で駅から京の文化を世界へ発信。（連携先：京都市交通局）

	「京風パッケージデザインコンテスト」 次代を担う大学生を対象とした「食」をテーマにした京風パッケージデザインコンテスト。（主催：京都中央信用金庫） 「金属素材を使ったインテリア造形プロジェクト」 小林製作所（金属加工会社）さんとの産学連携授業。1/1の椅子やチェスト、オブジェの制作を行う。大きさ制限あり。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計与件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、ブランディング、グラフィックデザインにおける与件の整理、コンセプトの立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	授業でのディスカッションにおいて自身の案をプレゼンするために必要な資料を作成しておく。 1コマに対し1時間の事前学習をすること
関連科目	「専門実習Ⅰ（デザイン）」
課題に対するフィードバックの方法	成果発表において、講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP310S

講義名	プロジェクト演習Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任教授	エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOB I 芸術学部

到達目標	プロジェクト演習Ⅰで行った調査と課題の抽出結果をもとに、課題のデザイン的な解決方針を検討し、解決案を組み立てる能力を養う。 この科目は、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	プロジェクト演習Ⅰの成果をもとにデザイン的課題解決の方法を検討する。調査対象の三つの外部団体それぞれの課題に対する解決案を検討する。デザインの解決案の典型的な事例としてビジュアルデザイン・プロダクトデザイン・空間デザインの分野別事例を紹介する。ビジュアルデザインでは主にロゴやコーポレートカラーを対象とした企業アイデンティティを再構築することで課題を解決する方法を学ぶ。プロダクトデザインでは主に消費者のリサーチや指向を踏まえた新なに商品を開発する事例を学ぶ。空間デザインでは主にまちづくりの観点に立ち、空き店舗や空き地の活用方法の仕組みを考えることで課題を解決を図る方法を学ぶ。以上の課題解決の方法から、調査した団体の課題について課題解決の方針や解決内容の組み立て方を考えて解決の方向性を見つける。
授業計画 授業内容	全 15 日/週 1 日 第 1 週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週 オリエンテーション 第 3 週～第 6 週 アイデアの具現化 第 7 週 中間発表 第 8 週 アイデア修正 第 9 週～第 14 週 実制作 第 15 週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「京都花灯路プロジェクト」 京都東山花灯路に連動して、京都の美大が創作行灯を制作。円山公園南の大谷祖廟参道に設置。 「駅ナカアートプロジェクト」 「国際文化都市・京都」をテーマにしたアート作品を地下鉄駅に展開することで、学生の視点で駅から京の文化を世界へ発信。(連携先：京都市交通局) 「京風パッケージデザインコンテスト」 次代を担う大学生を対象とした「食」をテーマにした京風パッケージデザインコンテスト。(主催：京都中央信用金庫)

	「金属素材を使ったインテリア造形プロジェクト」 小林製作所（金属加工会社）さんとの産学連携授業。1/1の椅子やチェスト、オブジェの制作を行う。大きさ制限あり。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計与件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、ブランディング、グラフィックデザインにおける与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、個人デザイン事務所代表24年の実績をもとに、プロダクトデザインにおける企画立案力、エスキス、試作、プレゼンテーション等のスキルを指導する。 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表等の実績をもとに、作品の発想力、展示空間との関係性の考え方、作品の制作手法や技術についてのスキルを指導する。
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	授業でのディスカッションにおいて自身の案をプレゼンするために必要な資料を作成しておく。 1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅰ（デザイン）」
課題に対するフィードバックの方法	成果発表において、講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 山本太郎：画家（ニッポン画家） 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、自営デザイン事務所代表24年 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP311S

講義名	プロジェクト演習Ⅲ		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任教授	エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOB I 芸術学部

到達目標	プロジェクト演習Ⅱで行っている課題の解決方針および解決内容を受けて、デザイン案を作成する能力を養う。 この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-3、DP2-4に該当する。
授業概要	プロジェクト演習Ⅱと並行してデザイン案を作成する。ビジュアルデザインの課題の解決方法は、団体の理念や業態などのアイデンティを十分に把握し、その内容を端的に表す表現案を模索する。プロダクトデザインの課題の解決方法は、対象となる市場の把握に努めその市場に適した商品機能を検討する。その上で機能を包含し市場の動向に合致したデザイン案を作成する。空間デザインの課題の解決方法は、用途や行為的機能を満足する空間を確保した上で用途に応じたデザイン案を作成する。デザイン案を作成するにあたり必要十分な与件を設定することが重要となる。与件を十分に満足する考え方（コンセプト）をもとに対応するデザイン検討を行う。その際には複数のデザイン案を検討する。理由はクライアントの意向やデザインを受ける側の意向を十分に反映されているかを柔軟に検討するためである。そして、最終的に絞られたデザイン案を製作しプレゼンテーション資料を作成する。
授業計画 授業内容	全15日/週1日 第1週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第2週 オリエンテーション 第3週 ～第6週 アイデアの具現化 第7週 中間発表 第8週 アイデア修正 第9週 ～第14週 実制作 第15週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「カフェの食器開発プロジェクト」 東山キャンパスの近くに新規開店するカフェの食器を四季をテーマに企画デザインし実制作する。 (連携先：株式会社灰孝本店) 「きものデザインコンペ」 京都市内の学生を対象に、京都の基幹産業である和装の振興、人材育成及び学生のまち京都の推進寄与することを目的にしたコンペティション。(連携先：京都産業会館)

	「東山花灯路プロジェクト」 大谷祖廟参道（円山公園南）の「大学の街京都・伝統の灯り展」に灯りのオブジェを出展する。 （連携先：京都東山花灯路実行委員会） 「七条通スタンブラリー&アートフェスタ」 七条通沿いのイベント参加店舗や施設内にアート作品を展示する。 （連携先：七条通商店街振興組合） 「金属素材を用いた商品開発」 金属素材：鉄、銅、ステンレス、アルミを使用した商品開発を行う。実制作としては図面、模型を作成し プレゼンテーションを行い、本製作をタイアップ企業にて実制作を行なってもらう。 （連携先：有限会社小林製作所） 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計与件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、ブランディング、グラフィックデザインにおける与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、個人デザイン事務所代表24年の実績をもとに、プロダクトデザインにおける企画立案力、エスキス、試作、プレゼンテーション等のスキルを指導する。 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表等の実績をもとに、作品の発想力、展示空間との関係性の考え方、作品の制作手法や技術についてのスキルを指導する。
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
関連科目	専門実習Ⅲ（デザイン）
課題に対するフィードバックの方法	プロジェクトごとに講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 山本太郎：画家（ニッポン画家） 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、自営デザイン事務所代表24年 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP312S

講義名	卒業制作研究(デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部

到達目標	後期の卒業制作・論文につながる研究を行う。研究テーマ設定（課題/仮説）、調査、分析、考察（問題点の把握）、結論（デザインの内容を整理する）等の把握等の一連の研究プロセスを実践する。特にテーマ設定にもとづく調査、分析、考察等の能力を向上させることを目標とする。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	デザインにおける研究は、基本的な前提として社会的問題をデザインのな方法で解決すること、または問題解決のための課題を提示するための研究を行うこととする。はじめに各自の研究および卒業制作・論文の方向性を基に担当教員とのコミュニケーションを通じて研究プロセスを遂行する。 研究テーマ設定（課題/仮説）：取り組むべきテーマの設定、動機、目的、研究概要（スケジュールを含む）を組み立てる。調査：既往研究の整理、調査対象の抽出と調査の実施、分析：調査内容の整理および客観的な考察を行う、考察（問題点の把握）：分析のまとめとして解決のための課題を抽出する、結論（デザインの内容を整理する）：研究全体をまとめ後期の卒業制作・論文へつなぐデザイン的な解決方法を明示する。 * 研究を通しての質疑応答はLMSを通して適宜行う。
授業計画 授業内容	全 15 回（以下一般的なプロセスを示す。） 第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 研究仮説の検討 第 3 週 研究計画の策定 第 4 週 調査 第 5 週 調査 第 6 週 調査 第 7 週 進捗発表 第 8 週 分析 第 9 週 分析 第 10 週 分析 第 11 週 研究のまとめ 第 12 週 研究のまとめ 第 13 週 試作、表現 第 14 週 試作、表現 第 15 週 研究発表 * 進捗報告、発表等、デザイン・工芸学科 2026 年度 卒業制作スケジュールに従う。 * 令和 8 年度 京都美術工芸大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 2026 年度 卒業制作要領に従う。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴 20 年、個人デザイン事務所主宰 10 年 の実績をもとに、研究指導を行う。特にデザインサーベイを中心に得られる問題の発見、仮説の立案、リサーチ、分析等からビジュアルデザインへアウトプットするプロセスを指導する。 渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴 16 年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰 5 年の実績をもとに研究指導を行う。主に個人の内面から発する自由な着眼点、発想の導き方等について指導する。

	岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに研究指導する。 東俊一郎：建築・インテリア設計事務所等における実務歴8年（日本・スペイン）、海外大学でのインテリアデザイン指導歴10年（メキシコ）の教育経験をもとに、色彩を活用したインテリア空間の研究指導を行う。主にインテリア空間における問題の発見、仮説の立案、リサーチ、分析等から空間デザインへアウトプットするプロセスを指導する。 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する 田中正流：自治体および民間にて文化財資料調査員を12年その他大学において講師歴3年の実績をもとに研究指導する。
成績評価	プロセス40%、まとめ、研究成果の内容 60%（研究報告書、作品および試作等を総合的に評価する。）
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。 他大学および本大学過年度卒業制作作品集
履修上の注意	仮説、調査、分析、まとめ、試作、作品等の作業に取り組むこと。
予習・復習指導	他大の卒業制作展の視察を十分に行っておくこと。 1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること
関連科目	専門実習Ⅲ（デザイン）
課題に対するフィードバックの方法	プロセスおよび報告時に適宜評価内容を伝達する。 研究成果を公開する。
教員の実務経験	詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 山本太郎：山本太郎：ニッポン画という独自のジャンルを立ち上げ作家活動18年および大学にて教員歴13年 田中正流：自治体および民間にて文化財資料調査員を12年その他大学において講師歴3年
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

講義名	卒業制作研究(漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	K Y O B I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	K Y O B I 芸術学部

到達目標	各自が独自にテーマを定め、調査、分析、研究に基づき構想し漆もしくは漆工技術を活用して作品製作や、価値観の創造に取り組むことを通じて、幅広い観点から自主的に課題を見出し、その解決に取り組める力を養うことを目標とする。 この科目は DP0-1、DP0-2、DP0-3 DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	漆は日本の伝統工芸の中で、世界から特に注目を浴びてきた素材である。また環境負荷が少ない素材として現在も新たな視点で注目を集めている。本講義では伝統と可能性を兼ね備えた漆を、学生自身の感性と社会との接点を探る大切な機会である。前期研究期間に、卒業制作をしっかりと見据え学生各自がそれぞれの視点でテーマを見出し調査研究する。テーマの選定にあたっては、さまざまな視点から候補を挙げ、その制作に必要な情報収集、分析、技術習得、修練に取り組む。また国際的な発信と同時に学生自身の持つ個性と日本文化をはぐくむ地域性をしっかりと理解する重要な講義となる。
授業計画 授業内容	全15回/週2日×2コマで一回とする 第1回 卒制について：概要説明、研究の方向性の選択、テーマ（仮）の発表 第2回 研究計画発表・検討 第3回 研究プラン試案決定 第4回 卒業制作研究1 第5回 卒業制作研究2 第6回 卒業制作研究3 第7回 卒業制作研究4 第8回 卒業制作研究5 第9回 卒業制作研究6 第10回 卒業制作研究7 第11回 卒業制作研究8 第12回 卒業制作研究9 第13回 卒業制作研究10 第14回 卒業制作研究11 第15回 卒業制作研究12：研究発表：総括
成績評価	調査成果40%、制作物（試作/技術習得度含）40%、授業態度（授業内での学生同士での情報交換、意見交換等ディスカッション、指導陣との積極的情報共有などを含む）20%
教科書	特に指定しない、適宜資料を配付する。
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』Ⅰ～Ⅳ社団法人日本漆工協会/『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂/『漆塗りの技法書』誠文堂新光社/『うるし工芸辞典』光芸出版/『漆その科学と実技』理工出版社
履修上の注意	①自らが取り組む制作技法について調査研究を行う ②事前に参考書等から関連する予備知識を得ておく ③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する ⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む課題内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む

予習・復習指導	1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 工芸美術に関する情報を各自が収集し感性の錬磨に努める。研究の中で技術もしくは材料の知識などの不足が見受けられる場合は、必ず習熟、復習し理解を深める。特に実制作に使用・応用する伝統技法などについては事前に十分に調査および習得を心がけ、刹那的な製作にならないように心がける。
関連科目	伝統工芸概論、工芸概論、専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・造形芸術論、立体造形（工芸） 造形材料論 京都学演習Ⅰ（工芸）
課題に対するフィードバックの方法	各学生定めた研究課題を常に担当教員と意見交換をする。 定められた授業時間にディスカッション、実演、示唆などを行う。
教員の実務経験	三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 日本工芸会正会員・京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生にその制作に必要な情報収集、分析、技術習得、修練を教授する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

講義名	卒業制作研究(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部

到達目標	現在、「陶」を主な素材とした芸術的表現は「工芸」としてのみならず、オブジェなどのアート表現、さらには現代美術として、多様に展開されている。 自身がどのようなスタンスで作品を創造するかという命題を深く考察し、制作テーマを設定する。テーマをもとに、広く取材をし、資料を集め、制作意義を確認する。 試作を繰り返し、卒業制作における技法的な問題を解決する。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	各自の卒業制作テーマのもと、研究を行い、マケットを制作、完成させる。 1年という期間をかけて制作する作品であることを理解し、まずは広くテーマを模索する。メディア、展覧会、書籍など多くの取材をし、過去の自身の作品や指向も顧み、卒業制作のテーマを決定する。数回にわたる検討会を通して、自身のテーマをブラッシュアップし、必要があれば修正する。マケットの制作を反復し、技術的、造形的な問題点、あるいは新たに検討すべき点などを洗いだし、解決してゆく。反復制作によりイメージを確かなものに仕上げる。最終週にマケットの検討会を開催する。
授業計画 授業内容	授業計画 授業内容 全15週 第1週 制作テーマの設定・ミーティング(担当職員と随時) 第2週 制作テーマ検討 (考察・取材・実験) 第3週 制作テーマ検討 (考察・取材・実験) 第4週 制作テーマ検討 (考察・取材・実験) 第5週 制作テーマ検討 (考察・取材・実験) 第6週 制作テーマ検討 (考察・取材・実験) 第7週 マケット制作 第8週 マケット制作 第9週 マケット制作 第10週 マケット制作 第11週 マケット制作 第12週 マケット制作 プレゼンテーション 検討会 第13週 マケット制作 第14週 マケット制作 第15週 マケット作品講評・レポート提出(担当教員による評価) ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度40%・レポート完成度60%を基本とし総合的に評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	既存の工芸作品にとどまらず、音楽、舞台芸術、文学など広く取材を行うこと。
予習・復習指導	1コマに対して2時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ(陶芸)」 「専門実習Ⅲ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。

教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内展覧会出品多数
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

講義名	卒業制作研究(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOB I 芸術学部
特任教授	宮本 貞治	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOB I 芸術学部

到達目標	・工芸品に対する美意識をより深いものとする。 ・卒業作品の具体的な設計と材料の準備をする。 ・塗装技法をより向上させる。 ・自由芸術作品制作による木彫刻技法・木彫刻のプロセス（彫り進め方）について理解を深める。 ・適切な道具の使い方（適材適所での各道具の使用）に習熟する。 ・作品制作の構想（デッサン、作図、エスキース）を基に木材料の準備をする。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4 に該当する。
授業概要	・今までに修得してきた三次元的な木工加工技術を用いて作品制作を行う。 ・そしてより工芸品に対する美的感覚を習得する。ここでは、「小さな空間に技と美を収斂する上で大切なことは何なのか」を作品制作を通して体得することを目指す。 ・また同時に卒業作品の設計と使用する材料の乾燥養生を並行して行う。 ・これまでに学んだ仏像彫刻、木彫刻の造形技法の集大成として木彫刻を制作する。 ・木彫刻造形を自分の思う形に表現出来るように研究を進めコンセプトを考え制作する。 ・後期からの卒業制作に向けて材料の選択及び技法など卒業作品制作のプロセスを確立させる。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週・図面作成①（彫刻・指物・割物・挽物いずれも可） ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作 第 2 週・板材への墨付け・木割作業 ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作 第 3 週・部材加工：鋸による粗取り ・木彫刻の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第 4 週・部材加工：各部材の飽がけ① ・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第 5 週・部材加工：各部材の飽がけ② ・荒取り工程 第 6 週・部材加工：仕口加工① ・荒取り工程、中取り工程 第 7 週・部材加工：仕口加工② ・中取り工程 第 8 週・部材加工：仕口加工③ ・中取り工程 第 9 週・卒業制作プレゼンテーション① ・中取り工程、小造り工程 第 10 週・部材組立 ・小造り工程 第 11 週・拭漆作業 ・小造り工程 第 12 週・卒業制作設計図作成 ・小造り工程、仕上げ工程 第 13 週・卒業制作プレゼンテーション② ・仕上げ工程 第 14 週・拭漆作業 ・仕上げ工程 第 15 週・全体講評 ・講評、卒業制作構想発表

成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	木工大図鑑（講談社 2008） 太田古朴著 『仏像彫刻技法』（綜芸舎 1965） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。 古社寺や美術館を訪れて実際の木彫刻作品を見学するなど、課外学習を積極的に行なうことが望ましい。 授業で木彫刻作品の作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し2時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅲ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 宮本貞治：重要無形文化財（木工芸）保持者/日本工芸会正会員 美術工芸家としての実務経験を活かし、学生が美術工芸に関する研究テーマを設定し、調査・研究する際の指導を行う。また、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

講義名	卒業制作・論文(デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	4年間の総括として自身が定めたテーマに対し調査・研究を重ね、導き出した考え方を各々が培ってきた手法により具現化し、人に伝わる表現（作品・論文）として発表する。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	コミュニケーション力、発想力、表現力、フィニッシュワーク力という4年間の学びにより修得したデザイン力を駆使して独自の視点により問題提起し、オリジナルの手法による解決案を具現化して提示する。
授業計画 授業内容	全 15 回/週2日 第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 卒業制作研究からのフィードバック考察 第 3 週 テーマ・コンセプト修正 第 4 週 設計 第 5 週 試作 第 6 週 試作 第 7 週 中間チェック 第 8 週 実制作 第 9 週 実制作 第 10 週 実制作 第 11 週 実制作 第 12 週 実制作 第 13 週 コンセプトパネルの制作 第 14 週 コンセプトパネルの制作 第 15 週 講評会 / 総括 * 進捗報告、発表等、デザイン・工芸学科 2026年度 卒業制作スケジュールに従う。 * 令和8年度 京都美術工芸大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 2026年度 卒業制作要領に従う。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績を活かした制作・論文の指導を行う。デザイン与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等、デザインプロセスの習得に加えて、作品の完成度を上げる指導を行う。 渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年の実績を活かした研究指導を行う。実務経験を活かした制作・論文の指導を行う。制作与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等、デザインプロセスの習得に加えて、作品の完成度を上げる指導を行う。 岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績、加えてデザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、制作・論文の指導を行う。 東俊一郎：建築・インテリア設計事務所等における実務歴8年（日本・スペイン）、海外大学でのインテリアデザイン指導歴10年（メキシコ）の教育経験をもとに、色彩を活用したインテリア空間の制作・論文指導を行う。設計与件の整理、立案、デザイン案の制作、プレゼンテーションに加えて作品の完成度を上げる指導を行う。 田中正流：自治体および民間にて文化財資料調査員を12年その他大学において講師歴3年の実績をもとに制作・論文の指導を行う。 山本太郎：ニッポン画という独自のジャンルを立ち上げ作家活動18年および大学にて教員歴13年の実績をもとに制作・論文の指導を行う。

成績評価	プロセスと最終成果物の完成度によって総合的に評価する。
教科書	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	各フェーズごとのチェックをスケジュール通り必ず受ける事。
予習・復習指導	1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすうこと
関連科目	卒業制作研究
課題に対するフィードバックの方法	各所属ゼミおよびコース内での講評・質疑応答。 卒業制作中間審査会、卒業制作コース事前審査、卒業制作審査会等における講評による。
教員の実務経験	詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年　フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内）　大学施設技術職員歴4年 田中正流：自治体および民間にて文化財資料調査員を12年その他大学において講師歴3年 山本太郎：ニッポン画家活動18年、大学にて教員歴13年
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

講義名	卒業制作・論文(漆芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部

到達目標	各自が設定したテーマに沿って独自の調査、分析、研究に基づき構想し漆を活用して作品制作に取り組むことを通じてつねに幅広い観点から自主的に課題を見出し、その解決に取り組める力を養うことを目標とする。 この科目は DP0-1、DP0-2、DP0-3 DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	学生各自が設定したテーマを、担当教員の指導の下で卒業制作を行う。テーマの選定にあたっては、事前に十分な討議を担当教員及び学生間でおこない、4年間で習得した工芸に関する知識や技術に基づき、作品制作とその発表に取り組む。 漆という素材、漆芸技法、社会性、国際性、伝統、未来、環境、さまざまな視点が存在するなか、本卒業制作の作品は新たな社会と漆とののかかわりを生み出す可能性を秘めている。 工芸とは何か？芸術とは何か？文化とは何か？普段の学びの中で繰り返し自問してきた答えを、作品制作という形で結集する重要機会でありこれまでに調査研究した内容と、これまでのカリキュラムや個々の学びの中で得た見識、取得した技の集大成である。
授業計画 授業内容	全15回/週3日×2コマで1回とする 第1回 オリエンテーション・卒業制作研究からのフィードバック考察 第2回 テーマ・コンセプト修正/実制作 第3回 実制作 第4回 実制作 第5回 実制作 第6回 実制作・中間発表 第7回 実制作 第8回 実制作 第9回 実制作 第10回 実制作 第11回 実制作 第12回 発表資料準備・実制作 第13回 発表資料準備・実制作 第14回 発表資料準備・実制作 第15回 合評会・総括
成績評価	本学での学びの集大成として、「素材」「技術」「社会性」「独自性」「伝統」「現代性」など様々な点から、テーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」ができているかを評価する。同時に、指導者及び学生同士での情報交換、意見交換等ディスカッションを実践し、自己の主張と同時に他者との相互理解に寄与しているかも評価材料として重視する。
教科書	なし
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはな』Ⅰ～Ⅳ社団法人日本漆工協会/『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂/『漆塗りの技法書』誠文堂新光社/『うるし工芸辞典』光芸出版/『漆 その科学と実技』理工出版社
履修上の注意	①自らが取り組む制作技法について調査研究を行う ②事前に参考書等から関連する予備知識を得ておく ③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する

	⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む
予習・復習指導	1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 工芸美術に関する情報を各自が収集し、技術や感性の錬磨に努めること。 実制作に使用・応用する伝統技法などについては事前に十分に調査および習得を心がけ、刹那的な製作にならないように心がけること。
関連科目	卒業制作研究（漆芸）
課題に対するフィードバックの方法	毎週授業時間内に提出物や作業計画などの情報共有を行い適宜講評を行う。
教員の実務経験	三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に工芸に関する知識や技術を教授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

講義名	卒業制作・論文(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部

到達目標	前期の卒業制作研究(陶芸)をふまえ、卒業作品を完成させることを目標とする。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	前期卒業制作研究で行った研究を基に、卒業制作を完成させる。 前期で制作したマケットをもとに、本制作を行う。技術的、造形的な問題点、あるいは検討すべき点などが新たに存在する場合は、実験や試行を繰り返し解決に導く。本制作においても複数の制作を行うことが望ましい。検討会においては、客観的な視点による指摘や意見をもとに、より作品の完成度を高めてゆく。また展示空間や展示方法においても多くの考察や検討が必要であり、そのため多くの展覧会に出かけ展示の取材を行うと共に、展示方法のための検討会を開催し、意見を交換する。
授業計画 授業内容	全15週 第1週 卒業制作研究で決定したテーマに基づき実施計画の発表および制作 第2週 卒業作品制作 第3週 卒業作品制作 第4週 卒業作品制作 第5週 卒業作品制作 第6週 卒業作品制作 第7週 卒業作品制作 途中検討会(複数回開催) 第8週 卒業作品制作 第9週 卒業作品制作 第10週 卒業作品制作 第11週 卒業作品制作 第12週 卒業作品制作 プレゼンテーション 第13週 卒業作品制作 第14週 卒業作品制作 第15週 卒業作品提出(担当教員による評価) ※卒業制作到達目標の状況に応じて、適宜内容および卒業制作手順を調整する場合がある。
成績評価	授業態度40%・作品完成度60%を基本とし総合的に評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	試作品の製作や検討のための実験をせずにいきなり本制作を行うことは、完成度が著しく低い作品になるため、認めません。 作品完成に向けて時間の配分を十分に考慮すること。
予習・復習指導	実習1コマに対して2時間の復習をすること。
関連科目	「卒業制作研究(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	卒業作品制作中に質疑応答を受けるとともに、作品提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作(中国、ロシア、台湾等)国内外展覧会出品多数
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

講義名	卒業制作・論文(木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本 貞治	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOB I 芸術学部

到達目標	・4年間の総括として各自の設定したテーマに沿って、独自の調査、分析、研究などに基づき作品を構想し、設計制作する。自身が導き出した考え方を各々が培ってきた手法により具現化し、人に伝わる表現として発表する。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見いだす力を養う。 ・これまでの実習で積み重ねて修得した彫刻技術、自由芸術作品を完成させる。木彫刻が古来引き継がれてきた造形技法を元に自らが持つ感性や表現力で作品にどのように活かせるか目指しながら学び制作し仕上げる。 この科目は、DP1-1～4に該当する。
授業概要	・学生各自がテーマを設定し、教員の指導の下で卒業制作を行う。テーマの選定にあたっては、予め十分な討議を指導教員及び学生間でおこない、4年間の講義、実習、演習を通じて習得した木工・彫刻に関する知識や技術に基づき、木工・彫刻分野の卒業制作に相応しい課題を選定する。卒業制作研究で得られた経験を活かし、指物、刳物、挽物、彫刻等の基本的な木工技法のみならず、象嵌、木画、曲木等様々な技法を駆使し、新たな木工、彫刻作品の制作を目指す。 ・卒業制作研究(木工・彫刻)で材料の選択及び彫刻技法を習得し卒業作品制作のプロセスを研究して確立させ作品を制作をする。
授業計画 授業内容	全15回/週2日 第1週 ・オリエンテーション ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い制作 第2週 ・卒業制作研究からのフィードバック考察 ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い制作 第3週 ・テーマ・コンセプト修正 ・木彫刻の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第4週 ・設計 ・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第5週 ・試作 ・荒取り工程 第6週 ・試作 ・荒取り工程、中取り工程 第7週 ・中間発表 ・中取り工程 第8週 ・実制作 ・中取り工程 第9週 ・実制作 ・中取り工程、小造り工程 第10週 ・実制作 ・小造り工程 第11週 ・実制作 ・小造り工程 第12週 ・実制作 ・小造り工程、仕上げ工程 第13週 ・実制作 ・仕上げ工程 第14週 ・コンセプトパネルの制作 ・仕上げ工程 第15週 ・合評会 / 総括

成績評価	評価ポイント：授業態度20%、技術習得20%、卒業作品の完成度60%により総合的に評価する。 4年間の学びの集大成として、卒業制作（論文）のテーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」が出来ているかを評価する。
教科書	授業を通して適宜紹介する。
参考書 参考資料	太田古朴著 『仏像彫刻技法』（綜芸舎 1965） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獸編・風月編』（光村推古書院 1972） 『日本彫刻史基礎資料集成』 平安時代 造像銘記篇 8巻、平安時代 重要作品編 5巻、鎌倉時代 造像銘記篇 1 6巻（中央公論美術出版 1966）
履修上の注意	4年間の学びの集大成として卒業制作研究（木工・彫刻）で確立した素材・成形・加飾・焼成の技術の成果を基に卒業作品を完成させる。
予習・復習指導	1コマに対し2時間の復習をすること。
関連科目	「卒業制作研究（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	卒業作品制作中に質疑応答を受けるとともに、作品提出時に講評を行う。
教員の実務経験	宮本貞治：重要無形文化財（木工芸）保持者/日本工芸会正会員 青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 美術工芸家としての実務経験を活かし、学生が美術工芸に関する研究テーマを設定し、調査・研究する際の指導を行う。また、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

＜建築学部＞専門教育科目 K5. 美術工芸科目－基本科目

京都美術工芸大学シラバス〔2026 年度版〕

講義名	建築概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOB I 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOB I 建築学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	建築学の深い成り立ちと多様な広がりを理解し、建築に対する幅広い視野を身につける。同時に、受け身で知識を習得するのではなく、自ら問いを発して、自ら考え、自ら答えるという研究の基本を身につけ、大学での学び方を習得する。 この科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	建築学は「建築とは何か」という問いに始まり、「建築とは何か」という問いに終わる。そして、その問いは無数の問いに細分化される。本講義では、建築学をめぐる多数の問いを投げかけ、具体的な建築作品や研究事例を用いた各問いの考察を通じて、建築の魅力と建築学の醍醐味に触れ、各自が「建築とは何か」という問いに向き合う構えに接近する。
授業計画 授業内容	全15回 14の建築への問い 第1回 講義概要・建築とは何かという問い（高田光雄） 第2回 建築を京都で学ぶ意味は何か（高田光雄） 第3回 建築や都市の歴史を学ぶ楽しみとは何か（井上年和） 第4回 修復の世界とは何か（井上年和） 第5回 路地から見る京都とは何か（森重幸子） 第6回 環境共生住宅とは何か（森重幸子） 第7回 建築企画とは何か（生川慶一郎） 第8回 まちづくりとは何か（生川慶一郎） 第9回 建築を作る作法とは何か（齊藤啓輔） 第10回 アップサイクルとは何か（齊藤啓輔） 第11回 建築の文化的価値とは何か（砂川晴彦） 第12回 アジアの伝統住居とは何か（砂川晴彦） 第13回 料亭建築とは何か（杉本直子） 第14回 建築における生活文化とは何か（杉本直子） 第15回 講義まとめ（高田光雄）
成績評価	「小レポート（小テスト）＋期末試験（期末レポート）」により成績評価を行う。
教科書	なし
参考書 参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	各講義内容を自分に対する問いとして整理するとともに、それに答える試みを重ねること。 1コマに対し、4.5時間の復習をすること
関連科目	建築学科全科目
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で質疑・応答などを行う。
教員の実務経験	各種建築計画・設計実務経験を有する。また、大学の専任教員として33年間の経験を有する教員が建築学の深い成り立ちと多様な広がりや「建築とは何か」という問いを教授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ARC-BA111L

講義名	日本建築史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 砂川 晴彦	K Y O B I 建築学部

到達目標	本授業では今日まで受け継がれてきた日本の伝統建築について、その歴史的・文化的価値を理解するための基礎知識を学ぶ。また文化財としての建造物がこれまでどのように維持・保存・修理されてきたのか基礎を学ぶ。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	本授業では伝統建築の中でも神社建築（社）と寺院建築（堂）を対象に、「建築様式（style）」、「建築形式（form）」、その「建築的特徴（character）」の3つの観点を使って、日本伝統建築の古代、中世、近世への展開過程を解説する。 この理解によって世の中の文化財建造物がなぜ歴史的価値あるものとされているのかを読み解くための基礎知識を身につけることができる。 また、こうした伝統建築を通して日本文化の多様さや豊かさへの理解を深めることを目指せる。 さらに現在の文化財建造物の保存・修復について、制度や考え方、具体的な手法を概説することで、伝統的な建築からなる町並や景観がどのような仕組みにより継承されてきたのか、その社会的背景を理解できる。
授業計画 授業内容	全15回の授業計画は次の通りである。 第1回 導入～建築史学の様式史観と文化財保存の歴史～ 第2回 伝統建築の基礎用語と形式概念 第3回 神社建築（1）古代の社殿～伊勢・出雲・住吉～ 第4回 神社建築（2）中世の社殿 第5回 寺院建築（1）仏教建築の伝来～飛鳥時代の建築～ 第6回 寺院建築（2）和様の誕生～奈良時代の建築～ 第7回 寺院建築（3）国風化の進展～平安時代の建築～ 第8回 寺院建築（4）中世の新しい様式 第9回 寺院建築（5）中世の新しい仏堂 第10回 社寺建築（1）安土桃山時代の優美な建築 第11回 社寺建築（2）江戸時代の多様な建築 第12回 生産過程からみた建築史～大工・木材・資源～ 第13回 造形・細部意匠からみた美意識の建築史～木割・絵様・彫刻～ 第14回 近代の日本建築 第15回 歴史的建造物の保存と修理技術 第1・2回では日本建築史を学ぶための基本的な概念や用語を解説する。 第3回から第11回までは、神社建築・寺院建築を対象に、古代 → 中世 → 近世 と時代に沿って、建築の「様式」と「形式」が展開していく過程を学ぶ。 第12回以降では、これまで解説してきた「様式」、「形式」の概念を変えて、大工職人や資源の観点、細部意匠・美意識の観点からみた通史的解説を行う。見方が変われば、説明のされ方も変わる。多視点からみつめることで日本建築の理解をさらに深めることを目指す。 また適宜、建築が造られた各時代の社会を解説することで、社会背景から建築の成り立ちの理解を試みる。 このように授業では、「基礎用語・概念 → 通史 → 多角的理解 → 現代的課題」と進めることで日本建築の歴史的、文化的価値を学習する。

成績評価	授業への参加態度（10%）授業中のクイズ（35%）および定期試験（レポート）の結果（55%）により評価を行う。
教科書	授業資料をオンラインで配布する。
参考書 参考資料	主要参考書としては次を挙げる。 日本建築学会『日本建築史図集』彰国社（解説：日本の歴史的建造物の図版集として） 近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版（解説：日本建築の細部名称に詳しい解説書として）
履修上の注意	配布資料を閲覧できるようPCほかタブレットなどを持参すること。 必要なメモをとれるようにすること。
予習・復習指導	1コマに対して1時間の復習をすること。
関連科目	日本住居史ほか伝統建築に関わる科目
課題に対するフィードバックの方法	授業中のクイズは次回以降の授業中に、期末試験（レポート）に対する解説はクラスルームにより行う。
教員の実務経験	主に曹洞宗大本山總持寺（神奈川横浜）および總持寺祖院（石川能登）の境内における諸殿堂の保存修理工事に関わった。文化財建造物修理の工事監理や修理工事報告書執筆の経験を活かし、構造・技法・様式等の観点から専門的な社寺建造物の解説を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	文化財概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
講師	◎ 児玉 絵里子	K Y O B I 芸術学部

到達目標	日本の文化財保護法と文化財の定義、および文化財保護システムについて、文化財の具体的内容を学びながら体系的に理解する。ユネスコ（UNESCO）による、文化遺産保護政策を学ぶ。文化財を生かした文化政策等を考える。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	・文化財保護法の概要を知る。・文化財保護法の関連法令としての博物館法・歴史まちづくり法・文化芸術基本法などを知る。・文化財保護法により定められた日本の文化財について学ぶ。具体的に、日本の「有形文化財」「無形文化財」「民俗文化財」「天然記念物」「文化的景観（景観地）」「伝統的建造物群（町並み）」にどのようなものがあるのかを知る。・人類の文化的向上と発展を目指す、ユネスコ（UNESCO）の文化遺産保護政策と日本の文化財との関係性を学ぶ。・文化財に関する学びのなかで、自身の創作活動の意義や可能性について考える。○このほかに授業の中で、大学における基本的なレポートの書き方、授業での学びを成果物に落とし込む方法について、基礎的指導を行います。○授業は、パワーポイントを使用し行います。教科書に指定した文献・教員が配布する資料・参考文献などを用いて学びを深め、自身の創作に生かす講義科目です。
授業計画 授業内容	第1回 〈概説〉日本の文化財と文化遺産・ユネスコの遺産保護事業第2回 文化財保護法と関連法案・ミュージアム・学芸員第3回 日本の有形文化財を知る（1）—東京国立博物館等と文化財第4回 日本の有形文化財を知る（2）—京都国立博物館・奈良国立博物館等と文化財第5回 日本の有形文化財を知る（3）—九州国立博物館・その他国立博物館等と文化財第6回 日本の無形文化財を知る（1）—工芸技法（染織・漆器ほか美術工芸）第7回 日本の無形文化財を知る（2）—工芸技法（染織・漆器ほか美術工芸）第8回 日本の無形文化財を知る（3）—伝統芸能（能楽・歌舞伎・文楽など）第9回 日本の無形文化財を知る（4）—伝統芸能（能楽・歌舞伎・文楽など）第10回 日本の無形文化財を知る（5）—伝統芸能（沖縄（琉球舞踊・組踊）とアイヌ）第11回 日本の民俗文化財を知る（1）—祭り（神楽・ねぶたほか）第12回 日本の民俗文化財を知る（2）—祭り（風流・祇園祭ほか）第13回 日本の伝統的建造物群・重要文化的景観第14回 文化・文化財とまちづくり、地域おこし第15回 文化・文化財と観光 〈総括〉
成績評価	最終課題（レポートまたは作品）60%、授業毎のコメント・カード（授業の感想などを記入）40%○この授業は、コメント・カードおよび授業の学びに基づく最終課題成果物（レポートまたは作品のどちらか）の内容を総合的に判断し、成績評価を行います。○毎回の授業で、授業の感想等を記入する「コメント・カード」を行います。○コメント・カードで授業の振り返りを行うこと。○コメント・カードのフィードバックは、授業もしくはクラスルームで行います。○授業期間中に、最終課題の成果物（レポートまたは授業の内容に係るオリジナル作品）の提出を課します。○最終課題のテーマと提出日は、授業中に説明し、クラスルームに掲示します。
教科書	○文化庁HPに掲載の「文化財に関するパンフレット」を使用する。授業を受講する前に、各自、必要なPDFをプリントアウトして持参するように（紙媒体に書き込みことで、学習効果が高まります）。【要ダウンロード（要印刷）文化庁主要パンフレット一覧】（※授業毎に、必要な冊子をあらかじめ通知します。すべてのPDFを毎授業持参する必要はありません）。〈文化庁HP〉 https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/shuppanbutsu/bunkazai_pamphlet/pamphlet_ja.html ○未来に伝えよう文化財（※初回授業で持参するように）○文化財の保護とまちづくり○国宝・重要文化財建造物保存・活用の進展をめざして○人が伝える伝統の「わざ」重要無形文化財～その「わざ」を保持する人々○日本の伝統文化を未来へ伝える。—民俗文化財の保護制度○記念物の保護のしくみ○日本の世界遺産※上記以外の冊子（PDF）についても、授業で採り上げます。〈文部科学省HP〉『令和6年度 文部科学白書』『第2部 文教・科学技術施策の動向と展開』のうち、「第7章 文化芸術立国の実現」の部分。 https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab202001/mext_00001.html （※初回授業で持参するように）
参考書 参考資料	○講師の単著（学術図書）等を、必要に応じ参照してください。・『歌謡と芸能—在原業平の表象—』勉誠社、2026年・『伝統芸能と民俗芸能のイコノグラフィー〈図像学〉』錦正社、2024年・『初期歌舞伎・琉球宮廷舞踊の系譜考—三葉葵紋・枝垂れ桜・藤の花—』錦正社、2022年・『琉球紅型』ADP、2012年（2024年重版）※第10回木村重信民族芸術学会賞受賞図書・『図説 琉球の染めと織り』河出書房新社ふくろうの本、2005年YouTube動画は（児玉（児玉） 絵里子（eriko Kodama）— マイポータル — researchmap）に掲載されています。○その他、授業に関連する文献は、授業中で紹介します。

予習・復習指導	復習で学びを深めることを重視する授業です。毎授業後に、授業の感想を記入したクラスルームのコメントカード提出を行うこと（授業の復習時間を含みます）。授業での学びを生かし、授業の時間外で博物館の見学や現地フィールドワークを行い、学びを深めてみてください。体験は、必ずあなたの能力を高めます。教室内での学修時間30時間、教室外での学修時間（復習）60時間、合計90時間。
課題に対するフィードバックの方法	毎授業、クラスルームのコメント・カードを提出すること（授業の復習時間を含みます）。課題に対するフィードバックは、授業の冒頭、およびクラスルームで行います。質問は、授業中のほかにコメント・カードで受け付けます。
教員の実務経験	博士（文学）。早大で博物館学芸員資格を取得し、学芸員として長く勤務した後に、大学の専任教員となりました。学芸員として勤務しながら博士号を取得しました（論文博士）。東京国立博物館学芸部工芸課染織室非常勤職員、国指定重要無形文化財「紅型」保持者（人間国宝）玉那覇有公主宰 玉那覇紅型工房、浦添市美術館嘱託学芸員を経て、財団法人海洋博覧会記念公園管理財団（一般財団法人沖縄美ら島財団）学芸員（正規職員）。同財団学芸員を退職後、ドナルド・キーン・センター柏崎 学芸員（正規職員）、沖縄国際大学非常勤講師や豊島区立トキワ荘マンガミュージアム準備室学芸員、早稲田大学学芸員の後、京都芸術大学専任講師を経て、現職。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
助教	◎ 古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。伝統工芸のあらましを理解するとともに、今日の伝統工芸の立ち位置を把握・理解する。この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。																																													
授業概要	本講義では、伝統工芸業界の幅広い分野に触れ、各分野の基礎的な知識を身につけることを目的とする。日本の伝統工芸は、長い歴史の中で培われた技術や美意識を継承しながらも、時代とともに変化・発展した。そしてその中で様々な課題に直面している。こうした現状を踏まえ、本講義では、伝統工芸の実務経験を豊富に持つ現役の作家や職人による講義を通じて、技法や素材の特性、制作プロセスのみならず、現代の工芸が直面する社会的・経済的な諸問題について学ぶ。また毎回の小レポートによって、主体的に考察する力を養う。																																													
授業計画 授業内容	オムニバス／全15回 <table><tr><td>第1回</td><td>古閑 謙太郎</td><td>概論</td></tr><tr><td>第2回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr><tr><td>第3回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr><tr><td>第4回</td><td>八田 誠二</td><td>友禅・西陣</td></tr><tr><td>第5回</td><td>渡邊 晶</td><td>刃物</td></tr><tr><td>第6回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr><tr><td>第7回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr><tr><td>第8回</td><td>龍村 周</td><td>錦織作家</td></tr><tr><td>第9回</td><td>猪飼 祐一</td><td>京焼</td></tr><tr><td>第10回</td><td>藤井 収</td><td>漆芸</td></tr><tr><td>第11回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr><tr><td>第12回</td><td>小島 秀介</td><td>桐箱</td></tr><tr><td>第13回</td><td>井上 楊彩</td><td>人形</td></tr><tr><td>第14回</td><td>石田 正一</td><td>竹工芸</td></tr><tr><td>第15回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr></table> ※上記リストは昨年度のものであり、今年度は講師の変更や順番が前後する場合があります。詳細については第1回目の概論において説明します。	第1回	古閑 謙太郎	概論	第2回	須藤 拓	截金	第3回	須藤 拓	截金	第4回	八田 誠二	友禅・西陣	第5回	渡邊 晶	刃物	第6回	大菅 直	文化財修理	第7回	大菅 直	文化財修理	第8回	龍村 周	錦織作家	第9回	猪飼 祐一	京焼	第10回	藤井 収	漆芸	第11回	中村 佳之	京こま	第12回	小島 秀介	桐箱	第13回	井上 楊彩	人形	第14回	石田 正一	竹工芸	第15回	中村 佳之	京こま
第1回	古閑 謙太郎	概論																																												
第2回	須藤 拓	截金																																												
第3回	須藤 拓	截金																																												
第4回	八田 誠二	友禅・西陣																																												
第5回	渡邊 晶	刃物																																												
第6回	大菅 直	文化財修理																																												
第7回	大菅 直	文化財修理																																												
第8回	龍村 周	錦織作家																																												
第9回	猪飼 祐一	京焼																																												
第10回	藤井 収	漆芸																																												
第11回	中村 佳之	京こま																																												
第12回	小島 秀介	桐箱																																												
第13回	井上 楊彩	人形																																												
第14回	石田 正一	竹工芸																																												
第15回	中村 佳之	京こま																																												
成績評価	成績評価 毎回実施する小レポートにより評価する。																																													
教科書	成績評価 毎回実施する小レポートにより評価する。																																													
参考書 参考資料	『工芸の見かた・感じかた』（東京国立近代美術館工芸課：編）淡交社『明日への伝統工芸』（浅見薫著）財京都伝統工芸産業支援センターその他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。																																													
履修上の注意	・内容、スケジュールは変更になることがあります。 ・レポート内容と講義内容に齟齬がみられる場合は、提出されていても欠席の扱いとなります。																																													
予習・復習指導	各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と覚えることについて調べること。1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。																																													
関連科目	「工芸概論」「日本工芸美術史」と併せて工芸の知識を深める。																																													
課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。																																													
教員の実務経験	登壇講師全員、美術工芸作家・職人としての経験あり。																																													
教員の実務経験有無	あり																																													
科目ナンバリング																																														

講義名	構成基礎演習（建築）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重 幸子	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
講師	杉山 英知	KYOB I 建築学部
助教	藪下 和真	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	・造形物を形態として認識し、形態の持つ様々な特性を理解する。 ・平面・立体構成の感覚、空間把握能力を養う。 ・手を動かしながら造形物を構想するプロセスを通じて、造形の方法と楽しさを体感する。 ・造形物の構成を言語化し、他者に伝える能力を習得する。 この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-4に該当する。
授業概要	本科目では、造形の基礎的な演習として、形を生み出す上で最も重要な方法の一つである「構成」という手法について学ぶ。いくつかの要素を組み合わせることによって全体を作る、という課題の実践を通して「構成」の手法を体得し、かつ、描き出したまたは作り出したもののもつ造形的な特徴を発見的に考察していく。 まず自身の身近なものを描くことから始め、次に平面での構成の練習、さらに平面から立体的な構成へと展開する。最後は総合課題として、身体・素材・空間などの観点を踏まえながら、家具等の立体造形を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション：授業の目標や留意点の説明、準備 第2回 平面構成課題：課題説明、解説 第3回 平面構成課題：課題作業 第4回 平面構成課題：課題作業、発表、講評 第5回 立体構成課題1：課題説明、解説 第6回 立体構成課題1：課題作業 第7回 立体構成課題1：課題作業、発表、講評 第8回 立体構成課題2：課題説明、解説 第9回 立体構成課題2：課題作業 第10回 立体構成課題2：課題作業、発表、講評 第11回 総合課題：課題説明、解説 第12～14回 総合課題：課題作業、エスキス 第15回 総合課題：発表、講評、総括
成績評価	受講態度（20％）、各課題提出物の評価（80％）
教科書	特になし
参考書 参考資料	必要に応じて参考資料を配布する。 そのほかの参考書として、 小沢剛、塚本由晴著『線の演習 建築学生のための美術入門』 小嶋一浩、伊藤香織、他編著『空間練習帳』 上田篤著『図形ドリル 平面・立体表現の基礎を学ぶ』
履修上の注意	毎回の授業に積極的に参加すること。身構えず考え過ぎずに手を動かすこと。

予習・復習指導	各回１時間の予習復習をすること。 自身が行った作業について振り返って評価を行うこと。 授業外においても、日常で出会う様々な立体物を形態として認識しその構成を把握することにより平面・立体構成の感覚を養うこと。
関連科目	「建築設計導入実習」「建築設計基礎演習Ⅰ」「デザイン作図演習（Ｂクラス）」
課題に対するフィードバックの方法	各課題ごとに提出物の講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	建築設計の実務経験を有する教員が担当する。建築設計の実務を通じて「構成」を実践してきた教員により、その基礎概念および応用方法を実践的に享受する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	日本住居史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要な基本的な知識を習得する。
授業概要	日本の伝統的な住居について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。 建築学科のディプロマポリシーの1、2に係る。
授業計画 授業内容	全15 回 第1回 オリエンテーション 史跡と古墳 第2回 原始的な住居と集落 第3回 都城と宮殿 第4回 寝殿造 第5回 書院造 第6回 城郭 第7回 武家屋敷 第8回 都市と村落 第9回 民家 第10回 町屋（町家） 第11回 劇場 第12回 茶室と数寄屋 第13回 近代和風建築 第14回 洋風住宅 第15回 歴史的な町並み
成績評価	レポートおよび定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
関連科目	日本建築史、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業で課題に対し講評を行う。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	色彩学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 東 俊一郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	色彩の基礎知識を基に、体系的かつ理論的に捉えることができる。 色彩の活用方法を理解し、色彩計画を立案・説明できる。 この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。
授業概要	本講義では、色彩に関する基礎的知識の習得に加え、建築、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、工芸など多様な分野における色彩活用の事例を通じて、色彩デザインの手法を体系的に学びます。 色彩は極めて広範な主題であり、一授業内でその全容を網羅することは困難です。そこで本講義では、色彩に関する知識の習得にとどまらず、観察によって知覚される色の変化に着目し、物理的・心理的側面を含めた色彩を多面的に捉える力を育成します。加えて、実制作の現場で色彩を扱う専門家による講演を通じて、創作活動における実践的な色彩の捉え方や、色彩デザインの新たな可能性についての理解を深めます。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 色彩の基礎-1 (色の表示、混合) 第 3 回 色彩の基礎-2 (色の混合、心理的効果) 第 4 回 色彩の基礎-3 (配色) 第 5 回 色彩の基礎-4 (演習) 第 6 回 色彩演習-1 第 7 回 色彩演習-2 第 8 回 色彩演習-3 第 9 回 色彩の実践事例 (都市) 第 10 回 色彩の実践事例 (建築) 第 11 回 色彩の実践事例 (プロダクトデザイン) 第 12 回 色彩の実践事例 (工芸) 第 13 回 色彩の実践事例 (アート) 第 14 回 色彩検定 第 15 回 まとめ
成績評価	評価ポイント：受講態度 (20%)、授業毎のレポート (40%)、演習課題の評価 (40%)
教科書	『カラーコーディネーターのための色彩心理入門』(日本色研事業株式会社) 『PCCS カラートーンサークル』(日本色研事業株式会社)
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	1 コマに対して2 時間の事前学習及び2 時間の復習をすること。 次回の授業内容について、シラバスに準じて教科書の内容を読んでおくこと。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックは次回以降の講義時間内で行う。
教員の実務経験	街並み景観や建築・インテリアにおける色彩研究を行う。色彩を活用した空間設計の実績をもとに、色彩理論の習得および実践を指導する。
教員の实務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-BA105L

講義名	日本美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 水萌	K Y O B I 芸術学部

到達目標	日本美術史の流れを理解し、基礎的な知識を得ることを目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2およびDP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本の各時代における代表的な作品、とくに絵画や仏像彫刻を中心に取り上げ、古代から近世にかけての日本美術の流れについて概観する。作品の様式・技法・文化的な繋がりや社会的側面などに着目し、日本美術史の基礎知識を身に付けたいうえで、作品の成立背景や展開についても触れつつ、作品についての理解を深めることを目標とする。 具体的に、授業内ではスライドの映写を通して作品の鑑賞を行い、作品を読み解くこと、鑑賞することの楽しさに重点を置く。また授業外でも作品に触れる機会が増えるよう、美術館や博物館における展示、書籍やホームページ等を適宜紹介する。
授業計画 授業内容	1ガイダンス 2日本美術史のはじまり 3奈良時代の美術① 4奈良時代の美術② 5平安時代の美術① 6平安時代の美術② 7平安時代の美術③ 8鎌倉時代の美術① 9鎌倉時代の美術② 10鎌倉時代の美術③ 11室町時代の美術① 12室町時代の美術② 13江戸時代の美術① 14江戸時代の美術② 15総括
成績評価	毎回の授業後に感想を提出（60%）、期末レポート（40%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	山下裕二、高岸輝監修『美術出版ライブラリー歴史編 日本美術史』 美術出版、2014年 古田亮編著『教養の日本美術史』 ミネルヴァ書房、2019年 ほか講義中に指示する
予習・復習指導	配布資料を活用し、専門用語について読みや意味を調べてること。講義内容の復習の際、疑問点についても調べる。1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること
課題に対するフィードバックの方法	質問への回答及び小レポートのフィードバックは次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	学芸員
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	デザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部

到達目標	・ 広義のデザインについて理解する。 ・ 近代以降のデザイン動向を認識する。 ・ 今後の社会とデザインの関わりを考える。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	本講義では、デザインの本来の意味や語源、領域等にわたって述べ、近代以後のデザインについて歴史、社会、技術などの側面から事例とともに解説する。またそれらを踏まえたうえでデザインの価値について論じ、今後デザインが果たす役割を考察する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 規格と大量生産 第3回 スタイル（様式） 第4回 視覚／イメージ 第5回 読む／文字・書体 第6回 アイデンティティ 第7回 デザインの対象 第8回 プロダクト・インテリア・空間デザインの世界 第9回 プロダクトデザイン① 第10回 プロダクトデザイン② 第11回 インテリアデザイン 第12回 シビックデザイン 第13回 ランドスケープデザイン 第14回 景観デザイン 第15回 総括
成績評価	各回の小レポート（50%）と期末レポート（50%）を数値化し、総合的に評価する。
教科書	特に使用しない
参考書 参考資料	『カラー版世界デザイン史』美術出版社、1995年 柏木博『20世紀はどのようにデザインされたか』晶文社、2002年 『旅はゲストルーム』浦一也 知恵の森文庫 2004年 『民家のデザイン』（日本編）（海外編）川島宙次 水曜社 2016年 『もっと知りたいバウハウス』仙田佳穂 東京美術 2020年
履修上の注意	毎回講義内容の感想を提出して、理解度を確認する。
予習・復習指導	1コマに対して2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 講義内容に関連するデザイナーやデザイン分野、専門用語について復習し、理解を深めておくこと。
関連科目	近代デザイン史
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭に前回の感想と質問に回答する。
教員の実務経験	岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、プロダクト、インテリア、ランドスケープ、シビックデザインの歴史、デザインのスタイル、考え方、方法論、社会的役割等について講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	建築計画Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見 将敏	KYOB I 建築学部

到達目標	建築を具体的な形にしていく計画・設計手法とそのために必要となる基礎的知識を学び、その知識を活用できるようになること。 この科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	建築に携わる者にとって基礎的で必須の教科である。建築そのものを理解するための基礎知識や建築計画・設計に要求される知識・技術、計画・設計手法を体系的に学習する。 大きく全・後半に分かれ、前半においては、計画の基礎となる人間の知覚と行動、建築空間の性能、形態などについて解説する。後半においては、設計の基礎となる建築の計画手法、空間構成の技法、外部空間の構成手法、計画の表現技法などを学習する。 建築設計関連の演習と関連した授業計画としている。また他授業との関連も各項目ごとに述べることで、建築の総合的な理解につながるような授業としている。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、建築計画の目的、意義など 第2回 人間の知覚と行動1：（形態知覚の特性、心理環境と形態） 第3回 人間の知覚と行動2：（人間の行動と形態） 第4回 寸法と規模の計画1：（寸法の計画） 第5回 寸法と規模の計画2：（単位空間の寸法） 第6回 空間の性能1：（空間の機能、安全性） 第7回 空間の性能2：（耐久性、経済性、省エネルギー） 第8回 空間の形態：（地理的環境と形態、機能と形態） 第9回 計画の技法1：（設計プロセス） 第10回 計画の技法2：（空間構成のエレメント） 第11回 空間構成の技法 第12回 造形技法 第13回 外部空間の構成と配置計画1：（外部空間のスケール、歩行空間の形態） 第14回 外部空間の構成と配置計画2：（外部空間の構成、建物の配置形態） 第15回 表現技法 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期テスト(70%) 及び小レポート (30%) により総合的に評価する。
教科書	「現代建築学 新訂 建築計画Ⅰ」 岡田光正著他 鹿島出版会
参考書 参考資料	第4版「コンパクト建築設計資料集成」 日本建築学会 丸善株式会社 「ようこそ建築学科へ！ 建築的・学生生活のススメ」 五十嵐太郎（監修）松田達 南泰裕 他（編著） 株式会社学芸出版社
履修上の注意	基礎教養として社会の仕組みをある程度理解し、建築に関わる現代的問題をニュース等から情報を得て、自らの課題として認識しようとする。また、人間の行動実態や豊かな生活環境のあり方等に興味をもち、授業で学んだこと・考えたことと日々の生活との関わりを知ろうとする心掛け・行動が重要である。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4時間の予習復習をすること。 教科書や配布資料を読み、建築計画に関わる考え方を感覚的に理解すること。また具体的な単語や数値を覚えること。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ、Ⅱ」、「建築概論」、「建築計画Ⅱ、Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	小レポート（小テスト）のフィードバックを次回以降の講義内もしくはクラスルームで行う予定である。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。本授業ではその経験を生かし、内容を補足する具体例として、担当教員がこれまでに携わった建築物やその際の業務内容、またその他の建築作品例等を提示する。建築計画における基礎知識と実例とを関連付けて学ぶことで、具体的かつ体系的に本授業を理解する一助になると考えている。
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	ARC-BA112L

講義名	構法計画Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 基幹科目、 建築学部：美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOB I 建築学部

到達目標	「木構造」の構成を覚え、基本原理を理解する。在来軸組工法における床組・小屋組の設計方法を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	空間の構成を考え、建築物として実現させるためには、建築の構造である「架構」が必要です。建築物の架構は重力や、地震、風等の自然の力に対して建築の空間を支持するための仕組みです。建築物を設計し、建築し、維持していくうえで、架構についての理解はとても大切です。 建築物の架構には、主体構造の材料により木構造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造などがあり、さらにそれぞれ架構の構成方法により沢山の架構形式に分かれます。 木構造は、古くから日本の風土、生活に根ざして発展してきました。戦後復興期には新たに制定された建築基準法に適合する住宅を大量に供給する目的で、構法の合理化、生産性向上などが図られました。建築基準法の改正や新しい材料の導入などに対応し、現在も日々進化しています。さらに近年は脱炭素社会の実現に貢献するものとして木構造の価値が見直されています。 本科目では、木構造を理解するために以下について学びます。 1. 建築物の架構としての「木構造」の構成、基本原理 2. 「木構造」が水平力へ抵抗するメカニズム 3. 部材の継手・仕口、造作等、「木構造」のディテール
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 建築構法の分類 第 2 回 木構造 (1) 木材の特徴 第 3 回 木構造 (2) 木構造の基本構成 第 4 回 木構造 (3) 軸組／耐力壁 第 5 回 木構造 (4) 耐力壁量・耐力壁の配置 第 6 回 木構造 (5) 耐力壁量・耐力壁の配置 第 7 回 木構造 (6) 床組の構成／床組の設計 第 8 回 木構造 (7) 床組の設計／部材の継手・仕口 第 9 回 木構造 (8) 床組の設計 第 10 回 木構造 (9) 小屋組の構成 第 11 回 木構造 (10) 小屋組の設計 第 12 回 木構造 (11) 小屋組の設計 第 13 回 木構造 (12) 接合金物・造作・仕上げ 第 14 回 木構造 (13) 造作・仕上げ 第 15 回 木構造 (14) 枠組壁工法 (2 × 4 工法) ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合があります。
成績評価	定期試験の結果 (40%) 授業レポート提出状況・内容 (60%)
教科書	『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 木造住宅』 大野隆司著 エクスナレッジ
参考書 参考資料	必要に応じて資料を講義中に適宜配布する
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	1 講義 (1 コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：0.5時間 (テキストの次回講義部分を読む) 復習：4.0時間 (授業ノートの整理等)
関連科目	「建築材料」、「建築生産論」、「構法計画Ⅱ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	

講義名	建築CAD演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 齊藤 啓輔	KYOB I 建築学部
講師	杉山 英知	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部
助教	藪下 和真	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	CADソフトの意義を理解するとともに、その実践のために基礎的な操作法を習得する。 ・建築設計作品のデジタル・プレゼンテーションの意義を理解を深める。 ・この科目はDP2-1、DP2-2、DP2-4に該当する。
授業概要	CADソフトを使用して基礎的な操作法と活用法を習得する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス、コンピューターを用いたデザインの基本概念(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第2回 CADソフト(基礎講座1)(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第3回 CADソフト(基礎講座2)(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第4回 CADソフト(基礎講座3)(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第5回 CADソフト(基礎講座4)(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第6回 CADソフト(基礎講座5)(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第7回 CADソフト(基礎講座6)(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第8回 CADソフト(基本図形の描画)(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第9回 CADソフト(建築図面の描画)(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第10回 CADソフト(モデル空間とペーパー空間、ペン設定、印刷)(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第11回 CADソフト(異尺度図面の印刷)(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第12回 総合課題 【総合演習課題】(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第13回 総合課題(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第14回 総合課題(担当:齊藤, 中西, 杉本) 第15回 総合課題(総合演習課題の講評)(担当:齊藤, 中西, 杉本) ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	以下を総合して評価する。 ・学習状況(30% 受講姿勢を含む) ・課題成果(70% 全課題の成果品の提出を必須とする)
教科書	【指定教科書】 ・その他、書籍を指定する場合がある。また適宜オンライン資料を配付する。
参考書 参考資料	・授業時に指定する
履修上の注意	・初学者は覚えるべきことが多いため、必ずノートやメモ帳を持参してメモ取る。 ・Mac版のソフトウェア(特にMac版のCADソフト)のインストールや使用方法についてのサポートは行わない。 ・演習での配布物や各自で収集した参考資料等は整理・ファイリングして毎回持参する。 ・課題に対する成果物の提出期限を厳守する。
予習・復習指導	・コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまづきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得する。 ・各回の授業について、4時間の予習・復習が必要である。
関連科目	・1年前期の「情報基礎演習」の履修および合格を本科目の履修条件とする。 ・本科目の履修および合格を2年前期の「建築CAD演習Ⅱ」の履修条件とする。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	建築設計、インテリアデザイン、都市デザイン等に関して10年以上に渡る実務経験を有する教員が演習指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-BA113S

講義名	建築構造力学Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	講・演
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 竹脇 出	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部

到達目標	力学理論の基礎を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築設計における構造設計の役割および建築構造力学の基本事項について講述する。静定梁、静定ラーメンに生じる反力や断面力（軸方向力、せん断力、曲げモーメント）の算出方法を身に付け、断面力図（軸方向力図、せん断力図、曲げモーメント図）の描き方について学ぶ。具体的には、単純梁や片持梁に加えて、ゲルバー梁、3ヒンジラーメンなどの断面力の求め方と断面力図の描き方について学ぶ。自由体の考え方について学び、演習を通じてその利用方法を習得する。さらに、静定構造と不静定構造の違いについて学び、その見分け方を学ぶ。これらを通じて、建築構造設計に必要な構造力学の基礎を習得することを目的とする。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション／力の基礎(1) 力の概念・単位 第2回 力の基礎(2) 力の合成・分解・置換、モーメントの計算 第3回 力の釣合い 第4回 単純化されたモデル(1):単純梁と片持梁 第5回 単純化されたモデル(2):静定ラーメン 第6回 静定構造物の反力(1):単純梁・片持梁とゲルバー梁 第7回 静定構造物の反力(2):静定ラーメンと3ヒンジラーメン 第8回 単純梁の断面力と断面力図 第9回 片持梁の断面力と断面力図 第10回 ゲルバー梁の断面力と断面力図 第11回 静定ラーメンの断面力と断面力図(1):単純支持ラーメン 第12回 静定ラーメンの断面力と断面力図(2):一端固定支持ラーメン 第13回 3ヒンジラーメンの断面力と断面力図 第14回 梁、ラーメンの断面力と断面力図の復習 第15回 構造物の安定・不安定と静定・不静定 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	出席および演習物の提出(60%)、定期試験(40%)に基づき行う。
教科書	スタンダード 建築構造力学 学芸出版社 ISBN 978-4-7615-2841-6
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をすること。 (授業ノートの整理、前回演習課題の復習等)
関連科目	「建築構造力学Ⅱ」、「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	COM-BA217L

講義名	日本建築史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 砂川 晴彦	K Y O B I 建築学部

到達目標	本授業では今日まで受け継がれてきた日本の伝統建築について、その歴史的・文化的価値を理解するための基礎知識を学ぶ。また文化財としての建造物がこれまでどのように維持・保存・修理されてきたのか基礎を学ぶ。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	本授業では伝統建築の中でも神社建築（社）と寺院建築（堂）を対象に、「建築様式（style）」、「建築形式（form）」、その「建築的特徴（character）」の3つの観点を使って、日本伝統建築の古代、中世、近世への展開過程を解説する。 この理解によって世の中の文化財建造物がなぜ歴史的価値あるものとされているのかを読み解くための基礎知識を身につけることができる。 また、こうした伝統建築を通して日本文化の多様さや豊かさへの理解を深めることを目指せる。 さらに現在の文化財建造物の保存・修復について、制度や考え方、具体的な手法を概説することで、伝統的な建築からなる町並や景観がどのような仕組みにより継承されてきたのか、その社会的背景を理解できる。
授業計画 授業内容	全15回の授業計画は次の通りである。 第1回 導入～建築史学の様式史観と文化財保存の歴史～ 第2回 伝統建築の基礎用語と形式概念 第3回 神社建築（1）古代の社殿～伊勢・出雲・住吉～ 第4回 神社建築（2）中世の社殿 第5回 寺院建築（1）仏教建築の伝来～飛鳥時代の建築～ 第6回 寺院建築（2）和様の誕生～奈良時代の建築～ 第7回 寺院建築（3）国風化の進展～平安時代の建築～ 第8回 寺院建築（4）中世の新しい様式 第9回 寺院建築（5）中世の新しい仏堂 第10回 社寺建築（1）安土桃山時代の優美な建築 第11回 社寺建築（2）江戸時代の多様な建築 第12回 生産過程からみた建築史～大工・木材・資源～ 第13回 造形・細部意匠からみた美意識の建築史～木割・絵様・彫刻～ 第14回 近代の日本建築 第15回 歴史的建造物の保存と修理技術 第1・2回では日本建築史を学ぶための基本的な概念や用語を解説する。 第3回から第11回までは、神社建築・寺院建築を対象に、古代 → 中世 → 近世 と時代に沿って、建築の「様式」と「形式」が展開していく過程を学ぶ。 第12回以降では、これまで解説してきた「様式」、「形式」の概念を変えて、大工職人や資源の観点、細部意匠・美意識の観点からみた通史的解説を行う。見方が変われば、説明のされ方も変わる。多視点からみつめることで日本建築の理解をさらに深めることを目指す。 また適宜、建築が造られた各時代の社会を解説することで、社会背景から建築の成り立ちの理解を試みる。 このように授業では、「基礎用語・概念 → 通史 → 多角的理解 → 現代的課題」と進めることで日本建築の歴史的、文化的価値を学習する。

成績評価	授業への参加態度（10%）授業中のクイズ（35%）および定期試験（レポート）の結果（55%）により評価を行う。
教科書	授業資料をオンラインで配布する。
参考書 参考資料	主要参考書としては次を挙げる。 日本建築学会『日本建築史図集』彰国社（解説：日本の歴史的建造物の図版集として） 近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版（解説：日本建築の細部名称に詳しい解説書として）
履修上の注意	配布資料を閲覧できるようPCほかタブレットなどを持参すること。 必要なメモをとれるようにすること。
予習・復習指導	1コマに対して1時間の復習をすること。
関連科目	日本住居史ほか伝統建築に関わる科目
課題に対するフィードバックの方法	授業中のクイズは次回以降の授業中に、期末試験（レポート）に対する解説はクラスルームにより行う。
教員の実務経験	主に曹洞宗大本山總持寺（神奈川横浜）および總持寺祖院（石川能登）の境内における諸殿堂の保存修理工事に関わった。文化財建造物修理の工事監理や修理工事報告書執筆の経験を活かし、構造・技法・様式等の観点から専門的な社寺建造物の解説を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	西洋美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 樋上 千寿	K Y O B I 建築学部

到達目標	・古代から近代までのヨーロッパ美術の概略を理解する。 ・キリスト教の宗教絵画作品について時代毎の類型や様式を知る。 ・日本の美術とヨーロッパの美術との影響関係について知見を得る。 この科目はDP1-1, DP1-2, DP2-1, DP2-2に該当する。
授業概要	授業テーマ：美術—神と人との関わり 人類は古代より、美術作品の制作という営みを続けてきた。とりわけ、神と人との関係を映し出す宗教美術からは、それぞれの時代や地域の世界観や価値観が反映されている。美術の歴史は、神と人との関係の歴史であるとも言える。授業では、主にギリシャ・ローマ時代の多神教の宗教芸術と、一神教であるキリスト教美術の歴史を概観し、両者の世界観の相違と表現の相違について考察する。また西洋世界と日本との接触から生まれた近世の日本独特の宗教美術についても概観する。宗教との関係が希薄となった現代、社会の中で美術が果たしてきた役割について考察するきっかけとして欲しい。
授業計画 授業内容	1、講義ガイダンス～美術史とは？ 2、多神教と美術：ギリシャとローマ、ローマの神殿建築 3、ギリシャ・ローマの彫刻 4、一神教と美術 5、偶像崇拜の禁止と初期キリスト教美術 6、中世キリスト教の美術：ローマ帝国の東西分裂とキリスト教美術の発展 7、中世キリスト教の聖堂建築：ロマネスクとゴシック 8、ルネサンスの美術①ルネサンス運動の発端 9、ルネサンスの美術②レオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》 10、アカデミズムの成立と新古典主義 11、新古典主義から印象主義へ 12、印象主義の克服：セザンヌとポスト印象主義 13、桃山美術と西洋文化との接触 14、日本のキリスト教美術 15、まとめ
成績評価	小テスト（4回）50％と期末レポート50％で評価。
教科書	指定しない
参考書 参考資料	『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）、『西洋美術館』（小学館）
予習・復習指導	復習を軸とした学習を進め、知識の整理に努めること。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	東洋美術史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 浅湫 毅	KYOB I 建築学部

到達目標	広い東洋世界の中で、仏教を信仰し（あるいはかつて信仰していた）地域、範囲を理解し、それぞれの地域でうみだされた作品が、同様の主題のもとに製作されていながらもいかに異なるかを理解するとともに、日本文化の基層をなす仏教美術への理解を深めることを目標とする。せつかく仏教美術の聖地京都で学んでいるのだから、仏教美術のエキスパートを目指そうではないか。		
授業概要	「東洋」という言葉が指し示す範囲は広く、また場合に応じてその範囲も変化する。本講は広い東洋世界の中で作り続けられてきた美術作品の中でも、とくに日本と関係の深い「仏教美術」を中心に学ぶ。地理的にはインドから東南アジア、中国、朝鮮を経て日本へ、時間的には古代から現代にいたるまでの仏教美術の特色を、実際の作例映像などを通じてみていく。全15回の授業内容は次項に示した通りだが、最初に仏教の始まったインドの仏教の歴史を簡単振り返るとともに、仏像の誕生の様相を見る。そしてそれらがどのようなルートを通じて日本にきたのかを探り、本編としては日本の仏像の歴史を紐解いていく。きらめく仏教美術の世界を、本講を通じてともに旅しよう。本科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。		
授業計画 授業内容	第1回	ガイダンス	授業の概要と自己紹介（京都国立博物館の概要をかねて）
	第2回	東洋の仏教美術 1	アジアの国々とインド・東南アジアの仏像
	第3回	東洋の仏教美術 2	中国・朝鮮半島の仏像
	第4回	仏像入門 1	仏像の素材・年代の概要
	第5回	仏像入門 2	仏像の種類
	第6回	日本の仏教美術 1	飛鳥時代前期 法隆寺を中心に
	第7回	日本の仏教美術 2	飛鳥時代後期 白鳳美術とは
	第8回	日本の仏教美術 3	奈良時代前期 薬師寺・興福寺・東大寺
	第9回	日本の仏教美術 4	奈良時代後期 唐招提寺・大安寺
	第10回	日本の仏教美術 5	平安時代前期 最澄・空海と密教の美術
	第11回	日本の仏教美術 6	平安時代後期 仏像の和様化と定朝
	第12回	日本の仏教美術 7	鎌倉時代前期 1 奈良仏師の台頭
	第13回	日本の仏教美術 8	鎌倉時代前期 2 運慶と6人の息子
	第14回	日本の仏教美術 9	鎌倉時代前期 3 快慶と行快
	第15回	日本の仏教美術 10	鎌倉時代後期～室町次代 禅宗の美術
成績評価	受講態度75% 授業中の提出物10% 期末レポート15%		
教科書	特に用意しないが、適宜資料をクラスルームを通じて配布する		
参考書 参考資料	小学館『日本美術全集』『世界美術全集 東洋編』等の美術書 美術出版『東洋美術史』『日本美術史』『日本仏像史』		
履修上の注意	授業ではスライドを写して講義するので、かならず前の方の席に座ること ノートにメモを取りながら受講すること		
予習・復習指導	適宜、京都国立博物館や寺社などを訪れ、実際の仏像作品をしっかりとみておくこと 授業の事前に配布する資料を必ず読んで確認すること 一講義（1コマ）に対して1時間の予習と1時間の復習をすること		
課題に対するフィードバックの方法	授業中に提出した課題は、コメントを付して翌週に返却する 期末レポートはクラスルームの「質問」で課題を出すので、その回答にはコメントを付して返却する		
教員の実務経験	京都国立博物館・東京国立博物館に、彫刻担当学芸員として31年間勤務した		
教員の実務経験有無	有		
科目ナンバリング			

<建築学部> 専門教育科目 K6. 美術工芸科目－基幹科目
京都美術工芸大学シラバス [2026 年度版]

講義名	構法計画Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 展開科目、 建築学部：美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	K Y O B I 建築学部

到達目標	「鋼構造」・「鉄筋コンクリート」の構成を覚え、基本原理を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する
授業概要	空間の構成を考え、建築物として実現させるためには、建築の構造である「架構」が必要です。建築物の架構は重力や、地震、風等の自然の力に対して建築の空間を支持するための仕組みです。架構についての理解は、建築物を設計し、建築し、維持していくうえでとても重要であるといえます。建築物の架構には、主体構造の材料により木構造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造などがあり、さらにそれぞれ架構の構成方法により沢山の架構形式に分かれます。 本科目では、集合住宅で多用される鉄筋コンクリート造と商業建築の架構として一般的な鉄骨造について、その構成及び基本原理について学びます。さらに架構について理解するために鉄筋コンクリート造、鉄骨造の材料であるコンクリート、鋼材等についても学びます。また、架構以外の建築の構成要素として階段、建具、床・壁・天井等の造作や仕上げについて学びます。
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 鉄筋コンクリート構造 (1) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 2 回 鉄筋コンクリート構造 (2) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 3 回 鉄筋コンクリート構造 (3) 鋼材及びコンクリートの特徴 第 4 回 鉄筋コンクリート構造 (4) 配筋原理 第 5 回 鉄筋コンクリート構造 (5) 部材の設計 第 6 回 鉄筋コンクリート構造 (6) 部材の設計 第 7 回 鉄筋コンクリート構造 (7) 陸屋根の防水 第 8 回 鉄筋コンクリート構造 (8) 仕上げ等 第 9 回 鋼構造 (1) 鋼材の特徴／鉄骨造の基本構成 第 10 回 鋼構造 (2) ボルト接合部の設計 第 11 回 鋼構造 (3) 溶接接合部の設計 第 12 回 鋼構造 (4) 床スラブ・壁 第 13 回 壁式構造 補強コンクリートブロック造、壁式鉄筋コンクリート造 第 14 回 各部構法 開口部、階段 第 15 回 造作と納まり 和室の造作 ※学習の理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果 (40%) 授業レポートの提出状況・内容 (60%)
教科書	『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 RC造・鉄骨造』 大野隆司著 エクスナレッジ
参考書 参考資料	必要に応じて資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	1 講義 (1 コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習 : 0.5時間 (テキストの次回講義部分を読む) 復習 : 4.0時間 (授業ノートの整理等)
関連科目	「建築材料」 「建築生産論」 「構法計画Ⅰ」 「建築構造力学Ⅲ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験の有無	有り
科目ナンバリング	

講義名	デザインと法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山下 晃男	K Y O B I 建築学部

到達目標	デザインに関する著作権をはじめとした知的財産法その他の関係法令の概要及び契約をはじめとする法律関係の概要を理解し、自らのデザインを適切に保護する方法、デザインに関する仕事に携わる中で想定される法的トラブルを予防、適切に対応できる方法を学習する。 この科目は、DP1-1, DP1-2, DP2-1, DP2-2に該当する。
授業概要	デザインを作成するにあたり関係する基本的な法律を解説する。具体的には、著作権法、意匠法、商標法、不正競争防止法、特許法、実用新案法などのデザインに関係する知的財産法や、その周辺の法律として、民法、個人情報保護法などを解説する。 また、デザインに関する仕事に携わるなかで、自らのデザインに関する権利を適切に守ることやトラブルを予防し、万が一トラブルに巻き込まれてしまった場合に適切に対応する方法を学ぶため、契約の読み方などの契約に関する基本的な事項、トラブルが生じてしまった場合の対応方法などを解説する。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション：本講義及び本講義で取り扱う事項の概要 第2回 著作権法1 基礎編：著作権法の概要、成立要件、保護対象 第3回 著作権法2 応用編：著作権法に関するトラブル事例の検討 第4回 意匠法1 基礎編：意匠法の概要、成立要件、保護対象 第5回 意匠法2 応用編：意匠法に関するトラブル事例の検討 第6回 商標法1 基礎編：商標法の概要、成立要件、保護対象 第7回 商標法2 応用編：商標法に関するトラブル事例の検討 第8回 特許法・実用新案法1 基礎編：特許法・実用新案法の概要、成立要件、保護対象 第9回 特許法・実用新案法2 応用編：特許法実用新案法に関するトラブル事例の検討 第10回 不正競争防止法 不競法の概要、成立要件、保護対象、トラブル事例の検討 第11回 その他周辺の法律：民法、個人情報保護法など 民法、個人情報保護法の概要 第12回 法的トラブルの概要及びその対応方法 第13回 契約1 基礎編：契約の概要、読み方、成立要件 第14回 契約2 応用編：具体的な契約の検討 第15回 まとめ 講義の総復習
成績評価	レポート（4回程度）：40%、受講態度：60%により評価を行う。 レポートの内容は講義中及び配布資料において説明する。
教科書	なし。
参考書 参考資料	・デザインと知的財産法実務（民事法研究会） ・クリエイター六法（翔泳社） その他講義中に紹介する
予習・復習指導	・予習：配布資料を講義前に確認し概要を把握すること。 ・復習：1コマにつき、4時間の復習を行うこと ・自らがデザインを作成する場合にどのように関係してくるか考えること。
関連科目	生活と法律
課題に対するフィードバックの方法	レポートや質問に対するフィードバックを講義中に行う。
教員の実務経験	国立大学法務部門及び法律事務所において約12年知的財産に関する契約審査、契約交渉などの法律業務に従事している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	デザインと法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山下 晃男	K Y O B I 建築学部

到達目標	デザインに関する著作権をはじめとした知的財産法その他の関係法令の概要及び契約をはじめとする法律関係の概要を理解し、自らのデザインを適切に保護する方法、デザインに関する仕事に携わる中で想定される法的トラブルを予防、適切に対応できる方法を学習する。 この科目は、DP1-1, DP1-2, DP2-1, DP2-2に該当する。
授業概要	デザインを作成するにあたり関係する基本的な法律を解説する。具体的には、著作権法、意匠法、商標法、不正競争防止法、特許法、実用新案法などのデザインに関係する知的財産法や、その周辺の法律として、民法、個人情報保護法などを解説する。 また、デザインに関する仕事に携わるなかで、自らのデザインに関する権利を適切に守ることやトラブルを予防し、万が一トラブルに巻き込まれてしまった場合に適切に対応する方法を学ぶため、契約の読み方などの契約に関する基本的な事項、トラブルが生じてしまった場合の対応方法などを解説する。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション：本講義及び本講義で取り扱う事項の概要 第2回 著作権法 1 基礎編：著作権法の概要、成立要件、保護対象 第3回 著作権法 2 応用編：著作権法に関するトラブル事例の検討 第4回 意匠法 1 基礎編：意匠法の概要、成立要件、保護対象 第5回 意匠法 2 応用編：意匠法に関するトラブル事例の検討 第6回 商標法 1 基礎編：商標法の概要、成立要件、保護対象 第7回 商標法 2 応用編：商標法に関するトラブル事例の検討 第8回 特許法・実用新案法 1 基礎編：特許法・実用新案法の概要、成立要件、保護対象 第9回 特許法・実用新案法 2 応用編：特許法実用新案法に関するトラブル事例の検討 第10回 不正競争防止法 不競法の概要、成立要件、保護対象、トラブル事例の検討 第11回 その他周辺の法律：民法、個人情報保護法など 民法、個人情報保護法の概要 第12回 法的トラブルの概要及びその対応方法 第13回 契約 1 基礎編：契約の概要、読み方、成立要件 第14回 契約 2 応用編：具体的な契約の検討 第15回 まとめ 講義の総復習
成績評価	レポート（4回程度）：40%、受講態度：60%により評価を行う。 レポートの内容は講義中及び配布資料において説明する。
教科書	なし。
参考書 参考資料	・デザインと知的財産法実務（民事法研究会） ・クリエイター六法（翔泳社） その他講義中に紹介する
予習・復習指導	・予習：配布資料を講義前に確認し概要を把握すること。 ・復習：1コマにつき、4時間の復習を行うこと ・自らがデザインを作成する場合にどのように関係してくるか考えること。
関連科目	生活と法律
課題に対するフィードバックの方法	レポートや質問に対するフィードバックを講義中に行う。
教員の実務経験	国立大学法務部門及び法律事務所において約12年知的財産に関する契約審査、契約交渉などの法律業務に従事している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	文献・絵画史料概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山 克	K Y O B I 芸術学部

到達目標	私たちは遠い過去を体験することはできません。それはもう「ない」からです。しかし史料が残っていれば、歴史像を組み立てることができます。この授業では史料をあつかう技法を学びます。(DP1-1・DP1-2、DP2-1・DP2-2)
授業概要	史料は歴史資料の略語です。つまり過去の歴史像を組み立てるために、私たち歴史家が使う「昔の人」の残したものの全てです。古文書・古記録・典籍など文字史料が代表的なものになりますが、一方で絵画も重要な史料になります。絵画を窓に見立ててみましょう。その窓には複雑なブラインドが下りています。向こうは見えません。一つの絵画を読み解くのも同じです。どう読み解いたら向こうに何が見えるのか。そこにどんな歴史の風景が広がっているのか、この授業では絵画を史料に、読みの模索をしてみましょう。
授業計画 授業内容	1 「昔の人」と五感を共有する 2 護符の絵像 姫魚とアマビエ 3 絵巻物①『春日権現験記絵』 4 絵巻物②『百鬼夜行図』 5 絵巻物③『道成寺縁起絵巻』 6 絵巻物④『絵師草紙』 7 肖像画①神護寺藏「伝源頼朝像」 8 肖像画②清浄光寺藏「後醍醐天皇像」 9 地獄絵 「熊野観心十界図」の絵解き 10 垂迹画 「北野曼荼羅図」 11 縁起絵 「伊勢曼荼羅図」 12 参詣曼荼羅図①「善光寺参詣曼荼羅図」 13 参詣曼荼羅図②「清水寺参詣曼荼羅図」 14 絵馬 扁額絵馬の世界 15 絵画を史料としてどのように読むか
成績評価	授業ごとのコメントシート（30%） 期末レポート（70%）
教科書	指定しません。
参考書 参考資料	西山克 正統『中世ふしぎ絵巻』
履修上の注意	絵画を史料として読み込むには、読みの作業を何度も繰り返す必要があります。
予習・復習指導	授業ごとに使用したデータの主要部分をクラスルームにアップするので、予習・復習に活用してください。
課題に対するフィードバックの方法	授業ごとのコメントシートについて、感想や指摘をまとめて、授業内で報告します。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	建築 C A D 演習 II		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	K Y O B I 建築学部
教授	井上 晋一	K Y O B I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	K Y O B I 建築学部
准教授	駒井 貞治	K Y O B I 建築学部

到達目標	・1年時にCAD演習を受講していない学生にも積極的な受講を求め、初心者に向け2D、3D、BIMなどの理解を深めることを目標とする。 ・2次元CADの意義をより深く理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCAD、adobe photoshop、Illustratorの操作法を習得する。 ・BIM (Building Information Modeling) の意義を理解するとともに、その実践のためにGraphisoft Archicadの操作法を習得する。 ・建築設計作品のプレゼンテーションにおけるCGと動画の意義を理解するとともに、その実践のためにalphacox Twinmotionの操作法を習得する。その他のソフトも参照する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	昨今、建築に関連する実務上、2次元および3次元 CAD (Computer Aided Design) は必須のスキルとなっている。こうした現状を踏まえ、特に本演習では2次元および3次元 CAD、および3次元 CADの発展形であり、近年目覚ましく普及しつつあるBIM (Building Information Modeling) の、建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおける意義を理解する。その上で、総合的な建築設計・表現能力の向上に向け、それらのソフトウェアの基礎的および応用的な操作法を習得する。尚、初回の数回は1年時のソフト習得状況に合わせて分かれて作業を行い、その後合流する。
授業計画 授業内容	全15回、週1回・2コマ 第1回 ガイダンス、AutoCAD① (基本) 第2回 AutoCAD② (基本と応用) 第3回 AutoCAD③ (応用) 第4回 Archicad① (基本：サンプルのモデリング) 第5回 Archicad② (同上) 第6回 Archicad③ (同上) 第7回 Archicad④ (応用：自身の設計作品のモデリング) 第8回 Archicad⑤ (同上) 第9回 Archicad⑥ (同上) 第10回 Twinmotion① (インストールとBIMモデルのインポート) 第11回 Twinmotion② (レンダリング応用) 第12回 Twinmotion③ (同上) 第13回 Twinmotion④ (動画制作) 第14回 Twinmotion⑤ (同上) 第15回 Twinmotion⑥ (成果品のプレゼンテーション、講評) ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	下記に基づき総合的に評価する。 ・学習状況 (45%、演習の円滑な進行への貢献を含む) ・課題に対する成果品 (55%、全課題に対する成果品の提出を必須とする)
参考書 参考資料	・教員作成資料 ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 [AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版]」 稲葉幸行著、技術評論社 ・「Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP ・「ARCHICAD 22ではじめるBIM設計入門[基本・実施設計編]」 BIM LABO 著、エクスナレッジ ・「CADの基礎と演習 -AutoCAD2011を用いた2次元基本製図-」 赤木徹也他著、共立出版

履修上の注意	VDT（Visual Display Terminals＝PCなどの情報端末）作業が中心となるため、作業環境維持（各種IDとパスワードの管理など）、作業データ管理（こまめなバックアップなど）、健康管理（特に眼精疲労）に注意を払うこと。 演習で配布された、あるいは各自収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。 課題に対する成果物の提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。 演習で扱う題材に関連する建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。
関連科目	「情報基礎演習」「建築CAD演習Ⅰ」。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。 演習中に随時フィードバックを行う。 授業時間外でも、担当教員は質疑応答を行う。
教員の実務経験	建築と都市、ランドスケープデザインの実務経験を活かしPCを用いた設計手法の演習を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA218S

講義名	建築計画Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田 光男	KYOB I 建築学部

到達目標	生活に関する多面的な知見に触れながら、住居に関する建築計画についての基礎的な専門知識の理解を深め、現代のライフスタイルに応じた住居の計画・設計を行える能力を身につける。 この科目は、DP2-1～3 に該当する。
授業概要	住居は人間生活を行うためのシェルターであり、あらゆる建築物の起源と言われる。現代では住宅の外の「施設」で行われる出産・育児・食事・教育・労働・婚礼・葬祭といった多くの行為が、かつては住居の中で行われてきた。住居は建築計画の原点でもあり、住居に再び注目することで、建築計画に関して総合的・横断的な視点を取り戻すことができるのではないかと考える。本講義では、「住まう」ということに関する、さまざまな原理・原則について、具体的な例を用いて解説を行う。「住まう」とことについての現代的なテーマについても触れながら、時代とともに変化していく、ライフスタイルに応じた居住空間の計画を考えるとともに、それを実現するための設計に関する基本的な知識を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、住居の建築計画学について 第2回 ライフスタイルと社会の変化について 第3回 住空間の計画プロセス1 第4回 住空間の計画プロセス2 第5回 住宅の単位空間 第6回 住空間の機能と組織 第7回 住環境としつらえ 第8回 住居計画 (屋根と階段、開口部と水回り) 第9回 住居計画 (外構・植栽、住宅の構成) 第10回 住居計画 (住戸の定型とバリエーション) 第11回 集合住宅の系譜 第12回 集合住宅の種類と規模 第13回 現代における集合住宅 第14回 優秀レポート発表 第15回 総括・ディスカッション
成績評価	学習状況 (30%) とレポート課題 (30%) 及び期末試験 (40%) によって評価する。
教科書	「住むための建築計画」 佐々木誠著他 彰国社
参考書 参考資料	「住宅の計画学入門」 岡田光正著他 鹿島出版会
履修上の注意	住居に関する建築計画に関して、幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	教科書の第1章から第5章を読み、専門用語や掲載されている事例の建築物について調べておくこと。 1 コマに対し4時間の事前学習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ」「建築計画Ⅲ」「建築設計基礎演習Ⅱ」「建築設計演習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題については優秀レポート作成者の発表を通して総評を行う。 期末試験については解説・総評を掲示する。
教員の実務経験	担当教員は住宅設計及び集合住宅設計において実務経験を有しており、住空間に関するより実務的な内容について講義を行うことができる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ARC-MA219L

講義名	建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 根来 宏典	KYOB I 建築学部

到達目標	建築物の設計に必要なとなる材料選定の基本を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2 に該当する。
授業概要	古来、素材を活かした建築手法が伝統的に継承されてきた。それら技術の発達によって新しい建築表現へと繋がっている。建築は言うまでもなく素材や材料を組み合わせでつくられる。設計図を描くうえで、材料のことを知らずして、リアリティのある設計は行えない。デザイン、構造、施工、環境といった建築のすべての分野と強く関連しているのが建築材料である。材料の歴史、特徴、性質、種類、使い方への見識を深めることにより、設計の魅力と可能性を学んでいく。その学ぶことと実社会との間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。
授業計画 授業内容	第1回 建築材料概論 第2回 木材についての講義① 第3回 木材についての講義② 第4回 木質材料についての講義 第5回 植物材料についての講義 第6回 金属材料（スチール・ステンレスなど）についての講義 第7回 非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）についての講義 第8回 コンクリートについての講義 第9回 セメント・コンクリートについての講義 第10回 石についての講義 第11回 土・漆喰・石膏についての講義 第12回 焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）についての講義 第13回 ガラス、プラスチックについての講義 第14回 レポート発表会 その1 第15回 レポート発表会 その2
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香葉子、他著「建築材料 新テキスト」彰国社
参考書 参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	建築施工法
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験	建築家としてアトリエ系設計事務所を構えて22年の教員が担当する。素材の探求を通じて、職人文化と現代の暮らしを紡ぐ建築のあり方を追求しており、その実務経験を活かしたリアリティのある教育を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA211L

講義名	建築法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 余谷 和則	KYOB I 建築学部
非常勤講師	山木 辰哉	KYOB I 建築学部
非常勤講師	寺本 健三	KYOB I 建築学部
非常勤講師	藤井 茂	KYOB I 建築学部

到達目標	建築基準法及び関連規定の主旨や背景を学び、論理解釈及び文理解釈の法文読解力を養う。 更に、これらの規定を正しく読みこなし、設計や施工に活用できる能力を養うことを目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築の実務に携わっていくには、建築基準法をはじめとした様々な法的規制（ルール）を知ることが必要である。 本講義では、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する基準を定めた建築基準法を中心に、建築物を建築する際に遵守すべき法的規制の基本的な事項やその背景について説明する。 個々の建築物を地震や火災等から守り、その建築物を利用する人々の生命、健康、財産を守る観点から定めた規制、都市計画的な建築物の秩序という観点から定めた規制の他、最新の動向や景観条例などについて学ぶ。 法体系を知り、法律独特の表現方法の読み方に慣れてもらうため、適宜法令集を手にしなが、講義を行う。
授業計画 授業内容	※オムニバス方式により実施します 第 1 回 ガイダンス、法律の歴史及び概要、用語の定義 【余谷】 第 2 回 建築基準法 : 制度規制（手続き等） 【余谷】 第 3 回 建築基準法 : 単体規定①（採光、換気、シックハウス） 【余谷】 第 4 回 建築基準法 : 単体規定②（天井の高さ、階段の寸法、建築設備） 【余谷】 第 5 回 建築基準法 : 単体規定③（防火規定 1） 【藤井】 第 6 回 建築基準法 : 単体規定④（防火規定 2） 【藤井】 第 7 回 建築基準法 : 単体規定⑤（避難規定 1） 【藤井】 第 8 回 建築基準法 : 単体規定⑥（避難規定 2） 【藤井】 第 9 回 建築基準法 : 集団規定①（敷地と道路、用途制限） 【余谷】 第 10 回 建築基準法 : 集団規定②（面積制限） 【余谷】 第 11 回 建築基準法 : 集団規定③（高さ制限） 【余谷】 第 12 回 建築基準法 : 単体規定⑦（構造強度） 【山木】 第 13 回 建築基準関係規定等 【余谷】 第 14 回 景観条例等 【寺本】 第 15 回 演習 【余谷】
成績評価	受講態度（45%）及び定期試験（55%）により総合的に評価する。
教科書	①井上建築関係法令集（井上書院） ②図説 やさしい建築法規（学芸出版社）
参考書 参考資料	必要に応じ、講義で適宜配布する。
履修上の注意	建築に携わっていく上で必要な知識であり、意欲的に臨むこと。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4時間の復習をすること。 学んだ内容を必ず法令集で確認し法律独特の表現方法に慣れ、法令集で内容が理解できる努力をすること。 法令集を読み、図面や実際の建築物を視ることで、知識の定着を図ること。
関連科目	建築に関する科目全般
課題に対するフィードバックの方法	質問等がある場合、次回以降の講義で解説する。
教員の実務経験	京都市役所で建築行政に携わる 株式会社 京都確認検査機構で建築確認の審査・検査、省エネ適判審査に携わる
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	建築構造力学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講・演
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 竹脇 出	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部

到達目標	力学理論の基盤を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築構造力学Ⅰで習得した自由体の考え方を利用して、静定トラスに生じる部材力の算出方法（節点法、切断法）について学ぶ。次に、単純梁や片持梁などの曲げ部材について、断面１次モーメントや断面２次モーメントの算出法について学び、断面に生じる垂直応力（応力度）およびせん断応力（応力度）の算定方法を身に付ける。また、許容応力度設計、梁のたわみの計算（モールの定理）、柱の座屈荷重の計算など、構造設計における必要知識を習得する。授業の特色として、微積分の考え方をいなくても、力の釣合いのみから梁のたわみやたわみ角を求める方法を習得する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 トラス構造物の部材に生じる力／トラス構造物の部材力の計算 (1)＜節点法 1＞ 第 2 回 トラス構造物の部材力の計算 (2)＜節点法 2＞ 第 3 回 トラス構造物の部材力の計算 (3)＜切断法 1＞ 第 4 回 トラス構造物の部材力の計算 (4)＜切断法 2＞ 第 5 回 断面諸量 (1) 断面 1 次モーメントと図心 第 6 回 断面諸量 (2) 断面 2 次モーメントと応力（応力度） 第 7 回 断面力と応力／応力の計算 (1) 第 8 回 応力の計算 (2) 第 9 回 応力の計算 (3) 第 10 回 応力の計算 (4) 第 11 回 梁のたわみの計算 (1) 第 12 回 梁のたわみの計算 (2) 第 13 回 梁のたわみの計算 (3) 第 14 回 梁のたわみの計算 (4) 第 15 回 座屈現象と座屈荷重 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	出席および演習物の提出（60%）、定期試験（40%）に基づき行う。
教科書	スタンダード 建築構造力学 学芸出版社 ISBN 978-4-7615-2841-6
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をすること。 （授業ノートの整理、前回演習課題の復習等）
関連科目	「建築構造力学Ⅰ」、「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	COM-MA213L

講義名	建築環境工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 橋本 頼幸	KYOB I 建築学部

到達目標	建築物の快適性、エネルギー効率、環境負荷の低減を考慮した設計・運用技術を習得し、実務に役立つ知識を身につけることをめざす。建物の空調、照明、音響、換気、温熱環境など、環境要素の調整方法を理解し、建築物が住む人々にとって快適で効率的な空間を提供できる能力を養う。また、建物の省エネルギー設計や再生可能エネルギー活用、環境負荷低減に関する最新技術を学び、持続可能な社会の実現に向けた技術的解決策を提案できる力を育む。さらに、建築環境に関連する法規制や標準、倫理的な問題についても理解を深め、現場での実践力を高めることを目指す。受講生が環境に配慮した建築技術を駆使し、社会的・経済的に優れた建築環境を提供できる能力を身につけることを目的とする。 本科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築空間における快適性と環境負荷低減の両立を目指し、建築環境工学の基礎理論と応用を学びます。人間が快適に過ごせる室内環境を実現するための温熱環境、光環境、音環境、空気環境について、物理的・工学的観点から理解を深めます。 主な内容として、以下のテーマを扱います。 温熱環境：熱移動の基礎、断熱・日射遮蔽技術、空調の基礎 空気環境：換気計画、空気質の評価と制御 光環境：自然採光と人工照明、視環境の評価手法 音環境：建築音響の基礎、防音・吸音設計 また、省エネルギー技術や再生可能エネルギーの活用、環境負荷低減の手法についても学びます。
授業計画 授業内容	建築内外の快適な環境条件について理解し、計画設計に応用する能力を養うため、熱、空気、日照、音環境などについて毎回具体的な問題演習をしながら習得する。 全15回 1. 建築環境工学とは 2. 熱環境1—伝熱、熱貫流 3. 熱環境2—壁体各部の温度、断熱 4. 熱環境3—空気線図、結露、湿熱感 5. 空気環境1—空気汚染物質、換気 6. 空気環境2—通風、換気的方式 7. 日照と日射1—太陽の位置、隣棟間隔 8. 日照と日射2—日射の種類、日照調整 9. 採光、照明と色彩1—視環境、採光の方法、昼光率 10. 採光、照明と色彩2—照明方式、照明計算 11. 採光、照明と色彩3—色彩、色の3属性、色彩調節 12. 音環境1—音の性質、音の量と単位、騒音 13. 音環境2—騒音防止 14. 音環境3—遮音と吸音、室内音響 15. まとめ
成績評価	提出課題(20%)および期末試験(80%)
教科書	基礎力が身につく 建築環境工学(森北出版株式会社)
参考書 参考資料	エース建築環境工学<1><2>(朝倉書店)
履修上の注意	講義を通して学んだことは、実生活を通して観察、体験および計算をすることで理解を深めること。
予習・復習指導	教科書の当該部分を読み、環境工学が建築にどう生かされているかを実物を見て調べておくこと。一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築設備」他建築関連科目
課題に対するフィードバックの方法	出席プリントに記載された質問などは、次回以降の授業で解説・説明する。
教員の実務経験	建築設計事務所(意匠系)22年経営、建築設計事務所(設備系)7年経営
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	世界建築史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	建築科目 美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
准教授	◎ 白鳥 洋子	KYOB I 建築学部

到達目標	西洋、エジプト、イスラム、東洋の主要な歴史的建築について概要を把握し、基礎的な知識を身につける。時代や地域による建築の固有性と時代を超えた普遍性を理解し、変遷を掴み、建築について論じる力を養う。 本科目は、DP0-1、DP1-1、DP2-1、DP2-2、DP2-3Iに該当する。
授業概要	西洋ではエジプト、ギリシア、ローマの古代の建築をはじめとし、中世ではロマネスク、ゴシック、さらにルネサンス、バロック、19世紀の建築と各時代の主要な建築について概説を行う。さらに、東洋では、イスラム、インド、アジアの主要な歴史的建築を概観し、大きな建築の潮流を捉えて行く。世界の観点から各時代の歴史的建築について基礎的な認識を深め、同時に主要な建築の特徴や価値を理解する。時代や社会の背景と建築の関連性を捉えることや、意匠と建造の関連性を理解することも必要である。これらを通じて、時代や地域、文化によって異なる建築の固有性と、時代を超えて表出する建築の普遍性を捉えて行きたい。
授業計画 授業内容	第1回：ガイダンス エジプト・メソポタミアの建築 第2回：ギリシア建築 第3回：ギリシア建築・ローマ建築 第4回：ローマ建築 第5回：初期キリスト教建築 ビザンチン建築 第6回：イスラム建築 プレ・ロマネスク 第7回：ロマネスク建築 第8回：ゴシック建築 第9回：ルネサンス建築1 第10回：ルネサンス建築2 第11回：バロック建築 第12回：新古典主義、革命期の建築 第13回：19世紀の建築 第14回：西アジア、南アジアの建築 第15回：東アジア、東南アジアの建築 * 授業の進行状況により、日程の調整を行うことがある。
成績評価	評価ポイント：期末試験（50%）、提出物（50%）
教科書	『西洋建築史図集』、三訂版、日本建築学会編、彰国社。
参考書 参考資料	『東洋建築史図集』、第1版、日本建築学会編、彰国社。桐敷真次郎、『西洋建築史』、共立出版、2001、2003。西田雅嗣、『西洋建築の歴史』、学芸出版社、2022。その他は、適宜、講義中に提示する。
履修上の注意	西洋においても東洋においても優れた建築には新鮮な創造性、変遷や成熟、世界観があり、それらは現代の建築に置き換えて考えることができる。先人たちの遺産に学び、自身の制作や研究を深める契機にしてほしい。
予習・復習指導	講義（1コマ）に対して2時間の事前学習、2.5時間の復習を行うこと。 事前学習：次回講義の該当箇所について教科書、参考書を読み、概要を把握しておくこと。 復習：講義を振り返り、教科書、参考書を参照しながら、ノートを整理すること。
関連科目	近代建築史、日本建築史、現代の建築、芸術、哲学に関する科目。
課題に対するフィードバックの方法	授業内に提出物を提示し、適宜、コメントする。 期末試験終了後にクラスルームにて解説を行う。
教員の実務経験	フランスの大学の学位を持ち、長年に亘りヨーロッパで研究活動を行っている。フランスの二つの大学の学位と同分野の博士の学位、フランス政府公認建築家資格と日本の一級建築士の資格を持ち、海外での研究経験を持つ教員による実践的で専門的な歴史意匠の教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA220L

講義名	都市空間論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	K Y O B I 芸術学部

到達目標	都市空間は自然的要因と人工的要因により成立していることを理解すること。また、時代の価値の中で変化するものでもあることを理解し、演習や実習課題の前提条件として考慮できる能力を身につけることを目標とする。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本における都市空間の成り立ちや変遷について学び、現在の都市基盤の脆弱性を知ることに加えて将来の都市の在り方を考察することを目的とした授業である。学びのポイントは三つある。一つ目は、河川が存在が都市に大きく関係している点である。河川の性質が土砂を運び都市の土台である平地を生み出していること。そして河川を制御しなければ都市が存在できないことなどを学ぶ。二つ目は、産業と人口の関係が必然的に都市の位置を決めていること。特に農業の発生から集落の定着が起り、商品やサービスの提供が交易を中心とする都市を生み、工業の発展が大都市の形成を生むなど都市形態に産業が大きく関係していることを学ぶ。三つめは、災害との関係である。地震、洪水、火災などに対応し安全に暮らすには、どのような都市形態にすべきかなどを歴史的や技術的な観点から学ぶ。四つ目は技術の進歩によって大きく変化するライフスタイルが、都市の姿を変える可能性があることを学ぶ。特にオンラインによる職場の分散や物流の発展による空間の変化があげられる。そのような要因から将来の都市の姿を考察する必要があることを学ぶ。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 ガイダンス/対象となる都市空間について 第 2 回 都市を取りまく環境についての概要（自然環境/人工的環境） 第 3 回 河川の作用と地形の関係について（流域形成など） 第 4 回 河川と集落の関係について 第 5 回 集落の発展と集落の産業（生業）について 第 6 回 市の発生と商品の流通について 第 7 回 人口の増加と統治の関係性について 第 8 回 空間概念の考察「うちとそと」 第 9 回 空間概念の考察「上下から宇宙へのまなざし」 第 10 回 都市形態の歴史的考察 第 11 回 災害発生時の都市の弱点の考察 第 12 回 都市の変化（自然と人工のバランス） 第 13 回 都市の空洞化（通信によるライフスタイルの変化） 第 14 回 都市の解体（都市の維持管理の限界） 第 15 回 都市の将来のありかた
成績評価	受講態度30%、レポート70%により評価する。
教科書	配布資料、映像等
参考書 参考資料	『風土』和辻哲郎 『作庭記』 田村剛 『日本建築史図録』
履修上の注意	常に自身の生活空間（屋外）とまちを比較する意識を頭置きながら授業を受ける。
予習・復習指導	「建築概論」「社寺建築論」「景観デザイン論」など
関連科目	「日本住居史」「社寺建築論」など
課題に対するフィードバックの方法	最終レポートのフィードバックによる。
教員の実務経験	デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、集落から都市までの空間形成の変遷、空間認識と空間設計の関係等について講義を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA321L

講義名	景観デザイン論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOB I 建築学部

到達目標	私たちの暮す住環境は、人(社会環境)と物(人工環境)と自然(自然環境)の三者が関係して調和する、歴史的に形成した総体としての空間である。建築を人々の生活や活動を支える空間の側から考える時、人・物・自然、個々の課題や技術とは違った、その要因や意味合いが意識されてくる。それは単に物の持つ物理的な強度の他に、人の経験や心に受ける強度としてそのあるべき姿・形が問われる側面である。そうした空間の有り様を念頭に据えて景観デザインの持つ創作的な視界について思考を深めることを到達目標とする。 本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築空間の集積としての地域・都市の成り立ちを知ると共に、古代から現代まで地域・都市の形成過程に着目しながら歴史を振り返り、時代と社会が求めてきた環境はどのようなものかを解説する。特に、人(社会環境)の作る物(人工環境)が自然(自然環境)に影響を受けた状態に地域・都市の特徴すなわち景観は現れるのではないか、という仮説に基づいて講義は展開する。そして、地域再生や歴史的景観を活かした街づくり等の事例を紹介する。講義はスライドを使用して行い、グーグルクラスルームも利用して配布資料や各種案内など行う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 第2回 町 家 第3回 民 家 第4回 民 家 第5回 格 子 第6回 格 子 第7回 庭 園 第8回 庭 園 第9回 起 源 第10回 住 居 第11回 環 境 第12回 内 外 第13回 田 園 第14回 東 西 第15回 南 北 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	評価ポイント：提出物など（30%）、期末レポート（70%）。
教科書	資料配布。
参考書 参考資料	「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編]及び[地域・都市Ⅱ～データ編]日本建築学会編 丸善(株) この他に授業で紹介。
履修上の注意	基礎教養として経済学、社会学、法学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、現代的問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」＋「構想力」）
予習・復習指導	講義をメモやスケッチしてオリジナルノートを作成する。その中で特に興味を持った事柄について深く調べることを心掛ける。
関連科目	「建築計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」他
課題に対するフィードバックの方法	期末試験／期末レポートに関してフィードバックをする場合は、コメント等を記載して返却。
教員の実務経験	建築と都市、ランドスケープデザインの実務経験をもち、それら融合の観点から論じる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA323L

講義名	伝統構造学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	社寺建築、古民家、町屋、煉瓦造建造物など、日本の歴史的建造物について構造的特徴を理解し、調査研究、設計・施工に活かすための素養を身につける。
授業概要	歴史的建造物の基礎、軸部、壁、屋根など各部の構造形式、技法、工法、耐震技術などを学び、耐震診断や構造設計の基本を理解する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 歴史的建造物の地震被害 第2回 耐震対策の歴史 第3回 伝統工法と在来工法 第4回 基礎の工法 第5回 伝統木造の工法（1）床組 第6回 伝統木造の工法（2）軸組 第7回 伝統木造の工法（3）小屋組 第8回 伝統木造の工法（4）軒廻り、妻飾り 第9回 伝統木造の工法（5）雑作 第10回 屋根の工法 第11回 壁の工法 第12回 木造以外の歴史的建造物 第13回 伝統工法の耐震技術 第14回 伝統工法の構造設計 第15回 在来工法の構造設計
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	伝統のディテール研究会『伝統のディテール』障国社、渋谷五郎他『新訂 日本建築』学芸出版社
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築一般構造Ⅰ・Ⅱ、日本住居史、日本建築史
課題に対するフィードバックの方法	毎回の講義でレポートに対し講評を行う。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	I T活用応用演習（Bクラス）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	K Y O B I 建築学部
教授	井上 晋一	K Y O B I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	K Y O B I 建築学部
准教授	駒井 貞治	K Y O B I 建築学部

到達目標	・1年時にCAD演習を受講していない学生にも積極的な受講を求め、初心者に向け2D、3D、BIMなどの理解を深めることを目標とする。 ・2次元CADの意義をより深く理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCAD、adobe photoshop、Illustratorの操作法を習得する。 ・BIM（Building Information Modeling）の意義を理解するとともに、その実践のためにGraphisoft Archicadの操作法を習得する。 ・建築設計作品のプレゼンテーションにおけるCGと動画の意義を理解するとともに、その実践のためにalphacox Twinmotionの操作法を習得する。その他のソフトも参照する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	昨今、建築に関連する実務上、2次元および3次元 CAD（Computer Aided Design）は必須のスキルとなっている。こうした現状を踏まえ、特に本演習では2次元および3次元 CAD、および3次元 CADの発展形であり、近年目覚ましく普及しつつあるBIM（Building Information Modeling）の、建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおける意義を理解する。その上で、総合的な建築設計・表現能力の向上に向け、それらのソフトウェアの基礎的および応用的な操作法を習得する。尚、初回の数回は1年時のソフト習得状況に合わせて分かれて作業を行い、その後合流する。
授業計画 授業内容	全15回、週1回・2コマ 第1回 ガイダンス、AutoCAD①（基本） 第2回 AutoCAD②（基本と応用） 第3回 AutoCAD③（応用） 第4回 Archicad①（基本：サンプルのモデリング） 第5回 Archicad②（同上） 第6回 Archicad③（同上） 第7回 Archicad④（応用：自身の設計作品のモデリング） 第8回 Archicad⑤（同上） 第9回 Archicad⑥（同上） 第10回 Twinmotion①（インストールとBIMモデルのインポート） 第11回 Twinmotion②（レンダリング応用） 第12回 Twinmotion③（同上） 第13回 Twinmotion④（動画制作） 第14回 Twinmotion⑤（同上） 第15回 Twinmotion⑥（成果品のプレゼンテーション、講評） ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	下記に基づき総合的に評価する。 ・学習状況（45%、演習の円滑な進行への貢献を含む） ・課題に対する成果品（55%、全課題に対する成果品の提出を必須とする）

参考書 参考資料	・教員作成資料 ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 [AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版]」稲葉幸行著、技術評論社 ・「Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP ・「ARCHICAD 22ではじめるBIM設計入門[基本・実施設計編]」 BIM LABO 著、エクスナレッジ ・「CADの基礎と演習 -AutoCAD2011を用いた2次元基本製図-」赤木徹也他著、共立出版
履修上の注意	VDT (Visual Display Terminals＝PCなどの情報端末) 作業が中心となるため、作業環境維持(各種IDとパスワードの管理など)、作業データ管理(こまめなバックアップなど)、健康管理(特に眼精疲労)に注意を払うこと。 演習で配布された、あるいは各自収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。 課題に対する成果物の提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。 演習で扱う題材に関連する建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。
関連科目	「情報基礎演習」「建築CAD演習Ⅰ」。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。 演習中に随時フィードバックを行う。 授業時間外でも、担当教員は質疑応答を行う。
教員の実務経験	建築と都市、ランドスケープデザインの実務経験を活かしPCを用いた設計手法の演習を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA218S

＜建築学部＞専門教育科目 K7. 美術工芸科目－展開科目

京都美術工芸大学シラバス [2026 年度版]

講義名	近代建築史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 基幹科目、 建築学部：美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見 将敏	KYOB I 建築学部

到達目標	① 現代までに至る、建築・都市の近代化過程についての大枠・流れを理解すること。 ② ①の理解に際し、建築家・建築作品のみに着目せず、その背景（地理・社会・文化など）をふまえて考察できるようになること。 本科目は、DP2-1～3に該当する。
授業概要	現在の建築環境に関わる、建築・都市の近代化過程についての講義を行う。近代化過程の内容を理解するには、建築の歴史を単なる様式史として捉えずに、建築の生産の技術（計画・設計・施工等）を様々な面（思想、価値観、社会制度等）から捉えることが重要である。また、各国・地域の様々な試みを捉えることも同様に重要である。上記の視点から、代表的な建築家とその作品の紹介（図面・写真等）をふまえながら、近代の始まりから現代に至るまでの流れを解説する。講義は、大きく4つ（プレ・モダニズム、モダニズム、ポスト・モダニズム、そして日本の近現代建築）に分けて解説していく。
授業計画 授業内容	全15コマ 1. ガイダンス / プレ・モダニズム（1）工業化時代の建築と技術 2. プレ・モダニズム（2）近代建築における伝統性と近代性 3. プレ・モダニズム（3）世紀末ヨーロッパの建築 4. モダニズム（1）建築のアヴァンギャルド 5. モダニズム（2）大量生産社会の建築 6. モダニズム（3）アメリカにおける近代建築 7. モダニズム（4）近代を代表する建築家 1 8. モダニズム（5）近代を代表する建築家 2 9. モダニズム（6）近代建築の成立と成熟 10. モダニズム（7）近代建築のひろがりの変容 11. ポスト・モダニズム（1）近代建築への懐疑と超克 12. ポスト・モダニズム（2）建築のポスト・モダン／21世紀の建築 13. 日本の近現代建築（1） 14. 日本の近現代建築（2） 15. 日本の近現代建築（3） ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期テスト（60%）及び小レポート（40%）により総合的に評価する。
教科書	本田昌昭、末包伸吾『テキスト建築の20世紀』
参考書 参考資料	鈴木博之著『近代建築史』、中谷礼仁著『実況 近代建築史講義』
履修上の注意	講義では、西洋・日本近代の大まかな流れにポイントを絞って解説する。そのため、建築家・建築作品等の詳細な内容については、教科書や参考書、その他の書籍から情報を自発的に得ること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：教科書の熟読。 復習：講義内容の整理、また興味を持った内容について書籍等で理解を深めること。
関連科目	「日本住居史」「日本建築史」「世界建築史」
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う予定。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。 その経験を生かし本授業では、建築設計・意匠的視点から代表的な建築作品や歴史の流れを解説する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-MA205L、AATDE203L

講義名	建築計画Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重 幸子	KYOB I 建築学部

到達目標	学校、美術館、図書館、ホールといった様々な建築物について、用途に応じて求められる計画的知識を身に着けるとともに、実例の分析を通じてそこで行われる人々の活動を豊かにする設計的な工夫について学ぶ。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	美術館、劇場、学校といった各種建築物の計画において、踏まえておくべき建築計画上のポイントなどの一般的な理論と、各ビルディングタイプに関連する情報について講義を行う。また各種建築物の個別の計画手法について、具体的な建築家作品をあげながら解説する。複合施設や現代的な現象である変容についても言及し、今後の建築計画学のあり方についても展望する。 各自でも事例分析を行いレポートとしてまとめる。建築物の計画的な特徴について言語化することを通して、その建築物に求められる機能や、空間の豊かさ、計画的合理性など、多角的な観点から建築物を評価する力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 ガイダンス、概論 第 2 回 居住施設:集合住宅 (1) 第 3 回 居住施設:集合住宅 (2) 第 4 回 文化施設:美術館・博物館 (1) 第 5 回 文化施設:美術館・博物館 (2) 第 6 回 教育施設:学校 第 7 回 教育施設:子ども園 第 8 回 文化施設:劇場 (1) 第 9 回 事例分析、レポート発表 第 10 回 文化施設:劇場 (2)、図書館 (1) 第 11 回 文化施設:図書館 (2) 第 12 回 福祉施設:高齢者入居施設 第 13 回 福祉施設:病院 第 14 回 業務施設:オフィスビル 第 15 回 公共空間:外部空間
成績評価	期末テスト (60%) と、途中で提出および発表を行うレポート及び学習状況 (40%) により評価する。
教科書	川崎寧史他 『テキスト建築計画』学芸出版社
参考書 参考資料	『第 4 版コンパクト建築設計資料集成』 (丸善)
履修上の注意	建築計画に関する事例研究をすることで、講義を深く理解するよう努めること。
予習・復習指導	一講義 (1 コマ) に対して4.5 時間の予習復習をすること。 各回の授業の前に、参考書の『コンパクト建築設計資料集成』の該当する建築用途のページを読み予習すること。授業後に、教科書の該当する建築用途のページを読み復習すること。 建築を学ぶ学生としていろいろな建物に興味を持ち見学する事を勧める。
関連科目	「建築設計基礎演習Ⅱ」「建築設計演習Ⅰ」「建築計画Ⅰ、Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	レポートについてのフィードバックを講義時間内に行う。 小テストの解答・解説を授業時間内に行う。
教員の実務経験	担当教員は10年以上の建築設計の実務経験を持ち、各種建築物の計画について実践的な観点も加えた解説を行う。
教員の实務経験有無	有

講義名	都市計画		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

到達目標	・現代に至る都市の変遷と都市計画の歴史を学ぶ。 ・人口減少時代の都市計画方法と、ルールについて学ぶ。 ・都市をどのようにつくり、どのように使うかについて学ぶ。 ・この科目はDP2-1、2に該当する
授業概要	現代の日本で都市計画を学ぶ意味は、高度経済成長期の都市が拡大・拡張した時代と異なり、都市施設を次々と開発・整備することではありません。長年続いた高齢化と近年の急激な人口減少に対応すること、持続可能なまちづくりです。そのために、都市計画の仕組みを詳しく知り、建築計画・設計に役立つ様々な制度を工夫する知恵を学びます。具体的には、コンパクトシティの形成、災害リスクの予測と避けられない災害からの賢い復興、各種インフラ老朽化対策、無駄を省くスマート化、エコシティ推進などを最新の取組みを見ていきます。そこから持続しうる都市と地域を見抜き、逆に消滅する町や村は早々に撤退に向かいます。今や、どこにでも家を建てられる時代ではないのです。 到達目標：都市計画法と建築基準法を知り、最新の都市計画制度の骨格を理解する。あわせて諸外国の制度と比較し、日本の都市計画・建築制度の問題点を考え、今後どう改善されるかを見る
授業計画 授業内容	テーマ：人口減少時代の都市計画、今後起こることを予測し、賢く建てる知恵と工夫 1. 現代の都市計画／高度成長期の「拡大・成長」から、人口減少・高齢化に対応する「縮小・持続可能・安全」を重視の方向へ劇的な進化を知る 2. 現代都市計画の三つの課題：「コンパクト・プラス・ネットワーク」、「防災・減災」、「既存ストックの有効活用」とそのための新しい制度 3. 都市と都市計画の歴史／古代の都市、中世近世の都市を学び、都市を作ってきた人類の歴史を学ぶ。そして現在に残る歴史都市の数々を知る 4. 近代都市計画史／L.ベネーヴォロ『近代都市計画の起源』から都市法と制度を知る、現代の都市計画法（都市計画行政権）の可能性を考える 5. 「都市計画法」（昭和43年法律第100号）成立までの過程、「市区改正」と1919年「旧都市計画法」と「市街地建築法」による日本の都市の近代化と東京の震災復興、全国の戦災復興、 6. 戦後の国土開発と高度経済成長期の都市づくり、そして「都市計画法」と「全国総合開発計画」。その後のバブル期の都市問題、金融緩和と都市の乱開発、民間活力導入による大規模再開発事業の失敗 7. 「コンパクト・プラス・ネットワーク」への転換、人口減少社会の都市計画、「立地適正化計画制度」（2014年～）による「居住誘導区域（住宅の集約）」と「都市機能誘導区域（医療・商業施設等の集約）」 8. 都市の交通計画、空き家問題と郊外のスポンジ化を防ぎ、行政コストを抑えるため交通計画は可能か？新交通システムの様々な実験と「歩いて暮らせるまちづくり」の推進 9. 「都市再生特別措置法の改正」による集約的な都市づくりの事例と、その財政的裏付け、規制緩和のインセンティブを学び、コンパクトシティ政策の見通し、更なる規制と誘導の可能性 10. 防災・減災都市計画の進捗と災害復興の都市計画、土砂災害危険区域、浸水想定区域等の開発許可制度の厳格化、「創造的復興」と呼ぶ「縮小と撤退の論理」など防災まちづくりの最新の動向 11. 「既存ストック」の活用と歴史的景観の保全の都市計画、「景観法」（2004年）と「歴史まちづくり法」（2007年）による都市計画制度、「景観計画」「歴史風致維持向上計画」及び「文化財保存活用地域計画」の制度と計画手法 12. 「エリア・マネジメント」による都心商業の計画手法、「まちづくり三法」と「商業集積ガイドプラン」、大都市と地方都市の中心市街地の再生のための計画手法、民間事業者との連携 13. エコシティの計画、脱炭素・グリーン化の手法、低炭素型都市構造：省エネ性能が高い建築物の誘導や、都市緑化の推進、公共交通ネットワーク活用によりCO2排出の少ない都市構造への転換 14. 都市計画の国際協力、欧米先進国の都市政策の動向、社会的分断と外国人居住、グリーン・ジェントリフィケーション、15分都市、発展途上国の大都市問題、インフラ整備とスラムへの対応、 15. 「広げない（縮小）」「集める（集約）」「備える（安全）」を目指す都市計画、50年後に人が住んでいるか、「多極集住と地方の衰退」、百年後にも町が残っているのか、どこに建てる選ぶために都市の未来を予測する
成績評価	受講姿勢（出席状況、小テストなどを含め40%）、記述・論述式の期末試験の成績（60%）を総合して評価します。出席するだけでなく、講義内容の理解に基づく期末試験の成績が単位取得の重要な要件となります。期末試験は、状況によってはレポートにする場合があります。
教科書	【指定教科書】（履修者は必ず購入すること） 1) 三村浩史著『地域共生の都市計画』学芸出版社、2005

参考書 参考資料	1) 宗田好史『中心市街地の創造力 暮らしの変化をとらえた再生への道』学芸出版社, 2007 2) 宗田好史『町家再生の論理 創造的まちづくりへの方途』学芸出版社, 2009 3) 宗田好史『なゼイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社, 2012
履修上の注意	各回の授業では毎回指定教科書の該当ページを参照するので、各自が必ず教科書を購入し、毎回持参する。
予習・復習指導	1回（1コマ）の講義について、4時間の予習・復習をする。予習復習時間には、まち歩きや都市開発事例の調査・視察などに要する時間も含む。
関連科目	建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、建築設計演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	適宜ミニレポート（小テスト等）を行い、授業内容の理解度を確認するとともに、次回以降の授業内でフィードバックを行う予定である。
教員の実務経験	京都府、滋賀県内市町村の都市計画審議会委員、会長を務め、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、景観計画等を策定し都市計画実務に詳しい教員がその長年の実務経験を活かして講義する
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	居住空間デザイン		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 根来 宏典	KYOB I 建築学部

到達目標	居住空間におけるデザインのあり方を多角的なアプローチから概観することで、暮らしの豊かさとは何かを問う。それらが生み出されるプロセスを分析・考察する力を身に付け、自身の設計手法に活かすことを目標とする。 この科目は、DP2-1、DP2-2 に該当する。
授業概要	居住空間に関する設計が上手くなるための考え方を考える授業である。住宅の設計は、建築の基本でありながら、多様性に富み、奥が深い。本講義は単体としての住居をはじめ、職住一体、集まって住む、子ども・高齢者・福祉施設をも対象としている。これら空間の設計に対し、多角的な切り口からのアプローチを試みる。豊富な実例を用いた分析・考察によって講義は展開する。その結果として、学生自身の思考力を刺激し、柔軟な発想力を培う。設計の考え方は一辺倒ではない。自分らしく生きるための指標を見つけてほしい。
授業計画 授業内容	第1回 カタチから考える 第2回 外構から考える 第3回 断面から考える 第4回 生活動線から考える 第5回 屋根や小屋組から考える 第6回 キッチンや水廻りから考える 第7回 環境配慮から考える 第8回 模型から考える 第9回 ダイアグラムから考える 第10回 景観から考える 第11回 素材から考える 第12回 数寄から考える 第13回 旅や読書から考える 第14回 施主や社会の要請から考える 第15回 総括
成績評価	授業態度および期末レポートによって総合的に評価する
教科書	住居計画入門 住まいをめぐる文化・歴史・空間（学芸出版社）
参考書 参考資料	講義において紹介する
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習をすること
関連科目	建築設計基礎演習Ⅱ、建築設計演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験	建築家としてアトリエ系設計事務所を構えて22年の教員が担当する。居住空間に関する実務経験が豊富であり、それを活かしたリアリティのあるデザイン教育を行う。
教員の实務経験有無	あり
科目ナンバリング	

講義名	建築設備		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 橋本 頼幸	KYOB I 建築学部

到達目標	建物の機能性と快適性を支える基本的な設備システムに関する知識と技術を学ぶ。主に空調、照明、給排水、衛生設備、電気設備など、建築設備の主要な分野を網羅し、それぞれの設計方法、施工技術、維持管理について深く理解できるようにこころがける。具体的には、エネルギー効率を重視した設備の設計や、環境負荷を低減するための最新技術、建物の使用目的に応じた設備の選定方法を学ぶ。また、設備設計における法規制や基準、安全性、維持管理の重要性についても触れ、実務に即した知識を身につけるようにこころがける。受講生が建物の快適性と効率性を考慮し、建築設備の設計・運用に必要な基礎力を習得できることを目指す。 本科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築における各種設備の基本的な役割と設計・施工・維持管理の考え方を学びます。現代の建築に求められる快適性・安全性・省エネルギー性を実現するため、設備計画の重要性を理解し、建築設計との統合的な視点を養うことを目的とします。 授業では、以下の主要な建築設備について取り上げます。 給排水・衛生設備：水の供給と排水システムの設計、衛生設備の機能と維持管理 空調・換気設備：室内環境の快適性を確保するための空調方式や換気システムの基礎 電気・照明設備：建築における電力供給システム、照明計画、エネルギー効率化の手法 防災・セキュリティ設備：火災時の安全確保、避難誘導設備、防犯システムの設計原則 また、環境負荷の低減を目的とした再生可能エネルギーの活用や、省エネルギー技術についても取り上げ、持続可能な建築設備のあり方を考察します。
授業計画 授業内容	建築を安全・快適・健康・利便で、人間のあらゆる生活活動に供できる環境を作り上げるのに不可欠な建築の数々の設備システムを適切に設計する基礎技術の理解を目指す。 全15回 1. 建築設備とは 2. 給水設備 1 3. 給水設備 2 4. 給湯設備 5. ガス設備 6. 排水・通気設備 1 7. 排水・通気設備 2 8. 防災設備 1 9. 防災設備 2 10. 空調設備 1 システム 11. 空調設備 2 負荷計算 12. 空調設備 3 熱源・搬送装置 13. 電気設備 1 14. 電気設備 2 15. まとめ
成績評価	提出課題 (20%) および期末試験 (80%)
教科書	初学者の建築講座 建築設備 第5版、市ヶ谷出版社
参考書 参考資料	絵解き建築設備、吉村武、世良田崇、オーム社
履修上の注意	講義を通して学んだことは、実生活を通して観察、体験および計算をすることで理解を深めること。
予習・復習指導	教科書の当該部分を読み、当該設備が建築にどう組み込まれているかを実物を見て調べておくこと。一講義 (1コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築環境」他建築関連科目
課題に対するフィードバックの方法	出席プリントに記載された質問などは、次回以降の授業で解説・説明する。
教員の実務経験	建築設計事務所 (意匠系) 22年経営、建築設計事務所 (設備系) 7年経営
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	古文書解読演習Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三野 拓也	KYOB I 芸術学部

到達目標	文字のくずし方に慣れ、記載内容を理解する能力を習得する。 また、記載内容と記載されているモノ（古文書・税として納められた布等）の関係を考察し、奈良時代の歴史について理解を深める。この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP2-1、DP2-2、DP2-3に該当する。
授業概要	美術・工芸・建築に関する思想や意匠をくみ取るためには、作品以外の情報も調査し理解する必要がある。本授業は、そのような情報を有している古文書を解読する能力を身につけることを目的とする。 また、仏像のような彫刻作品には、像の作者だけでなく発願主による願文が残されていることがある。さらに、古建築の部材には、使用場所を示す符丁だけでなく、作業の合間に書かれた落書も存在する。このような文字を読み解くためにも、古文書だけではなく、木製品や布製品に記された墨書にも触れ、多様なくずし字を理解する力を養成する。その上で、「モノ」に携わった人々の「想い」に触れてほしい。
授業計画 授業内容	2回にわけて正倉院、および正倉院宝物の性格を講義し、奈良時代の文字史料がどのような意味を持つのか、またどのように伝来したのかを理解してもらう。 その後、実際の古文書などの写真を教材として、くずし字の解読を行う。授業の前半は史料の性格などを簡単に紹介し、みずからの力でくずし字を読んでもらう。後半は、くずし字の解読方法について解説を行う。 また、古文書のような紙に書かれたくずし字だけではなく、木・布などの様々な素材に書かれた文字の形を読み解いていく。13回の演習のうち、木に書かれた文字、布・絹に書かれた文字、金属に書かれた文字、その他を各1回以上行う。書かれる素材によって、文字の表情は多様なものとなる。素材ごとの文字の解読についても学んでもらう。
成績評価	評価ポイント：受講態度（小レポート）（60%）、定期試験（40%）
教科書	児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版） ※タイトルを間違えないこと
参考書 参考資料	角川『新字源』（漢和辞典）
履修上の注意	『くずし字用例辞典 普及版』と漢字辞典を持参すること。漢字辞典については、電子辞書でもよい。
予習・復習指導	読むことができなかった文字のくずし方を辞典で調べ、実際に書いてみる。 書く際には漢字の筆順を確認して、筆の流れを意識すること。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	後期に「古文書解読演習Ⅱ」を続けて履修するのが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに質疑応答等を行う。
教員の実務経験	宮内庁正倉院事務所において、古文書・経巻の調査を行っている。古文書だけでなく、木や、布・絹でできた宝物に書かれた文字を解読し、『正倉院紀要』において報告している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	古文書解読演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山 克	KYOB I 芸術学部

到達目標	私たちの知っている「歴史」は、多くは文字史料の解読によって組み立てられたものです。古文書・古記録を始めとする文字史料の解読を通して、歴史の実像に触れる技術を学びます。（DP1-1・DP1-2、DP2-1・DP2-2・DP2-3）
授業概要	古文書学という学問があります。古文書の形態や様式（書式）や機能から、それらを読み解き、新しい歴史像を紡ぎ出していく、そんな学問です。この授業は「古文書解読演習」となっていますが、古文書学の全体を紹介するには時間が不足しています。そこで文字を読み取ることに主眼をおいて、授業を組み立ててみようと思います。文字にはもちろん漢字と仮名があります。漢文の古文書を読むと同時に、絵巻物の詞書のような仮名（変体仮名）交じり文も読んでみましょう。努力すれば、楽しみながら字が読めるようになります。
授業計画 授業内容	1. 講師の実体験を紹介しながら、古文書とは？の疑問に答えます。 2. まずは古文書研究のイロハについて語りましょう。古文書解読辞典やサイトの紹介もします。 3. 崩し字に慣れることを目的に、江戸時代の化物草紙の文字や、同じく江戸時代の離縁状（三行半）を。 4. 鎌倉幕府の文書を時代背景も考えながらゆっくりと。絵巻物は『辟邪絵』の詞書を読んでみます。 5. 鎌倉幕府の文書を。絵巻物は『春日権現験記絵』から。『験記絵』については別の段を繰り返し使います。 6. 鎌倉幕府滅亡後の建武政権期の文書。『春日権現縁起絵』などの絵巻物から詞書を。 7. 変体仮名に慣れるために小倉百人一首を詠んでみましょう。 8. 室町幕府初期の文書を。仮名文字は『伴大納言絵詞』などの詞書を。 9. 室町幕府の文書を。『法然上人絵伝』などの祖師絵伝の詞書を。 10. 上位下達文書に対して上申文書を。『長谷雄草紙』などの14世紀絵巻の詞書を。 11. 神々に誓約する起請文を。『道成寺縁起絵巻』の詞書を。 12. 戦国期の武将の文書を。『道成寺縁起絵巻』の画中詞（漫画の吹き出しにあたる）を。 13. 戦国大名の印章の捺された文書を。『付喪神絵詞』の詞書を。 14. 中世から近世へ、時代を換えた文書を。僧侶の肖像画である頂相の賛文も読んでみましょう。一休・森女像などは漢字も変体仮名も駆使して。 15. すでに使用した古文書などの史料を見ながら、みなさんの習熟度の確認をします。
成績評価	受講態度（10％） コメント（30％） 期末試験（40％）
教科書	指定しません。
参考書 参考資料	児玉幸多編『くずし字解読辞典』。同『くずし字用例辞典』。ただし詳細は第一回目の授業時に。
履修上の注意	崩し字の解読は慣れることが重要です。配布資料を目の触れるところに置いてください。
予習・復習指導	授業時間だけでは、必ず時間が不足します。授業ごとに使用したデータの主要部分をクラスルームで公開するので、予習・復習に利用してください。
課題に対するフィードバックの方法	コメントや試験の総評をクラスルームでフィードバックします。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	伝統建築図		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 砂川 晴彦	KYOB I 建築学部

到達目標	本授業では、伝統建築の復元を通して、建築を研究対象として捉えるための基礎的な思考力を身につけることを目的とする。 とくに史料および現存する建築遺構の双方を読み解き、それらを根拠として建築の過去の姿を再構成する論理的思考力を養う。 具体的には、 ・ 伝統建築（社寺建築）を対象に、「木割書」と呼ばれる江戸時代の大工の設計書を読み解き、復元図の作成を通して、当時の社寺建築設計の体系性、構成の幾何学性、細部意匠を理解する。 ・ 伝統民家（町家）を対象に、遺構観察や史料読解を行い、建築に残された痕跡から建物の元の姿を復元する力を養う。 これらの演習を通じて、4年次の研究活動や建築再生に関わる学修に必要な基礎的能力を修得することを到達目標とする。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	本授業は、伝統建築（社寺・民家）に残された痕跡や歴史資料をもとに、建物の過去の姿を復元する建築製図演習である。 前半（全5回）では民家建築を扱い、近代および江戸時代の建物や史料を観察し、建築に残された痕跡を読み取りながら復元図を作成する。 後半（全10回）では社寺建築を対象とし、江戸時代の大工が残した「木割書」の読み解きを通じて、建築を図面として表現する。木割組成図の作成をはじめ、平面図・断面図の作成を行う。 授業の過程では、必要に応じて遺構等の現物視察を行い、建築復元における実証の考え方について理解を深める。
授業計画 授業内容	授業計画（全15回） 第1回 授業の流れ解説／講義「復元する目的とは？」 〈民家復元〉痕跡から復元する①・現物観察 第2回 〈民家復元〉痕跡から復元する②・講義解説 第3回 〈民家復元〉史料から復元する①・現物観察 第4回 〈民家復元〉史料から復元する②・講義解説 第5回 〈民家復元〉講評 第6回 〈社寺復元〉講義：木割書の読み方／描く対象建築タイプの選定 第7回 〈社寺復元〉現物視察／講義解説「復元における実証とは？」① 第8回 〈社寺復元〉木割組成図の作成①・講義解説 第9回 〈社寺復元〉木割組成図の作成②・講義解説 第10回 〈社寺復元〉木割書から図面化する①・講義解説 第11回 〈社寺復元〉現物視察／講義解説「復元における実証とは？」② 第12回 〈社寺復元〉木割書から図面化する②・講義解説 第13回 〈社寺復元〉木割書から図面化する③・講義解説 第14回 〈社寺復元〉仕上げ作業 第15回 〈社寺復元〉講評
成績評価	作成した建築復元図で評価する。建築復元にあたっての論理性、出来栄などを総合的に評価する。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	配布資料を閲覧できるようPCほかタブレットなどを持参すること。 ほか授業都度に指示する。

予習・復習指導	1コマに対して1時間以上の予習・復習・製図作業を確保し取り組むこと。
関連科目	日本住居史、日本建築史ほか伝統建築に関わる科目。
課題に対するフィードバックの方法	各制作物に対して講評を行う。
教員の実務経験	主に曹洞宗大本山總持寺（神奈川横浜）および總持寺祖院（石川能登）の境内における諸殿堂の保存修理工事に関わった。こうした修理工事監理や報告書執筆の経験を活かして授業を運用する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	京町家再生論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	京町家や細街路（路地）の保全・継承・再生の意義、まちづくり（コミュニティ・デザイン）に関わる学理、方法、実践、社会システムを理解する。まちづくり（コミュニティ・デザイン）にかかわる実践的対応能力の開発を行う。 【参考】 京町家の保全・継承の意義は、京町家が連担し、自然と調和し、洗練され落ち着いた統一的な「町並み景観」、また伝統的な住まいやまちでの職住共存の暮らし方の中で積み重ねられてきた工夫や知恵の「生活文化」、それらを基盤とする京町家の現代的価値を問い直すことにある。（引用：京都市京町家保全・継承推進計画 平成31年2月策定） 本科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-4に該当する。
授業概要	京町家を建物単体で取り扱うのではなく、それらが連担することや、集合体として形成している路地も含めて、それら関係性にも着目しながら、京都におけるまちの保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する講義を行う。また、フィールドワークやワークショップの方法を学んだ上でまちづくりの現代的課題と実践にかかわる演習を行う。
授業計画 授業内容	全 15 回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 京町家の保全・継承（総論）①※高田 第3回 京町家の保全・継承（総論）② 第4回 町家見学・フィールドワーク 第5回 京町家における生活文化①※杉本 第6回 京町家における生活文化② 第7回 町家見学・フィールドワーク 第8回 京町家の改修・技術①※北岡 第9回 京町家の改修・技術② 第10回 町家見学・フィールドワーク 第11回 細街路の再生①※森重 第12回 細街路の再生② 第13回 フィールドワーク講評 第14回 京町家の再生まちづくり①※生川 第15回 京町家の再生まちづくり② ※学習への理解、到達状況に加えて、フィールドワークの実施可否など適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート＋期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。
教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書 参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。 フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。

予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	京都学演習 建築計画Ⅳ
課題に対するフィードバックの方法	演習ごとに講評・質疑応答などを行う
教員の実務経験	（公財）京都市景観・まちづくりセンターおよび京安心すまいセンター在籍時に京町家の保全・再生に係る業務を担当していた経験から、京町家の保全・再生に関する課題全般に精通していることに加え、自邸で自ら改修設計した京町家（京環境配慮建築物として京都市から2014年度優秀賞を受賞）を受講学生の見学対象として提供している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-DE322L

講義名	室内意匠論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOB I 建築学部

到達目標	インテリアデザインに関する知識（計画、エレメント、スタイル、材料、環境等）を幅広く吸収し、魅力的かつ適切なインテリアデザインを行うための基礎知識と技術の習得を目的とする。 本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会的背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では室内デザインに関する原理・原則を基に、様々な観点から総合的にインテリアデザインにおける基本的な考え方、用語、技術等について解説する。また現代の話題による日常生活とインテリアデザインとの関連性や考察を通じ、実践的でわかりやすい制作活動のヒントとなるトピックを提供する。また豊富な経験を通じたインテリアデザインの仕事や作家についてなど、インテリアデザインの最前線を紹介する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、インテリアデザインとは、自己紹介 第2回 インテリア空間 第3回 インテリアエレメント、インテリアプランナー試験解説 第4回 インテリアスタイル 第5回 家具デザイン 第6回 ウィンドートリートメント 第7回 ライティングデザイン、 第8回 インテリア設備 第9回 マテリアルコーディネート 第10回 カラーコーディネート 第11回 エルゴノミクス（人間工学） 第12回 室内環境 第13回 インテリア計画と発想 第14回 ユニバーサルデザイン、サステイナブルデザイン 第15回 インテリアデザインのプロセスと評価：修得確認レポート
成績評価	評価ポイント：授業態度（40%）、ミニレポートの提出および評価（30%）、修得確認のためのフィナルレポート＜必須＞（30%）によって評価する。
教科書	図解テキスト「インテリアデザイン」 /井上書院 /小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口真佐子、ペリー史子、西山紀子
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介し、配付または掲示（クラスルーム）を行う。
履修上の注意	室内意匠・生活文化・環境技術・人間工学などデザインと技術の両側面から、日常での幅広い興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	1回の講義（1コマ）に対して4時間の予習復習をすること。教科書の該当する章を読み、専門用語（背景・技術）について調べ、理解を深めておくこと。 また授業で興味を得たものについて、深く研究する姿勢を持つこと。
関連科目	「デザイン概論」「建築概論」「色彩学」「造形材料論」「建築材料」「デザイン作図演習」「インテリア設計」
課題に対するフィードバックの方法	毎回のミニレポート課題、クラスルーム、メールにより質疑応答を行う。
教員の実務経験	一級建築士・インテリアプランナーの資格を持ち、建築設計・インテリアデザインの実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による、実践を踏まえた解説による講義を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-DE312L

講義名	建築計画Ⅳ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 杉本 直子	KYOBI 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOBI 建築学部

到達目標	建築保存計画学の基礎概念や現代的課題について理解する。また、それらをふまえて、建築空間の現代的再編・再生を目的とした、建築計画、設計、整備、運営のあり方や方法に関する基礎的知識と技術の習得に加え、ストック時代に求められる建築マネジメントやコミュニティの再生など、地域まちづくりにつながる建築企画についても学ぶ。（建築の設計・計画的側面の理解能力の獲得および新しい社会ニーズに対応する建築企画力の育成） 本科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	現代の成熟社会における日常生活の豊かな場、建築とはどのようなものなのか。本講義では建築保存計画学の基礎的概念や現代的課題について概説するとともに、近代建築等の保存、修復、再生の計画・設計整備、運営などに関わる学理と実践について具体的に解説し、保存改修について理解を深めるための演習課題として、近代建築のサーベイを行い、報告書を作成してもらう。 また、フローからストックへ建築業界の大きな枠組みの変化が求められる中で、マネジメントやコミュニティといった新たな視点からみた建築のあり方を問う建築企画にも視野を拡げ、地域まちづくりの課題について理解を深めるための演習課題として大学周辺のフィールドワークを行い、その調査結果を報告書として取りまとめる。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 建築保存計画学とは何か 第3回 建築の保存とは何か_その1 第4回 建築の保存とは何か_その2 第5回 近代建築の保存改修のサーベイ 第6回 現代における文化財について 第7回 近代建築の背景にあるもの 第8回 近代建築の保存改修の調査報告会と講評 第9回 マネジメント時代における建築企画とは何か 第10回 空き家の再生まちづくり 第11回 地域住宅まちづくり 第12回 大学周辺地域におけるフィールドワーク 第13回 団地マネジメント・団地再生 第14回 市民による建築文化まちづくり 第15回 フィールドワーク報告会と講評
成績評価	近代建築の保存改修のサーベイ報告書（50点満点）と地域まちづくりに関する調査報告書（50点満点）の合計点が60点以上を合格とする。
教科書	なし（配布資料あり。パワーポイント、ビデオなどを使用）
参考書 参考資料	講義において紹介する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画Ⅰ、建築計画Ⅱ、建築計画Ⅲ
課題に対するフィードバックの方法	授業毎に小レポートを提出し、質疑応答があれば、次回授業でフィードバックを行う。
教員の実務経験	一級建築士の資格を活かし、新築、リノベーション、コンバージョンに関わる20年以上の設計実務経験を持つ。本授業では、各種建築物の保存と再生について、基礎知識と実例と関連付けて解説を行う。さらに、保存再生建築物や地域まちづくりに関するサーベイを行ってもらうことで、実践的な観点からより深い理解が得られると考えている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ARC-DE318L

講義名	建築構造力学Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部

到達目標	講義および演習課題をとおして、構造設計における構造力学の理解をより深める。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	・建築構造力学Ⅰ、Ⅱでは静定骨組を取り扱い、力のつりあい式から断面力を学んだ。しかし、不静定構造では力のつりあい式のみでは断面力が求められない。 本講座では、応力法などの新しい解法を身につける。 ・不静定構造物である建物は、部材が損傷しても全体が崩壊するとは限らない。 巨大地震により建物が崩壊しないためには、どの程度の荷重に耐えるかを求める必要がある。 本講座では、全塑性モーメントや崩壊荷重等の基礎的な知識を身につける。 ・構造物の耐震設計のためには、地震に対する構造物の動的な挙動について理解する必要がある。 本講座では、応答スペクトル等の基礎的な知識を身につける。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 第2回 静定と不静定について 第3回 不静定梁(1) 第4回 不静定梁(2) 第5回 不静定梁(3) 第6回 不静定骨組(1) 第7回 不静定骨組(2) 第8回 不静定骨組(3) 第9回 塑性崩壊荷重(1) 第10回 塑性崩壊荷重(2) 第11回 塑性崩壊荷重(3) 第12回 鉄筋コンクリート構造の設計(1) 第13回 鉄筋コンクリート構造の設計(2) 第14回 動力学(1) 第15回 動力学(2) ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	出席および演習物の提出(50%)、定期試験(50%)に基づき行う。
教科書	スタンダード 建築構造力学 学芸出版社 ISBN 978-4-7615-2841-6
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をすること。 (授業ノートの整理、前回演習課題の復習等)
関連科目	「建築構造力学Ⅰ」「建築構造力学Ⅱ」 「構法計画Ⅰ」「構法計画Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	建築生産論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩岸 克浩	K Y O B I 建築学部

到達目標	
履修上の注意	
予習・復習指導	
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	公共デザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 宮内 智久	KYOB I 建築学部

到達目標	本授業では、デザインを単なる造形や機能性として捉えるのではなく、その意義や役割をより広い視点から深く考察する。公共物に限らず、芸術作品、自然環境、社会、都市空間など多様な領域において、デザインがどのような影響を与えるのかを理解し、国内外の事例をもとに、デザインがもたらす価値と同時に問題点についても検討する。 さらに、デザイナー・芸術家・建築家として、自ら問題意識を持ち、課題を設定し、解決へと導く力を養うとともに、デザインを通じて自分自身の人生観を形成することを目指す。 主な目標 1. キーワードを理解する 2. キーワードについて自ら考察する 3. 自分のキャリアや人生に反映する ※本科目は、DP2-1～3に該当する。
授業概要	公共物および公共空間が担う社会的役割と文化的価値を掘り下げ、デザインが社会にどのような影響を与えるのかを考察する。芸術、建築、都市計画、環境デザインの視点を横断しながら、国内外の具体的な事例を通して学ぶ。さらに、デザインが歴史的・社会的文脈の中でどのように形成され、変容してきたのかを分析し、受講生が自らの視点を持って批評できるようになることを目的とする。 授業で行うこと 1. 授業前の準備（各週）：資料の確認と考察を通じて思考を深める 2. 講義（各週）：キーワードと概念を理解する 3. アウトプット（各週）：アンケート形式で意見を共有する レポート提出（学期末）：学期末に1回提出する
授業計画 授業内容	授業計画（全15回） - 第1回 人生のデザイン - 第2回 発想のデザイン - 第3回 思考のデザイン - 第4回 プロセスのデザイン - 第5回 見せ方のデザイン - 第6回 認知のデザイン - 第7回 記憶のデザイン - 第8回 夢のデザイン - 第9回 見せ方のデザイン - 第10回 体験のデザイン - 第11回 公のデザイン - 第12回 景観のデザイン - 第13回 再生のデザイン - 第14回 循環のデザイン - 第15回 生き延びるためのデザイン ※学習への理解度・到達状況に応じて、授業内容を適宜調整・変更する場合がある。
成績評価	授業態度 75% → 出席課題 15回 × 5点 レポート 25%（合計1回）
教科書	配布資料、映像等

参考書 参考資料	参考文献（例） 1) 人生・キャリア／働き方・資本 LIFE SHIFT（ライフ・シフト） 100年時代の人生戦略（アンドリュー・スコット 他） フリーエージェント社会の到来（ダニエル・ピンク） 新 クリエイティブ資本論—才能が経済と都市の主役となる（リチャード・フロリダ） 幸福の「資本」論（橘 玲） 10年後の仕事図鑑（堀江貴文／落合陽一） 多動力（堀江貴文） プロセスエコノミー あなたの物語が価値になる（尾原和啓） ブルー・ゾーン（ダン・ビュイトナー） 人生を変える最強のコミュニティづくり（美宝れいこ） 2) デザイン思考／発想・創造性／リサーチ デザイン思考が世界を変える（ティム・ブラウン） 実践 スタンフォード式 デザイン思考（ジャスパー・ウ） 突破するデザイン（ロベルト・ベルガンティ） 発想する会社！（トム・ケリー） ハウ・トゥー アート・シンキング（若宮和男） 直感と論理をつなぐ思考法 VISION DRIVEN（佐宗邦威） リサーチ・ドリブン・イノベーション（安斎勇樹） 認知バイアス辞典（情報文化研究所） 3) 公共・都市・コミュニティ／シビック・デザイン シビックデザイン 自然、都市、人々の暮らし（大成出版社） つくる公共50のコンセプト（せんだいメディアテーク） まちづくり幻想（木下 斉） コミュニティデザイン（山崎 亮） コミュニティ・オーガナイズ（鎌田華乃子） シェアをデザインする（猪熊 純 他） ネイバーフッドデザイン（荒 昌史） 人口減少社会のデザイン（広井良典） ソーシャルデザイン実践ガイド（寛裕介） 持続可能な地域の作り方（寛裕介） テンポラリーアーキテクチャー（OpenA） 4) 環境・サステナビリティ／倫理 サステナブルなものづくり（W・マクダナー） 里山の環境学（武内和彦 他） 沈黙の春（レイチェル・カーソン） 生き延びるためのデザイン（ヴィクター・パパンエック） カミング・バック・トゥ・ライフ（ジョアンナ・メイシー／モリー・ヤング・ブラウン） 5) 社会変化・ポストコロナ アフターコロナのニュービジネス大全（原田曜平） 6) 感受性・自己理解 繊細さは、これからの時代の強さです（アニータ・ムアジャーニ） 他
履修上の注意	講義はオムニバス形式で行い、回ごとに異なるテーマや視点から学ぶ。あわせて、必要に応じて外部ゲストを招いた講義も実施する予定である。
予習・復習指導	1回の講義（1コマ）につき、予習・復習を合計4.5時間行うこと。 講義前に配布する資料は、事前によく読み込み、要点を整理しておくこと。 各回で扱う用語について、可能な範囲で自ら調べ、概念の理解に努めること。
関連科目	建築計画Ⅱ 建築計画Ⅳ 京町家再生論 デザイン概論 色彩理論演習 等
課題に対するフィードバックの方法	レポートのフィードバックは、点数のみを示すのではなく、必要に応じてコメント等を付して返却する。あわせて、授業時間外においても、担当教員は随時、質問・相談を受け付ける。
教員の実務経験	担当教員は6年以上の建築設計・及びグラフィックデザインの実務経験を持ち、ADOBEソフトウェアを利用した実践的な指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-DE313L

講義名	社寺建築論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	建築学部：美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 中西 大輔	KYOB I 建築学部

到達目標	社寺建築を単に様式で捉えるのではなく、決定された寸法の根拠や意味まで深く考察できる知識と思考法を体得する。 本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	「日本建築史」で得た様式上の基礎知識のうえに、社寺建築の各部構造がどのような設計原理と様式によって決定がなされてきたかについて論じ、社寺建築の本質にせまろうとする。 特に前半は各時代の様式論を改めて確認し代表的な遺構の解説する。 後半は、各細部意匠などについて解説する。 また、受講者数や授業の進捗状況を鑑みて見学会を実施する可能性がある。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス 社寺建築を理解するための基礎知識 第2回 古代の寺院建築 第3回 古代の神社建築 第4回 中世の寺院建築 第5回 中世の神社建築 第6回 近世の寺社建築 第7回 古建築の見学会 第8回 基礎廻りの構造と様式的変遷 第9回 軸部の構造と様式的変遷 第10回 組物の構造と様式的変遷 第11回 軒の構造と様式的変遷 第12回 小屋組みの構造と様式的変遷 第13回 屋根葺きの構造と様式的変遷 第14回 天井の構造と様式的変遷 第15回 授業のまとめ ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	レポートで評価をおこなう
参考書 参考資料	近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版 京都府、奈良県、和歌山県、文化財建造物保存技術協会などが刊行した文化財建造物修理工事報告書
履修上の注意	
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の事前学習をすること。
関連科目	日本建築史、伝統建築図
課題に対するフィードバックの方法	レポートに関してフィードバックをする場合は、コメント等を記載して返却する。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

＜建築学部＞専門教育科目 K8. 専門実習・演習科目

京都美術工芸大学シラバス [2026 年度版]

講義名	建築設計導入実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	3		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部
講師	杉山 英知	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部
助教	藪下 和真	KYOB I 建築学部
准教授	駒井 貞治	KYOB I 建築学部

到達目標	①図学やスケールの理解と図面や模型による表現および道具の種類・使い方を正しく習得する。 ②図面や模型を通じて建築の成り立ちについて理解できるようになる。 ③事例調査を通じて建築がどのようなコンセプト（考え方）で設計されたのか理解できるようになる。 この科目はDP2-1、4に該当する。
授業概要	本科目は、建築設計の基礎科目である。課題を通じて、建築製図や模型制作に用いる各種道具の適切な使い方、建築空間の見方、読み方を学ぶ。 1) 線の太さ、強弱、濃淡の使い分けとともに、文字の記入方法を習得する。 2) 図学やスケールを理解したうえで配置図・平面図・断面図・立面図など建築図面の表現を学ぶ。 3) 模型制作を行うことで立体表現を身に付ける。 4) 世界の名作建築を教材に、建築物の図面を読み取り、設計の考え方を理解する。 各課題に取り組む中で、建築がどのようにつくられ、どのような要素で構成されているかを理解しながら取り組む。
授業計画 授業内容	週 1 回・3コマ（全 15 週） 第1週：ガイダンス（用具の使い方、スケジュール、課題の説明） 第2週：建築図面の描き方（1） 配置図・平面図 1 第3週：建築図面の描き方（2） 配置図・平面図 2 第4週：建築図面の描き方（3） 配置図・平面図 3 第5週：建築図面の描き方（4） 立面図・断面図 1 第6週：建築図面の描き方（5） 立面図・断面図 2 第7週：建築図面の描き方（6） 立面図・断面図 3 第8週：建築模型の制作（1）（模型箱制作・型紙制作・ボードへの貼り付け） 第9週：建築模型の制作（2）（部材の切り出し・仮組） 第10週：建築模型の制作（3）（組み立て・完成） 第11週：建築空間の読み取り（1） 事例収集・模写図面の作成 第12週：建築空間の読み取り（2） ダイアグラムの作成 第13週：建築空間の読み取り（3） 作品紹介シートの作成 第14週：ふり返り 第15週：最終講評会、まとめ ※課題の詳細および日程については、各課題の授業初回到指示する。
成績評価	受講状況（20%）、課題の提出期限や提出内容（80%）によって総合的に評価する。

教科書	【指定教科書】（履修者は必ず購入すること） 安藤直見・柴田晃宏・比護結子 著：「建築のしくみ 住吉の長屋／サヴォア邸／ファンズワース邸／白の家」丸善株式会社，2008
参考書 参考資料	1）日本建築学会 編：「第4版コンパクト建築設計資料集成」丸善株式会社，2024 2）垣田博之 著：「名建築のデザインに学ぶ製図の基礎」学芸出版，2021
履修上の注意	1）各課題の条件および提出期限は厳守する。 2）指定教科書「建築のしくみ」は随時ページを参照するので、開講までに必ず購入し、毎回持参する。 3）特に指示しない限り、製図板など指定したものを除く製図用具一式は毎回持参する。 4）授業で受けた説明をメモする。（随時チェックを行う。） 5）模型制作等で使用する道具に関する安全対策指導には必ずしたがう。
予習・復習指導	1）課題の提出期限は厳守する。 2）各週の授業について、2時間の事前学習、2時間の復習が必要である。 3）事前学習は、教科書や参考資料の熟読の他、建築書の読み込み、建築の視察を自主的に行う。 4）復習としては、各課題の振り返りと、製図練習の繰り返しを行う。
関連科目	構成基礎演習、建築設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題作品について、口頭発表、講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	建築、インテリア、都市計画、景観設計、環境デザイン、プロダクト、グラフィックのデザインなど、広範囲にわたる実務経験を持つ教員が指導する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP001P

講義名	建築設計基礎演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	山内 貴博	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOB I 建築学部
講師	杉山 英知	KYOB I 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部
助教	藪下 和真	KYOB I 建築学部
非常勤講師	大田 精一	KYOB I 建築学部
非常勤講師	萬野 光雄	KYOB I 建築学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部
准教授	駒井 貞治	KYOB I 建築学部

到達目標	設定条件を満たした適切な設計が行えること。設計手順を理解し、同種建築の分析を通して適切な建築計画を行い、自身の作品を正確な方法で表現できること。また、伝統建築特有の基礎的知識を構法も含め理解すること。 この科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	基本的な手順に沿って一通りの建築設計プロセスを体験する。第1課題は、小規模建築（10mキューブ）の課題を通して基本的な設計方法を得得する。第2課題は、伝統建築の理解の一助として茶室・茶屋の描写を行う。第3課題は、小規模ギャラリーを設計する。敷地や先行事例の調査、コンセプト（設計意図）の立案、それを具体化する設計作業・表現を行うことで建築作品としてまとめあげていくプロセスを得得する。また、設計演習では制作スケジュール管理が重要であり、課題発表から課題提出までの流れを経験することで、制作スケジュールにおける時間管理を身につける。
授業計画 授業内容	全15週/ 週1日・3コマ 第1週 ガイダンス、課題A：＜10mキューブ＞：課題説明・課題分析 第2週 課題A：コンセプトワーク・模型制作・エスキース 第3週 課題A：図面作成（平面図・断面図・立面図）・エスキース 第4週 課題A：中間提出・作品修正 第5週 課題A：エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第6週 課題A：最終提出・優秀作品発表 第7週 課題B：＜茶室のトレース＞：課題説明・建物解説・現地見学 第8週 課題B：起こし絵図作成と建築図面の表現と理解（1） 第9週 課題B：建築図面の表現と理解（2）/断面図・最終提出 第10週 課題C：＜小規模ギャラリー＞：課題説明・課題分析・敷地見学・事例調査 第11週 課題C：コンセプトワーク・図面作成（配置図・平面図）・エスキース 第12週 課題C：図面作成（断面図・立面図）・模型制作・エスキース 第13週 課題C：中間提出・作品修正 第14週 課題C：エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第15週 課題C：最終提出・優秀作品発表
成績評価	授業態度（20%）、各課題の成果品の総合点（80%）で成績評価を行う。成果品提出遅延の場合は大幅に減点されるので注意すること。
教科書	自作プリント、「第4版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善

参考書 参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD 等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	設計課題と類似する事例の資料の調査ならびに実際の建築物を日頃より視察し、分析すること。「工芸実習導入」で習得した図面・模型の作成方法、事例の読解方法を事前に確認しておくこと。各課題共通で教科書のSection1, 3を読み、かつ課題CについてはSection11も確認しておくこと。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅱ」、「構成基礎演習」、「情報基礎演習」、「建築CAD演習Ⅰ」、「建築概論」、「建築計画Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとのエスキースや中間・最終成果品に対して講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による実践的な設計教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP102S

講義名	建築設計基礎演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOB I 建築学部
助教	藪下 和真	KYOB I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOB I 建築学部
非常勤講師	大庭 徹	KYOB I 建築学部
准教授	駒井 貞治	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	小規模な空間および住宅の設計により、基本的な建築空間の設計能力を身に付けるとともに、設計提案を図面および模型を用いて表現する方法を習得する。また、小規模の伝統建築について、構法を含めた知識を習得する。 この科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	初年度の建築設計基礎演習Ⅰに続く演習として、建築物の設計課題に取り組む。具体的な敷地を設定し、小規模かつ比較的シンプルな用途の建築物の設計を行う。第一課題としては、小規模なカフェ・店舗空間の設計を通して、建築や空間のプロポーション、動線の計画、光や影の演出、景色の切り取りといった基本的な空間造形および演出方法について学び、プレゼンテーションを行う。第二課題として、相互の関係を考慮する戸建て住宅群を提案しながらより豊かな住空間の創造を目指しエスキスをを行い、基本設計図書を作成し、プレゼンテーションを行う。
授業計画 授業内容	全15週 第1週 ガイダンス、課題A[観光地に建つブックカフェ]：課題説明、敷地調査 第2週 ブックカフェ②：事例分析、コンセプト立案 第3週 ブックカフェ③：コンセプト・基本構想報告 第4週 ブックカフェ④：平面・断面・エスキス模型報告 第5週 ブックカフェ⑤：中間発表 第6週 ブックカフェ⑥：案の再検討、成果品作成作業 第7週 ブックカフェ⑦：成果品作成作業 第8週 ブックカフェ⑧：作品発表、講評 課題B[相互の関係を考慮する戸建て住宅群]：課題説明 第9週 戸建て住宅②：事例分析、コンセプト立案 第10週 戸建て住宅③：コンセプト・基本構想報告 第11週 戸建て住宅④：平面・断面・エスキス模型報告 第12週 戸建て住宅⑤：中間発表 第13週 戸建て住宅⑥：案の再検討、成果品作成作業 第14週 戸建て住宅⑦：成果品作成作業 第15週 戸建て住宅⑧：作品発表、講評
成績評価	設計プロセス・中間時の発表も含めた受講態度、および成果品の内容により、総合的に評価を行う。
教科書	「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ・Ⅱ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。

予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。 課題AおよびBに当たっては、教科書のsection3「室と場面」を読み、行為と必要な空間の寸法について確認しておくこと。
関連科目	「建築設計導入実習」および「建築設計基礎演習Ⅰ」に続いてさらに発展した内容を扱う。 同時期に開講する「建築CAD演習」は、設計提案の表現手法として本演習に活用できる内容を取り扱う。「建築計画Ⅱ」は特に住空間の計画上の考え方として本演習と関連がある。
課題に対するフィードバックの方法	毎回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 提出作品に対して、グループごと、および全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験	担当する教員は、一級建築士の資格を持ち、建築設計・監理の実務経験を有している。設計教育の経験も豊富であり、実務経験を生かした実践的な設計教育を行う。
教員の实務経験有無	有

講義名	建築設計演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOB I 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOB I 建築学部
講師	杉山 英知	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部
特任教授	小梶 吉隆	KYOB I 建築学部
非常勤講師	大田 精一	KYOB I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOB I 建築学部
非常勤講師	山口 尚之	KYOB I 建築学部
非常勤講師	大庭 徹	KYOB I 建築学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部
准教授	駒井 貞治	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	(建築デザイン) ①小・中規模建築物の設計手法を習得する。 ②基本コンセプト、ゾーニング、配置計画、動線計画、環境設計、構造設計、プランニングを体系的に進める事が出来るようになる。 (伝統建築) 製図器具の使い方や図面表現の基本知識を理解し、伝統建築特有の複雑な様式を表現できる製図技術力を習得するとともに、伝統建築設計図面を読解できる技術力を体得する。 この科目は、DP2-1～4 に該当する。
授業概要	第1課題は共通課題、第2課題は建築デザイン・伝統建築の課題の選択制で行われる。 (建築デザイン) 小・中規模の集合住宅、教育施設、商業施設、コミュニティ施設などの設計を行い、課題を通して、計画・構造・設備・デザイン・透視図など、建築設計の基礎的要素を体験的に学ぶことを目的とする。具体的な敷地に対してフィールドサーベイを行い、コンセプト(設計意図)を立て、それを具体化する設計を行う。各学生が分析・検討した成果品を個別にチェックを行い、最適解とするための指導を行う。 (伝統建築) 伝統建築設計図が表現している意味を理解し、製図技術力を習得する為、代表的な寺院・神社建築の平面図・断面図・立面図(縮尺＝1/40～1/50程度)を作図する。
授業計画 授業内容	全 15 週/ 週 90 分×4時限× 15 回 共通課題(第1課題) 第1週 ガイダンス、課題 A「集合住宅」: 課題説明・課題分析作業 第2週 課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第3週 平面計画・断面計画・エスキスチェック 第4週 基本構想発表<グループ別・全体>

	第5週 構造計画・環境計画・エスキスチェック 第6週 プレゼンテーション作成・面積表 第7週 作品提出・作品発表<全員公聴・評価> 建築デザイン課題（第2課題選択制） 第8週 課題 B「保育園」：課題説明・課題分析作業 第9週 課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第10週 平面計画・断面計画・エスキスチェック 第11週 基本構想発表<グループ別・全体> 第12週 平面・断面・エスキスチェック 第13週 構造計画・環境計画・エスキスチェック 第14週 プレゼンテーション作成・面積表・仕上表作成 第15週 作品提出・作品発表<全員公聴・評価> 伝統建築課題（第2課題選択制） 第8週 課題説明・図面作成 第9週 見学会 第10週 模型作成 第11週 模型作成 第12週 模型作成 第13週 模型作成 第14週 模型作成 第15週 模型作成・図面提出
成績評価	学習状況（20%）、提出作品（80%）の完成度によって総合的に評価する。
教科書	「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善 「集合住宅（建築設計テキスト）」 建築設計テキスト編集委員会編、彰国社 「保育施設（建築設計テキスト）」、山田あすか・藤田大輔、彰国社（第2課題で保育園を選択するもののみ）
参考書 参考資料	演習におけるレクチャー等で配布される資料及び下記の資料 「建築設計資料87 低層集合住宅2」 建築思潮研究所編、建築資料研究社 「ヒルサイドテラスで学ぶ建築設計製図」勝又英明、学芸出版社 「保育園・幼稚園・こども園の設計手法」仲 綾子その他、学芸出版社 『「新」建築設計資料（04）地域シェア型保育施設—地域子育て支援・児童発達支援・学童保育・幼老等併設—』建築思潮研究社
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理し常備すること。
予習・復習指導	1 コマに対し2時間の事前学習をすること。 課題着手までに類似物件を数多く調査・見学しておくこと。
関連科目	「建築設計実習導入」、「建築設計基礎演習Ⅰ」、「建築設計基礎演習Ⅱ」、「建築計画Ⅱ」、「建築計画Ⅲ」、「建築設計演習ⅡA」、「建築設計演習ⅡB」
課題に対するフィードバックの方法	建築デザイン（第1課題・第2課題） 20名程度（第2課題は10名程度）の学生に一人の教員指導によるスタジオ制とし、発表会において全ての学生の作品に対して講評を行う。さらに、すべての作品について教員・学生投票を行い、投票数を多く獲得した学生発表について講評を行う。
	伝統建築（第2課題） 最終回にて成果品に対し総評を行う。
教員の実務経験	担当教員は集合住宅及び保育所の設計、伝統建築の修復・新築設計において実務経験を有しており、設計演習においてより実務的な内容について講義及び設計指導を行うことができる。
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	AAT-SP204S

講義名	建築設計演習ⅡA		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOBI 建築学部
教授	安田 光男	KYOBI 建築学部
教授	井上 晋一	KYOBI 建築学部
教授	森重 幸子	KYOBI 建築学部
教授	竹脇 出	KYOBI 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOBI 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOBI 建築学部
講師	杉山 英知	KYOBI 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOBI 建築学部
非常勤講師	山口 尚之	KYOBI 建築学部
非常勤講師	山田 滋也	KYOBI 建築学部
非常勤講師	角 直弘	KYOBI 建築学部
教授	井上 年和	KYOBI 建築学部
准教授	駒井 貞治	KYOBI 建築学部

到達目標	オフィスデザインと構造デザイン（ストラクチャから建築を考える）の課題を通して、より専門性の高い設計手法を習得し、建築設計の根幹となる知識を獲得することを到達目標とする。 この科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	10週までオフィスデザイン課題、残り5週は建築構造課題に取り組むことで、建築設計に必要な基礎知識を習得し、後期課題に向けての準備を行う。オフィスデザイン課題では、小規模事務所ビル設計と近年の新しい働き方に対応したオフィスインテリアに関する計画について、設備・内装材料等も含めた統合的なデザイン手法を身に付ける。計画段階の企画から外観デザインさらにはインテリアデザインに進化するプロセスを経験する。また、建築構造課題では各種構造形式を習得するための作図を実践することで建築構造の理解を深める。
授業計画 授業内容	全15週/週1日・2コマ 第1週 ガイダンス・「オフィス課題」課題説明、リサーチ、コンセプト 第2週 エスキース1：コンセプト、ボリューム、ゾーニング 第3週 エスキース2：プランニング、インテリア計画 第4週 課題提出・班別講評会 第5週 エスキース3：再提出、ワークスペース事例 第6週 エスキース4：インテリア企画・計画 第7週 エスキース5：インテリア設計 第8週 エスキース6：全体調整 第9週 課題提出・班別講評会 第10週 課題修正確認・全体講評会 第11週 建築構造課題説明、RC造（1） 第12週 建築構造課題説明、RC造（2） 第13週 建築構造課題説明、RC造（3） 第14週 建築構造課題説明、S造（1） 第15週 建築構造課題説明、S造（2） ※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。
成績評価	授業態度（20%）、前10週および後5週の「成果品」（80%）から総合評価を行う。

教科書	「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善 「事務所建築(建築設計テキスト)」 建築設計テキスト編集委員会編、彰国社
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業(CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学时において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して1時間の予習復習をすること。各週の課題や教員からのコメントを次週までに必ず修正するなど確実に履修を進めること。
関連科目	建築設計実習導入、建築設計基礎演習Ⅰ、建築設計基礎演習Ⅱ、建築設計演習Ⅰ、建築計画Ⅱ、建築計画Ⅲ、卒業設計
課題に対するフィードバックの方法	グループ単位で教員が巡回する。毎回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。中間と最終の作品発表時は各班での講評と全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験	一級建築士・インテリアプランナーの資格を持ち、設計に関する実務経験、及び設計教育の経験豊富な教員による演習指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP305S

講義名	建築設計演習ⅡB		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
教授	安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOB I 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOB I 建築学部
講師	杉山 英知	KYOB I 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部
助教	薮下 和真	KYOB I 建築学部
非常勤講師	大田 精一	KYOB I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOB I 建築学部
非常勤講師	山口 尚之	KYOB I 建築学部
非常勤講師	大庭 徹	KYOB I 建築学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部
准教授	駒井 貞治	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	設計課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、構造・設備計画法等を習得すると共に、各種の構工法、製図法の知識と表現技術を習得することを到達目標とする。 本科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	【建築デザイン・融合領域】 メディアテーク、社会教育施設、商業施設、展示施設、コミュニティ施設、駅前広場などの地域複合施設に加え、市街地住宅団地の再生など地域まちづくりの視座に立った設計を行う。そのことを通じてRC造などの建築の構工法、製図法の知識と表現技術を学ぶと共に、複合的な建築物の設計、リサーチによる課題の発見とコンセプトメイキング、プログラムの提案を習得する。（課題A、B共に小グループに分け各グループを各教員が指導するスタジオ制とする） 【伝統建築領域】 神社建築に対して現地調査を行い、調査報告書、実測図面を作成して報告を行う。

授業計画 授業内容	【建築デザイン・融合領域】 第 1 週 ガイダンス、課題A(1)＜メディアテーク（建築デザイン・融合領域共通）＞課題説明・班分け・作業 第 2 週 課題A(2)：サーベイプレゼン・提出（課題・敷地調査分析、事例研究） 第 3 週 課題A(3)：基本構想発表・提出（ブロックプラン、ゾーニング、コンセプト） 第 4 週 課題A(4)：スタディ模型等エスキス（平面構成、断面構成） 第 5 週 課題A(5)：中間発表 第 6 週 課題A(6)：エスキス（構造、空間構成、造形デザイン） 第 7 週 課題A(7)：作図（仕上げ）、提出模型制作 第 8 週 課題A(8)：制作発表・講評会・指摘内容の修正加筆（指摘作品） 第 9 週 課題B(1)：＜選択制①駅前広場と付帯施設（建築デザイン領域）、②堀川団地のまちづくりによる再生（融合領域）の内いずれか1つ＞課題説明・班分け・作業 第10週 課題B(2)：現地視察、課題・機能・社会的課題分析発表 第11週 課題B(3)：サーベイプレゼン・提出（課題・敷地分析、類似施設見学報告） 第12週 課題B(4)：基本構想発表・提出（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第13週 課題B(5)：スタディ模型等エスキス（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第14週 課題B(6)：作図（仕上げ）、提出模型製作 第15週 課題B(7)：制作発表・講評会・指摘内容の修正加筆 ※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。 【伝統建築領域】全15週／週 1 日・3コマ 現地調査を行い、その情報を基に実測図、調査報告書を作成する。 第 1 週 ガイダンス、現地見学 第 2 週 現地調査、実測図作成（1） 第 3 週 現地調査、実測図作成（2） 第 4 週 現地調査、実測図作成（3） 第 5 週 現地調査、実測図作成（4） 第 6 週 現地調査、実測図作成（5） 第 7 週 現地調査、実測図作成（6） 第 8 週 現地調査、実測図作成（7） 第 9 週 現地調査、実測図作成（8） 第10週 現地調査、実測図作成（9） 第11週 報告書作成（1） 第12週 報告書作成（2） 第13週 報告書作成（3） 第14週 報告書作成（4） 第15週 報告書作成（5）
成績評価	授業態度（20%）、課題A・課題B・調査報告書「成果品」（80%）から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業(CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する事例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「建築設計実習導入」、「建築設計基礎演習Ⅰ」、「建築設計基礎演習Ⅱ」、「建築設計演習Ⅰ」、「建築計画Ⅱ」、「建築計画Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 作品発表時は全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、研究実績、及び、設計教育の経験豊富な教師陣を中心に、実践的な設計教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP306S

講義名	建築設計演習Ⅲ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	山内 貴博	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOB I 建築学部
特任教授	小梶 吉隆	KYOB I 建築学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ」や各種座学で得た知識を基に、建築・地域・都市の課題を通じて、卒業研究や卒業設計としての具体的な成果へとつながる資料収集力・調査分析力・構想力・発想力・デザイン力・スケジュール管理能力を身につける。 本科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	ゼミ制として各指導教官の研究室に配属し、卒業研究へと繋げることを念頭に置く。建築設計演習Ⅲは設計または論文のいずれかを選択する。建築・地域・都市に関するテーマを各自設定し、建築デザインコンペの参加も視野に入れ、論文／設計の制作を行う。各自の進捗状況を把握するために中間報告会を行い、教員及び学生間で意見交換や助言を受けることで、後期の卒業研究に向けての準備を行う。 [建築・地域・都市的デザイン、伝統的建築群含む群建築・再開発・複合施設・外部空間構成・リノベーション・コンバージョン等]
授業計画 授業内容	全15週／週2日 第1週 ガイダンス 第2週 ゼミ・チェック（制作方針について）1 第3週 ゼミ・チェック（制作方針について）2 第4週 ゼミ・チェック（敷地／資料調査）1 第5週 ゼミ・チェック（敷地／資料調査）2 第6週 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）1 第7週 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）2 第8週 ゼミ・チェック（中間報告草案） 第9週 中間報告（全体） 第10週 ゼミ・チェック（図面・模型）1 第11週 ゼミ・チェック（図面・模型）2 第12週 ゼミ・チェック（図面・模型）3 第13週 ゼミ・チェック（図面・模型）4 第14週 ゼミ・チェック（図面・模型）5 第15週 最終プレゼンテーション・講評

成績評価	授業態度（出席等30%）、中間・最終「成果品」（評価等70%）から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第4版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等 「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編] 及び[地域・都市Ⅱ～データ編]日本建築学会編 丸善㈱
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。V D T 作業（C A D等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する事例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	それぞれの成果品を発表し、講評・質疑応答を行う
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による実践的な設計教育を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-SP414S

講義名	卒業研究		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	山内 貴博	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOB I 建築学部
特任教授	小梶 吉隆	KYOB I 建築学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	各自の設定したテーマに沿って、独自の調査、分析、研究などに基づき作品を構想し、設計／論文を制作する。 幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見いだす力を養う。 本科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	学生各自がテーマを設定し、指導教官の指揮の下で卒業研究を行う。卒業研究は卒業設計又は卒業論文のいずれかを選択する。テーマの選定にあたっては、予め十分な討議を指導教官及び学生間でおこない、4年間の講義、実習、演習を通じて習得した建築に関する知識や技術に基づき、建築分野の卒業論文あるいは卒業設計に相応しい課題を選定する。各自の進捗状況を把握するために中間発表会を行い、教員及び学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展が出来るよう卒業研究の完成を目指す。卒業研究の審査は2段階に分かれ、一次審査会を通過した学生が二次審査会に進み最終提出をおこなう。
授業計画 授業内容	1. 卒業制作ガイダンス 2. 卒業テーマ、敷地／資料分析の検討 3. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）1 4. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）2 5. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）3 6. 卒業研究中間発表 7. ゼミ・チェック（設計／論文草案）1 8. ゼミ・チェック（設計／論文草案）2 9. ゼミ・チェック（設計／論文草案）3 10. ゼミ・チェック（設計／論文草案）4 11. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）1 12. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）2 13. ゼミ・チェック（まとめ、最終プレゼンテーション） 14. 卒業研究一次審査会 15. 卒業研究二次審査会

成績評価	4年間の学びの集大成として、卒業研究（設計・論文）のテーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」ができているかを評価する。
教科書	自作プリント、「第4版コンパクト設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等 「建築設計資料集成」「日本建築学会梗概集・論文集」 「卒業制作作品集（各種）」「建築雑誌（各種）」
履修上の注意	成果物の提出締め切り日に必ず提出のこと。 「卒業研究中間発表会」・「審査会」には必ず出席すること。 製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。 VDT作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「伝統建築図（基礎）・（応用）・（発展）」、「伝統建築専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	ゼミ・チェック時に担当教員より質疑応答・講評を行う。 「卒業研究中間発表会」及び「審査会」時に建築学科の教員により質疑応答・講評を行う。
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による実践的な教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-SP418P

博物館学芸員養成科目

京都美術工芸大学シラバス [2026 年度版]

講義名	生涯学習論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉富 千恵	KYOB I 芸術学部

到達目標	①人間の発達段階ごとに必要な学習の役割を理解する ②生涯学び続けることの意義と必要性を理解する ③生涯学習支援と推進の方法を学ぶ 本科目は、DP0-1、DP0-2、DP0-3に該当する
授業概要	生涯学習とは、単なる知識の習得ではなく、各ライフステージにおける発達課題を乗り越えるための重要な手段である。発達心理学の観点からも、学習は人間の成長と密接に関係し、個人のアイデンティティ形成、キャリアの維持、健康寿命の延伸に影響を与えている。よって、本授業では、生命誕生の瞬間から高齢期まで、それぞれの時期における発達と課題を詳しく学ぶことを通して、生涯学習についての理解を深めることを目的とする。各年代で多くの人が悩むテーマについて、映像教材を用いながら考えていく。また何回かの講義では、心理テストを用いて自己分析を行い、個人発表の機会を設ける。受講生には、毎回の振り返り用紙の提出と、授業内での積極的な発言を求める。
授業計画 授業内容	第1回 生涯学習論とは？この講義における定義と講義の進め方の説明 第2回 深刻な不妊問題について 第3回 生命誕生に関する教育について 第4回 赤ちゃんのパワーについて 第5回 赤ちゃんの心身の発達について 第6回 幼稚園児の社会性の発達について 第7回 幼児期の心身の発達について 第8回 小学生の様子 第9回 小学生の心身の発達について 第10回 思春期 反抗期について 第11回 青年期の心身の発達について 第12回 アイデンティティに関する自己分析、自己の価値観について 第13回 中年期の心身の発達について 第14回 高齢期の心身の発達について 第15回 生涯学習を支える制度、施設について
成績評価	期末テスト70%（ペーパーテスト形式）、平常点30%で評価する。平常点は、毎授業につき2点とし、授業時間内に着席し、授業を聴き、教員の指示に従って心理テストやワークに取り組んでいる学生に対して与える。この旨、公平に判断するために毎回の授業にて、講義内容の振り返り用紙の提出を求める。また、講義中における以下の行為に関しては、出席と認めない。①初めから教室に存在せず出席の送信のみを行う。②他の授業のレポート作成、製図などの課題作成といった本授業に関係のないことをしている。③インターネットの閲覧。④正当な理由なく授業開始15分以内に教室を退出する。
教科書	特に指定しない
参考書 参考資料	『現代の生涯学習』 岩永雅也 放送大学
履修上の注意	みなさんの意見をランダムに指名して、伺うことがあります。また、授業内で行う自己分析やペアワークには、必ず取り組んでもらいます。授業内容と成績評価項目を熟読し、納得の上、履修して下さい。
予習・復習指導	事前に指示があった場合には、前もって配布するレジュメ、心理テスト、ワーク用紙などを利用し、事前学習を行って下さい。その他、予習や復習として、授業で扱ったテーマについて自主的な学びを求めます。1コマにつき4時間の予習復習時間の確保が望ましい。
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の振り返り用紙から得た受講生の質問や感想は、次の授業の冒頭にて全体にフィードバックします。 個人的に受けた質問やコメントについても、必要に応じて全体に伝えます。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	COM-GE105L

講義名	博物館概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOB I 芸術学部

到達目標	博物館活動の概要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するために不可欠な基礎的知識を総合的に習得する。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	博物館は、さまざまな博物館資料を調査・研究、さらに展示・活用し、幅広く社会と関わる学習活動の拠点である。本講義では、博物館の成立と発展の歴史、博物館法にもとづく制度的枠組み、資料の収集・保存・展示・アーカイブ、さらに地域社会や学校教育との連携までを体系的に学ぶ。博物館活動の具体例を提示し、現代社会における博物館の役割と意義を理解することを目指す。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 博物館の定義と機能 第3回 博物館法と日本の博物館制度 第4回 博物館成立の歴史①（西洋） 第5回 博物館成立の歴史②（日本） 第6回 博物館の種類と多様性 第7回 博物館資料：資料とは何か 第8回 博物館資料と収集・保存① 第9回 博物館資料と収集・保存② 第10回 博物館と展示① 第11回 博物館と展示② 第12回 アーカイブと記録 第13回 博物館と学校・教育 第14回 博物館と地域社会 第15回 総括
成績評価	授業時のレポート（40%）、期末試験もしくは期末レポート（60%）によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	加藤有次、鷹野光行、西源二郎、山田英徳、米田耕司『新版博物館学講座1 博物館概論』雄山閣出版、2000年
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：次回授業のテーマ、内容に関するトピックを確認しておくこと。 復習：講義内容を整理しておくこと。適宜博物館などを見学すること。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを講義内でおこなう。
教員の実務経験	京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）を活かし、博物館活動の実践について概説する。
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	博物館経営論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	2		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田 均	KYOB I 建築学部

到達目標	①博物館運営に係る基礎的な経営理論や実践事例を学び理解する。 ②博物館の使命を理解し、博物館学芸員の資格取得を目指す。 ③身近な博物館の経営改善や、理想とするあるべき博物館を構想する力量を養う。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	博物館には、国・地域・企業などの歴史を物語る貴重な文化的・自然的資料を収集・保存・展示することを通じて、共有すべき文化を継承しながら創造し普及する、という極めて重要な役割がある。また博物館は非営利組織であり、館を持続するには卓越した経営的な能力をも併せ持つ学芸員が必要とされる時代となった。 そこでこの科目では、博物館学芸員として博物館経営を担う場合の要諦を解説するが、このことを通じて、一般企業や公務労働でも、また起業の際にも役立つ組織運営の基礎を学ぶことができる「経営学入門」的な要素を考慮した講義内容とする。
授業計画 授業内容	第1回 講義の概説 第2回 博物館と法律：博物館法の理解 第3回 博物館の使命：使命の重要性 第4回 博物館の経営戦略：使命と経営戦略、ビジョン 第5回 博物館のマーケティング：顧客と価値の定義 第6回 文化の継承：文化と経済、文化継承の意味、学芸員の仕事 第7回 博物館の管理：公共経営論、指定管理者制度 第8回 組織論入門：組織の基本原則、起業入門 第9回 非営利組織論：営利と非営利、博物館の非営利性、学芸員の職業倫理 第10回 資金マネジメント：慢性的資金不足、ファンドレイジング、事例研究 第11回 博物館の評価制度：自己評価と第三者評価、成果指標、評価し改善する 第12回 博物館の連携：協議会の設置、市民参加、企業との連携、友の会 第13回 博物館のリスク管理：予防策と事後策、BCP、天災と人災、現代的リスク 第14回 博物館と観光：観光の本質、保存と活用、文化観光の推進 第15回 総括と到達度テスト
成績評価	毎回提出のミニレポートや受講意欲などの平常点（50％）と15回目での到達度レポート（50％）によって総合的に評価する。
教科書	毎回の講義用資料を事前にネット配信する。
参考書 参考資料	月刊『博物館研究』日本博物館協会
予習・復習指導	講義前日に講義資料をクラスルームに投稿するので、予習して講義に臨むこと。 講義の中で提示する課題に積極的に取り組み、しっかり復習して講義内容を身につけ、実践に役立てるように。 1コマに対し、1時間の事前学習及び3時間の復習を目安とする。
関連科目	地域社会論、工芸と経済、その他の学芸員資格科目
課題に対するフィードバックの方法	レポート内容や質問などについて、必要に応じて次回以降の講義で紹介・解説するなどの方法でフィードバックする。
教員の実務経験	京都府立中小企業指導所経営課で7年間、企業の経営支援に関する実務を経験している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	博物館資料論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	2		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田 積希	KYOB I 建築学部

到達目標	博物館資料の分類や取り扱いの方法、調査研究や情報化、保管管理等に関する基礎知識を身につけるとともに、実際の博物館における資料の実態やその活用法について理解する。 この科目は本学のDP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	博物館のコレクションを構築する博物館資料について、その概念と意義を考察し多様性を理解するとともに、取り扱いや調査研究、情報化、保管管理等についての基礎知識を体系的に学び、高度に洗練された多様な文化の遺産を守り伝える博物館学芸員の素養を身につける。そのうえで、担当教員がこれまでの博物館資料の調査・研究、保管管理、展示の過程で実践した手法や直面した課題、解決方法、成果とその後の展開について学び、博物館資料が「収集」「研究」「保存」に活用され、「展示」により一般に公開されていくプロセスを理解する。
授業計画 授業内容	第1回 博物館資料とは—博物館資料の概念 第2回 博物館資料の分類 第3回 博物館資料の収集 第4回 博物館資料の保護と文化財 第5回 博物館資料の取り扱い 第6回 博物館資料の情報化と公開 第7回 博物館資料の実例—ポスター資料 第8回 博物館資料の実例—デザイン資料 第9回 資料の調査の実例—染織品 第10回 資料の調査の実例—美術工芸品 第11回 資料の保管管理の実例—図書館資料 第12回 資料の保管管理の実例—ガラススライド 第13回 資料の展示の実例—ラジオコレクション 第14回 資料の展示の実例—染織品 第15回 総括
成績評価	評価ポイント：毎授業時のコメント（30%）、期末レポート（70%）
教科書	指定しない。
参考書 参考資料	加藤有次他編『博物館学講座5 博物館資料論』雄山閣出版、1999 今村信隆編『博物館の歴史・理論・実践 1：博物館という問い』京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎、2018
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必修。
予習・復習指導	予習：毎回、事前に配信される資料等を参考に、授業に関連するキーワードについて調べておく。 復習：毎回、授業で言及された用語についてまとめ、理解を深める。また、必要に応じて、関連する展覧会等を見学し、実物に接する機会を増やす。 1コマに対し1時間の事前学習及び3時間の復習をすること。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	コメント、質問へのフィードバックをGoogle Classroom上、あるいは次回以降の講義内でおこなう。
教員の実務経験	博物館において学芸員として資料の調査や保存・管理の経験をもつ教員が博物館における資料の取り扱い等について講義する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	博物館資料保存論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	3		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 森 道彦	K Y O B I 芸術学部

到達目標	ミュージアムにおける収蔵品の保存管理において、注意すべき要点とその理由をきちんと理解し学習する。適切な管理方法が、モノを形作る材料や制作技法、モノをとりまく環境といった内外の要素に応じて常に変わることを知り、時と場に応じたよりよい対策について自発的に考えていく。
授業概要	この授業では、博物館や美術館といったミュージアムの仕事において欠かせない、モノの保存や管理についての基礎的な考え方や、必要な知識を学ぶ。収蔵するべきモノの選別、モノの状態悪化のプロセスと、それを軽減するための保管庫や展示室の適切な環境整備、確実な出納管理システムや防犯・防災システムの構築、展示や輸送時の注意点、修理にあたっての心構えと方法論といった、モノを取り扱う業務として気を配るべき要素の一通りを紹介する。またそれぞれのトピックにおいて、現代社会の中で生じている新たな課題と、学芸員としてのその向き合い方についても考えていく。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス -ミュージアムと資料の保存 第2回 収蔵にかかわる諸問題 第3回 温湿度・光・振動・化学物質・生物被害1 第4回 温湿度・光・振動・化学物質・生物被害2 第5回 温湿度・光・振動・化学物質・生物被害3 第6回 温湿度・光・振動・化学物質・生物被害4 第7回 災害と資料保存 第8回 展示と輸送 第9回 伝統的な保存管理の知恵 第10回 修理1 第11回 修理2 第12回 修理3 第13回 資料をとりまく社会環境1 第14回 資料をとりまく社会環境2 第15回 まとめ この科目はDP0-1、DP0-2に該当する。
成績評価	受講態度・授業理解度ほか60% 中間レポート20% 期末レポート20%
教科書	特になし 授業内で配布するプリントを使用
参考書 参考資料	東京文化財研究所 編『文化財の保存環境』 石崎武志『博物館資料保存論』講談社、2012年 稲村哲也・本田光子『博物館資料保存論』放送大学、2019年
履修上の注意	理解には一定の科学的知識が必要であり、内容も多岐にわたるため、復習を行って定着を図ること。内容の理解度や課題の出来とあわせて、授業の出席状況や受講態度は重要な評価基準の一つになる。私語や遅刻、昼寝、途中退室などは減点対象となり、一定程度を超えた者は単位を得られない。良識をよくわきまえて授業に臨むこと。
予習・復習指導	シラバスや授業内で掲げた参考書やウェブサイト等を適宜参照する。予習はできる限り課題意識をもって取り組むこと。復習に際して疑問が生じた場合は、次回授業などにおいて適宜質問すること。
関連科目	日本美術史、歴史学
課題に対するフィードバックの方法	各回授業の冒頭に前回授業についての簡単なまとめを行うほか、小レポートなどの提出物について後日解題や講評を行い、理解の促進や知識の定着をはかる。
教員の実務経験	博物館学芸員として15年ほど勤務してきた経験をもとに、資料保存に関する一般的な知識、およびミュージアム施設における展示と保存の両立における判断のあり方を具体的にフィードバックする
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	博物館展示論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	3		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田 積希	KYOB I 建築学部

到達目標	博物館における展示の理念や歴史、展示の諸形態、展示方法における基礎的な知識を習得するとともに、実際に展覧会を企画することで、その面白さや意義を実感し、学芸員の仕事を理解する。 この科目は本学のDP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	博物館における展示は、ただ作品を並べるということではない。展覧会は、調査・研究の過程で得られた情報の発信の場であるとともに、作品、企画者である学芸員、観覧者とをつなぐコミュニケーションの場でもある。本講義では、過去から現代へとつづく作品の展示方法や展示室を構成する什器等の特性、展示空間のデザイン、解説のあり方など博物館展示の基礎知識を具体的な事例に基づいて身につける。そのうえで、あるコレクションにもとづく簡単な展覧会企画に取り組み、プレゼンをおこなうことで、テーマの設定や作品研究、展示構成の組み立て方などについて実践的な力を養う。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス—展示とはなにか 第2回 博物館展示の歴史と意義—欧米 第3回 博物館展示の歴史と意義—日本 第4回 展示のデザイン 第5回 展示の補足 第6回 展示の工夫と環境 第7回 展示の仕方 第8回 フィールドワーク 第9回 展覧会の作り方① 企画の流れと展示図面 第10回 展覧会の作り方② 借用と展示作業、図録の作成 第11回 展覧会の企画① 事前準備 第12回 展覧会の企画② 企画 第13回 展示の可能性 第14回 展覧会の企画③ 発表 第15回 総括—展示の評価
成績評価	評価ポイント：毎授業時のコメント（30%）、展覧会企画（40%）、期末レポート（30%）
教科書	指定しない。
参考書 参考資料	今村信隆編『博物館の歴史・理論・実践3：挑戦する博物館』京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学会、2018年
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必修。
予習・復習指導	予習：毎回、事前に配信される資料等を参考に、授業に関連するキーワードについて調べておく。 復習：毎回、授業で言及された用語についてまとめ、理解を深める。また、できるだけ博物館に足を運んで、実際に触れ、展示上の優れた点や不都合な点を考察する。 1コマに対し1時間の事前学習及び3時間の復習をすること。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	コメント、質問へのフィードバックをGoogle Classroom上、あるいは次回以降の講義内でおこなう。
教員の実務経験	博物館において学芸員として資料の調査や保存・管理の経験をもつ教員が博物館における資料の取り扱い等について講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	博物館情報・メディア論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 六車 美保	K Y O B I 建築学部

到達目標	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題などについて理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。
授業概要	博物館においては、資料の調査・研究、展示、教育を含めた様々な情報を取り扱う。博物館学芸員はそれらの情報を管理するとともに、様々なメディアを用いたデジタル技術を活用し、情報発信することが近年盛んになっている。本講義では、博物館と取り巻く環境や学芸員が取り扱う多岐にわたる情報について具体的な事例を紹介しながら、基礎的知識を学ぶ。また、博物館における情報やメディアの特徴を知り、博物館に関連する著作権等の知的財産権にも触れ、情報を適切に管理、発信する方法について理解を深める。 本科目は学部共通DP0-1、DP0-2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス・博物館情報メディア論とは何か 博物館情報メディア論を学ぶ目的を理解する。 第2回 博物館における情報・メディアとは 「情報」「メディア」という語句を整理し、博物館における「情報」「メディア」について理解する。 第3回 ICT社会と博物館情報 1 博物館が扱う多岐にわたる情報について理解を深める。 第4回 ICT社会と博物館情報 2 ICT技術の発達と博物館の在り方について理解を深める。 第5回 博物館における情報発信 インターネットを利用した情報発信の活用について学ぶ。 第6回 博物館活動の情報化 1 博物館における調査研究活動について「情報メディア」の観点から考える。 第7回 博物館活動の情報化 2 博物館における展示・教育活動について「情報メディア」の観点から考える。 第8回 デジタルアーカイブについて デジタルアーカイブにまつわる語句を整理し、理解を深める。 第9回 デジタルアーカイブの実例と課題 デジタルアーカイブの具体例を挙げ、利点と今後の課題について考える。 第10回 博物館と知的財産 1 「知的財産」について語句を整理し、理解を深める。 第11回 博物館と知的財産 2 「知的財産」のうち、特に著作権について理解を深める。 第12回 博物館のネットワーク 博物館におけるネットワークとはどのようなものがあるのかについて考える。 第13回 プレゼンテーション 1 (説明) 第14回で発表する課題の諸説明及び課題作成に取り組む。 第14回 プレゼンテーション 2 (発表) 各自、与えられた課題について発表を行う。 第15回 総括 これまでの講義を復習するとともに、最終課題についての説明を行う。
成績評価	授業態度(小テストを含む・20%)、プレゼンテーション(30%)、最終レポート(50%)により、総合的に評価する。
教科書	資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	①今村信隆編 『博物館の歴史・理論・実践 2 博物館を動かす』 京都造形芸術大学 東北芸術工科大学出版局 芸術学舎 2017年 ②『博物館情報学シリーズ』 樹村房
履修上の注意	・博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。 ・公欠となる場合を除き、すべての授業に遅刻することなく出席すること。

予習・復習指導	1コマに対し、 ・1時間の予習(知らない用語や語句の意味を各自調べておく) ・3時間の復習(配布した資料を元に、新たに学んだ用語や語句を確認し、関連するサイトや参考資料等を読む) をすること ・博物館・美術館などの展覧会に出かけてください(関連して開かれるワークショップや講演会などにも積極的に参加してください)
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	コメントや質問、小テスト、プレゼンテーションのフィードバックは、次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	博物館教育論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 奥井 素子	KYOB I 建築学部

到達目標	博物館の教育活動について、具体例を通して実践的に学ぶことを目的としている。各館の様々な取り組みを理解し、これからの博物館教育についても考えていきたい。 この科目は、DP0-1 DP0-2に該当する。
授業概要	社会教育機関としての博物館の役割と取り組みを知り、博物館における教育のあり方を学び、またその可能性を考える。授業ではまず博物館における教育の意味や意義、学芸員の教育的役割を中心に博物館教育の基礎的理論を解説し、次に博物館教育の具体的事例を紹介し、実践に関する知識を学び、将来博物館の仕事に関わる場合に備え、学芸員に求められる博物館教育の具体像を学ぶ。また、各自体験した学校教育について発表することで、より深く博物館教育について考える機会としたい。その上で、これからどのように社会のニーズに応えることができるかその可能性を考えたい。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 博物館教育の種類と内容 第3回 連続講座、市民講座、講演会、シンポジウム 第4回 図録 第5回 図書室、デジタルアーカイブ 第6回 ギャラリートーク、映像教材 第7回 デジタルコンテンツの活用について 教育の視点から考える 第8回 こども向けワークシート、多言語対応 第9回 学校教育との関わり① 第10回 学校教育との関わり②（発表） 第11回 学校教育との関わり③（発表） 第12回 博学連携事業・地域社会との関わり 第13回 特徴ある館の取り組み 第14回 対話型鑑賞法、ワークショップ 第15回 総括
成績評価	小課題（30％）、提出物等（20％）、学期末レポート（50％）
教科書	使用しない。
参考書 参考資料	倉田公裕・矢島國雄『新編博物館学』東京堂出版（1997）、寺島洋子・大高幸編『博物館教育論』放送大学教育振興会（2012）。
履修上の注意	各自で博物館・美術館を積極的に訪れ、どのような教育をしているかをみること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、0.5時間の事前学習及び1時間の復習をすること （具体的な内容） 講義で取り扱う内容を自ら主体的に調べ、新しく学んだことについては復習すること。
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	①小課題のフィードバックを次回以降の授業内もしくはクラスルームで行う。②発表では、講評・質疑応答等を行う。③その他
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	博物館実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOB I 芸術学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	各種の美術工芸品、資料を対象にして、その取り扱いに関する知識や技術を習得することで、博物館資料の展示、保存、活用などの重要性を理解する。 この科目は、DP0-1、DP0-2、DP0-3に該当する。
授業概要	博物館資料の取扱い、保存、活用などに関して、実際に作品等に触れることで学芸員にとって必要な知識と技術を指導する。
授業計画 授業内容	(2024年度実施内容) 第1回 ガイダンス 第2回 表具について 第3回 仏像の取り扱い／見学：京都国立博物館 第4回 工芸品の取り扱い 第5回 梱包実習 第6回 講義：キュレーションについて 第7回 見学：京都工芸繊維大学美術工芸資料館 第8回 見学：花園大学歴史博物館 第9回 展覧会の企画① 第10回 展覧会の企画② 第11回 展覧会の企画③ 第12回 展覧会の企画④ 第13回 展覧会実施（展示作業） 第14回 展覧会実施（展示作業） 第15回 展覧会実施（展示作業） ※順序と内容は変更する場合があります。
成績評価	授業態度、各回のレポートと学外実習を含めて総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	「博物館概論」「生涯学習論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」を履修しておくこと。
予習・復習指導	・学外実習を視野に入れて予習復習をすること。 ・博物館資料の取り扱い、保存方法、データ収集の方法などを整理しておくこと。 1コマに対し2時間の事前学習と2時間の復習をすること。
関連科目	「博物館概論」「生涯学習論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で適宜対応する。
教員の実務経験	岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）を活かし、学芸員に必要な知識等について実習を通して教育する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	